長谷小路周辺遺跡（No.236）

由比ガ浜三丁目 206 番 6 外

例　　言

1. 本報は鎌倉市由比ガ浜三丁目 206 番 6 外における自己用店舗併用住宅建設に伴う埋蔵文化財の緊急発掘調査報告である。
2. 発掘調査は、国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査期間は 2008 年 5 月 8 日から 7 月 22 日、調査対象面積は 99.00㎡である。出土遺物・図面・写真等、調査に係る資料は鎌倉市教育委員会が保管している。
3. 調査団の編成は以下のとおりである。

   調査の主体　鎌倉市教育委員会

   調査担当　　森孝子

   調査参加者　渡辺美佐子・根本志保・赤堀祐子、秋田公佑・佐藤美隆・中州洋二・宝珠山秀雄（社団法人　鎌倉市シルバー人材センター）、岡田慶子・小野夏菜・栂岡ケイト・平山千絵・森谷十美・本城裕・松吉里永子・吉田桂子（資料整理）
4. 本報は第 1 章・第 2 章の執筆を森・赤堀が分担、その他の執筆・編集は赤堀が行なった。
5. 本報で使用した写真は遺構を森が、遺物を赤堀が撮影した。
6. 遺物観察表の表記は（○○○）は復元値を、○○○～は残存値を表している。遺物の出土位置は異なる遺構間で接合された場合は「○○○ + △△△」、接合できないものの同一個体と認められる場合は「○○○・△△△」としている。
7. 現地調査・資料整理において以下の方々、機関からご助言・ご協力を賜った。記して感謝いたします。

   樋泉岳二・宮田眞・斎木秀雄・降矢順子・原廣志・馬淵和雄・汐見一夫・押木弘己・沖元道・福田誠・玉林美男・伊丹まどか・田畑衣理、(株) 博通

目　次

第一章　本調査地点の位置と歴史的環境…… 258
第１節　遺跡の位置と歴史
第２節　周辺の調査
第二章　調査の概要…… 262
第１節　調査の経過
第２節　グリッド設定と国土座標との合成
第３節　調査地の堆積土層
第４節　調査の概要
第三章　発見された遺構と遺物…… 266
第１節　中世Ⅰ期・Ⅱａ期
第２節　中世Ⅱ期
第３節　中世Ⅲ期
第４節　中世以前の遺物
第四章　まとめ…… 344

挿　図　目　次

図１　遺跡の位置と周辺の調査…… 259
図２　調査地点の位置…… 261
図３　グリッド設定図…… 263
図４　調査地の堆積土層…… 265
図５　中世Ⅰ期・Ⅱa期遺構配置図 …… 266
図６　土坑1・2、P4 …… 267
図７　土坑1・2出土遺物 …… 268
図８　土坑3・7、方形土坑1、周辺ピット …… 269
図９　土坑3・7、方形土坑1、P2・3・5
出土遺物…… 270
図10　土坑8～10・12・13 …… 272
図11　土坑8・9・12・13出土遺物 …… 272
図12　落ち込み①・②周辺 …… 273
図13　落ち込み①・②出土遺物 …… 274
図14　X7～8,Y1～4付近 …… 275
図15　土坑11、P20・28・29出土遺物 …… 275
図16　溝1・2周辺 …… 276
図17　方形土坑2 …… 276
図18　方形土坑2出土遺物 …… 277
図19　溝1・2、P30・32 …… 278
図20　溝1・2、P30・32出土遺物 …… 279
図21　土坑4～6、P9・10 …… 280
図22　土坑4～6、P9・10出土遺物 …… 281
図23　P1・21・26・27出土遺物 …… 282
図24　確認面まで出土遺物（1） …… 284
図25　確認面まで出土遺物（2） …… 285
図26　確認面まで出土遺物（3） …… 286
図27　確認面まで出土遺物（4） …… 287
図28　確認面出土遺物 …… 289
図29　中世Ⅱ期遺構配置図 …… 290
図30　東側方形竪穴群模式図 …… 291
図31　方形竪穴1 …… 292
図32　方形竪穴1出土遺物 …… 293
図33　方形竪穴2・8・12、土坑15・18、
落ち込み1（1） …… 296
図34　方形竪穴2・8・12、土坑15・18、
落ち込み1（2） …… 297
図35　方形竪穴2出土遺物 …… 298
図36　方形竪穴8出土遺物（1） …… 299
図37　方形竪穴8出土遺物（2） …… 300
図38　方形竪穴8出土遺物（3） …… 301
図39　土坑15（方形竪穴8）、土坑15
出土遺物…… 302
図40　方形竪穴12出土遺物 …… 303

図41　方形竪穴3 …… 304
図42　方形竪穴3出土遺物（1） …… 305
図43　方形竪穴3出土遺物（2） …… 306
図44　方形竪穴3出土遺物（3） …… 307
図45　方形竪穴4・12・15 …… 308
図46　方形竪穴4出土遺物 …… 309
図47　方形竪穴5～7・13（1） …… 312
図48　方形竪穴5～7・13（2） …… 313
図49　方形竪穴13出土遺物（1） …… 314
図50　方形竪穴13（2）、
土坑17出土遺物 …… 315
図51　方形竪穴5出土遺物 …… 316
図52　方形竪穴6出土遺物（1） …… 317
図53　方形竪穴6出土遺物（2） …… 318
図54　方形竪穴6出土遺物（3） …… 319
図55　方形竪穴6・7、方形竪穴7、
P18出土遺物 …… 320
図56　方形竪穴14 …… 321
図57　方形竪穴14出土遺物 …… 321
図58　方形竪穴10 …… 322
図59　方形竪穴10出土遺物 …… 323
図60　方形竪穴11 …… 324
図61　方形竪穴11出土遺物 …… 325
図62　方形土坑4、溝3 …… 327
図63　方形土坑4出土遺物（1） …… 328
図64　方形土坑4出土遺物（2） …… 329
図65　土坑14 …… 329
図66　P31出土遺物 …… 329
図67　Ⅱ期遺構外出土遺物 …… 330
図68　Ⅲ期遺構配置図 …… 332
図69　土坑19・かわらけ溜まり …… 333
図70　かわらけ溜まり（土坑19）
出土遺物…… 333
図71　Ⅲ期ピット群（1） …… 334
図72　Ⅲ期ピット群（2） …… 335
図73　Ⅲ期ピット群（3） …… 336
図74　Ⅲ期ピット、
Ⅲ期遺構外出土遺物…… 339
図75　表土・攪乱出土遺物（1） …… 341
図76　表土・攪乱出土遺物（2） …… 342
図77　中世以前の遺物 …… 343
図78　調査地周辺の遺構配置 …… 345

表　目　次

表１　周辺の調査 …… 260
表２　Ⅲ期ピット表 …… 337
表３　出土遺物観察表 …… 346
表４　出土骨集計表 …… 382
表５　出土貝集計表 …… 387
表６　中世遺物集計表 …… 388

図　版　目　次

図版 1 …… 389
A. 調査地点（北東から）
B. 表土掘削（南東から）
C. Ⅱ区西側確認面（南から）
D. 土坑 3 土層（西から）
E. Ⅰ区Ⅰ期遺構群（南西から）
図版 2 …… 390
A. Ⅰ区西側Ⅰ期遺構群（東から）
B. 溝 1 土層（南から）
C. 溝 2（西から）
D. 溝 2 土層（東から）
E. 溝 1・方形土坑 2（南から）
F. 方形土坑 2（南から）
G. 方形土坑 2 土層（北から）
H. 方形土坑 2 鳶口壺出土状況（北から）
図版 3 …… 391
A. 方形竪穴 5 ～ 7・13 調査状況（南から）
B. 方形竪穴 6・7（北から）
C. Ⅱ区方形竪穴群（西から）
D. Ⅱ区方形竪穴群（東から）
E. 方形竪穴 1 ～ 4（南から）
図版 4 …… 392
A. 方形竪穴 1 土層（北から）
B. 方形竪穴 1（南から）
C. 方形竪穴 8･土坑 18、土坑 15 土層（東から）
D. 方形竪穴 8・12、土坑 15・18（東から）
E. 方形竪穴 8・12、土坑 15・18（北東から）
図版 5 …… 393
A. 方形竪穴 8A･B、方形竪穴 12、土坑 18(東から)
B. Ⅰ区北東側方形竪穴、土坑、ピット群(南から)
図版 6 …… 394
A. 方形竪穴 11 鉄製品･炭層検出状況（南から）
B. 方形竪穴 11（北から）
C. 方形竪穴 11（南東から）
図版 7 …… 395
A. 方形竪穴 10・11・14、方形土坑 4（南から）
B. Ⅰ区Ⅱ期遺構群（東から）
図版 8 …… 396
A. 方形土坑 4（南から）
B. 方形土坑 4（北から）
C. かわらけ溜まり遠景（南から）
D. かわらけ溜まり（西から）
E. Ⅰ区最終調査面（西から）
図版 9 …… 397
A. Ⅰ区東側最終調査面（南から）
B. Ⅰ区北東側最終調査面（南から）
図版 10 …… 398
A. 基本土層（南から）
B. Ⅰ区西側、調査区壁土層（東から）
図版 11 …… 399
出土遺物（1）　かわらけ
図版 12 …… 400
出土遺物（2）　かわらけ・土製品・常滑壺
図版 13 …… 401
出土遺物（3）　常滑甕・片口鉢
図版 14 …… 402
出土遺物（4）　瀬戸ほか陶器類
図版 15 …… 403
出土遺物（5）　磁器・石製品
図版 16 …… 404
出土遺物（6）　骨製品・鉄製品・スラグ、軽石、粘土ブロック

第一章　本調査地点の位置と歴史的環境

第１節　遺跡の位置と歴史（図１・2、表１）

本調査地は由比ガ浜三丁目 206 番 6 外地点に所在し、県遺跡 No.236・長谷小路周辺遺跡に包括されている。調査地点の北を走る県道鎌倉葉山線（国道 134 号）は旧東海道の道筋を踏襲していると言われており、「東海道は足柄山を越えて相模国に入り、国府を過ぎて藤沢を経て鎌倉郡に入り、片瀬、腰越から極楽寺坂を越えて、甘縄を出て、下の下馬橋で若宮大路と交叉する。そして、延命寺橋を渡り大町を過ぎて名越を経、名越坂を越えて三浦郡に入り、小坪・沼間を経て走水付近に出てそこから安房へ渡ることになっていた。（鎌倉市史総説編）」この道筋の鎌倉におけるものが大町大路で、その内の六地蔵から、長谷寺の門前付近の道筋を長谷小路と称している。しかし、吾妻鏡等の中世の文献にはこの名称はない。長谷小路の名称の由来は長谷寺からであると推定されているが、現存する史料では文永元年（1264 年）7 月 15 日の銘の梵鐘が最古であり、この名称はそれ以降のことと考えられる。また、近隣北西には甘縄神明社がある。観請年月日は不明であるが、吾妻鏡に伊勢別宮とあり、また、源頼朝・政子・実朝が参詣したとの条、頼朝社殿修復の条がある。

第２節　周辺の調査（図１、表１）

長谷小路周辺遺跡は滑川西岸の海浜部に位置し、少なくとも 3 列以上が形成されたとされる砂丘帯の最も内陸側の砂丘付近に立地している。この地域で確認された人的活動の痕跡は、地点 22 で発見された土壙墓の掘り込み時期を、出土した宮ノ台式期の土器が示していれば、最も旧い例となる。弥生時代末から古墳時代前期頃になると遺構・遺物の発見例は増え、地点 12 で円形プランの住居址や台付甕、東海系の高杯・小型壺などが検出されているほか、地点 3 では鮑と故意に打ち欠かれた土器の組み合わせによる祭祀的な遺構が報告されている。古墳時代後期以降、7 世紀後半から 10 世紀代の遺構・遺物は多く、その中で地点 4・22 に代表される土師器・須恵器を蔵骨器として使用した埋葬遺構の存在など、通常の集落とは異なる要素がみられる地域として注目される。中世は鎌倉前期の遺物を散見するものの、該期の所産とし得る遺構の検出例はなく、地点 23 で 13 世紀中～後半とされる生活面が比較的旧い時期と言える。13 世紀後葉頃になると広い範囲で活発な人的痕跡が現れる。一帯は倉庫・工房等の用途を想定されている方形竪穴が濃密に分布することで知られ、地点 23 に代表される骨製品未成品・獣骨切断片、地点 7 に代表される鞴羽口・スラグの出土量の多さなどから職能民の活動の場であった可能性を指摘されている。

【引用・参考文献】

高柳光寿　　1959『鎌倉市史　総説編』吉川弘文館

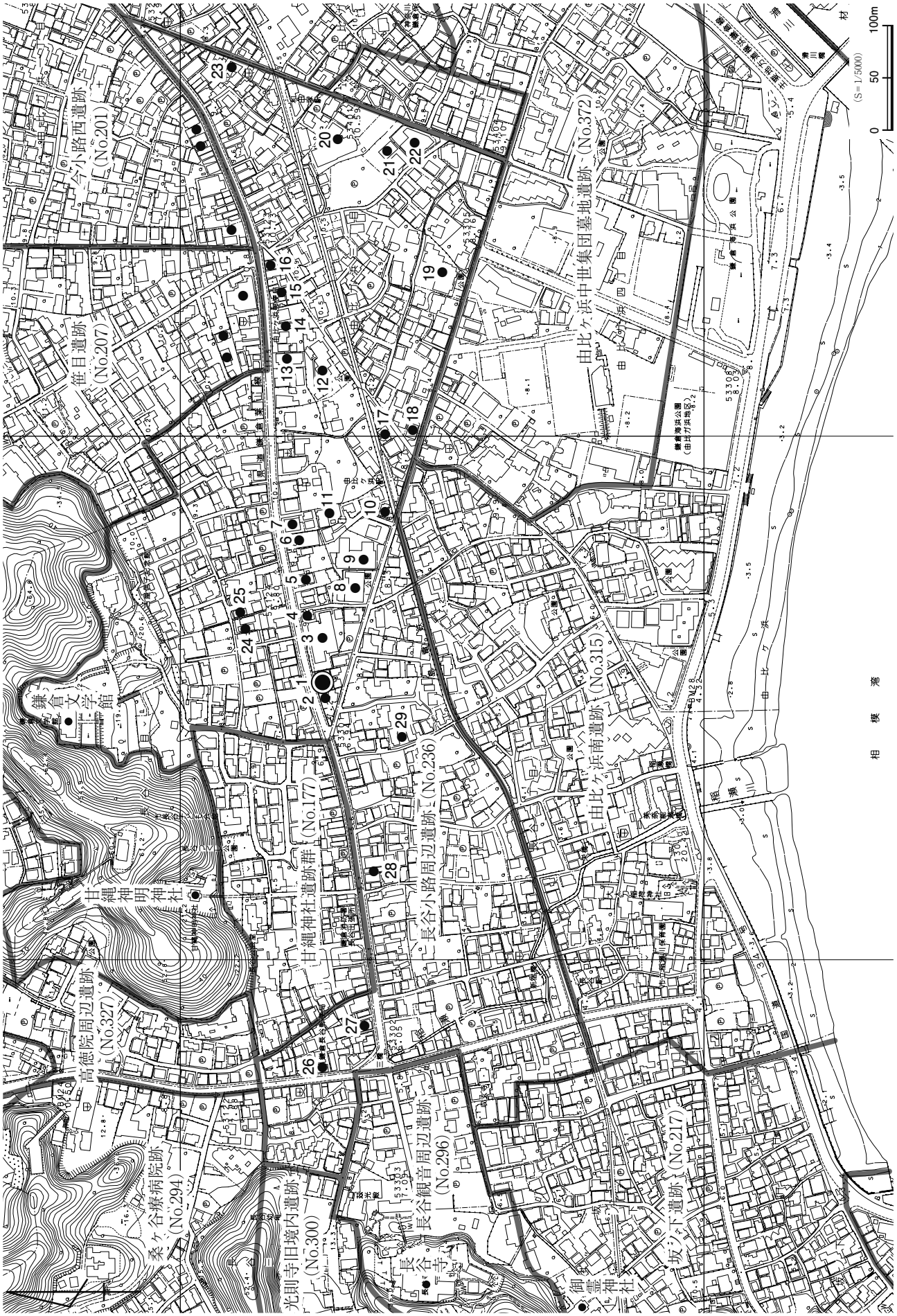


図１　遺跡の位置と周辺の調査

表１　周辺の調査

地　点		文　献
1	由比ヶ浜三丁目206番6外地点	本報収録
2	由比ガ浜三丁目207番1地点	斎木秀雄 2007年調査
3	由比ヶ浜三丁目202番2地点	齋木秀雄 1992『長谷小路南遺跡発掘調査報告書』長谷小路南遺跡発掘調査団
4	由比ヶ浜三丁目204番5地点	山口正紀 2011年調査
5	由比ヶ浜三丁目199番1地点	齋木秀雄 1990『由比ヶ浜三丁目199番1地点遺跡発掘調査報告書』 由比ヶ浜三丁目199番1地点遺跡発掘調査団
6	由比ヶ浜三丁目194番24地点	宗臺秀明 1991『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 7』鎌倉市教育委員会
7	由比ヶ浜三丁目194番25地点	齋木秀雄 1989『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 5』鎌倉市教育委員会 齋木秀雄 1990『由比ヶ浜三丁目194番25外遺跡調査報告』長谷小路遺跡発掘調査団
8	由比ヶ浜三丁目2番200地点	宮田眞ほか 1997『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』長谷小路周辺遺跡発掘調査団
9	由比ヶ浜三丁目200地点 （日産保養所用地）	玉林美男 1979年調査
10	由比ヶ浜三丁目194番50地点	汐見一夫 2004『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 20』鎌倉市教育委員会
11	由比ヶ浜三丁目194番71地点	伊丹まどか 2014年調査
12	由比ヶ浜三丁目258番1地点 （河合ビル用地）	齋木秀雄 1995『長谷小路周辺遺跡 由比ヶ浜三丁目258番1地点』 長谷小路周辺遺跡発掘調査団
13	由比ヶ浜三丁目258番8地点	齋木秀雄 1990『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 6』鎌倉市教育委員会
14	由比ヶ浜三丁目9番41地点（沢ビル用地）	齋木秀雄 1990『神奈川県埋蔵文化財調査報告 32』神奈川県教育委員会
15	由比ヶ浜三丁目254番15外2筆地点	福田誠ほか 2001『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 17』鎌倉市教育委員会
16	由比ヶ浜三丁目254番1地点	鈴木絵美 2006年調査　未報告
17	由比ヶ浜三丁目194番40地点	大河内勉 1997『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』長谷小路周辺遺跡発掘調査団
18	由比ヶ浜三丁目1175番2地点	馬淵和雄 1994『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 10』鎌倉市教育委員会
19	由比ヶ浜三丁目1173番3外地点	大河内勉・押木弘己 2001『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』長谷小路周辺遺跡発掘調査団
20	由比ヶ浜三丁目1256番4･5 1260番1･3･4･5地点	宮田眞 2005『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』（株）博通
21	由比ヶ浜三丁目1262番6地点	宮田眞ほか 2000『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』長谷小路周辺遺跡発掘調査団
22	由比ヶ浜三丁目1262番2 1251番1･2地点	宗臺秀明ほか 2002『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』東国歴史考古学研究所
23	由比ヶ浜三丁目228番2地点 由比ヶ浜三丁目228番228・229番外地点	宗臺秀明 1998『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 14』鎌倉市教育委員会 宗臺秀明 1994『長谷小路周辺遺跡』長谷小路周辺遺跡発掘調査団
24	長谷一丁目205番12地点	汐見一夫 2002『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 18』鎌倉市教育委員会
25	長谷一丁目199番20地点	齋木秀雄 2003『神奈川県埋蔵文化財調査報告 45』神奈川県教育委員会
26	長谷一丁目284番1地点	玉林美男 1988『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 4』鎌倉市教育委員会
27	長谷一丁目33番3外地点	伊丹まどか 1998『長谷小路周辺遺跡 13』長谷小路周辺遺跡発掘調査団 1999『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 15』鎌倉市教育委員会
28	長谷一丁目252番1地点	菊川英政 1991『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 7』鎌倉市教育委員会
29	長谷二丁目171番4地点	齋木秀雄・降矢順子 2012『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』有限会社鎌倉遺跡調査会

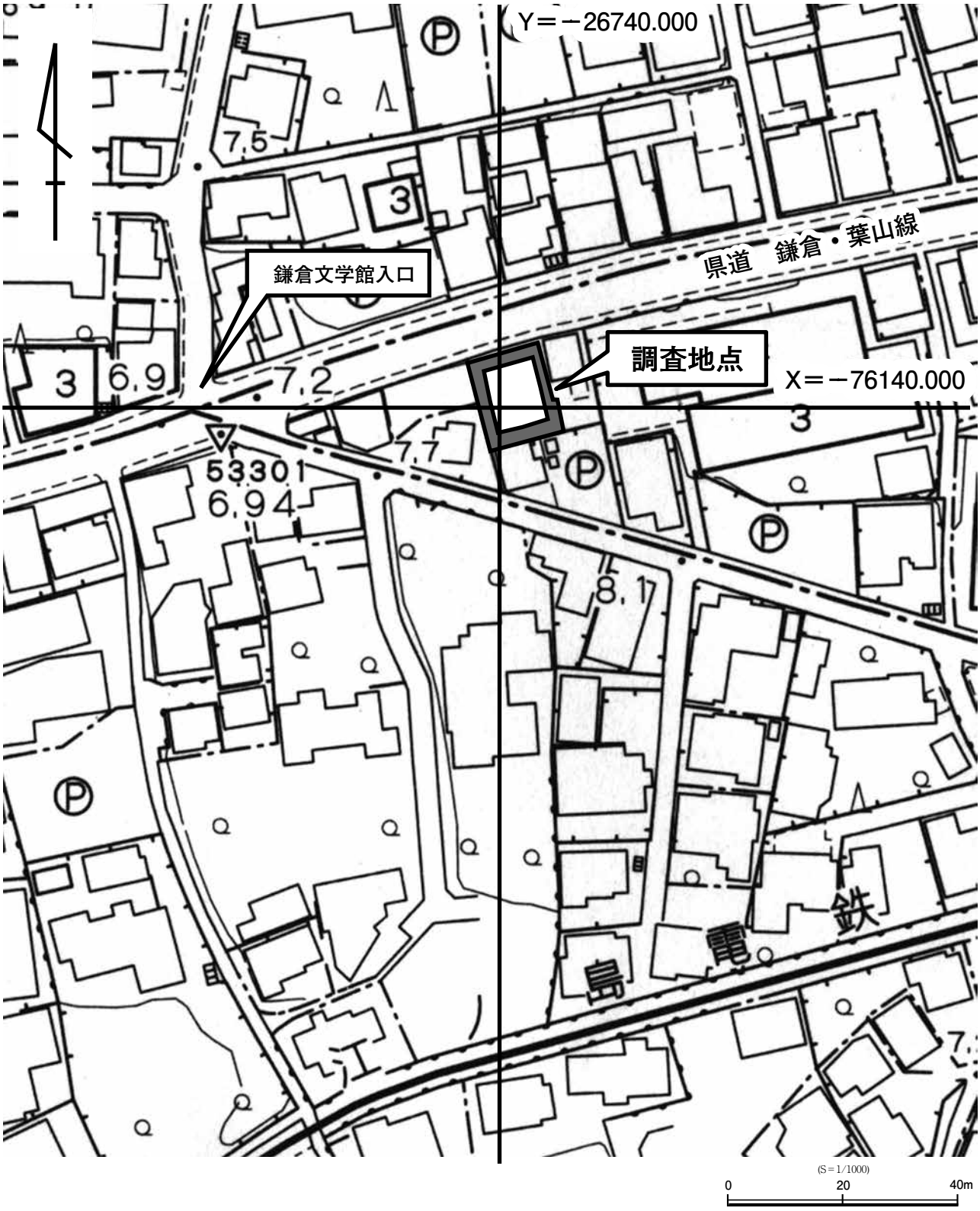

Y＝－26740.000
X＝－76140.000
鎌倉文学館入口
調査地点
県道　鎌倉・葉山線
7.5
3
6.9
7.2
7.7
53301
6.94
8.1
江
島
電
鉄
(S＝1/1000)
0
20
40m

図２　調査地点の位置

第二章　調査の概要

第１節　調査の経過

本調査は自己用店舗併用住宅建設に伴う事前調査として、2007 年 3 月 13 日～ 3 月 14 日に行なわれた確認調査の結果に基づき実施された。発掘調査は 2008 年 5 月 7 日に開始され 7 月 16 日に終了、7 月 22 日に器材を撤収し全ての作業を完了した。調査は廃土置き場の確保のため南北に 2 分割して行なわれた。便宜上北半をⅠ区、南半をⅡ区とし、南側のⅡ区を先行して調査することとした。以下に発掘調査の経過を記す。

2008年　5月 7日　器材搬入。
　　バックホーによる表土掘削開始。現地表下80cmを目安に一気に掘り下げる。
　　5月 8日　Ⅱ区より調査を開始。㈳シルバー人材センターより4名が加わり、人力による発掘調査を開始。
　　5月 9日　試掘坑、現代井戸のプランを確認し、掘り下げ開始。
　　5月13日　調査1面を精査し、遺構のプランを検出。
　　5月16日　Ⅰ期遺構群の掘削調査開始。測量杭の設定。
　　5月21日　東側Ⅱ期遺構群・方形竪穴2～4を検出、掘削調査開始。
　　5月27日　西側遺Ⅰ期構群の写真撮影、測量作業。
　　5月28日　西側を調査2面まで掘り下げ。Ⅱ期遺構群の確認作業開始。
　　5月30日　西側Ⅱ期遺構群・方形竪穴5～7を検出、掘削調査開始。
　　6月 4日　方形竪穴群の全景写真撮影。測量作業。
　　6月 5日　調査区南壁、西壁の堆積土層の確認、写真撮影、測量作業。Ⅱ区の調査終了。
　　４級基準点より国土座標の移動。
　　6月 6日　Ⅰ区の調査準備（土嚢・器材・テントの移動）。
　　6月13日　バックホーによりⅠ区の廃土をⅡ区に移動。
　　6月16日　調査区の壁切り。調査1面の検出。
　　6月18日　溝、土坑、ピット等Ⅰ期遺構群検出。掘削調査開始。
　　6月20日　調査1面の全景写真撮影。測量作業。
　　6月23日　調査2面へ掘り下げ開始。土坑15・18、方形竪穴8・12を検出。掘削調査開始。
　　6月27日　西側方形竪穴群を検出。掘削調査開始。
　　6月30日　北東側ピット群を検出。掘削調査開始。
　　7月10日　方形竪穴群の掘削調査終了。調査2面の全景写真撮影。測量作業。
　　7月11日　最終調査面まで掘り下げて遺構確認作業を実施。遺構掘削、写真撮影、測量作業。
　　7月14日　調査区西壁、北壁の堆積土層の確認。写真撮影、測量作業。土層確認坑の設定、基本層序の確認。
　　7月16日　出土遺物、使用器材等の整備。
　　7月22日　器材撤収。調査完了。

第２節　グリッド設定と国土座標との合成（図３）

測量は任意の調査グリッドを設定して行った。調査地内の南西隅に基準点（X0,Y0）を設置、南北方向をX軸、東西方向をY軸として、それぞれ北側・東側に向かい数値を増すグリッドを設定、測量の基準とした。国土座標値の移動は、トータルステーションを使用して調査員が行ない、調査地の測量杭の座標を求めた。作業には旧測地系（＝日本測地系）の座標値を使用し、後日、測量成果を新測地系（世

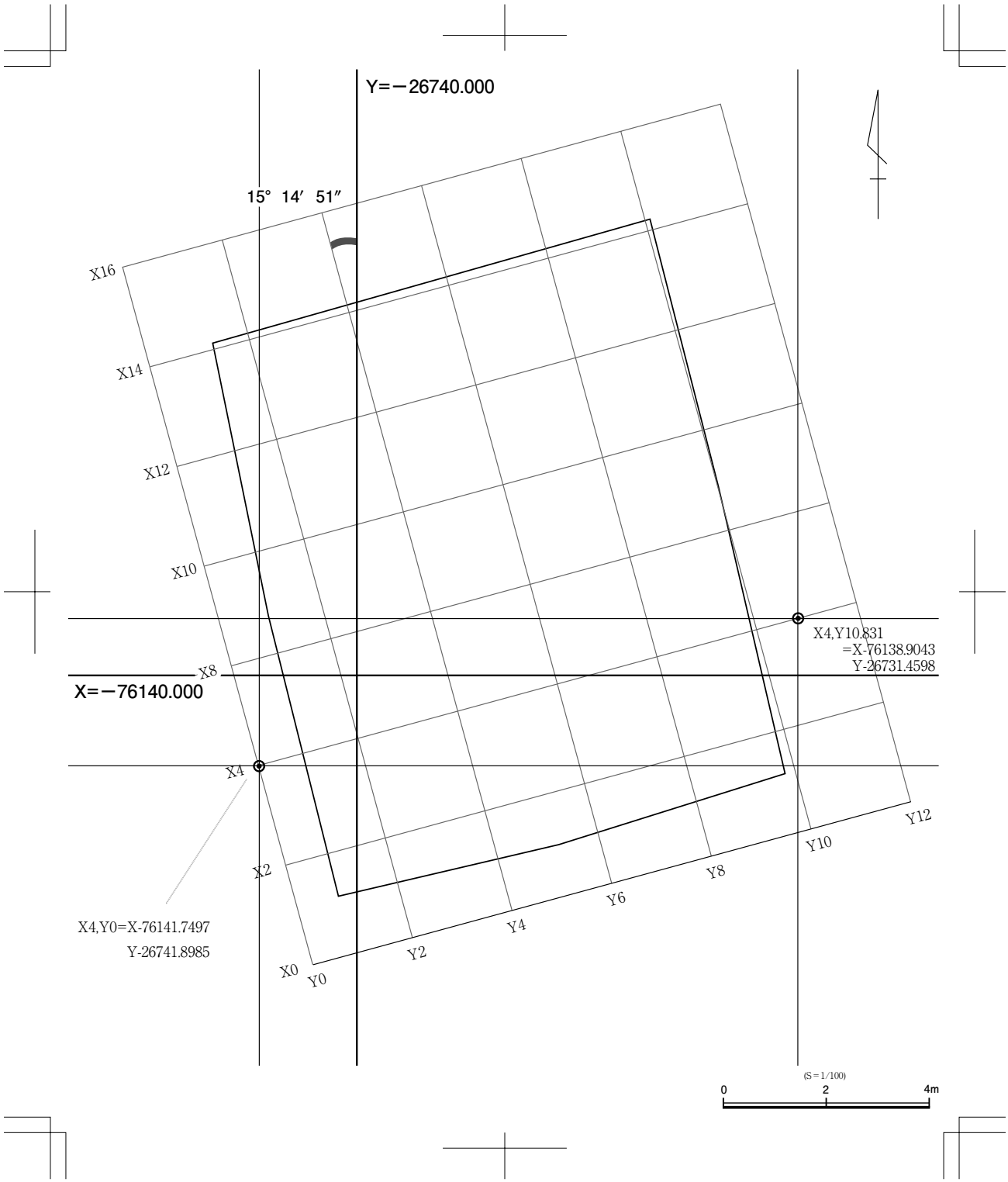


図３　グリッド設定図

界測地系）の座標数値に変換した。

図3に調査グリッドと国土座標（新測地系）との関係を示した。X4,Y0が国土座標のX＝－76141.7497, Y＝－26741.8985上ににあり、X4,Y10.831が国土座標NのX＝－76138.9043, Y＝－26731.4598上にある。調査グリッドのX軸は真北より15°14′51″西へ振れている。

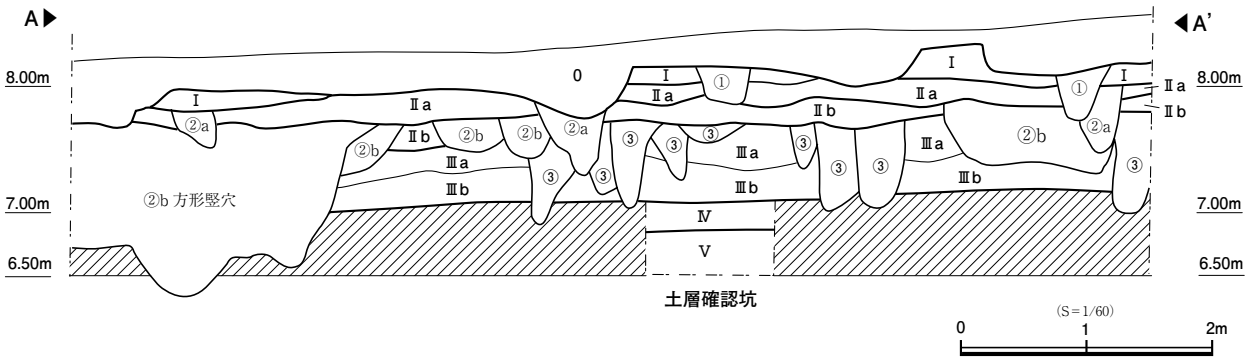
第３節　調査地の堆積土層（図4）

基本土層として調査区北壁の土層（A―A’）を示した。0層は現代の整地層である。調査地の現地表面の標高は北東角が8.55m、北西角で8.20m、南東角が8.72m、南西角で8.53mと、南から北、東から西へ向かい緩く傾斜している。その傾向は中世以前から継続されたものとみえ、遺構覆土に撹乱されず残った区域のⅣ層上面の標高は南側が7.28m、北東側7.17m、北西側7.00mと現代の土地の高低と一致している。Ⅰ層は土丹塊・土丹粒子等が含まれる客土層で、いくらか粘性があり、場所によりブロック状の粘質土も含んでいる。Ⅱ層は土壌化が進んだ砂層で、色調やしまりの差によりa・bに分層される。Ⅱa層は調査地北側の狭い範囲でのみ確認された層で、堅い面状となる部分を含でいる。南側のⅡ区ではⅡa層とみられる土は検出されていない。Ⅲ層はいくらか土壌化した粒子の細かい砂層である。場所により赤味、黄味を帯びて色調に差がある。混入物の多寡・均密さの度合いによりa・bに分層される。Ⅳ層・Ⅴ層は土壌化していない砂層でⅤ層は粒子が粗い。土層番号に①～③を付された層は各時期の遺構覆土で、数字は遺構の掘り込まれた時期（①は中世Ⅰ期、②は中世Ⅱ期、③は中世Ⅲ期）を表している。

第４節　調査の概要

現地調査では重機による表土掘削後の遺構確認面を調査1面とし、土壌化しない砂層となるⅣ層上面の調査3面まで3回にわたり遺構確認作業を実施した。調査地内のほとんどが遺構覆土であったため、生活面の把握が出来ず、遺構の大半が掘り込み面よりも低いレベルを検出面としている。調査1面～調査3面は遺構のプランを確認するために順次掘り下げた面に付された名称であり、検出された遺構の記録作業や遺物の取り上げには便宜的に、調査時の1面・2面・3面の名称を使用しているが、必ずしも遺構の掘り込み時期とは一致していない。調査地北側に残る堆積土から中世を3時期と捉え、遺構の重複関係や覆土の観察から、遺構群の時期を推察したが、厳密には所属する時期を特定できない遺構も含まれている。報告にあたっては方形竪穴が展開する時期と、その前後の時期で分割、中世Ⅰ～Ⅲ期として整理した。中世Ⅲ期は基本土層Ⅲa層上に展開、比較的掘り込みのしっかりした深いピットが多く、複数の掘立柱建物を構成したものと推測される。中世Ⅱ期は連続して構築される方形竪穴を主体に、土坑、浅めのピットが散見される。調査区北壁の土層では本時期の基盤層・Ⅱ層をa・bに分層、遺構覆土を掘り込まれる土層により②b・②aと分けて図化している。この土層をみる限りではⅡ期の方形竪穴はⅡb層からの掘り込みとなり、Ⅱa層堆積後に新たな遺構面が形成されることになるのだが、堆積土層の項で述べたようにⅡa層についてはその存在が希薄で、方形竪穴の覆土上に土丹・粘質土ブロック等を含む客土が堆積する例も見受けられ、Ⅱa層上からの掘り込みを選別することができない。方形竪穴より新しい時期の遺構はまとめて、中世Ⅰ期・Ⅱa期として報告する。

以下、整理作業の段階での追加、変更をまとめておく。報告中、遺構名の番号に①・②・③…のよう



基本土層

0　層	表土層	
Ⅰ　層	黒茶色弱砂質土	土丹塊・かわらけ片・貝片を含む。しまりややあり。
Ⅱa 層	黄灰色砂質土	きめ細かく、やや粉っぽい。褐鉄分多く、よくしまる。
Ⅱb 層	黄茶色砂質土	きめ細かく、やや粉っぽい。貝片を多く含む。しまりあり。
Ⅲa 層	赤茶色砂	細砂層。炭化物・貝片を含む。しまりややあり。
Ⅲb 層	赤茶色砂	細砂層。混入物はほとんどない。しまりややあり。
Ⅳ　層	灰褐色砂	
Ⅴ　層	黄白色砂	粗砂層。

図４　調査地の堆積土層

に○が付されているものは、平面的に検出できず土層断面等から復元された遺構である。遺構名については極力、現地調査で付された名称を使用したが、変更のあったものについては、個々に旧名と変更理由を説明した。遺物については調査1面で検出されたものを確認面出土遺物とし、調査2面・3面で検出されたものはⅡ期・Ⅲ期の遺構外出土遺物として扱った。

第三章　発見された遺構と遺物

第１節　中世Ⅰ期・Ⅱa期

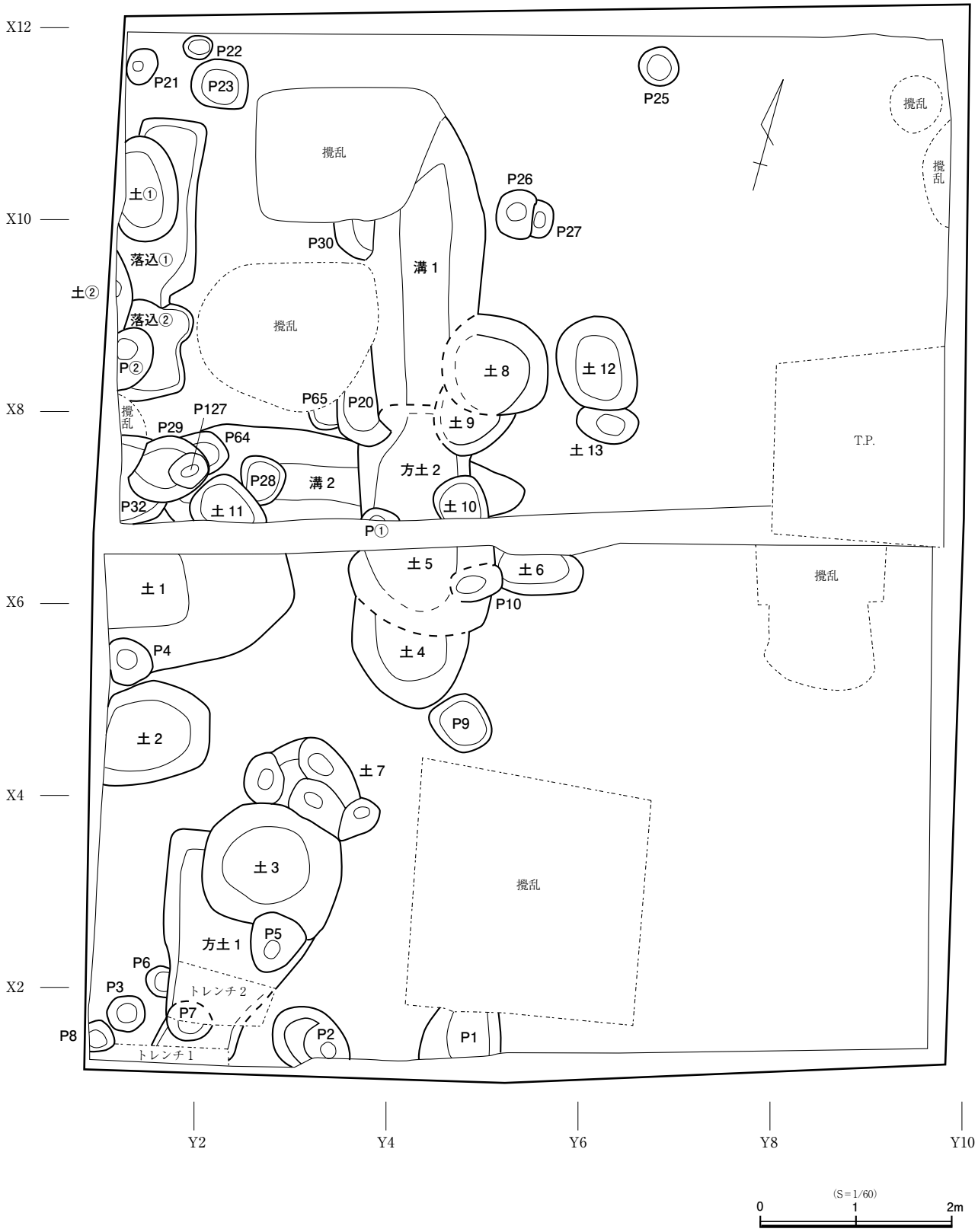


図５　中世Ⅰ期・Ⅱａ期遺構配置図

調査1面で検出された遺構を中心に、溝2条と土坑17基、落ち込み2基、ピット26口を中世Ⅰ期・Ⅱa期として報告する。確認面の標高は7.47～7.65mで中世Ⅱ期・Ⅲ期の基盤となる基本土層のⅡ層～Ⅲa層付近となり、本期より旧い時期の遺構も検出してしまっているかもしれない。おおまかな基準として中世Ⅱ期に調査区内に広く展開する方形竪穴群の覆土上に存在する遺構を本期の遺構とした。この時期の遺構の傾向として、前時期のそれより覆土に粘性があり、土丹を多く含んでいる。土坑の多くは方形竪穴埋没後の凹地をゴミ穴として利用したものや、客土が流れ込んだとみえるものである。

土坑1・2、ピット4（図6・7）

Ⅱ区北西側、X4～6,Y1～2付近の遺構について説明する。検出面の標高は7.51～7.57mであるが、調査区壁の土層で7.83mからの掘り込みを確認できる。重複関係はピット4が土坑１を切っている。

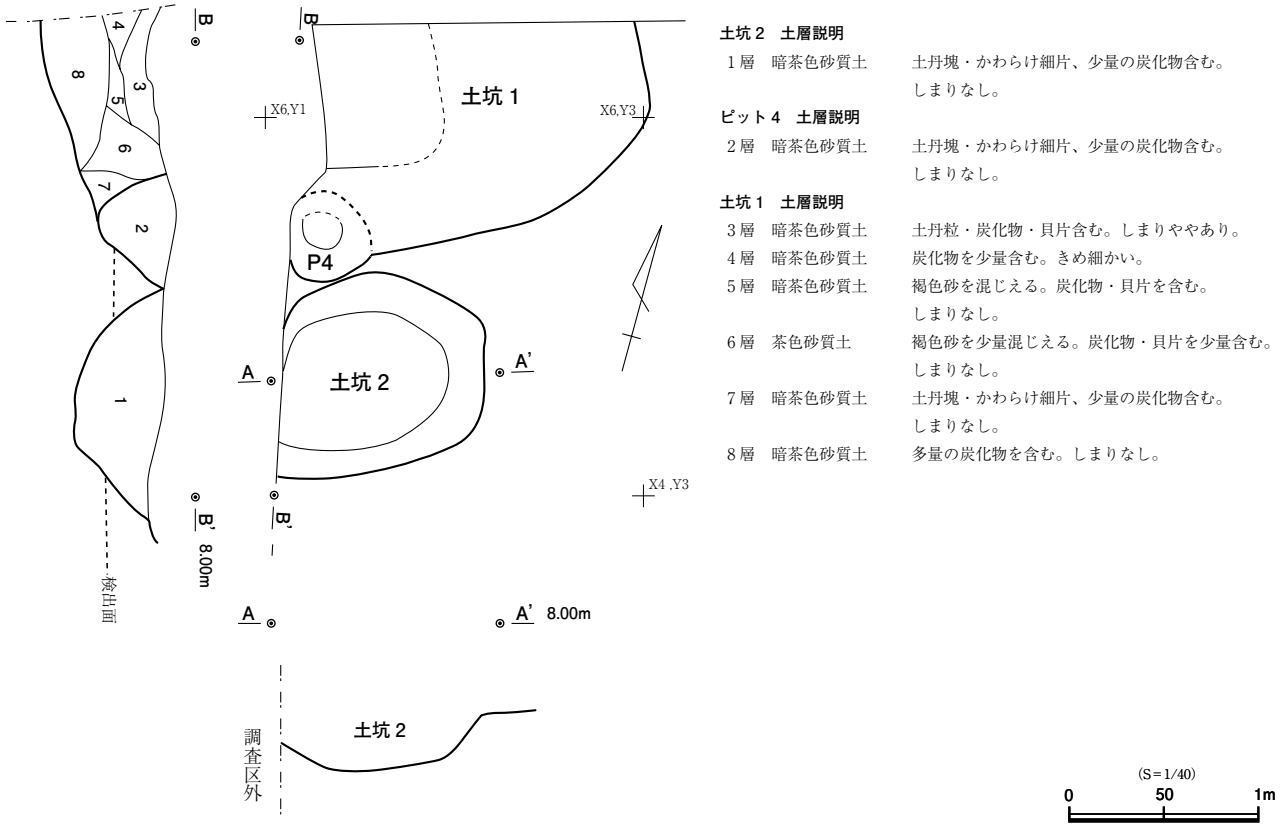


図６　土坑１・２、P4

土坑1：検出された規模は東西方向が190㎝、南北方向が125㎝。本址よりも旧い別遺構を掘抜いてしまったため下端の形状には不安がある。底面標高は調査区壁土層で7.17mと確認、深さは66㎝である。
遺物（図7－1～15）は、ロクロ成形のかわらけ（1～5）が18点で、うち小皿6点・大（中）皿12点、土器質火鉢1点、常滑産の壺5点・甕（6）10点・片口鉢Ⅰ類（7～9）3点・片口鉢Ⅱ類（10）1点、舶載陶磁器類が白磁壺1点、青白磁梅瓶（11）1点、石製品が鳴滝産の砥石（12）2点、鉄釘（13・14）は実測外3点10.7gを加えて計5点、銅銭（15）1点、その他にチャート2点5.5g、軽石1点2.8gが出土している。
5は器肉厚めで胎土は混入物多め、密度があり重たい。10は外面口縁部下の強いナデにより、口唇外側は突出気味。口唇部全体の整形は甘い。12は鳴滝産の仕上砥で表裏2面を砥面とするもの。上端左は斜めに面取りされている。背面は剥離のため周縁の一部のみ砥面が残っている。

土坑２：検出された規模は東西方向が112㎝、南北方向が106㎝（調査区壁土層では124㎝）、底面標高は7.24mで深さは59㎝である。

遺物（図7－16）はロクロ成形のかわらけ大（中）皿5点、常滑窯産の甕8点・片口鉢Ⅰ類1点、瀬戸窯産の卸皿（16）1点・壺類1点、滑石鍋小片が1点が出土している。16は内外底面に重ね焼きの際の釉着痕が残る。外底面はヘラケズリされている。

ピット４：検出された規模は東西方向が44㎝、南北方向が推定29㎝（調査区壁土層では64㎝）、底面標高は7.24mで深さは59㎝である。遺物は常滑窯産の甕2点・片口鉢Ⅰ類が1点、銅銭2点が出土している。

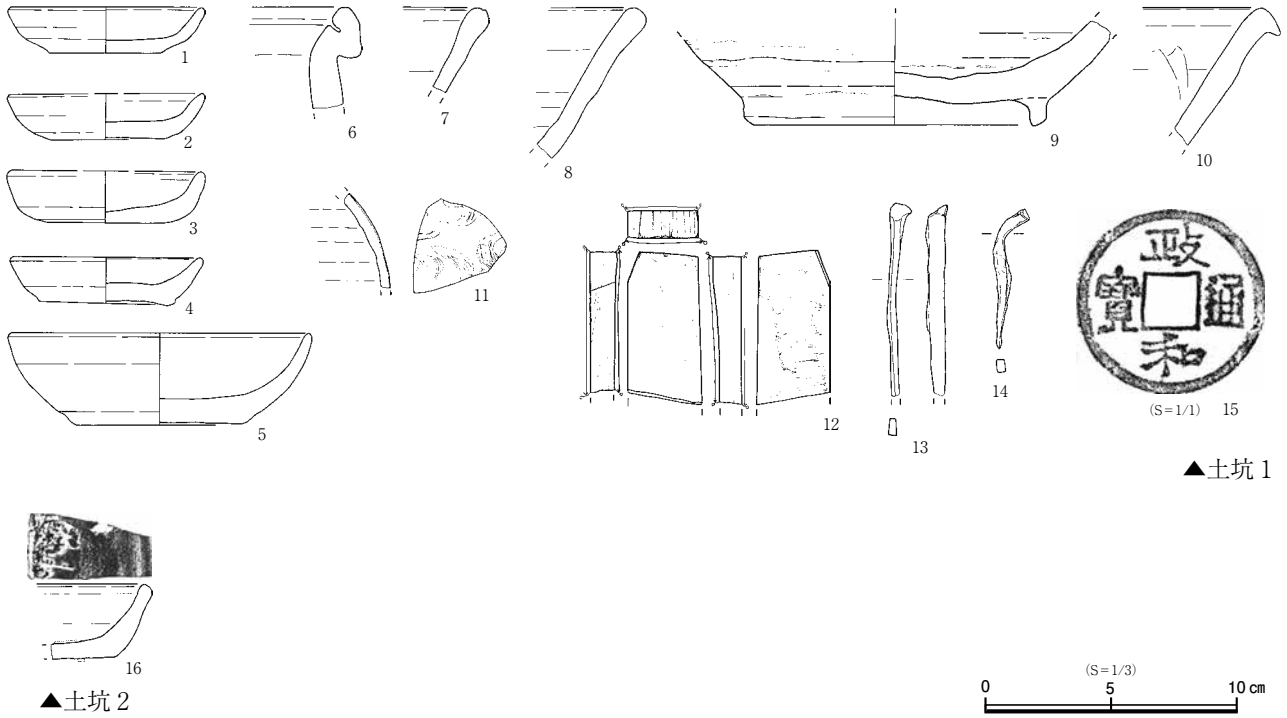


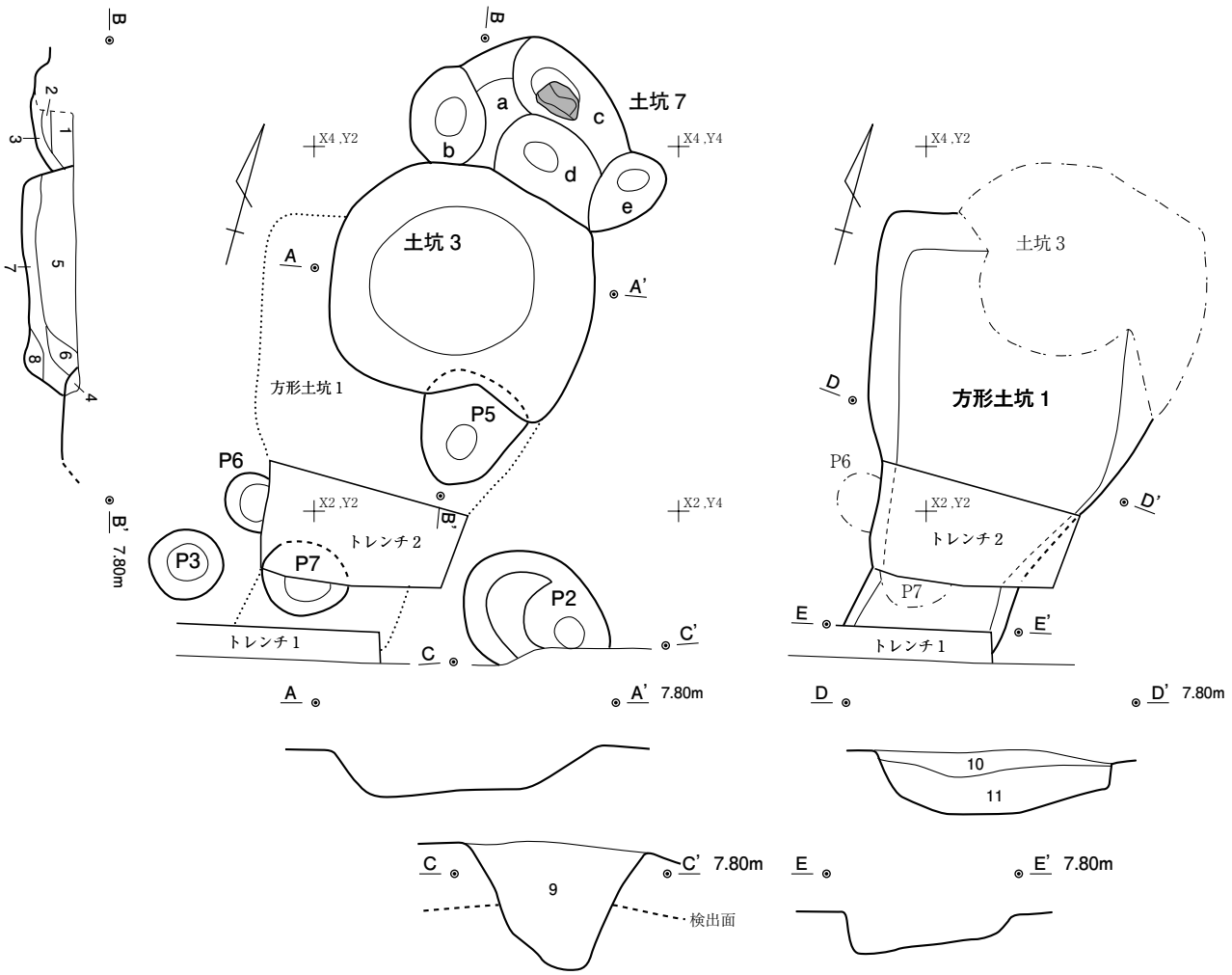
図７　土坑１・２出土遺物

土坑3・7、方形土坑1、ピット2・3、5～7（図8・9）

Ⅱ区南西側、X1～4,Y2～3付近の遺構について説明する。重複関係は新しいものから順にピット5→土坑3→土坑7となり、また土坑3、ピット6・7が方形土坑1を切っている。検出面の標高は7.47～7.59mである。

土坑３：検出された規模は東西方向が147㎝、南北方向が131㎝、底面標高は7.32mで深さは27㎝である。

遺物（図9－1～10）はロクロ成形のかわらけ（1・2）が22点で、うち小皿が6点・大（中）皿が16点、土器質火鉢1点、瓦器質火鉢（3）1点、常滑窯産の壺1点・甕（4・5）16点・片口鉢Ⅰ類1点、尾張山茶碗系片口鉢（6）1点、舶載陶磁器は、白磁は口兀皿（7）が3点・四耳壺（8）1点、青磁は龍泉窯の鎬連弁文碗（9）3点、石製品は鳴滝産の砥石1点、鉄製品は環状金具（10）1点2.5g・釘3点11gが出土している。1の外面体部下位は焼成時に燻べてしまったもののようにも見える。灯明皿として使用した



土坑７　土層説明

１層	暗褐色弱粘質土	3～4 ㎝大の土丹を密に含む。しまりあり。
２層	暗褐色弱粘質土	1 層より土丹が少なく、粘質土の割合が多い。しまりあり。
３層	暗褐色砂質土	粘質土を少量混じえる。炭化物を少量含む。しまりあり。

ピット５　土層説明

４層	暗褐色砂質土	粘質土を混じえる。10 ㎝大の土丹・炭化物を多く含む。しまりあり。

土坑３　土層説明

５層	暗褐色砂質土	粘質土を混じえる。5 ㎝大・3 ㎝以下の土丹を密に含む。しまりややあり。
６層	褐色砂	炭化物を少量含む。しまり弱い。
７層	褐色砂	腐食土を少量帯状に混じえる。炭を含む。しまり弱い。
８層	暗褐色弱粘質土	1～2 ㎝大の土丹を密に含む。しまりあり。

ピット２　土層説明

９層	暗茶色砂質土	10 ㎝大の土丹を密に含む。しまり弱い。

方形土坑１　土層説明

10 層	茶褐色砂質土	粘質土を少量混じえる。3～10 ㎝大の土丹・炭化物・貝片・かわらけ片を含む。しまり弱い。
11 層	茶褐色弱粘質土	3 ㎝大の土丹・小礫・炭化物・貝片・かわらけ片を含む。しまりややあり。

(S＝1/40)
0　50　1m

図８　土坑３・７、方形土坑１、周辺ピット

ものではないかもしれない。3は外面縦ミガキ、内面横ナデ調整が施されている。器表は炭素吸着が甘く淡橙色を呈する。6は口縁部1/5からの復元。8は肩部に耳の貼付け痕が残る。10は上端が丸く巻かれて環状になるもの。

土坑７：複数の小穴が重複するように掘れてしまったが、単に底面に凹凸のある窪地が埋まったものかもしれない。小穴c底面の土丹はたまたまそこに埋まったもので、礎石の可能性は薄いと見えた。検出された規模は全体の外縁で東西方向が148㎝、南北方向が78㎝である。底面標高はaが7.32m、bが7.35m、cが7.24m、dが7.26m、eが7.42mで、深さは最深部で35㎝である。

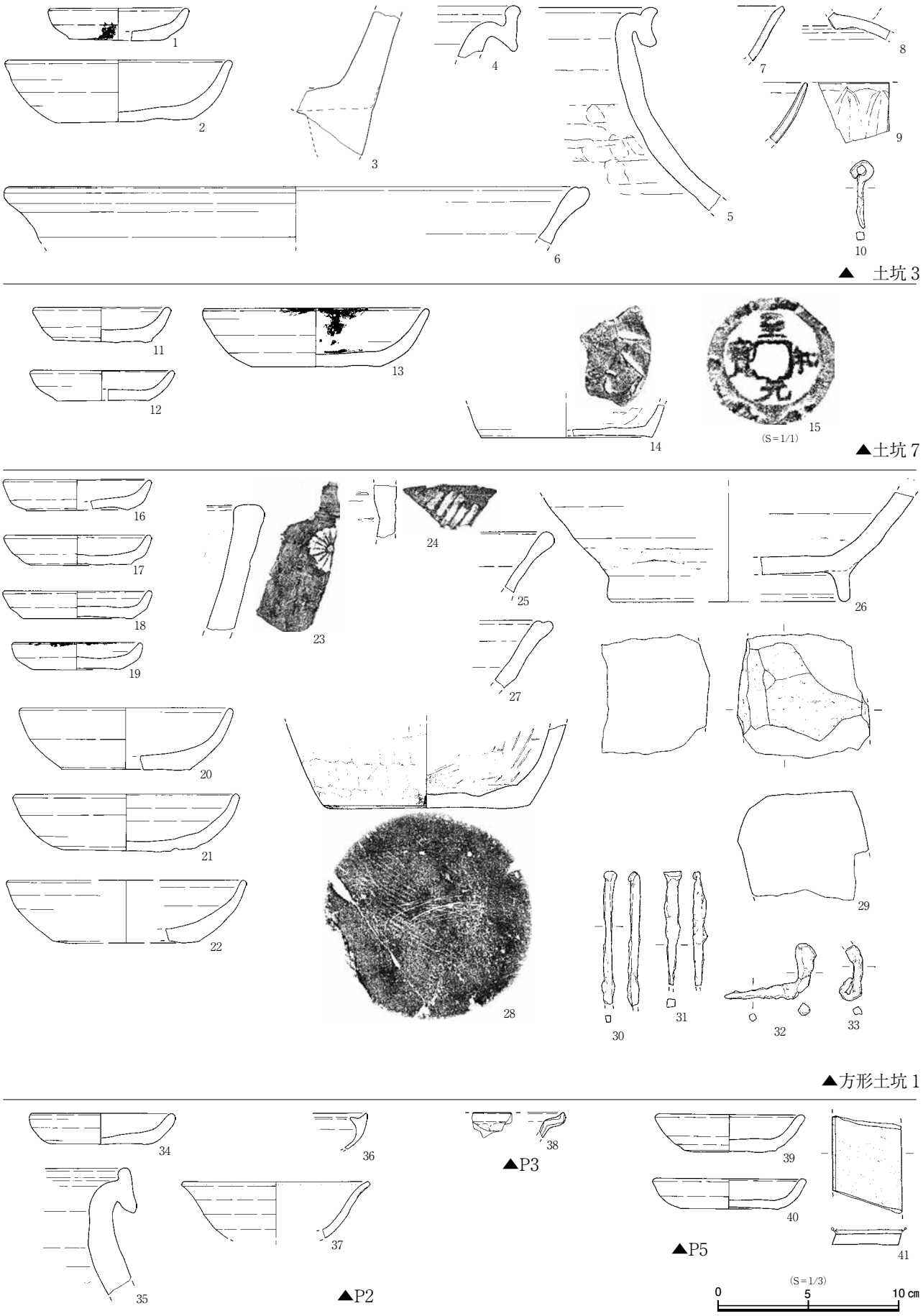


図９　土坑３・７、方形土坑１、P2・３・５出土遺物

遺物（図9－11～15）はロクロ成形のかわらけ（11～13）13点で、うち小皿6点・大（中）皿7点、常滑窯産の壺（14）1点・甕1点、舶載陶磁器は、白磁口兀皿1点、龍泉窯青磁鎬連弁文碗1点、金属製品は鉄釘3点8.4g・銅銭（15）1点、その他に軽石1点4.7gが出土している。13は灯明皿として使用されたもので、油煙痕は内外口縁部から内底部に及んでいる。14は堅緻な仕上がり。内底部には回転方向へ連続してケズリ気味にヘラナデした強い痕跡が残っている。

方形土坑１：遺構北半は比較的整った方形を呈し掘り込みも安定するのに対し、南半はプランが曖昧で掘り込みにも不安が残る。トレンチ2内で北半は収束し、南半は別遺構となるかもしれない。検出された規模は東西方向が162㎝、南北方向は南端が調査区南壁に達しておらずトレンチ1内で終わっているため250㎝以下となる。底面標高は北半が7.19mで深さ36㎝、南半が7.33mで、深さ25㎝である。

遺物（図9－16～33）はロクロ成形のかわらけ（16～22）34点で、うち小皿9点・大（中）皿25点、瓦器質火鉢（23）1点、常滑窯産の甕（24）20点・片口鉢Ⅰ類（25・26）5点、尾張山茶碗系片口鉢（27）1点、瀬戸窯産の入子1点・壺類1点、滑石鍋（28）1点、天草産の砥石（29）1点、鉄釘（30～33）は実測外から2点8.1gを加えて計6点、その他に軽石1点11.8gが出土している。

かわらけ小皿は器肉薄めで体部中位に稜を持ち、背低くのものが多い。20～22は暗橙色を呈し泥岩粗粒子などを含んでいる。23は外面に9弁以上の花文が押されている。24の押印は幅5㎜程の太い斜線が連続するもの。28は外面底部脇から底部にかけてよく焦げている。内面に細かいキズが多数見られるが、使用痕か整形痕か判断出来ない。外底面中央は鍋としての使用とは無関係に見える細い引っ掻き痕が重なっている。29の遺存する3面は整形面、砥面として使用した痕跡は見受けられない。32・33は鉄釘の先端が折れ曲がったもの。

ピット２：検出面の標高は7.57mであるが、調査区壁の土層から7.98mからの掘り込みを確認できる。検出された規模は87㎝×67㎝、底面標高は7.24mで深さは74㎝である。遺物（図9－34～37）はロクロ成形のかわらけ小皿（34）1点、常滑窯の甕（35）1点、白磁合子（36）1点・口兀皿（37）1点、鉄釘1点6.4g、スラグ1点50.8gが出土している。36は口径10㎝を超えるものになるかもしれない。口縁部は露胎、内面は極薄い釉がかかるが意図的に施釉されたものとはみえない。37は外面の回転ケズリ痕が鋭くはっきりしている。

ピット３：検出された規模は43㎝×39㎝、底面標高は7.53mで深さは6㎝である。遺物（図9－41）はロクロ成形のかわらけ大（中）皿4点、舶載陶磁器は、青白磁梅瓶1点、龍泉窯青磁の鎬連弁文碗2点・内面に連弁文を陰刻した折縁鉢（38）1点が出土している。

ピット５：検出された規模は南北方向が推定63㎝、東西方向が58㎝、底面標高は7.37mで深さは18㎝である。遺物（図9－39～41）はロクロ成形のかわらけ小皿（39・40）2点、鳴滝産の砥石（41）1点が出土している。41は剥離した背面が摩滅している。欠損後も設置面として継続使用されたものかもしれない。

ピット６：検出された規模は32㎝×24㎝、底面標高は7.45mで深さは13㎝である。遺物はロクロ成形のかわらけ小皿3点・大（中）皿1点、常滑産の甕1点、鉄釘1点3gが出土している。

ピット７：検出された規模は50㎝×20㎝、底面標高は7.24mで深さは34㎝である。遺物はロクロ成形のかわらけ大（中）皿7点、鉄釘2点7.9gが出土している。

土坑8～10、12・13（図10・11）

Ⅰ区南西側、X7～8,Y1～4付近の遺構について説明する。溝1・2、方形土坑2に先行する遺構群である。確認面の標高は7.61～7.64mである。土坑8～10は方形土坑2、溝1と重複し、新しいものから順に土坑8→土坑9→方形土坑2→溝1、土坑10→方形土坑2という関係にある。土坑8・9は溝1を先に掘り上げてしまったため、西側プランを復元した。土坑12・13は後続する時期の遺構調査中に検出されたため、確認標高がいくらか下がるが、本期の周辺遺構と同様の掘り込み面に復元した。土坑12が土坑13を切っている。

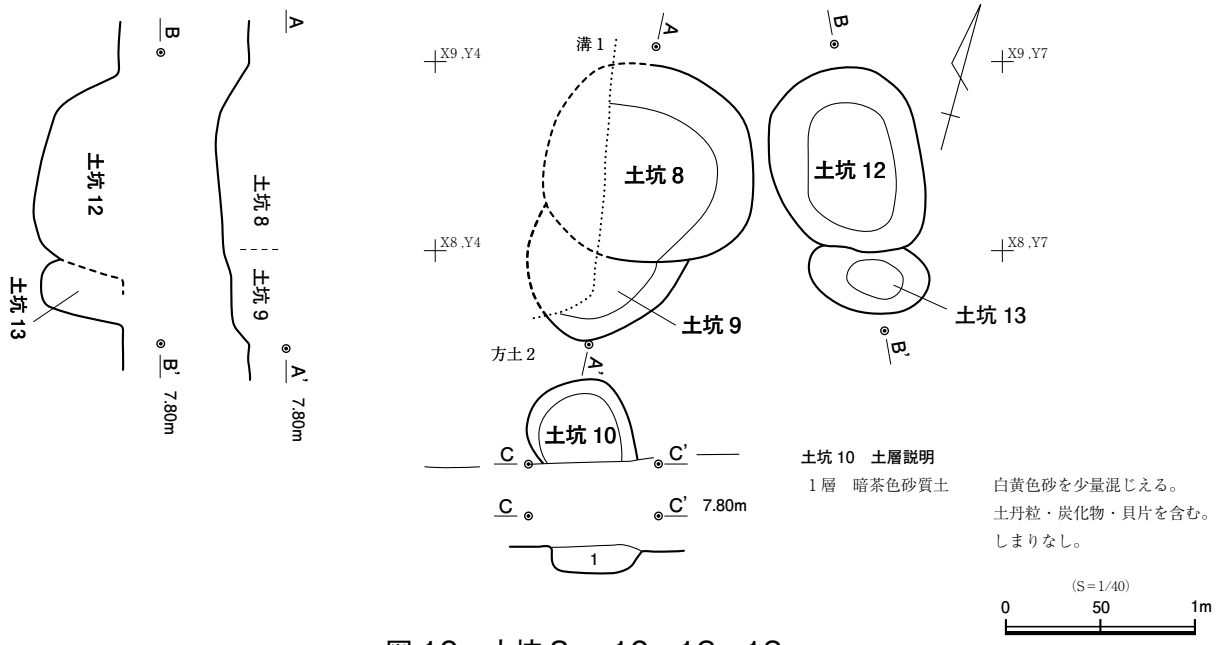


図10　土坑８～10・12・13

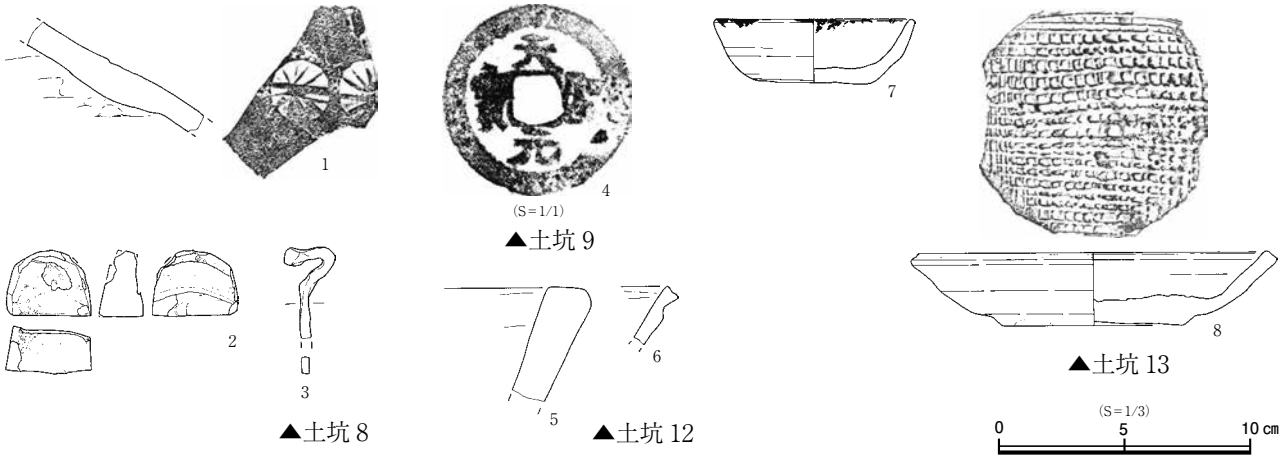


図11　土坑８・９・12・13出土遺物

土坑８：検出された規模は南北方向が105cm、東西方向は89cmまでを検出、底面標高は7.45mで、深さは16cmである。遺物（図11－1～3）はロクロ成形のかわらけ小皿2点・大（中）皿14点、常滑窯産の甕（1）2点・片口鉢Ⅰ類1点、骨製品（2）1点、鉄釘（3）は実測外から37点147.2gを加えて計38点が出土している。1は花文2つ以上で1組の押印となるもの。2は全面が整形されている。骨の繊維は表裏の方向へ気孔が入っている。3は鉄釘の上半が折れ曲がったもの。

土坑９：検出された規模は南北方向が44㎝、東西方向は50㎝までを検出、底面標高は7.50mで、深さは11㎝である。遺物（図11－4）はロクロ成形のかわらけ小皿1点・大（中）皿2点、常滑窯産の甕1点、龍泉窯青磁鎬連弁文碗1点、銅銭（4）1点が出土している。

土坑10：検出された規模は60㎝×50㎝、底面標高は7.50mで、深さは14㎝である。遺物は出土していない。

土坑12：検出された規模は101㎝×82㎝、底面標高は7.13mで、深さは48㎝である。遺物（図11－5・6）はロクロ成形のかわらけ小皿1点・大（中）皿13点、瓦器質火鉢（5）1点、常滑窯産の甕1点、瀬戸窯産の卸皿（6）2点が出土している。5の器表面は摩滅するが口縁部に横方向のミガキが残っている。

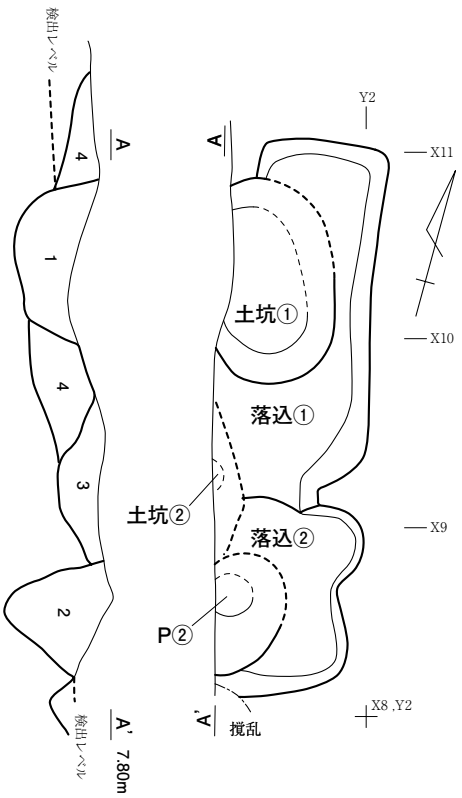
土坑13：検出された規模は67㎝×36㎝、底面標高は7.17mで、深さは44㎝である。遺物（図11－7・8）はロクロ成形のかわらけ小皿（7）3点・大（中）皿2点、常滑窯産の甕1点、瀬戸窯産の卸皿（8）1点が出土している。7は器肉薄く深い形態。胎土は淡橙色を呈し、橙色粒子を多く含んでいる。8は口唇部が沈線状に凹み、浅く開いた体部を持つもので、外底面は回転糸切り無調整である。

落ち込み①・②、土坑①・②、ピット②（図12・13）

Ⅰ区西壁側、X8～11,Y1付近の遺構について説明する。落ち込み①、土坑①、土坑②北半は方形竪穴9、落ち込み②、ピット②、土坑②南半は方形土坑3として調査されたものだが、明確な掘り込みとは言えず、次時期の遺構（方形竪穴10・14）覆土上の凹地（落ち込み）とそれを掘り込む土坑・ピットとした。平面調査の記録と調査区壁の土層をたよりに推測される形状を復元した。検出面の標高は7.50～7.60mだが、土層では北側7.70m、南側7.75mからの掘り込みを確認できる。

落ち込み①：推測される規模は南北方向が200㎝、東西方向が85㎝、底面標高は7.35mで、深さは35㎝である。

遺物（図13－1～6）はロクロ成形のかわらけ小皿（1・2）6点・大（中）皿15点、常滑窯産の甕4点・片口鉢Ⅱ類1点、龍泉窯青磁鎬連弁文碗（3・4）2点、鉄釘（5・6）は実測外から2点4.1gを加えて計4点、その他に軽石4点23.0gが出土している。1は比較的深い形態をとるもの。胎土は淡橙色を呈し混入物を含んでさほど精製されていない。



土層説明

1層	暗茶色砂質土	土丹粒・炭化物・貝片含む。しまりややあり。（土坑①覆土）
2層	茶色砂質土	褐色砂を混じえる。土丹粒・炭化物・貝片含む。しまりなし。（ピット②覆土）
3層	暗茶色砂質土	土丹粒・炭化物・貝片含む。しまりややあり。（土坑②覆土）
4層	暗茶色砂質土	褐色砂を混じえる。土丹粒・炭化物を含む。しまりなし。（落ち込み①覆土）

(S＝1/40)
0　50　1m

図 12　落ち込み①・②周辺

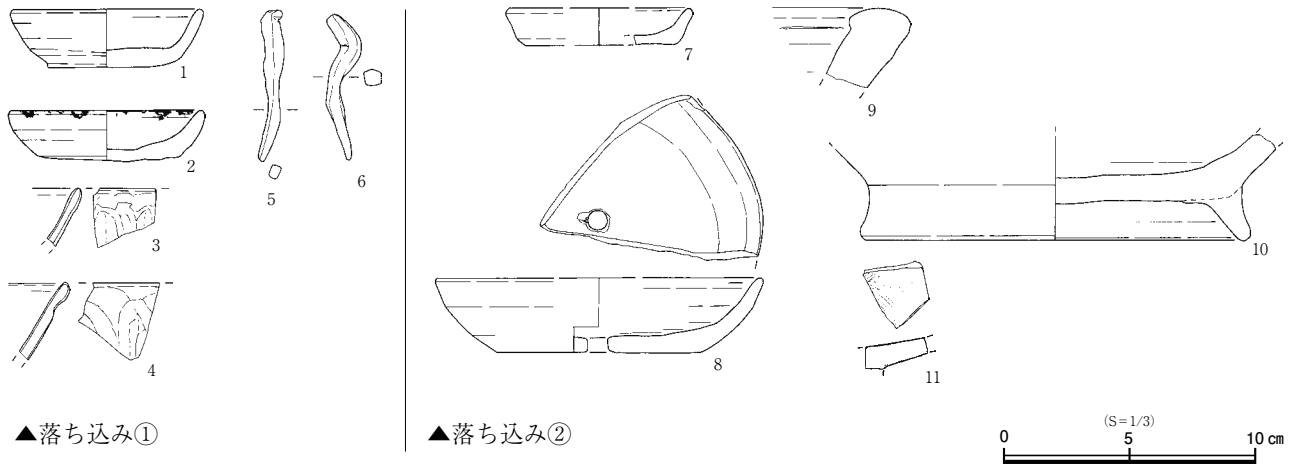


図 13　落ち込み①・②出土遺物

落ち込み②：推測される規模は南北方向が108㎝、東西方向が73㎝、底面標高は7.45mで、検出面からの深さは11㎝である。

遺物（図13－7～11）はロクロ成形のかわらけ（7・8）が13点で、うち小皿5点・大（中）皿8点、土器質火鉢（9）1点、常滑窯産の甕3点・片口鉢Ⅰ類（10）2点、渥美窯産の甕1点、龍泉窯青磁劃花文碗（11）1点が出土している。8は底部中央に径8mの孔を焼成後に穿たれている。胎土は赤味の強い橙色、胎芯が黒色を呈し、比較的硬く焼き上がるもの。9は口縁部から内面横ナデ、外面体部は縦位の指頭ナデが施されている。

土坑①：推測される規模は111㎝×70㎝、底面標高は7.26mで、深さは44㎝である。遺物は落ち込み①と共に取り上げている。

土坑②：推測される規模は土層から南北方向に90㎝、底面標高は7.50mで、深さは25㎝である。遺物は北半を落ち込み①、南半は落ち込み②と共に取り上げている。

ピット②：推測される規模は土層から南北方向に64㎝、底面標高は7.23mで、深さは52㎝である。遺物は落ち込み②と共に取り上げている。

土坑11、周辺ピット（図14・15）

Ⅰ区南側、X7～8,Y4～6付近の遺構について説明する。溝1・2、方形土坑2、ピット32に先行する遺構群である。確認面の標高は7.60～7.64mで、ピット29・64・127、土坑11とピット28、ピット20・65の新旧関係は不明である。ピット①は方形土坑2の土層断面で確認された遺構である。

土坑11：検出された規模は73㎝×63㎝、底面標高は7.37mで、深さは26㎝である。遺物（図15－1・2）はロクロ成形のかわらけ大（中）皿5点、瓦器質香炉（1）1点、常滑窯産の甕2点、鉄釘（2）1点2.5g、その他にチャート1点6.2gが出土している。1は瓦器質香炉の足片で丁寧な削りにより表裏3面ずつ+側面1面ずつで8角になるよう面取りされた後、縦位のミガキ調整が施されている。

ピット20：検出された規模は南北方向が104㎝、東西方向は59㎝までを検出、底面標高は7.45mで、深さは18㎝である。遺物（図15－3～6）はロクロ成形のかわらけ（3・4）12点で、うち小皿3点・大

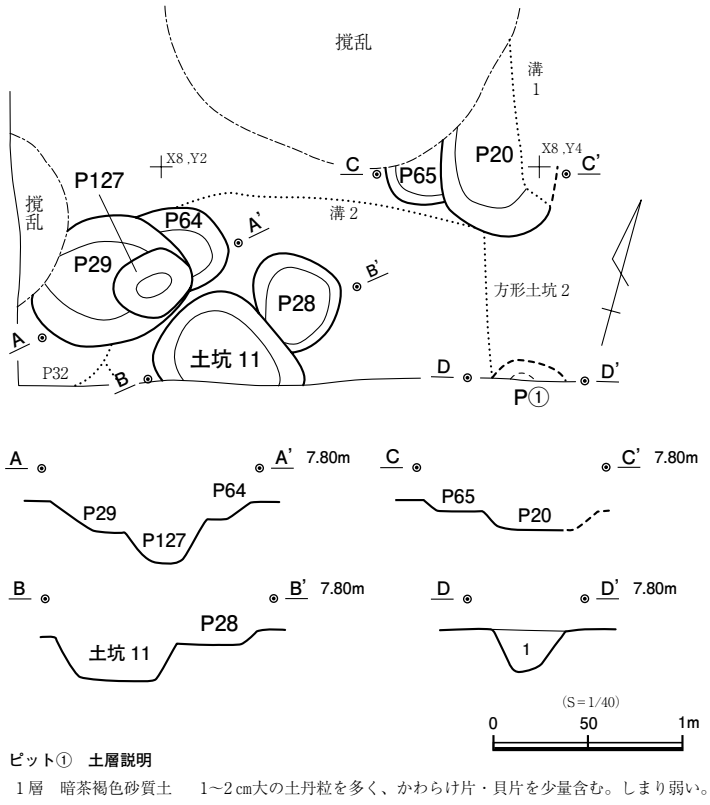


図 14 X7 ～ 8,Y1 ～ 4 付近

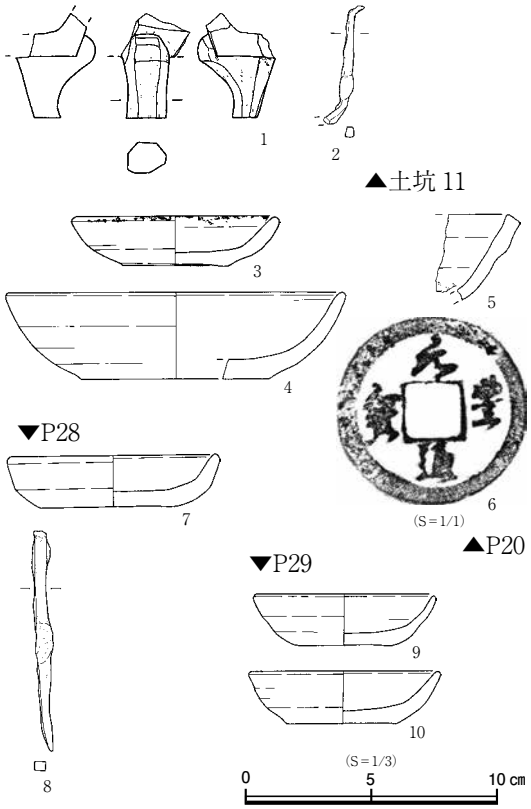


図 15 土坑 11、P20・28・29 出土遺物

（中）皿9点、常滑窯産の甕1点、瀬戸窯産の卸皿（5）1点、銅銭（6）1点が出土している。5は内面体部下位にわずかに卸目を確認できる。

ピット28：検出された規模は49㎝×47㎝、底面標高は7.56mで、深さは8㎝である。遺物（図15－7・8）はロクロ成形のかわらけ（7）10点で、うち小皿4点・大（中）皿6点、常滑窯産の甕2点・片口鉢Ⅰ類1点、鉄釘（8）は実測外から2点18.4gを加えて計3点が出土している。

ピット29：検出された規模は86㎝×68㎝、底面標高は7.46mで、深さは14㎝である。遺物（図15－9・10）はロクロ成形のかわらけ（9・10）が12点で、うち小皿4点・大（中）皿8点、常滑窯産の甕4点・片口鉢Ⅱ類1点が出土している。9は混入物少なめの粉質気味良土、10は橙色粒子等を含む砂質気味の胎土である。

ピット64：検出された規模は48㎝×26㎝、底面標高は7.53mで、深さは9㎝である。遺物は出土していない。

ピット65：検出された規模は34㎝×30㎝、底面標高は7.57mで、深さは6㎝である。遺物は出土していない。

ピット127：検出された規模は42㎝×33㎝、底面標高は7.30mで、深さは32㎝である。遺物は出土していない。

ピット①：土層で確認できる規模は東西方向で39㎝、底面標高は7.42mで、深さは22㎝である。遺物は出土していない。

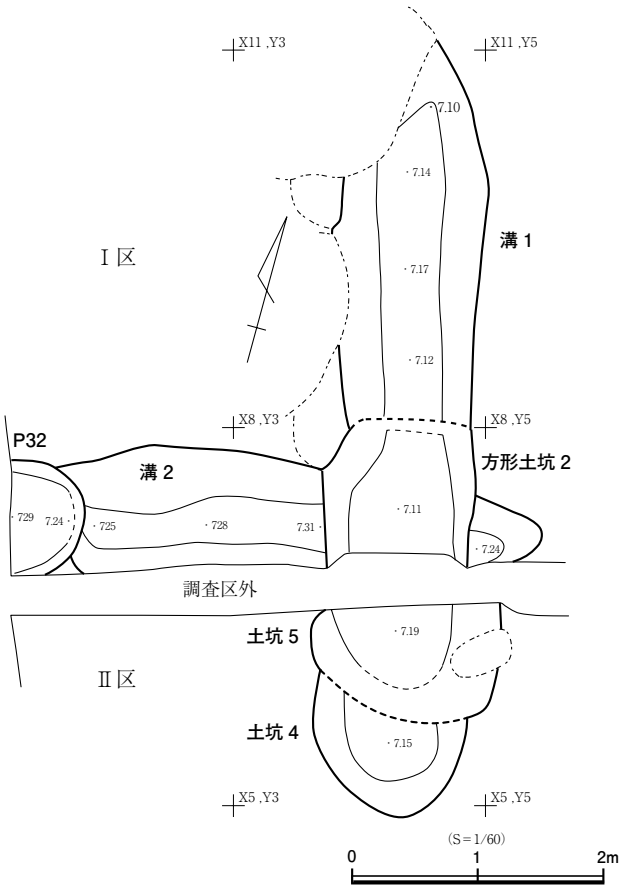
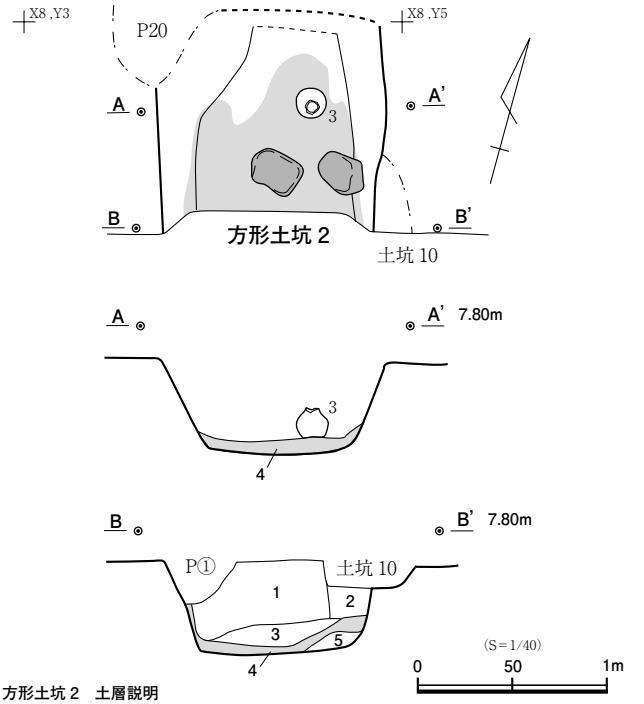


図 16　溝 1・2 周辺



方形土坑 2　土層説明

1 層	暗茶褐色砂質土	白黄色砂を多く混じえる。炭化物・貝片を少量含む。しまり弱い。
2 層	暗茶褐色砂質土	1～2 ㎝大の炭を多く、貝片を少量含む。しまり弱い。
3 層	暗茶褐色砂質土	腐食土の割合が多く色調暗め。含有物少ない。しまり弱い。
4 層	焼土層	焼土・炭・灰を主体とする。
5 層	茶褐色砂	白黄色粗砂を多く混じえる。しまり弱い。

図 17　方形土坑 2

方形土坑 2、ピット 32、溝 1・2、土坑 4・5（図 16）

X5 ～ 10,Y1 ～ 4 付近に位置する遺構群のうち、ほぼ同じ軸線上に位置する遺構をまとめた。重複関係は方形土坑 2 が溝 1、溝 2 よりも新しく、土坑 5 が土坑 4 よりも新しい。方形土坑 2 と土坑 5 については、性格に共通点がみられず、同一遺構溝となる可能性はきわめて低い。土坑 5・土坑 4 は溝 1 につながる可能性がある。ピット 32 と溝 2 は新旧関係を持つ別遺構として調査したものだが、切り合い部分が曖昧で、同一遺構である可能性もないとは言えない。それぞれ周辺の遺構と共に説明する。

方形土坑 2（図 17・18）

Ⅰ区南側、X7,Y4 付近に位置する。土坑 9・10、ピット 20、ピット①に切られ、溝 1、溝 2 を切る。確認面の標高は 7.64m である。北側は当初、溝 1 と同一の遺構とみて、立ち上がり部分を掘りすぎたため推定ラインを示した。検出された規模は東西方向で 73㎝、南北方向は 60㎝以上と推測される。底面標高は 7.11m で、深さは 53㎝である。平面形は整った方形を呈し、底面から西壁にかけては炭が貼り付くように遺存している。四角い木製の箱が被熱炭化したものかもしれない。底面の炭直上からは被熱した凝灰岩が 2 つと、やや南に傾いだ状態で被熱した常滑窯の鳶口壺（3）が検出されている。鳶口壺は焼成後に口縁部を打ち欠かれ、肩部を穿孔されるもので、内部からは銅銭 4 枚（11 ～ 14）が見つかっている。

遺物（図 18）はロクロ成形のかわらけ（1･2）26 点で、うち小皿 5 点・大（中）皿 21 点、常滑窯産の壺（3）1 点・甕（4）5 点・片口鉢Ⅰ類 1 点・片口鉢Ⅱ類 1 点、鉄釘（5 ～ 10）は実測外の 13 点 7.9g を加えて計 19 点、スラグ 1 点 393g、銅銭（11 ～ 14）4 点が出土している。1・2 はともに器肉薄く背の低い形態、胎土は 1 が橙色粒子を含んで砂質気味、2 は粉質

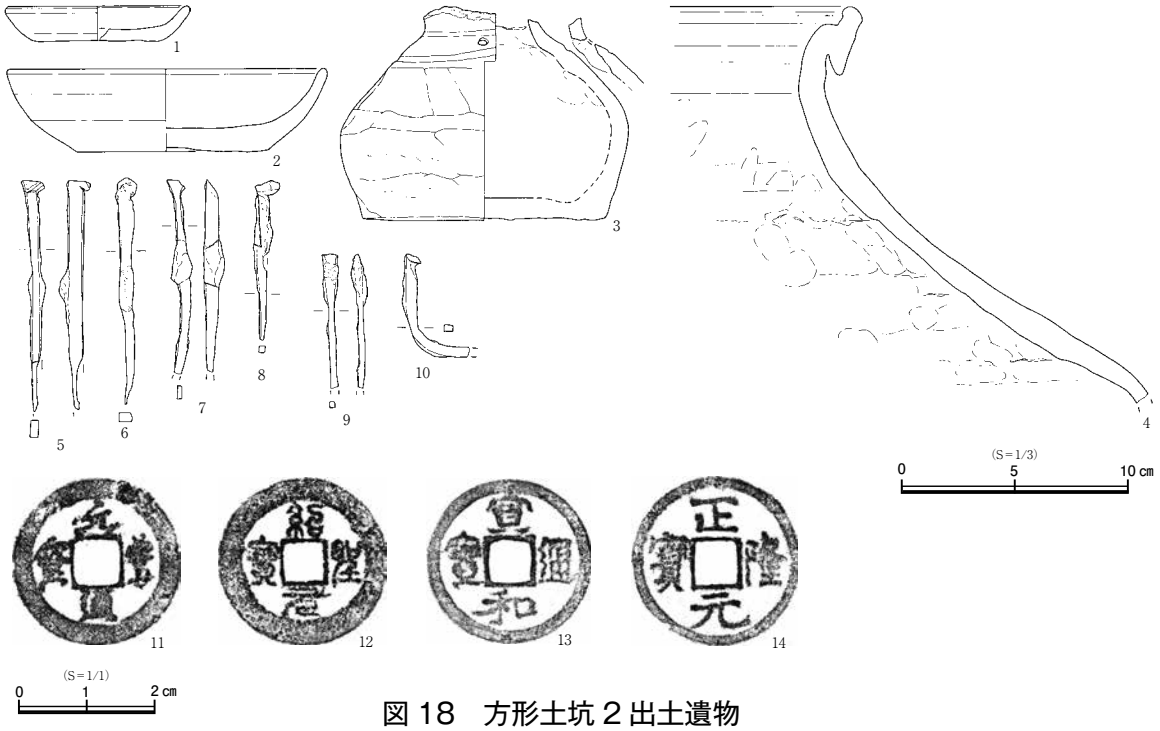


図 18　方形土坑２出土遺物

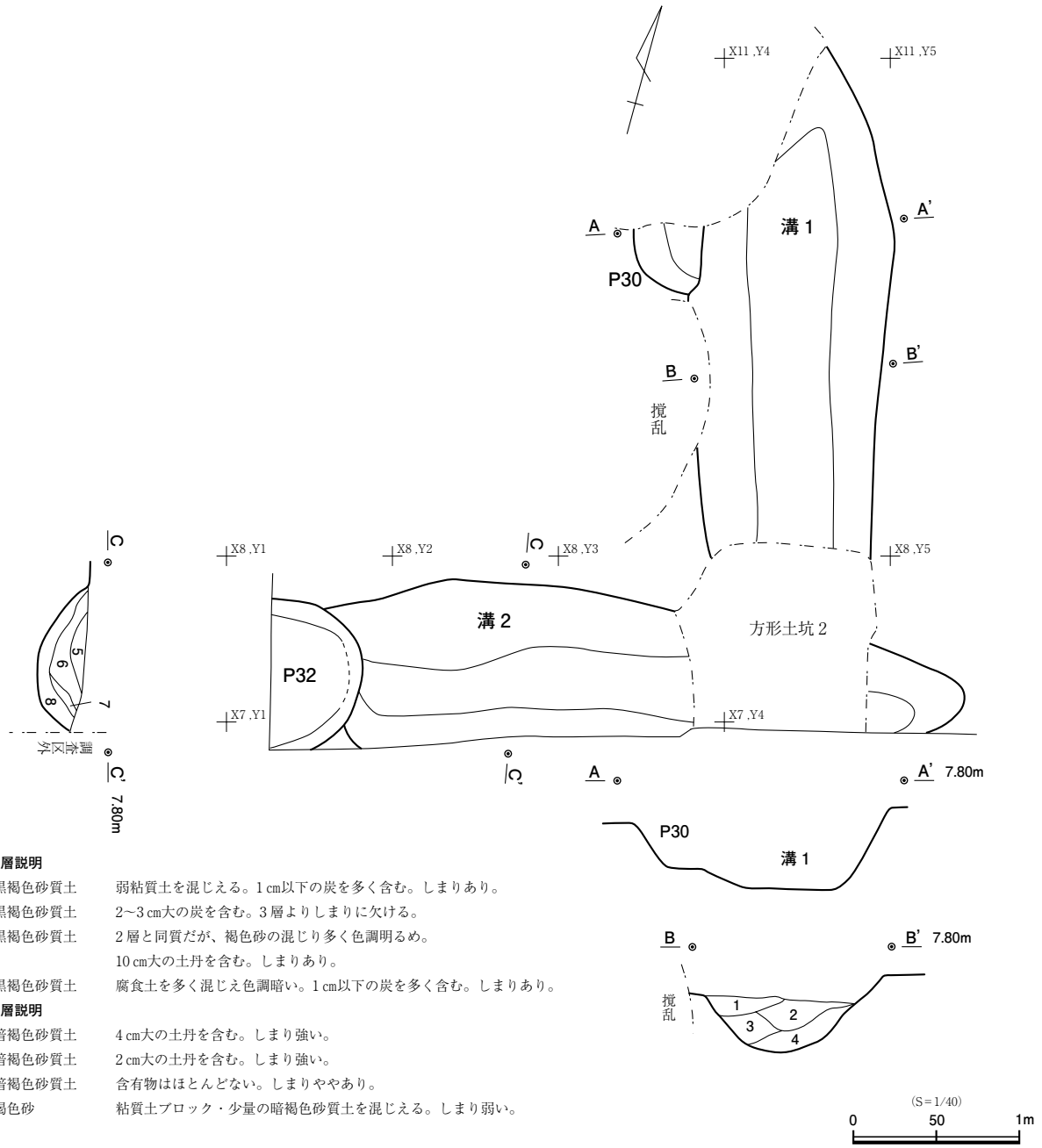
気味で白色粒子を含んでいる。3 は肩部に沈線が一周するもの。頸部から肩部上半は横ナデ、肩部下半は斜位のヘラナデ、胴部は横位のヘラケズリを 3 段、2 段目は更にヘラナデ調整を加えている。

溝 1・2、ピット 30・32（図 19・20）

溝 1：X8 ～ 10,Y4 付近に位置する。北西側を現代の削平により失う。土坑 8・9、ピット 20 に切られる。ピット 30 との新旧関係は不明。Ⅰ区の南端で方形土坑 2 に切られるものの、未調査部分を挟んでⅡ区で検出された土坑 5・土坑 4 のいずれかに続くものかもしれない。Ⅱ区土坑の形状や覆土の状態をみる限りでは土坑 5 に切られ、土坑 4 につながる可能性がより高くみえる。検出面の標高は 7.55 ～ 7.65m である。主軸方向は N － 15° － W を指す。検出された規模は、長さが 200cm以上、土坑 5 を同一遺構とみればおよそ 360cm、土坑 4 を同一遺構とみれば 410cm。幅は上端で最大 121cmである。底面標高は 7.10 ～ 7.17m で傾斜する様子はない。深さは最深 55cmである。

遺物（図 20 － 1 ～ 16）はロクロ成形のかわらけ（1 ～ 4）103 点で、うち小皿 21 点・大（中）皿 82 点、土錘（5・6）2 点、常滑窯産の壺（7）1 点・甕 11 点・片口鉢Ⅰ類 1 点・片口鉢Ⅱ類（8）1 点、白磁口兀皿 1 点、滑石製品（9）1 点、碁石（10）1 点、鉄製品が板状の鉄片 1 点 12.8g・棒状のもの（11）1 点 5.4g・釘（12）は実測外の 7 点 36.2g を加えて計 8 点、スラグ 1 点 249.7g、銅銭（13 ～ 16）5 点が出土している。1・2・4 は胎土に橙色粒子を多めに含んでいる。3 は黒色微砂の多い弱砂質土。7 は肩部に沈線が 1 条巡るもの。9 は滑石製のスタンプで、表面文様部分を壊して断面 U 字状の溝が削り込まれている。背面の工具痕は鍋整形時のものかもしれない。10 は碁石で、黒灰色を呈し表面平滑な自然石を利用している。11 は長さに対して細く、釘以外のものとみた。

溝２：X7,Y1 ～ 5 付近に位置する。上端南側は調査区外となる。土坑 10・11、方形土坑 2、ピット 20・28・29・64・127・①に切られる。西端はピット 32 に切られていると判断、また掘り上がりの形状から南西部分に収束していく様子がみえるが、はっきりしない。現代の削平や本址に先行する遺構に撹乱され確認作業を誤っているかもしれない。ピット 32 も本址の一部となり西側調査区外へ達している可



溝 1　土層説明

1 層	黒褐色砂質土	弱粘質土を混じえる。1 cm以下の炭を多く含む。しまりあり。
2 層	黒褐色砂質土	2～3 cm大の炭を含む。3 層よりしまりに欠ける。
3 層	黒褐色砂質土	2 層と同質だが、褐色砂の混じり多く色調明るめ。 10 cm大の土丹を含む。しまりあり。
4 層	黒褐色砂質土	腐食土を多く混じえ色調暗い。1 cm以下の炭を多く含む。しまりあり。

溝 2　土層説明

5 層	暗褐色砂質土	4 cm大の土丹を含む。しまり強い。
6 層	暗褐色砂質土	2 cm大の土丹を含む。しまり強い。
7 層	暗褐色砂質土	含有物はほとんどない。しまりややあり。
8 層	褐色砂	粘質土ブロック・少量の暗褐色砂質土を混じえる。しまり弱い。

図 19　溝 1・2、P30・32

能性も考えられる。検出面の標高は概ね 7.54 ～ 7.61m で、東端は 7.39m まで下げている。主軸方向は N － 78° － W を指す。検出された規模は、長さが 258cm以上、ピット 32 を同一遺構とみれば 290cm以上となる。幅は上端で最大 65cmである。底面標高は 7.24 ～ 7.31m で傾斜する様子はない。深さは最深 37cmである。

遺物（図 20 － 17 ～ 25）はロクロ成形のかわらけ（17 ～ 19）28 点で、うち小皿 3 点・大（中）皿 25 点、土器質火鉢（20・21）2 点、常滑窯産の甕 19 点・片口鉢 I 類 1 点、白磁口兀皿（22）1 点、鳴滝産の砥石（23）1 点、鉄釘（24・25）は実測外の 5 点 19.9g を加えて計 7 点が出土している。17 ～ 19 は色調橙色から淡橙色を呈し、混入物の少ない粉質気味胎土である。20・21 は土器質火鉢で胎土・整形がよく似ており同一個体になるものかもしれない。20 の内外面は回転を利用してナデているように見える。21 は外底部に糸切り痕を残す。23 は表裏 2 面を砥面とするが、背面はさほど使用されていない。

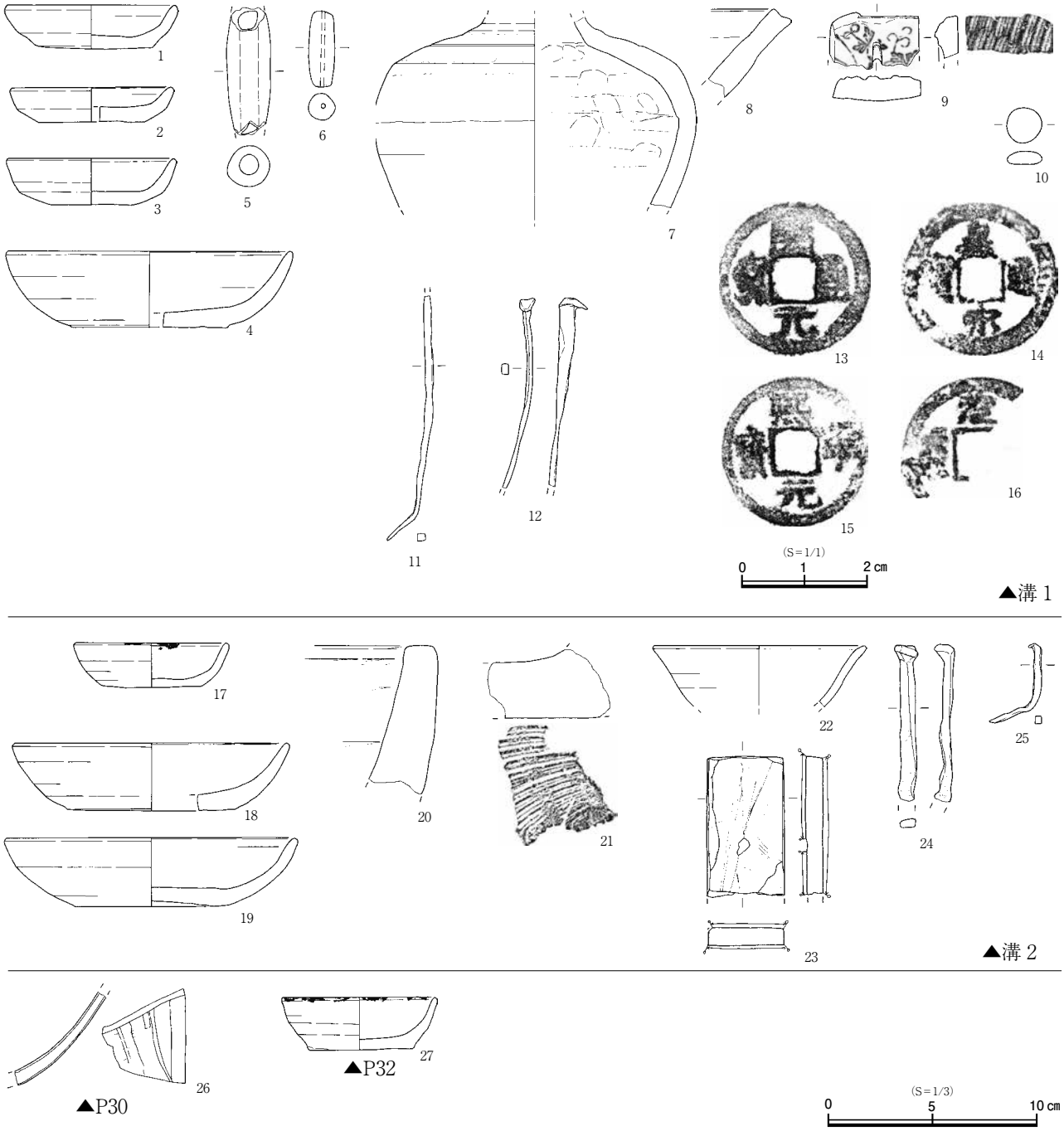


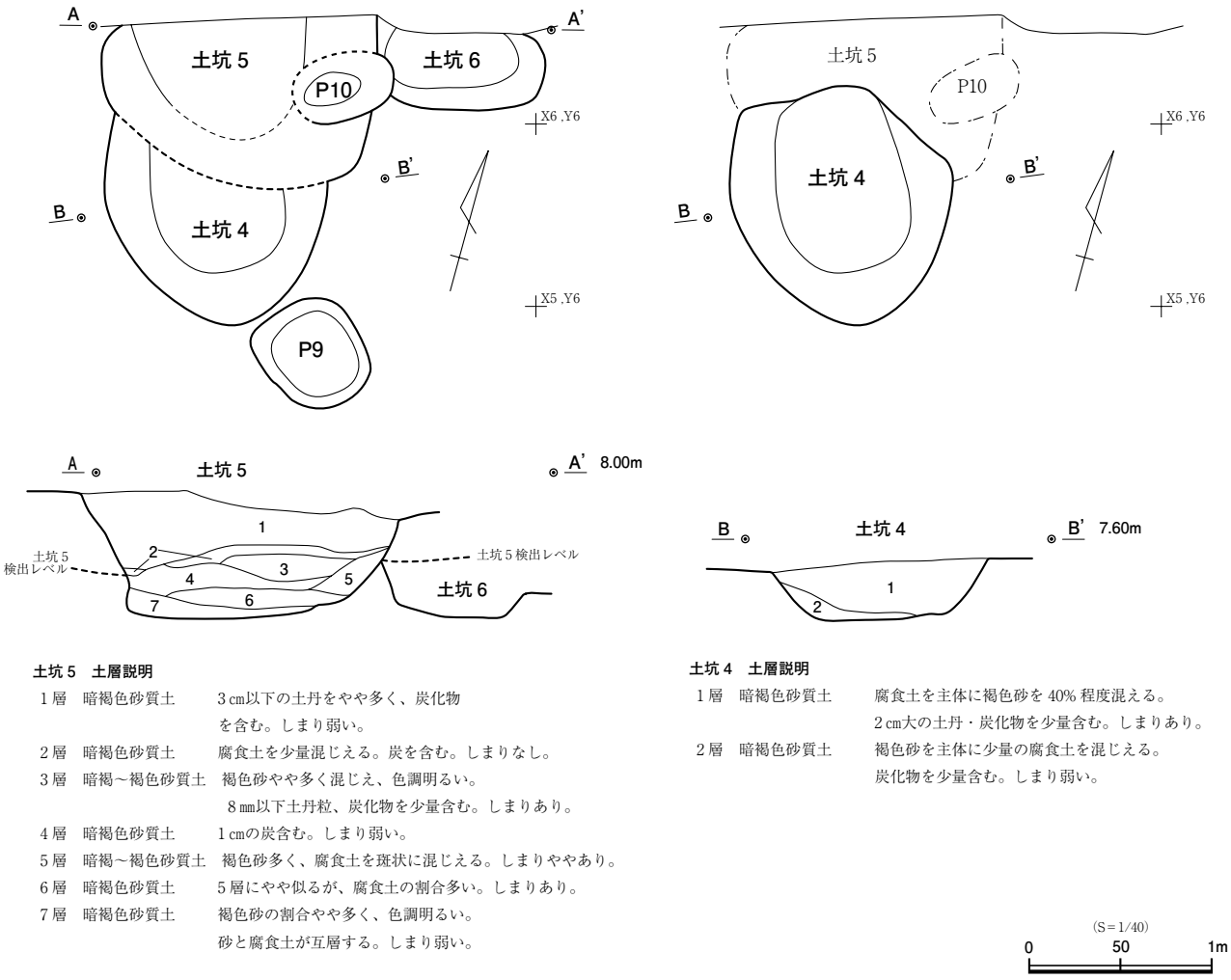
図 20　溝 1・2、P30・32 出土遺物

ピット 30：X9,Y3 に位置する。溝 1 との新旧関係は不明。検出された規模は 43㎝× 33㎝、底面標高は 7.27m で、深さは 27㎝である。遺物（図 20 － 26）は龍泉窯青磁鎬連弁文碗（26）のほかに龍泉窯青磁が 1 点出土しているが小片のため器種は不明。

ピット 32：X7,Y1 に位置する。ここでは現地調査での判断どおり溝 2 を切る遺構として説明する。東側下端は溝 2 と共に掘り上げてしまい復元した。遺構検出面の標高は 7.54m、検出された規模は 93㎝ × 57㎝､底面標高は 7.24m で､深さは 28㎝である。遺物（図 20 － 27）はロクロ成形のかわらけ小皿（27）2 点・大（中）皿 1 点、鉄釘 1 点 12.1g が出土している。27 の胎土は橙色粒子を多く含むものの粉質気味で良土といえる。

土坑４～６、ピット９・10（図 21・22）

Ⅱ区北側、X5 ～ 6,Y4 ～ 5 付近の遺構である。前述したとおりⅠ区で検出されている溝１につながる可能性のあるものも含まれるが、ここでは個別の遺構として説明する。検出面の標高は 7.44 ～ 7.55m だが、土坑５については調査区壁の土層で 7.88m からの掘り込みを確認できる。重複関係はピット 10 が最も新しく、土坑５が土坑４と土坑６を切っている。



土坑５　土層説明

１層	暗褐色砂質土	３㎝以下の土丹をやや多く、炭化物を含む。しまり弱い。
２層	暗褐色砂質土	腐食土を少量混じえる。炭を含む。しまりなし。
３層	暗褐～褐色砂質土	褐色砂やや多く混じえ、色調明るい。８㎜以下土丹粒、炭化物を少量含む。しまりあり。
４層	暗褐色砂質土	１㎝の炭含む。しまり弱い。
５層	暗褐～褐色砂質土	褐色砂多く、腐食土を斑状に混じえる。しまりややあり。
６層	暗褐色砂質土	５層にやや似るが、腐食土の割合多い。しまりあり。
７層	暗褐色砂質土	褐色砂の割合やや多く、色調明るい。砂と腐食土が互層する。しまり弱い。

土坑４　土層説明

１層	暗褐色砂質土	腐食土を主体に褐色砂を 40% 程度混える。２㎝大の土丹・炭化物を少量含む。しまりあり。
２層	暗褐色砂質土	褐色砂を主体に少量の腐食土を混じえる。炭化物を少量含む。しまり弱い。

図 21　土坑４～６、P9・10

土坑５：本址に切られる土坑４を先に掘り上げてしまったため南側は復元形である。検出された規模は南北方向が推定 95㎝、南北方向が 155㎝（調査区壁土層で 177㎝）。底面標高は 7.19m、深さは 69㎝である。遺物（図 22 － 12）はかわらけ大皿４点、白磁口兀皿（12）１点、鳴滝産の砥石１点が出土している。

土坑４：検出された規模は南北方向が 133㎝、南北方向が 125㎝、底面標高は 7.15m で深さは 34㎝である。遺物（図 22 － １～ 11）はロクロ成形のかわらけ（１～４）52 点で、うち小皿 11 点・大（中）皿 41 点、土錘（5）１点、瓦器質火櫃（6）１点、常滑窯産の壺（7）１点・甕（8）14 点・片口鉢Ⅱ類２点、備前

窯鉢（9）1点、東播系鉢（10）1点、龍泉窯青磁水中蓋（11）1点、鉄釘2点5.7gが出土している。6は瓦器質火櫃の脚部片。内側の欠損面に本体への付け根から設置面まで貫通する空気孔の1部を残している。器表面は摩滅気味だが丁寧なミガキ調整が残る。8の押印は左側に四角い区画・右側は縦位の破線が連続するもの。10は東播系の鉢で口径25cm程のもの。重ね焼きの痕跡か、口唇部内側端は釉着したものを剥がしたとみえる肌荒れ､外面口縁部下には砂が付着している。11の青磁は手づくね成形で、外面頂部は径8mm程の摘みを模したような低い円形の飾りを配し、頂部脇には径5mmの空気孔が穿たれている。身受け部から内面は露胎である。

土坑6：東側プランは7.33mまで掘り下げて確認した。検出された規模は東西方向が95cm、南北方向が44cm、底面標高は7.20mで深さは32cmである。遺物（図22 － 13・14）はかわらけ小皿（13）1点、常滑窯甕1点、砥石（14）1点が出土している。14は側面の1部に自然面を残している。表裏は整形面で笹口産の荒砥の可能性があるが、砥がれた様子は見受けられない。

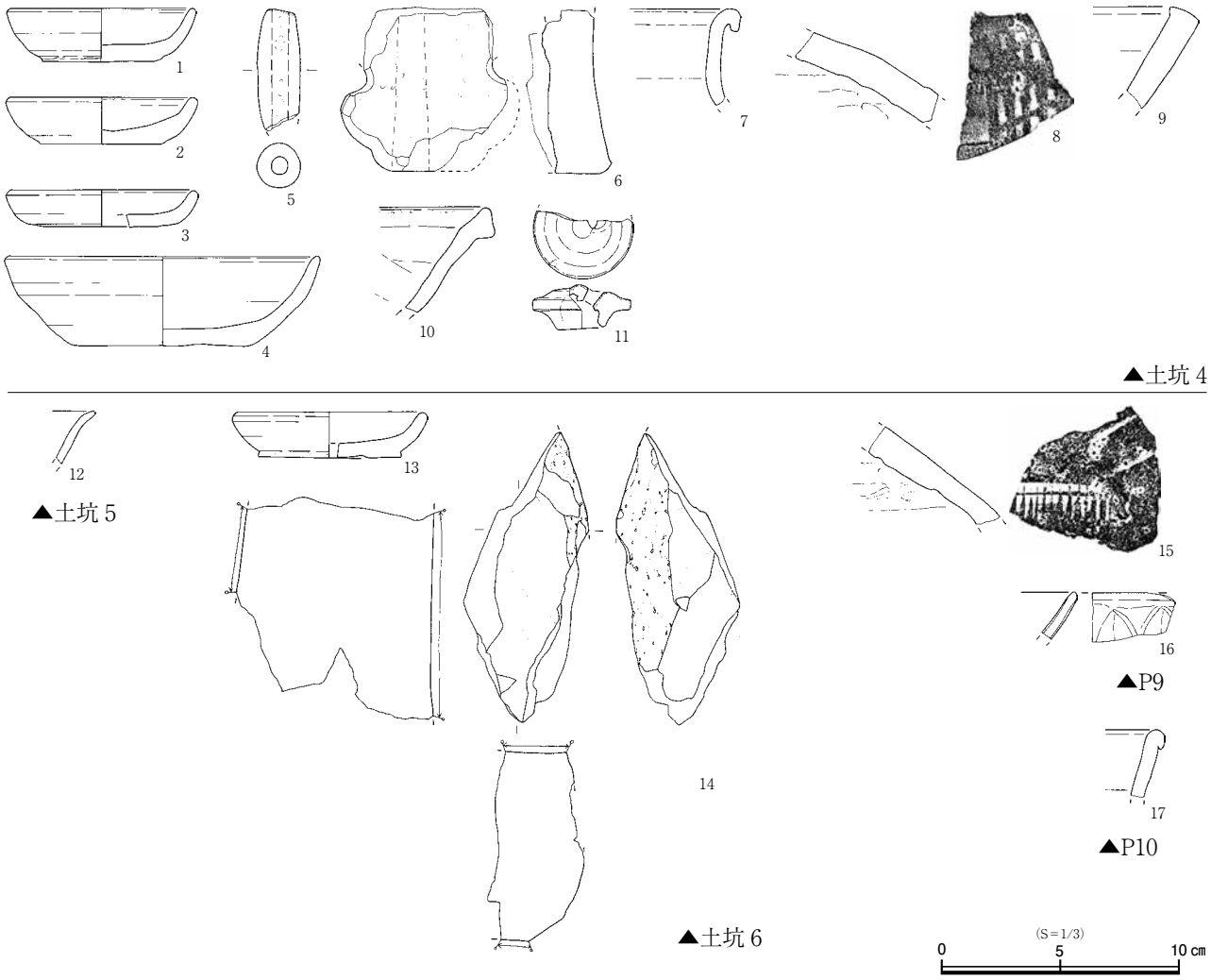


図22　土坑4～6、P9・10出土遺物

ピット９：検出された規模は 61㎝× 53㎝、底面標高は 7.37m で深さは 18㎝である。遺物（図 22 － 15・16）はかわらけ大（中）皿 4 点、常滑窯甕（15）1 点、龍泉窯青磁鎬蓮弁文碗（16）1 点が出土している。15 の押印は連続する縦線を凸線が 1 本横断するもの。下方は押印不十分だが、おそらく四角い枠内に文様を収めるものと見える。拓本右上の斜線は器面調整のヘラナデ痕。

ピット 10：検出された規模は復元値で 59㎝× 37㎝､底面標高は 7.24m で深さは 22㎝である。遺物（図 22 － 17）は常滑窯の壺（17）1 点・甕 1 点、鉄釘 1 点 7.3g が出土している。

その他のピット（図 5）

ピット 1：X1,Y4 に位置する。検出された規模は 86㎝× 53㎝、底面標高は 7.24m で深さは 38㎝である。遺物（図 23）はロクロ成形のかわらけ（1 ～ 3）39 点で、うち小皿 14 点、大（中）皿 25 点、吉備系土師器碗（4）1 点、常滑窯の甕 10 点・片口鉢 I 類（5）2 点が出土している。

ピット 8：X1,Y1 に位置する。検出された規模は 34㎝× 31㎝、底面標高は 7.47m で深さは 12㎝である。遺物はロクロ成形のかわらけ大（中）皿 1 点、その他に軽石 1 点 35.1g が出土している。

ピット 21：X11,Y1 に位置する。検出された規模は 38㎝× 33㎝､底面標高は 7.38m で深さは 18㎝である。遺物（図 23）はロクロ成形のかわらけ小皿（6･7）2 点、常滑窯甕（8）1 点、銅銭 1 点が出土している。8 の押印は連続する縦線を 2 段配するもの。

ピット 22：X11,Y1 に位置する。検出された規模は 32㎝× 25㎝､底面標高は 7.42m で深さは 14㎝である。遺物は出土していない。

ピット 23：X11,Y2 に位置する。検出された規模は 60㎝× 41㎝､底面標高は 7.34m で深さは 21㎝である。遺物は出土していない。

ピット 25：X11,Y6 に位置する。検出された規模は 41㎝× 40㎝､底面標高は 7.44m で深さは 13㎝である。遺物はロクロ成形のかわらけ小皿 1 点、大（中）皿 2 点、常滑窯甕 1 点が出土している。

ピット 26：X10,Y5 に位置する。ピット 27 との新旧関係は不明。検出された規模は 43㎝× 34㎝、底面標高は 7.32m で深さは 32㎝である。遺物（図 23）はロクロ成形のかわらけ小皿 4 点、大皿 4 点、常滑窯壺 1 点、出羽産の砥石（9）1 点が出土している。

ピット 27：X10,Y5 に位置する。ピット 26 との新旧関係は不明。検出された規模は 35㎝× 17㎝、底面標高は 7.36m で深さは 24㎝である。遺物（図 23）はロクロ成形のかわらけ小皿 3 点、大皿 7 点、常滑窯の甕 2 点、片口鉢 I 類（10）2 点、鉄釘（11）は実測外の 1 点 4.1g を加えて計 2 点が出土している。

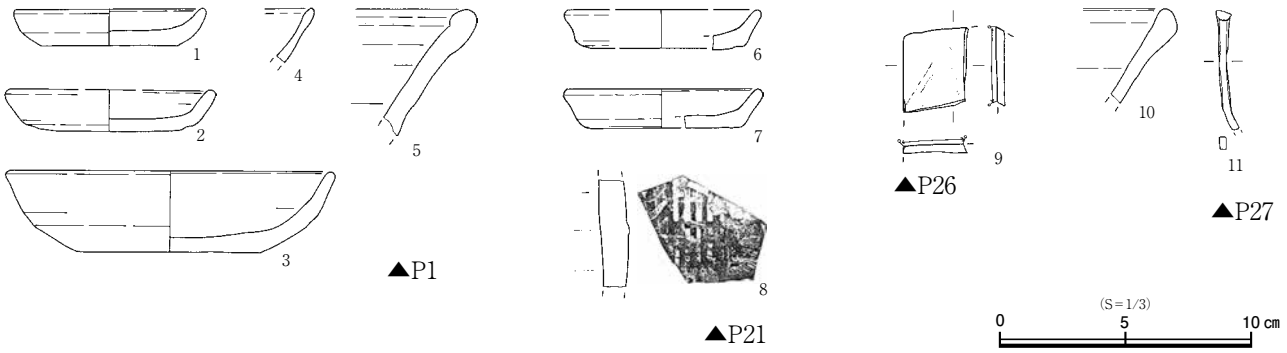


図 23　P1・21・26・27 出土遺物

確認面まで出土遺物（図 24 ～ 27）

重機による表土掘削終了後、遺構確認面（調査 1 面）検出までに出土した遺物である。総出土数は、ロクロ成形のかわらけ（1 ～ 46）が 628 点で、その内極小の内折れタイプのものが 2 点・小皿 193 点・大（中）皿 433 点、かわらけ質の円盤（47）が 1 点、土錘（48 ～ 65）18 点、鍔釜（66）1 点、瓦器質火鉢（67 ～ 69）6 点、瓦（70）1 点、常滑窯産の壺（71 ～ 73）3 点・甕（74 ～ 84）283 点・甕片を転用した捏ね鉢（85）1 点・片口鉢Ⅰ類（86・87）44 点、尾張山茶碗系片口鉢（88 ～ 90）3 点、常滑窯片口鉢Ⅱ類（91 ～ 93）20 点、備前窯擂鉢（94・95）2 点、東播系鉢（96 ～ 98）3 点、尾張型山茶碗（99）1 点、東濃型山茶碗（100・101）2 点、瀬戸窯産の入子（102）1 点・卸皿（103・104）12 点・底卸目卸皿（105）1 点・折縁中（小）皿（106）1 点・折縁深皿（107・108）7 点・筒型香炉（109・110）2 点・水注（111）1 点・茶入（112）1 点・仏華瓶（113・114）2 点・壺類 4 点、舶載品は白磁が口兀皿（115）3 点・壺類（116）3 点、青白磁が華瓶？（117）1 点・小壺（118）1 点、青磁は全て龍泉窯産のもので劃花文碗（119）1 点・鎬蓮弁文碗（120 ～ 122）8 点・無文碗 1 点・折腰碗（123・124）3 点・折縁鉢（125 ～ 127）3 点・壺類 1 点、滑石製品（128 ～ 130）が 3 点、砥石は鳴滝産（131 ～ 140）が 16 点・上野産（141）が 1 点・伊予産（142）が 1 点・七沢産の砥石（143）が 1 点、砥石の可能性のあるもの（144）1 点、緑泥片岩小片（板碑残欠か？）1 点 10.5g、骨製品及び加工骨（145 ～ 154）は実測外から切断痕のあるクジラ骨小片 2 点を加えて計 12 点、鉄製品は火打金（155）が 1 点・板状の鉄片 1 点 4.2g・何らの金具（156）1 点 3.5g・掛け金具（157）が 1 点 5.5g・釘（158 ～ 166）は実測外の 87 点 280.4g を加えて計 96 点、スラグ 1 点 172.4g、銅銭（167 ～ 171）6 点である。その他に近世以降の瓦 3 点と青磁鉢 1 点が出土している。

1 ～ 46 はロクロ成形のかわらけである。1・2 は極小の内折れタイプ、3 ～ 29 は小皿である。3 は底部が厚く、体部が反って開く形態を採り、外底の回転糸切り痕の幅が広い。念のため底部の拓本に示したが、糸切り後の板状圧痕、内底の横ナデもみられ、胎土など、他に目立った特徴は見受けられない。9 は内外底部に棒状工具の先端で衝いたような痕跡がみられる。15 は灯明皿として使用されたものとみられ、体部にススが付着している。また内底には朱色の物質が付着している。20 ～ 29 は器肉薄めで背が高く深い形態を採るものだが、胎土が精良なものは見受けられない。26 は灯明皿として使用したもので口縁部を打ち欠いている。29 は内外面に広くスス・タールが付着している。30 ～ 35 は中皿とみえる寸法のもの。34 は胎土が粗め、35 は内面が折れて立ち上がり、外面のロクロナデも強めできれいな碗型にはならない。47 はかわらけ片を擦って円形に加工したもの。48 ～ 65 は土錐で 49・50・54・61 ～ 65 は一部焦げており 2 次焼成を受けている可能性がある。66 は残存部ナデ調整、胎土は砂粒は多いが金雲母を含まず良く焼きしまり密度がある。67 ～ 69 は瓦器質火鉢。68 は輪花型で輪花部分の内面側は粘土の貼り増し、外面側は先端の丸い棒状工具で溝をつけて整形している。70 の平瓦は八幡宮国宝館用地の女瓦 E 類に分類されるもの。71 ～ 73 は常滑窯の壺類で 71 は口径 10㎝程度になるかもしれない。72 は肩部上位に横線が巡っている。ヘラナデの際の条線とみえるが、意図的につけられた筋でないとはいえない。73 の鳶口壺は胴部径 13㎝程になるか。肩部にヘラで何らの記号を描かれている。79・80 はヘラ描き文、81 ～ 84 は押印のある常滑窯甕片。81 は格子で埋めた四角い区画を 2 つ並べて、間の縦線を 1 本配するもの。82 は 8 弁の花文を 2 つ以上配する叩き板で押印するもの。83 は長方形を斜格子で、84 は長方形を斜線で埋めている。85 は甕の底部片を捏ね鉢に転用したもの。内面は使用により、よく摩滅している。96 ～ 98 は東播系の鉢で、96 は暗赤色を呈し焼き上がり硬質、97・98 は同質と見られる灰白色胎土で 96 ほど焼き締まらない。口縁部外側の作りは 97 が上下の 2 段ナデ、96・

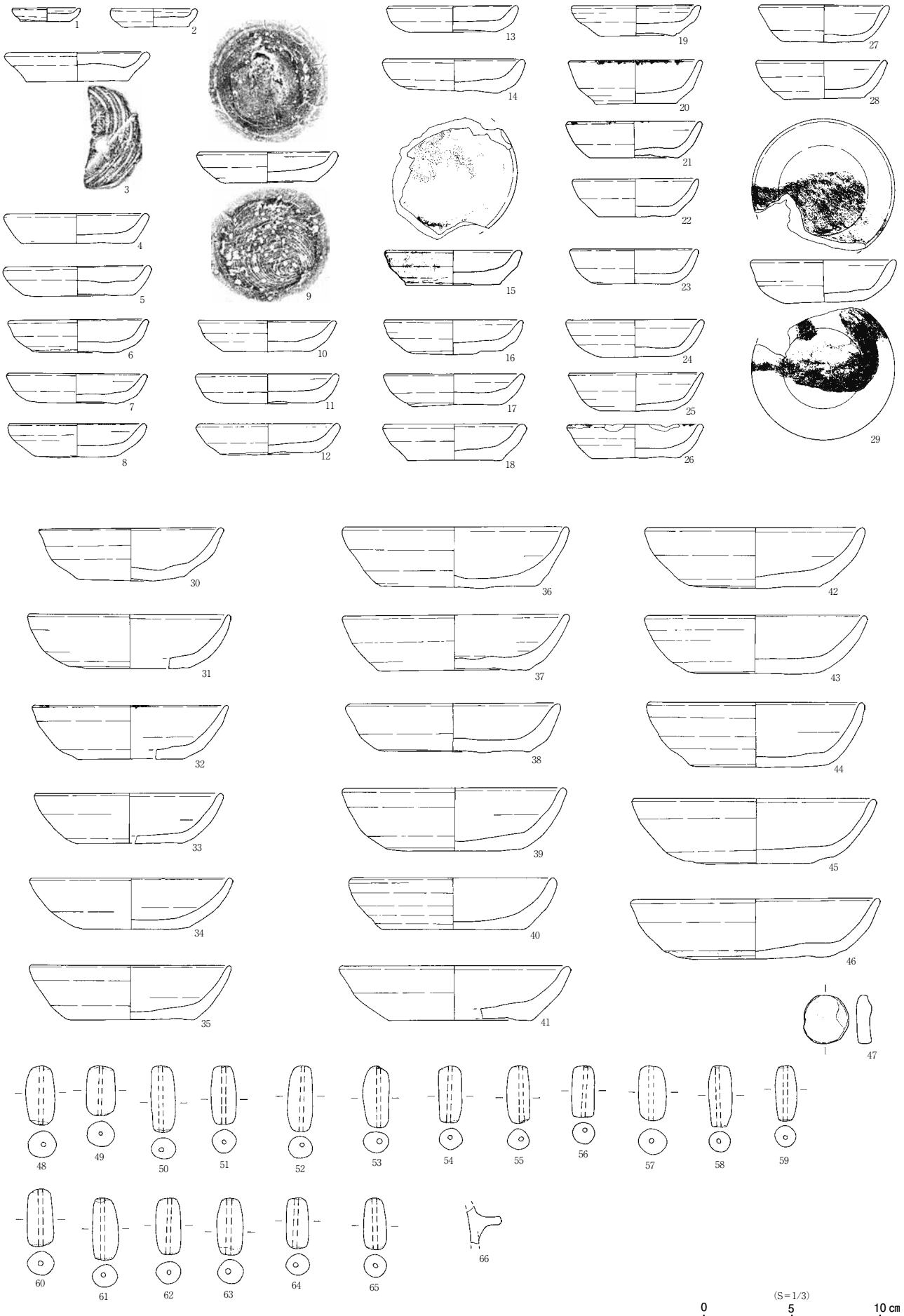


図 24　確認面まで出土遺物（1）

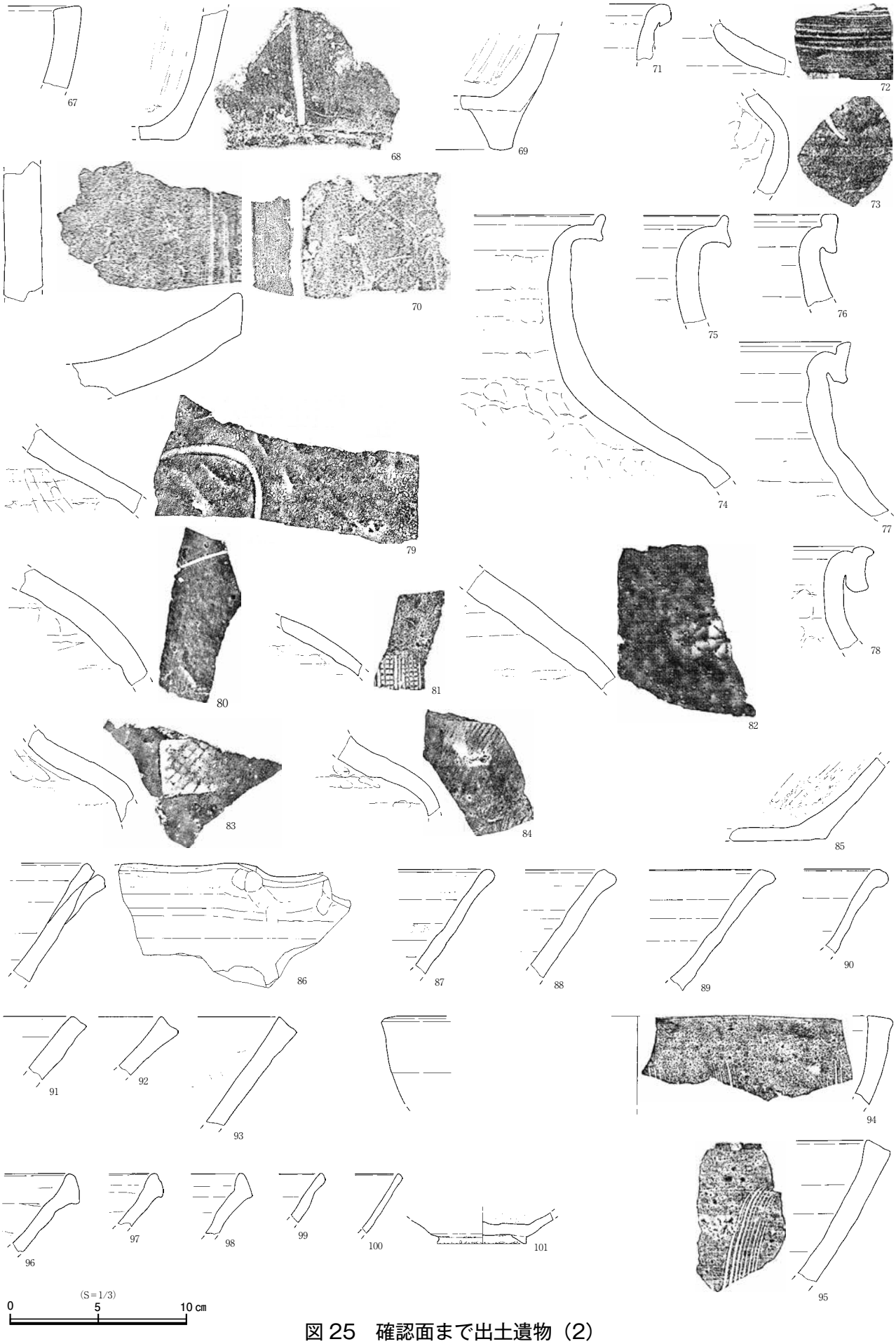


図 25　確認面まで出土遺物（2）

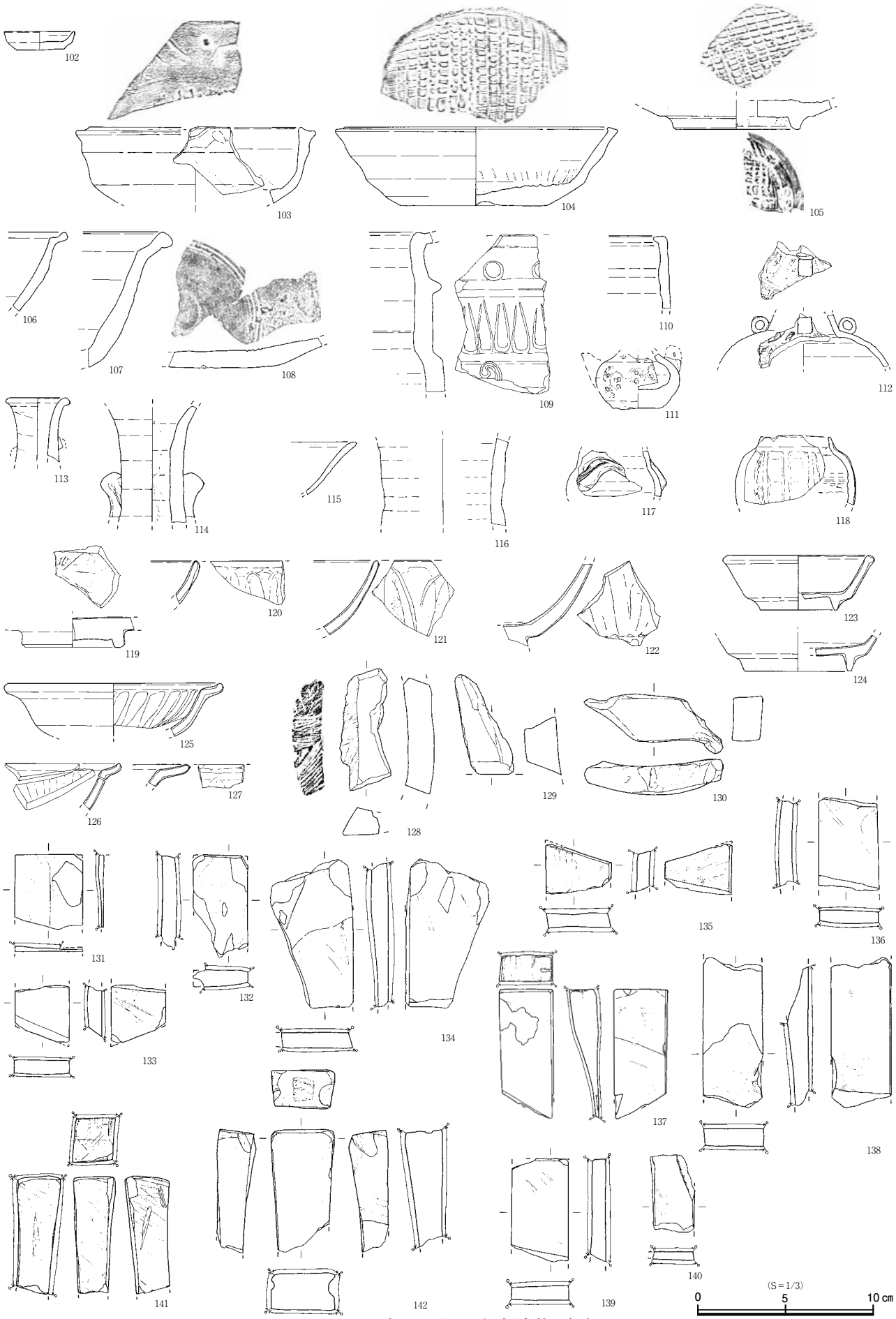


図 26　確認面まで出土遺物（3）

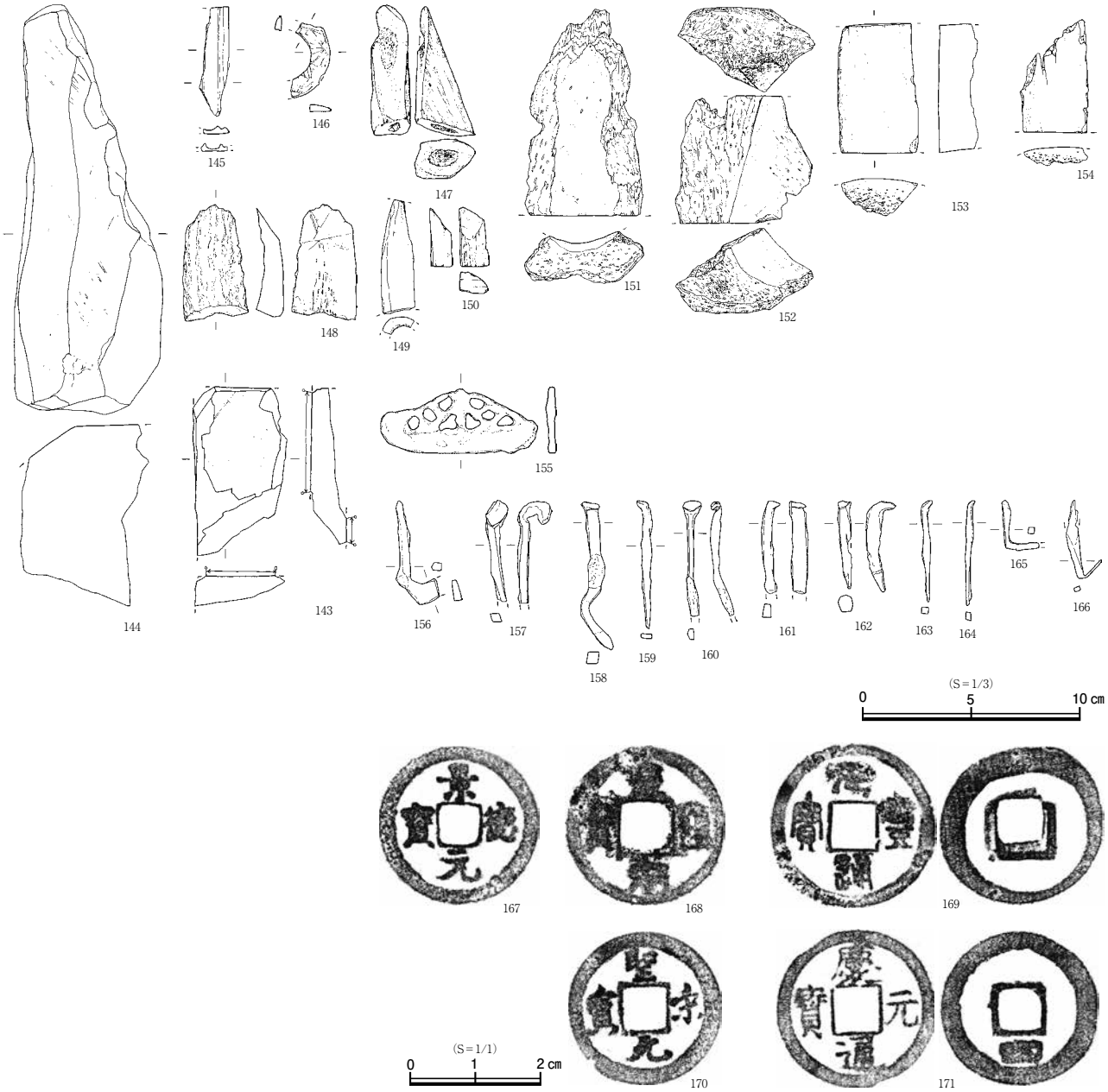


図 27　確認面まで出土遺物（4）

98 は 1 段ナデ。104 の卸皿底部は回転糸切り無調整。105 は内外底面に卸目があるもので底卸目卸皿と言うよりほかない。109 の外面文様は印花を基本とするが中位文様帯の U 字状の連続文はパターンが一様でなく、個々にヘラ描きされているかもしれない。110 の施釉は内外面を掛け分けている。111 は円形文の中に小円 3 つを配する文様で円形文 3 つで 1 つの単位として押されたものとみえる。112 は肩部を 2 条の沈線で区画し、上半は葉文貼花、下半は隅丸長方形の粘土帯を貼花したものに横線をヘラ描きしている。116 は白磁壺頸部で、頸基部に突帯を巡らすものとみえる。117 は青白磁の華瓶か。胴部に葉文とみえる粘土帯を貼付け、5 本単位とみられる櫛で線が描かれている。118 は型作り成形で頸部基部は圏線が 1 周、胴部は浅い陽刻蓮弁 2 弁ごとに突起する縦線を配する。128 ～ 130 は滑石鍋片を加工したもので、128 は左側、129 は下端、130 は下端右半（側面図描写部分）に工具痕が見られる。143 は七沢石で採掘が始まった時期からすれば近世以降のものか。表裏を砥面として使用しているようにみえる。144 は面取りされた砂岩である。砥石とすれば笹口産の荒砥か。146 は骨製の装身具で表面に線

描きされた花文が 2 つ、その間は斜線で埋められている。本来はきれいな円形を意図して作られたものとみえ、上端の外縁側は欠けた部分を整形し直している可能性が高い。155 は飾り孔が行儀よく並んだ装飾性の高いもの。156 は一端が薄く扁平なもので用途不明、何らの金具か。157 は上端が丸く巻かれており掛け金具とした。

確認面出土遺物（図 28）

調査 1 面で遺構確認実施中に出土した遺物である。総出土数は、ロクロ成形のかわらけ（1 ～ 16）が 124 点で、その内極小の内折れタイプのものが 1 点・小皿 18 点・大（中）皿 75 点、土器質火鉢（17）が 1 点、瓦器質香炉（18）が 1 点、瓦（19・20）が 2 点、常滑窯産の甕（21 ～ 27）が 60 点・片口鉢Ⅰ類 10 点、片口鉢Ⅱ類（28）3 点、備前窯擂鉢（29）1 点、尾張型山茶碗（30）1 点、舶載品は白磁が口兀皿 4 点・口兀碗 1 点・四耳壺（31）1 点、青白磁が小壺（32）1 点・梅瓶（33）1 点、青磁は全て龍泉窯産のもので鎬蓮弁文碗（34・35）3 点・折縁鉢（36）1 点・双魚文鉢（37）1 点・尊式華瓶（38）1 点、滑石製品（39）1 点、鳴滝産の砥石 2 点、骨製品（40）1 点、鉄製品は棒状のもの（41・42）が 2 点 19.2g・釘（43 ～ 47）は実測外から 10 点 42.6g を加えて計 15 点、スラグ 1 点 172.4g、板状鉄片 1 点 4.2g、銅銭（48・49）3 点、その他に軽石 2 点 15.5g である。

7 は外面体部から底部にかけてを擦っているもの。11 は口縁部を 2 箇所打ち欠いている。13 の口縁部も打ち欠き。17 は内面が横位･斜位ナデ､口縁部から外面上位横ナデ､外面下位は指頭痕が残っている。18 は 12 弁の花文を花形に 7 つ並べたものを 1 組にして押印している。19 は鶴が岡八幡宮国宝館用地の女瓦 E 類、20 は永福寺女瓦 E 類に分類されるもの。25 はヘラ描き文、26 の押印は連続する縦線を横線で 2 カ所断っている。27 は長三角形の弁を持つ花文か。28 は注ぎ口付近の口縁部片のため形態にやや不安がある。29 は緻密胎土で焼き上がり硬質なもの。胎土･成形が確認面マデで出土したもの（図 25 － 94）によく似ている。31 は白磁四耳壺の耳の部分。手づくね成形で、粘土紐を 3 本貼付け装飾している。32 は型作り成形で胴部は草文とみられる細い凸線による文様、肩部は成形後に蓮弁をケズリ出している。残存部は内外面とも施釉、口縁部は露胎である。37 は部分的に残る双魚の文様を復元して図化した。38 の外面は意図的にロクロ削りを深くして、その間を凸線状に残し、横線を数条巡らせて装飾としている。39 は滑石鍋の底部片を加工したもの。内底側から見た右側は切断面、下側は割れ口の角を工具で刻んでおる。外底面の周縁には刃物痕がみられる。40 は骨製品で織り具の杼に形状の似るもの。背面左上半は自然面が残っている。鹿角製の可能性が高いが断定は出来ない。41 は長さ 12 ㎝程のもので、42 も欠損品ながら長さ 12㎝に近い。41・42 とも釘としては長さに対して細く、頭部となる部分を確認できないため用途不明の棒状製品とした。同様な形態を採る鉄製品は溝 1（図 20 － 11)、方形竪穴 12（図 40 － 12)、方形竪穴 11（図 61 － 16)、方形土坑 4（図 64 － 38）で出土している。43 は木質が遺存している。

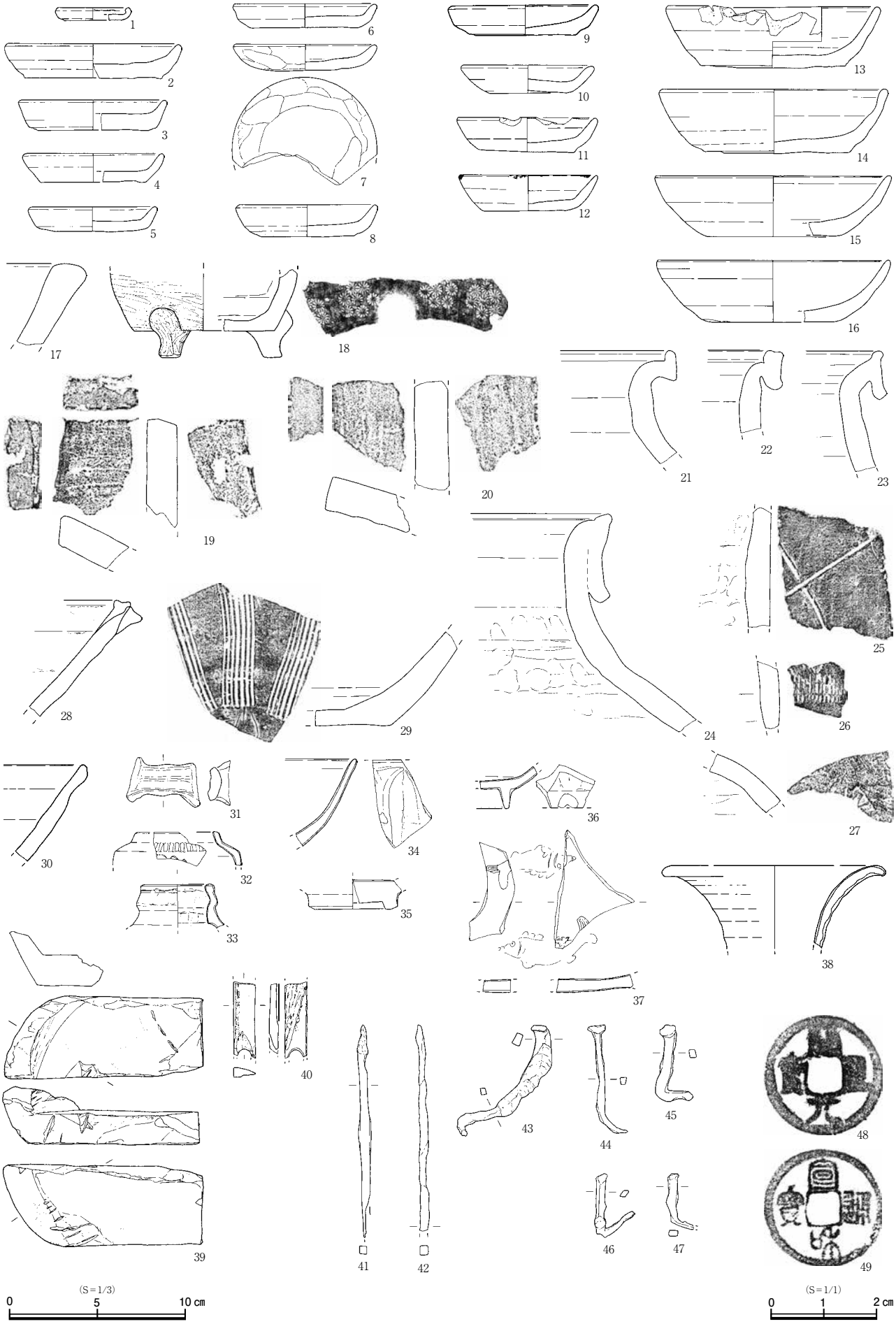


図 28　確認面出土遺物

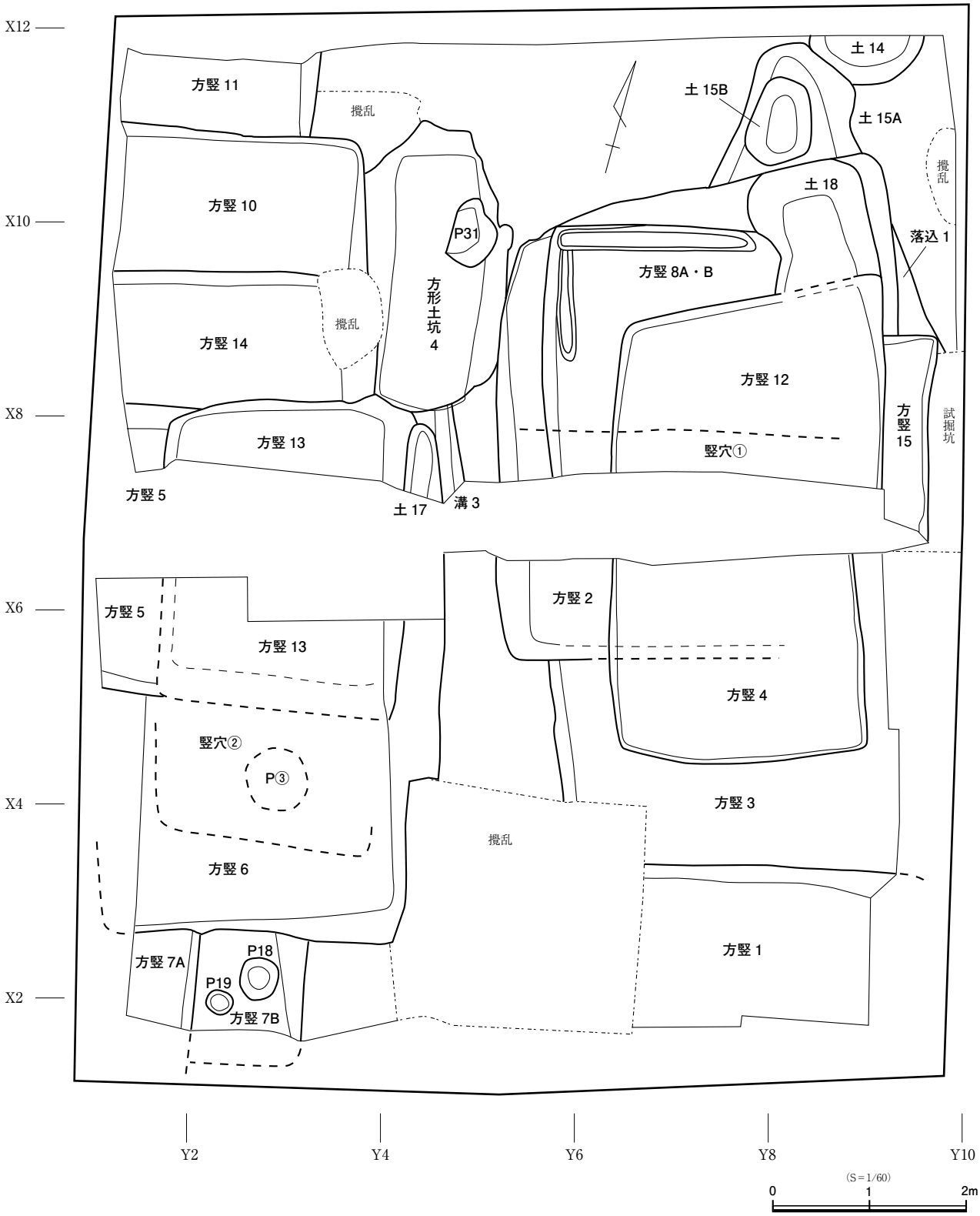


図 29　中世Ⅱ期遺構配置図

調査２面で検出された遺構を主体に方形竪穴 16 基、竪穴２基、土坑６基、落ち込み１基、ピット４口を中世Ⅱ期として報告する。基本土層のⅡ層を掘り込んだと考えられる遺構群で、濃密に分布する方形竪穴が本期の中心となる。遺構検出面の標高は 7.34 ～ 7.55m で次時期（中世Ⅲ期）の基盤となる基本土層のⅢ層付近となり、中世Ⅱ期～Ⅲ期にかけては同一面上での調査となった。この面で検出された遺構については時期を特定できないものも含まれているため、中世Ⅱ期・Ⅲ期として共に扱うべきかもしれないが、ピットの大半は中世Ⅲ期の所産である可能性が高いものと考え、本時期から切り離した。

東側方形竪穴群（図 30）

調査区東側に分布する方形竪穴群については重複関係が複雑なため補足としての模式図を示した。切り合い順はⅡ区で検出された方形竪穴１と方形竪穴２が新しく、方形竪穴３を切っている。単独で調査している方形竪穴１をまず報告、方形竪穴２は未調査部分を挟んで北側へ続いている可能性が高いため、Ⅰ区検出の遺構群（方形竪穴 8・12、竪穴①、土坑 15・18）と共に報告する。方形竪穴３を報告後、Ⅱ区側で最も旧い方形竪穴４と、Ⅰ区側で最も旧い方形竪穴 15 について報告する。

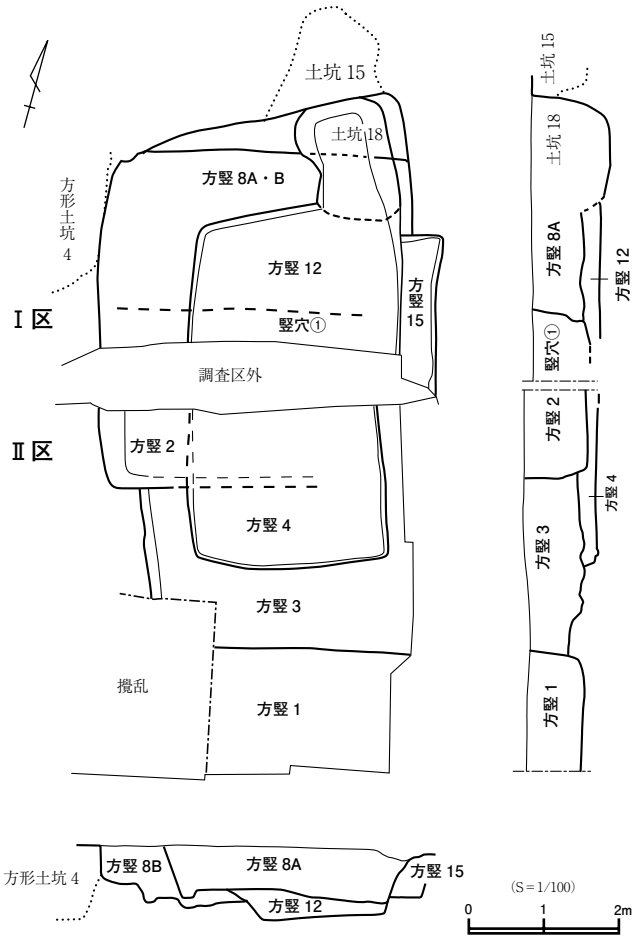
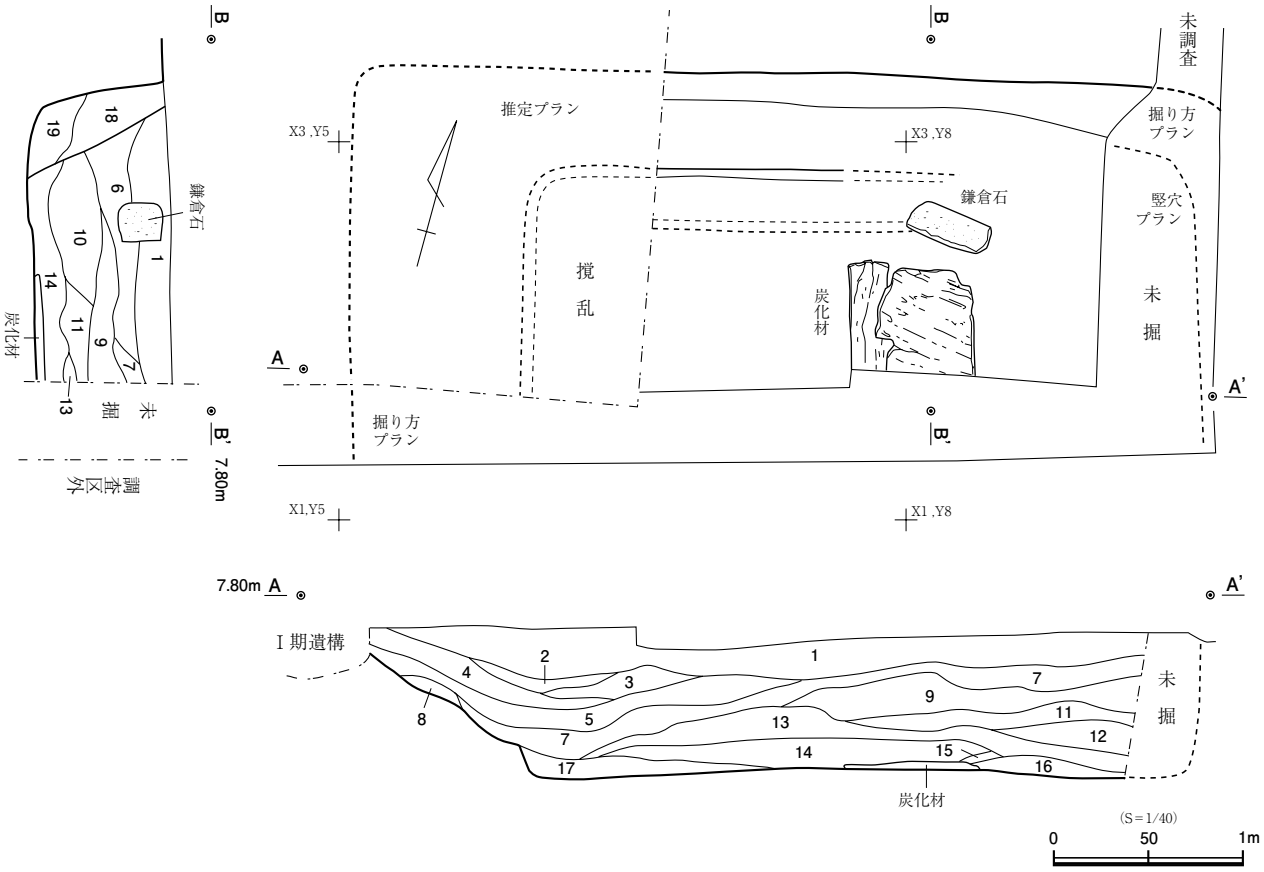


図 30　東側方形竪穴群模式図

方形竪穴１（図 31）

Ⅱ区南東側、X1 ～ 3,Y5 ～ 9 に位置する。北東側を現代の削平により失う。西端覆土を P1（Ⅰ期）に切られる。北側は方形竪穴３を切っている。検出面の標高は 7.55m である。主軸方向は N － 15° － W を指す。南側・東側の調査区壁際 40 ～ 60㎝程は平面形の確認のみで掘削調査は行なっていない。覆土は西側から竪穴壁を壊して流入している。意図的に破却されたものかもしれない。上層には長さ 45㎝以上、23 × 15㎝角の方柱に加工された鎌倉石が投げ込まれている。検出された規模は南北方向が 211㎝以上、東西方向はわずかに遺存する西壁下からで 370㎝以上となる。底面標高は 6.81 ～ 6.85m、深さは 74㎝である。壁下底面に土台材を巡らす構造とみられ、北側でその痕跡を確認している。床材に使用したと考えられる炭化材が一部に残るが竪穴内に火を受けた様子は特に見受けられない。



方竪１　土層説明

１層	暗褐色砂質土	土丹片・２㎝大の炭を多く含む。しまり弱い。
２層	暗褐色砂質土	風化粘土を少量混じえる。炭を含む。しまり弱い。
３層	暗褐色砂質土	２層より風化粘土の混じりが多い。しまりややあり。
４層	暗褐色砂質土	３層よりしまりがある。
５層	灰茶色弱粘質土	風化粘土を多く混じえる。
６層	灰茶色砂質土	８㎜以下の土丹粒子、炭化物を多く含む。
７層	灰茶色砂質土	１層と同質だが、１層よりしまりがある。
８層	黄褐色砂	腐植土を少量混じえる。炭を含む。
９層	灰茶色砂質土	風化粘土をわずかに混じえる。 ７層より砂の混じりが多く、５㎜以下の炭化物を多く含む。
10層	灰茶色砂質土	腐植土を主体とし、色調暗い。炭化物を多く含む。
11層	灰茶色砂質土	砂を多く混じえ、色調明るい。2～3㎝大の炭を含む。
12層	灰茶色砂質土	11層より砂の混じり少なく、しまりがある。
13層	茶灰色砂質土	腐植土を主体とし、風化粘土を多く混じえる。炭化物を含む。
14層	暗褐色砂質土	砂を主体とし、腐植土を混じえる。 炭化物を含む。しまり弱い。
15層	茶灰色砂質土	13層と同質。上面に炭が帯状に溜まる。
16層	茶灰色砂質土	14層と同質。
17層	茶灰色砂質土	風化粘土を主体に砂を混じえる。炭を含む。しまり弱い。
18層	褐色砂	腐植土を帯状に混じえる。炭化物を少量含む。しまり弱い。
19層	褐色砂	腐植土を粒状に少量混じえる。炭化物を極少量含む。 しまり弱い。

図31　方形竪穴１

方形竪穴１出土遺物（図32）

総出土数は、手づくね成形のかわらけ小皿（1）が１点、ロクロ成形のかわらけ（2～11）が92点で、そのうち小皿が28点・大（中）皿が64点、土錐（12）が１点、土器質火鉢（13）が１点、瓦器質火鉢（14・15）が２点、常滑窯産の甕（16～18）が38点・片口鉢Ⅰ類３点、尾張山茶碗系片口鉢（19）１点、片口鉢Ⅱ類（20～24）13点、渥美窯の甕１点、東濃型山茶碗（25）１点、瀬戸窯の入子（26）１点・大振りの碗皿類（27）１点、折縁深皿（28）１点・筒型香炉１点・小壺（29）１点、舶載品は白磁が口兀皿（30・31）３点・合子蓋（32）１点、青白磁は水注（33）１点・梅瓶（34）１点、青磁は全て龍泉窯産のもので折縁鉢（35・36）１点・華瓶（37）１点、産地不明の砥石（38）１点、上野産の砥石（39）１点、骨製品・加工骨（40～42）３点、鉄釘（43～47）は実測外から４点20.4gを加えて計９点、銅銭（48）１点、その他に軽石２点42.4gが出土している。

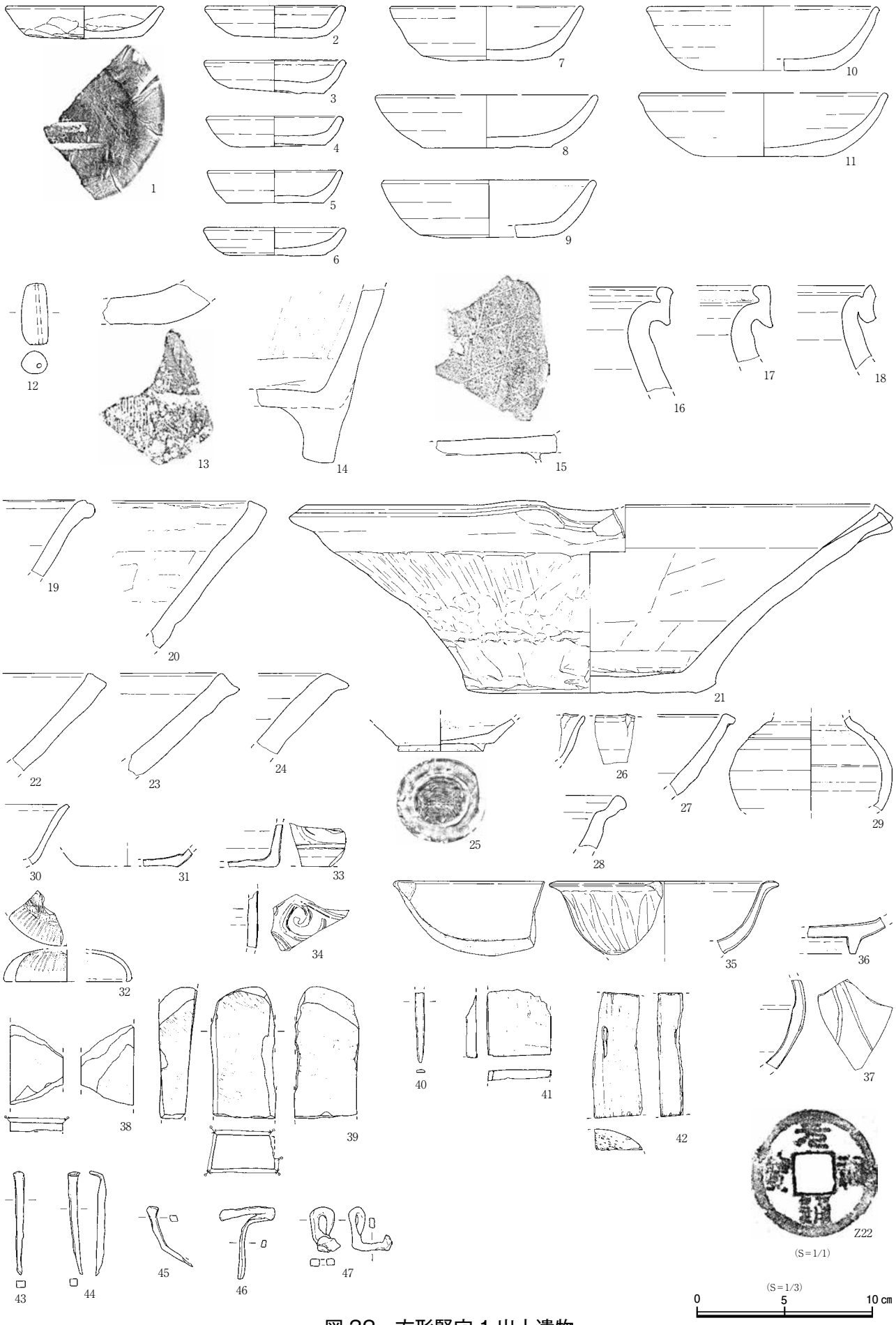


図 32　方形竪穴 1 出土遺物

1は手づくね成形のかわらけで外底には棒状圧痕がみられ、焼成後に外面側面下半から底部にかけて擦られている。7は中皿とみられる寸法のもので、胎土は混入物を含む紛質土。13は外底に糸切り痕を残す。静止糸切りにみえるが小片のため断定出来ない。14は3足の付くもの。内外面体部は縦位のミガキ調整が残る。15の内底面は円周状の方向にナデ調整した後、斜格子に暗文を施している。外底には足の基部がわずかに残っている。25は外底面に回転糸切り痕を残す。内底面は2本の指頭を使った強めの横ナデが1回施されている。27は口径25～26㎝程になるもので、大皿ないし大型の碗の類と思われる。口縁部上端は凹み気味で外方へ張り出す形態。外面体部はロクロ目がよく残っている。29は瀬戸窯の小壺で茶入れとすべきものかもしれない。肩部に沈線が1条巡っている。32は型作り成形で、天井部を円で区画し、区画内は梅と見える花文に雲形曲線を配し曲線内を斜線で埋めている。体部は細線による蓮弁文が巡っている。外面、内面天井部は施釉、身受け部から内面体部は露胎である。33は底径8～10㎝程になるものか。35は破損後、2次利用されたもので、割れ口に擦痕がみられる。39の上端は欠損後に摩滅している。40は笄の先端部分の残欠。46・47は鉄釘が折れ曲がったものと見る。

方形竪穴2、8A・B、12、竪穴①、土坑15・18、落ち込み1（図33・34）

Ⅰ区側で重複する遺構群は平面形の確認で個々の範囲を把握できず、ほぼ同時に掘り上げてしまった。土層断面をたよりに関係を推察すれば、竪穴①（1～4層）が未調査部分を挟んで方形竪穴2（5～8層）につながる可能性が高い。土坑15A（29～32層）は方形竪穴8に切られるている。方形竪穴8はひとつの遺構として掘削調査を行ったが、重複する3基の方形竪穴と判断、9～18層を方形竪穴8A、19・20層を方形竪穴12、21～23層を方形竪穴8B本体、24～27層は方形竪穴8Bの掘り方とした。方形竪穴12は方形竪穴8Bの底面調査で方形竪穴8Bを切る別遺構であることが平面的にも確認されている。土坑18は土層堆積をみる限りでは方形竪穴8Aと同一遺構となり、方形竪穴8Aの付帯施設というよりほかにないのだが、掘り上がりで方形竪穴8の底面より深く、張り出し部の類例にも合わない。いちおう単独の遺構として遺構名を付し、方形竪穴8Aとの関係は不明としておく。

方形竪穴2（竪穴①）

Ⅱ区北東側、X5～6,Y5～8付近に位置する。南東側は現代の削平により失う。竪穴①については堆積の様子が合わず不安が残るが、位置や重複の関係から本址につながるものとして最も可能性が高い。他遺構との新旧関係は、方形竪穴2が方形竪穴3・4を切り、竪穴①が方形竪穴8A・B、方形竪穴12を切っている。検出面の標高は7.65mである。主軸方向はN－15°－Wを指す。検出された規模は東西方向が297㎝、南北方向は123㎝以上、竪穴①を本址北側部分とみれば230㎝である。底面標高は6.81～6.85m、深さは84㎝である。西壁下の底面で土台材の痕跡とみられる幅10㎝、深さ7～9㎝の溝が検出されている。

方形竪穴8A・B

Ⅰ区東側、X7～10,Y5～9付近に位置する。検出面の標高は7.53mである。土層断面で確認された新しい竪穴を方形竪穴8Aとし、掘り上がりで底面を残す旧い竪穴を方形竪穴8Bとする。重複する遺構との新旧関係は新しいものから竪穴①→方形竪穴8A（土坑18）→方形竪穴12→方形竪穴8B、方形竪穴8A（土坑18）→落ち込み1→方形竪穴15、方形竪穴8A（土坑18）→土坑15Aである。方形竪穴8Aは平面的に検出されておらず詳細は不明。以下は方形竪穴8Bについての記述である。北壁側の外

周部分は本址に含まれるかわからない。西壁側の段差部分（24 ～ 27 層）は本址掘り方と考えているが、別遺構になる可能性もある。主軸方向は N － 14° － W を指す。検出された規模は竪穴本体の底面で東西方向が 320㎝、南北方向は 260㎝以上である。底面標高は 6.80 ～ 6.89m、深さは 73㎝である。底面では土台材の痕跡とみられる溝、及びピット 6 口が検出されている。南側の溝が壁下に配されるものであれば、Ⅰ・Ⅱ区間の未調査部分で竪穴が収束している可能性が高く、長軸方向を東西に採ることとなる。南西隅の鎌倉石は P1 底面より 9㎝、竪穴底面より 4㎝浮いた位置での検出である。

土坑 18

Ⅰ区の X9 ～ 10,Y8 ～ 9 付近に位置する。前述したように方形竪穴 8A との関係は不明。同時に掘り上げてしまったが、底面付近で方形竪穴 12 を切っていることが平面的に確認されている。土坑 15A、方形竪穴 8B を切る。単独の遺構と見れば、検出された規模は 170 × 126㎝、底面は標高 6.66m で平坦、深さは 87㎝である。

落ち込み 1

Ⅰ区東側、X8 ～ 9,Y9 に位置する。方形竪穴 8A 東壁上に切られる浅い落ち込みで、東上端から南西方向へ向かい標高を減じていく。全容がわからないため遺構の性格は不明。検出面の標高は 7.46m。検出された規模は東上端が 142㎝、その直交方向で 43㎝、底面標高は 7.18m で深さは 28㎝である。

方形竪穴 12（図 33・34・45）

Ⅱ区の X7 ～ 9,Y6 ～ 9 付近に位置する。方形竪穴 8A（土坑 18）に切られ、方形竪穴 8B、方形竪穴 15 を切っている。検出面の標高は 6.80 ～ 6.85m である。主軸方向は北壁ラインで N － 25° － W、西壁ラインで N － 17° － W となる。検出された規模は南北方向が 195㎝以上、東西方向は東壁を方形竪穴 8 と共通とみれば 285㎝となる。底面標高は 6.58 ～ 6.62m、深さは 22 ～ 27㎝である。底面施設は湧水により十分な確認をされていない。東壁が方形竪穴 8 と重なることに不安が残る。

土坑 15A・B

Ⅰ区の X10 ～ 11,Y7 ～ 8 に位置する。方形竪穴 8A（土坑 18）に切られる。北東側の土坑 19 との新旧関係は不明である。東上端は落ち込み 1 へつながるようにも見えるが関係は不明､別遺構として扱う。検出面の標高は 7.51m、検出された規模は 182 × 133㎝である。底面は標高 7.15 ～ 7.20m で概ね平坦、深さは 36㎝である。

土坑 15B は土坑 15A の底面で確認された掘り込みで、検出された規模は 93 × 69㎝である。底面標高は 6.81m で、深さは土坑 15A 底面からで 25㎝である。

方形竪穴 2 出土遺物（図 35）

総出土数は、手づくね成形のかわらけが小皿（1）が1点・大皿（2）1点、ロクロ成形のかわらけ（3～9）が34点で、そのうち小皿が15点・大（中）皿が19点、鍔釜（10）が1点、常滑窯産の甕（11）6点・片口鉢Ⅰ類1点、舶載品は白磁が小壺（12）1点、青磁は龍泉窯の鎬連弁文碗1点、上野産の砥石（13）1点、鉄製品は扁平棒状のもの（14）1点110.9g・釘（15～18）は実測外から9点39.8gを加えて計13点、スラグ1点27.6g、その他に軽石2点49.7gである。9は内底面に広くススが付着している。10は橙

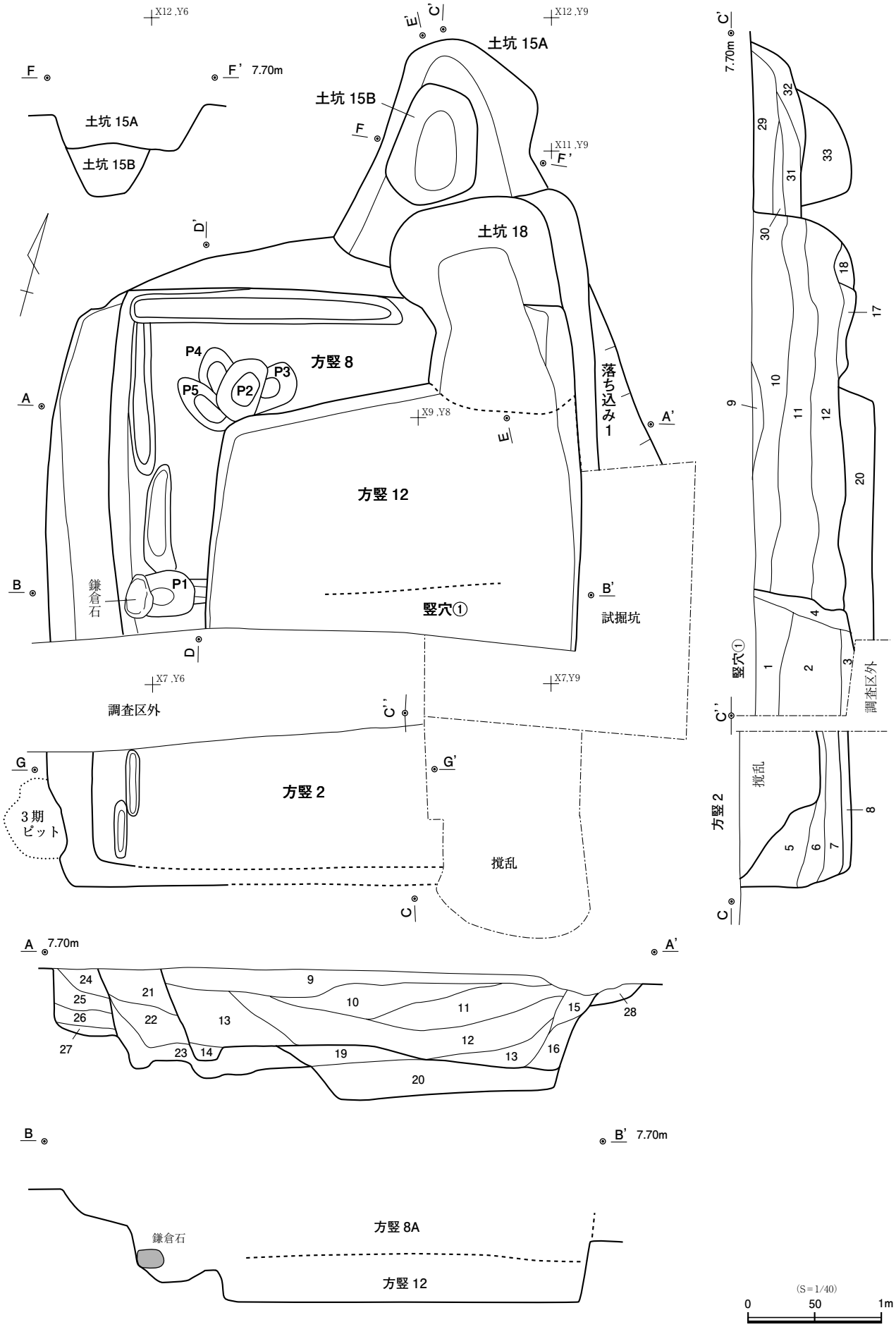
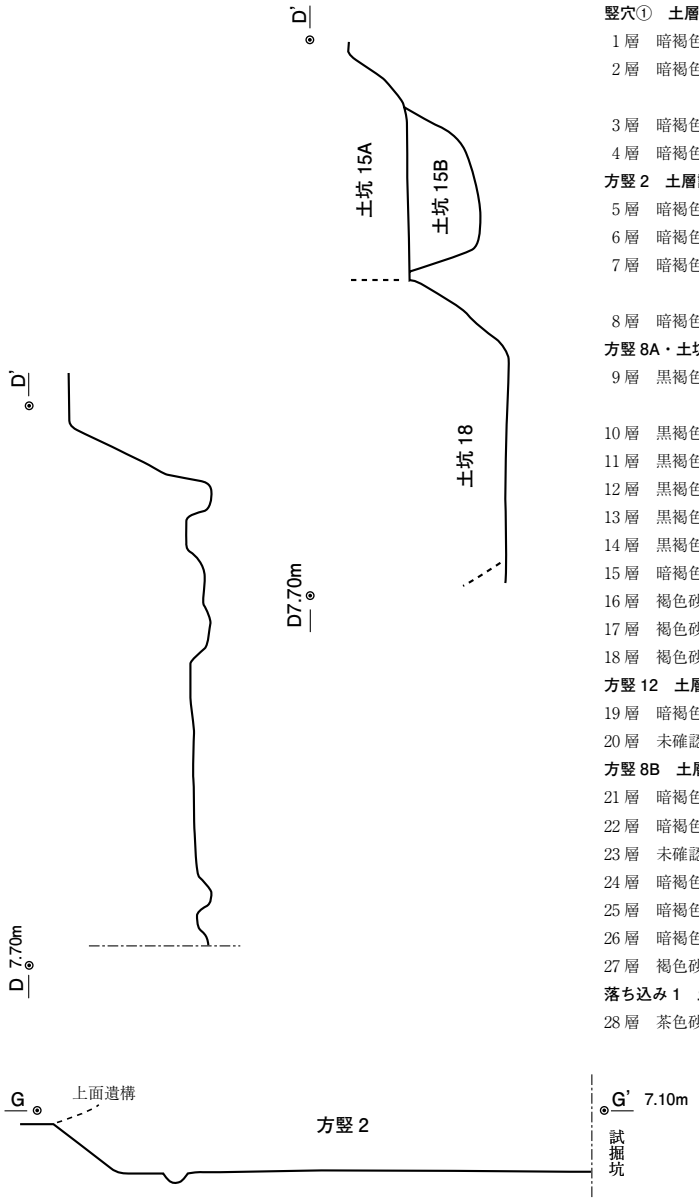


図 33　方形竪穴 2・8・12、土坑 15・18、落ち込み 1（1）



竪穴①　土層説明

1 層	暗褐色砂質土	2 層より砂を多く色調明るめ。しまりなし。
2 層	暗褐色砂質土	腐食土の混じり多め。～5 ㎝大の土丹・炭・貝片含み、ボロボロとしまりに欠ける。
3 層	暗褐色砂質土	含有物の粒径小さく（2 ㎝以下）少ない。
4 層	暗褐色砂	土丹・炭・貝の細粒子を少量含む。しまり弱い。

方竪 2　土層説明

5 層	暗褐色砂質土	1 ㎝大の粘質土ブロック少量、炭化物を含む。しまり弱い。
6 層	暗褐色砂質土	1 層より砂質強く、しまる。炭化物やや多い。
7 層	暗褐色砂質土	褐色砂を主体とし、色調明るい。土丹粒子・炭化物を少量含む。しまりあり。
8 層	暗褐色砂	白黄色砂を主体に腐植土を混入する。かわらけ片・炭を含む。

方竪 8A・土坑 18　土層説明

9 層	黒褐色砂質土	10～20 ㎝大の土丹含む。土丹粒子・炭・貝多い。ボロボロとしまりに欠ける。
10 層	黒褐色砂質土	4 ㎝大以下の土丹含む。含有物 8 層より少ない。
11 層	黒褐色砂質土	8・9 層より腐植土の混じり多い。
12 層	黒褐色砂質土	8～10 層より腐植土多く、含有物少なくしまる。
13 層	黒褐色砂質土	4 ㎝大以下の土丹、炭・貝含む。しまり弱い。
14 層	黒褐色砂質土	含有物少なくしまる。
15 層	暗褐色砂	褐色砂多く色調明るめ。土丹粒子・炭化物含む。
16 層	褐色砂	腐植土をわずかに混じえる
17 層	褐色砂	腐植土をわずかに混じえる。
18 層	褐色砂	白黄色砂を主体に腐植土を混入する。

方竪 12　土層説明

19 層	暗褐色砂	腐植土をわずかに混じえる。。
20 層	未確認	

方竪 8B　土層説明

21 層	暗褐色砂	褐色砂多く色調明るめ。土丹粒子・炭化物含む。
22 層	暗褐色砂	21 層より褐色砂多い。炭化物少量含む。
23 層	未確認	
24 層	暗褐色砂質土	褐色砂を多く混じえ色調明るめ。土丹粒子・炭化物含む。
25 層	暗褐色砂質土	23 層より褐色砂少なく色調暗め。含有物少ない。
26 層	暗褐色砂質土	23・24 層より褐色砂少なくきめ細かい。
27 層	褐色砂	腐植土をわずかに混じえる。

落ち込み 1　土層説明

28 層	茶色砂	細砂。

No.	長軸 × 短軸 × 深さ（㎝）	底面標高（m）
P1	50 × 35 × 16	6.64
P2	47 × 34 × 18	6.66
P3	34 × 32 × 11	6.73
P4	45 × 29 × 8	6.64
P5	50 × 18 × 10	6.64

土坑 15　土層説明

29 層	茶褐色砂質土	やや粘性があり、よくしまる。貝片・炭含む。
30 層	茶褐色砂質土	1 層より褐色砂の混じり多い。含有物ほとんどない。
31 層	茶褐色砂質土	褐色砂を多く混じえる。貝片・炭含む。しまり弱い。
32 層	茶褐色細砂	褐色砂を斑状に混じえる。
33 層	土坑 15B	

(S=1/40)
0　50　1m

図 34　方形竪穴 2・8・12、土坑 15・18、落ち込み 1（2）

色～暗茶色を呈し、胎土緻密で焼き上がり硬質なもの。外面ナデ調整、内面ハケ調整。焼成前に径7㎜、2個一対の孔が、粘土を貼付けて内面を補強した後、断面の丸い棒状工具で外方から穿たれている。11は花文を押印するもので9弁まで確認。12は白磁の水注など小壺の類いである。型作りで胴部に細い浮線による唐草文が配されている。13は上野産の砥石。上下端欠損、砥面は3面、左側は整形痕が残る。14は細い板状のものの1端が丸く折られている。何らの金具、あるいは工具として使用されたものかもしれない。

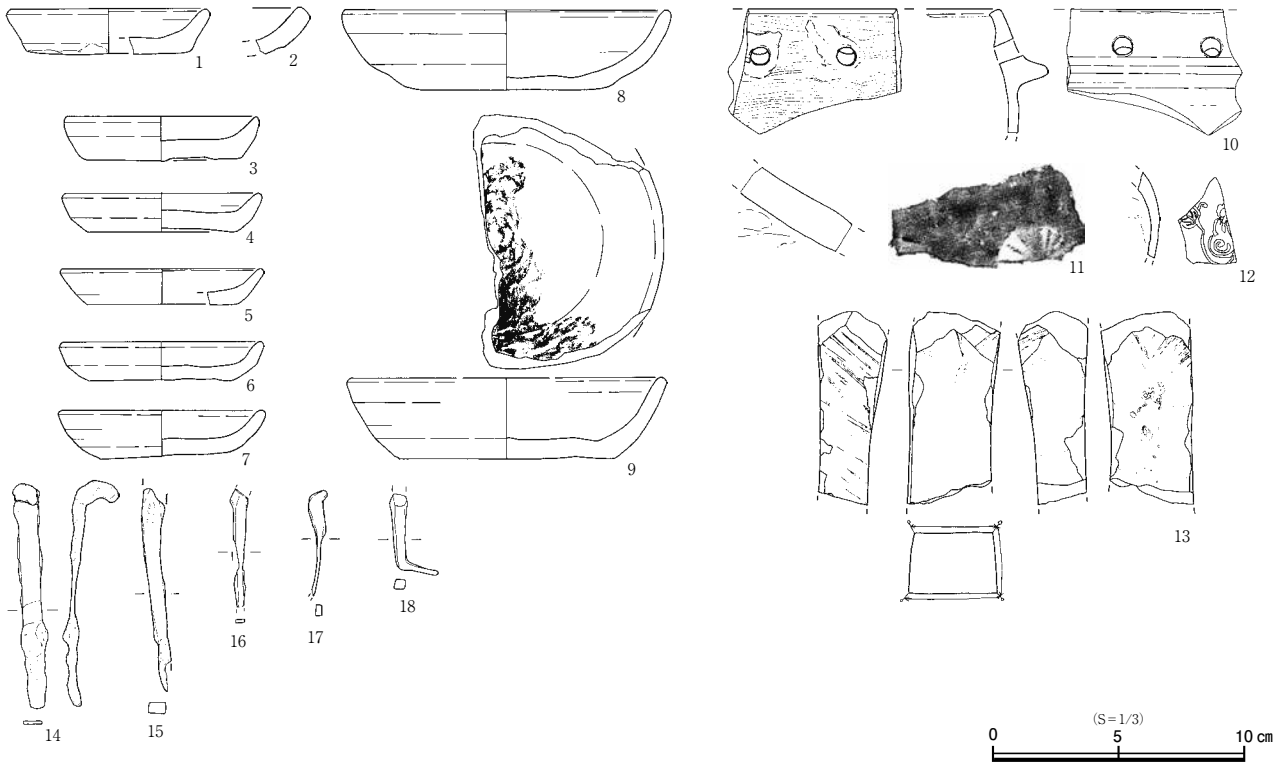


図 35　方形竪穴２出土遺物

方形竪穴8A・B出土遺物（図36～38）

A・Bは別遺構であるが現地調査では当初同一遺構として掘削されたため、遺物は方形竪穴8として共に取り上げてしまっている。また竪穴①と土坑18の遺物、方形竪穴12の一部が混入している。

総出土数は、手づくね成形のかわらけ小皿（1）が1点、ロクロ成形のかわらけ（2～26）が344点で、そのうち小皿が92点・大（中）皿が252点、土錘（27～36）が10点、円盤状土製品（37）が1点、鍔釜（38）1点、土器質火鉢1点、瓦器質火鉢（39・40）が6点、常滑窯産の壺（41）が12点・甕72点・片口鉢Ⅰ類（42～47）12点・片口鉢Ⅱ類（48～53）12点、備前窯の擂鉢（54・55）2点、東播系の鉢（56）1点、尾張型山茶碗（57）3点、瀬戸窯の卸皿（58）2点・折縁中皿（59）1点・折縁深皿（60～63）5点、瓶子（64）1点、舶載品は白磁が口兀碗（65・66）3点・口兀皿（67）1点・青白磁は合子蓋（68）1点・水注（69）1点、青磁は全て龍泉窯のもので鎬連弁文碗（70・71）4点・無文碗（72）1点・折縁鉢（73～75）3点・合子（76）1点、褐釉壺2点、石製品は硯原材（77）1点・鳴滝産の砥石（78～81）6点・伊予産の砥石（82）1点・天草産の砥石（83・84）2点・上野産の砥石（85・86）2点、骨製品（87・88）2点、加工骨（89～91）は実測外から切断痕のあるクジラ骨小片3点・刃物痕のある大型哺乳類骨小片1点・敲打痕のある陸生哺乳類骨小片1点を加えて計8点、鉄製品は板状のもの（92）が実測外から1点26.8gを加えて計2点・刀子（93）1点・環状金具（94）1点・掛け金具（95）1点・扁平棒状のもの（96・97）2点・釘（98～107）10点、スラグ2点118.2g、銅銭（108）1点で、その他にチャート1点5.5g、軽石3点21.8gある。

かわらけ小皿は15と18が混入物が少なく比較的精良、20・21は中皿となり得る寸法で胎土も良い。大皿は25・26の胎土が良い。2は内面の広い範囲と外面体部の一部にススが付着している。内面25・26は外底を擦られているもので、26の底面中央は打欠かれているように見える。37の胎土はかわらけと同質、手づくねで円盤状に成形した後、中央を工具を回しながら横ケズリして孔を穿っている。紡錘

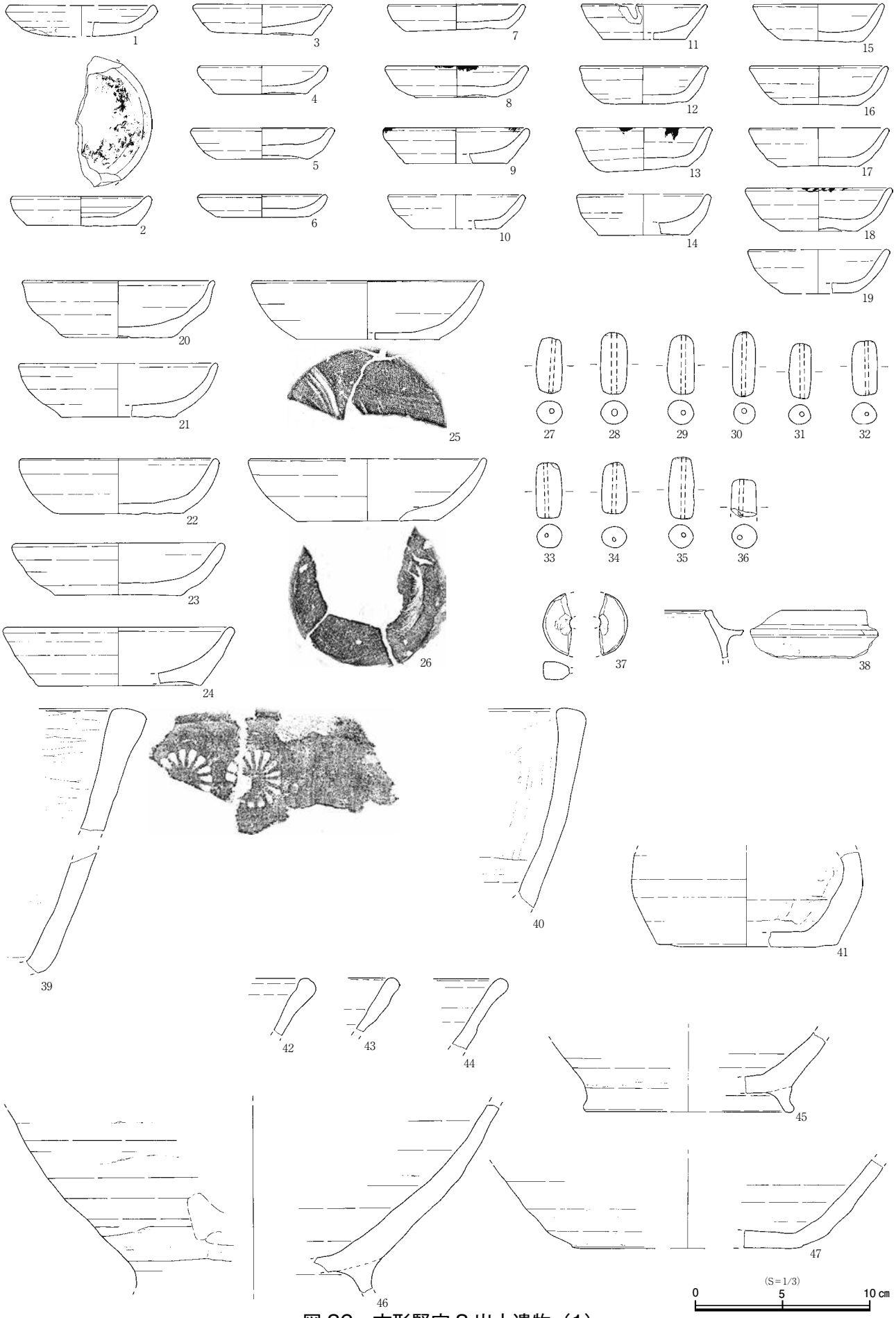


図 36　方形竪穴 8 出土遺物（1）

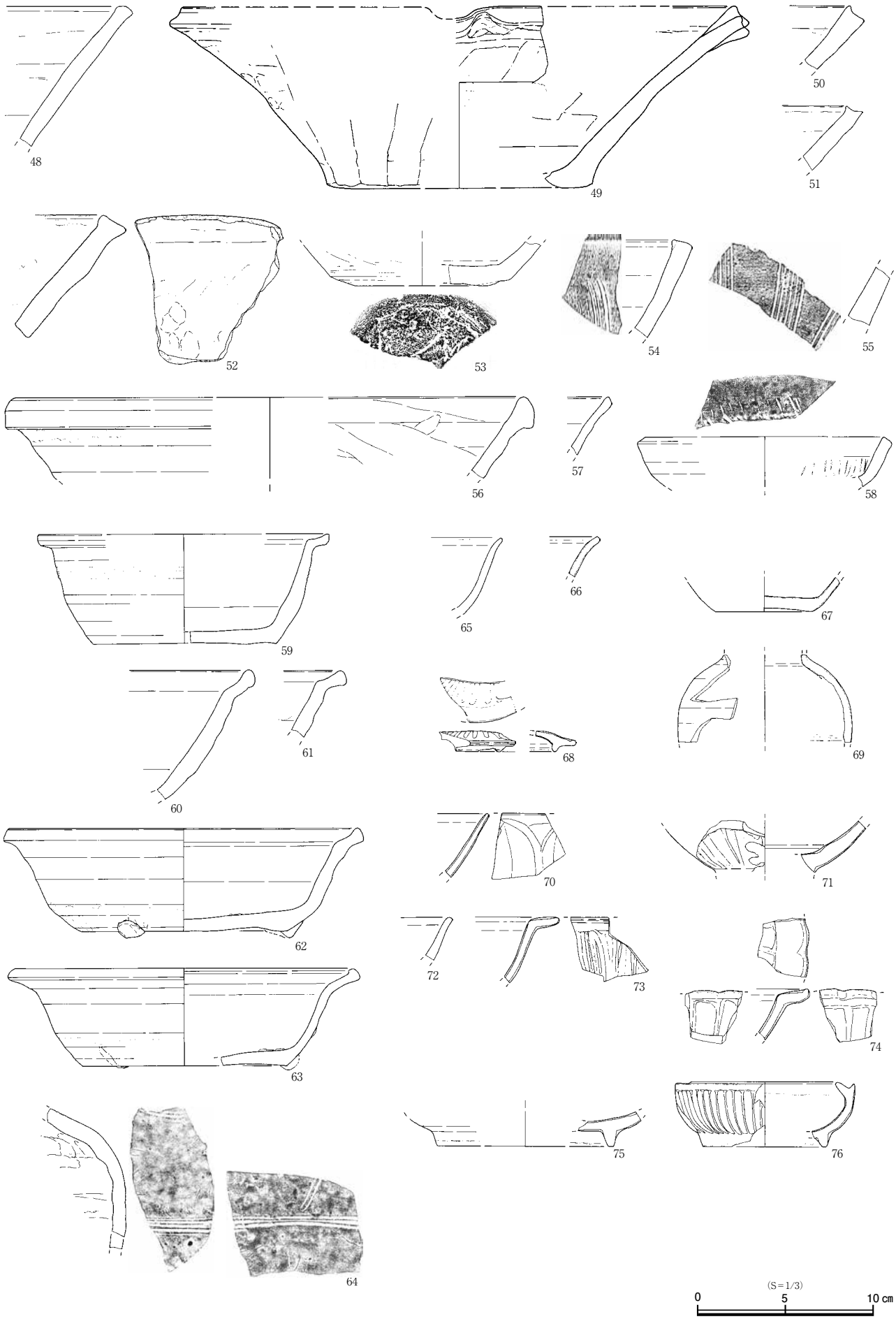


図 37　方形竪穴 8 出土遺物（2）

図 38　方形竪穴 8 出土遺物（3）

車として使用したものか。38は伊勢地方に系譜を持つもので、鍔付きの鍋になりそうな形状を採る。金雲母を多く含み密度のない軽質な胎土である。確認面までの調査で出土したものだが、同個とみられる破片が出土している本址の遺物として扱った。39は14弁以上、おそらく16弁の花文を押された瓦器質火鉢。内面横位、外面縦位のミガキ調整が施されている。40は輪花型の瓦器質火鉢で輪花部分はヘラ押しの下部のみ遺存している。41は常滑窯の鳶口壺。胴部下半2段はケズリ気味で回転を利用しているように見受けられる。47は片口鉢Ⅰ類で高台のつかないタイプのもの。内外面とも回転ナデに見える。外底部は砂底。52は片口鉢Ⅱ類の破片を使用したもので、口縁部の内側角と体部下端の割れ口が擦られている。53は外底部周縁に何らの繊維が撚れたような圧痕が残っている。中央寄りは連続

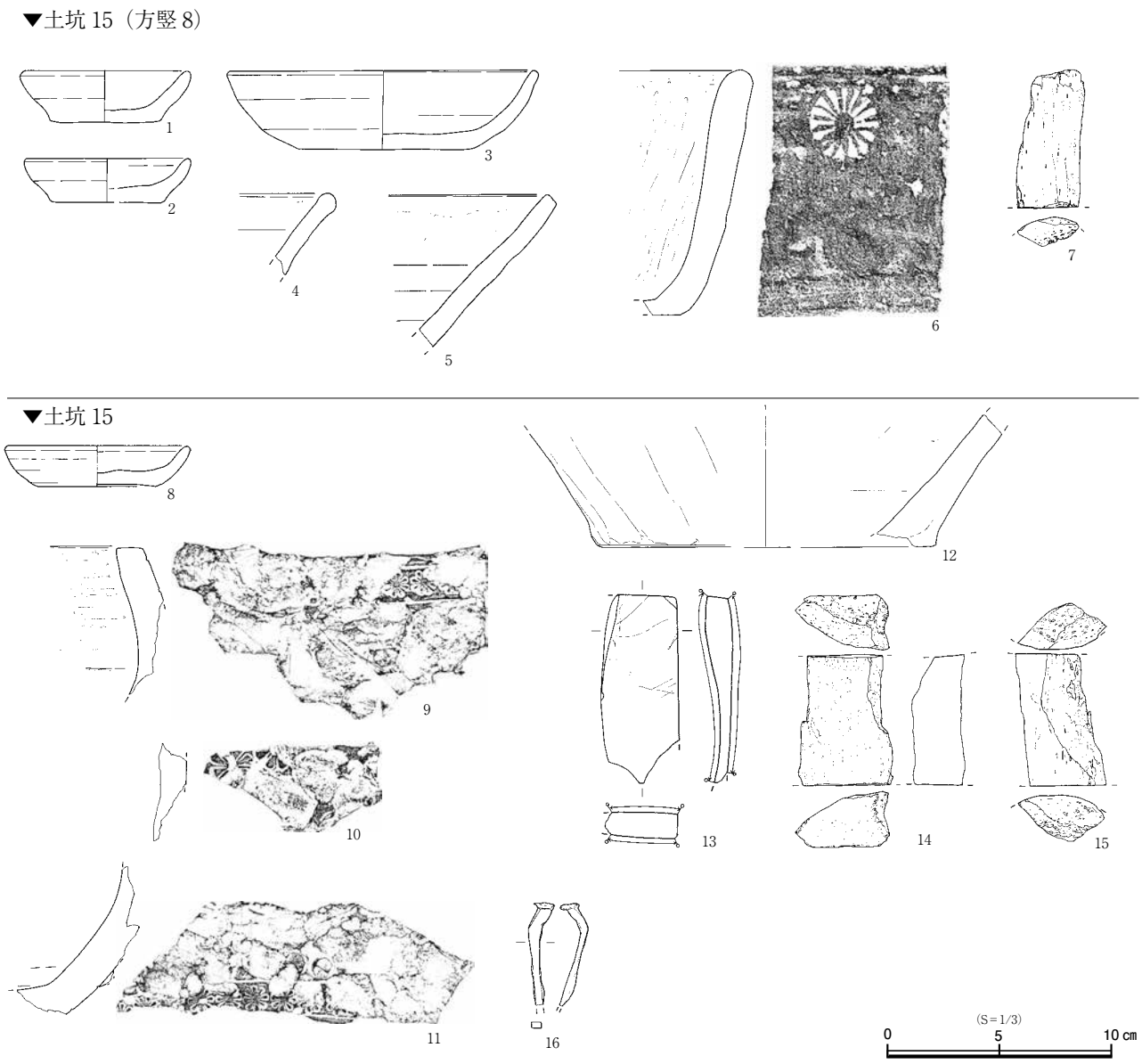


図 39　土坑 15（方形竪穴 8）、土坑 15 出土遺物

する細線が残り、糸切りされたようにも見受けられる。56は焼成酸化気味で暗赤色を呈する。胎土は白色微粒子と少量の小礫をふくんで砂質気味。59は接合出来ない破片から体部の条線をたよりに復元したもので、器形にやや不安がある。62は3足が付くもので1足が遺存、内底部には釉着痕を残す。63は平底、外面底部脇に釉垂れ、内外底部に釉着痕を残す。64は肩部上位と胴部に4本組の櫛描き線が巡り、その間に櫛描き縦線が配されるものと見える。67は内底周縁に圏線が巡るもの。69は胴部下割れ口際の内面に継ぎ痕が残る。74は口縁部が輪花型になる折縁鉢。口唇部の上端は釉剥ぎされ露胎、体部の内面は連弁文を陰刻、外面は陽刻している。75は割れ口際のためはっきりしないが、内底周縁に圏線を持っているようである。76は外面に細い連弁文を線描きするもの。口縁蓋受け部は墨か何らの物質が付着したと見え黒ずんでおり、内面下部には細かいキズが多数見える。77は赤間ヶ関産の硯の原材。粗型取りの際に引かれた線が表裏に残る。78の左側は斜めに整形されている。81の上端は消費地で加工されている。83の上端は欠損後も使用されたとみえ、摩滅し刃物痕が残っている。89～91は上下端が切断面、91の表面は自然面である。92は薄い板状の鉄製品で用途不明、93は刀子の中子部分で、下端・欠損部際には径3㎜ほどの目釘穴がみえる。錆とともに剥落したため図化はかなわなかった

が、表面に柄の部分と見られる木質が遺存していた（写真図版16）。94は環状金具。95は上端がU字に曲がるもの。96～97は断面が扁平四角形の棒状のもので工具の類いか。97は槍先の可能性も考えたい。98～107は両端を欠損する104を除き釘頭の部分を確認出来る。

方形竪穴8・土坑15A・B出土遺物（図39）

1～7は方形竪穴8か土坑15Aか所属がわからないもの。総出土数は、ロクロ成形のかわらけ（1～3）が20点で、そのうち小皿が6点・大（中）皿が14点、常滑窯の壺1点・甕6点・片口鉢Ⅰ類（4）1点・片口鉢Ⅱ類（5）1点、瓦器質火鉢（6）1点、骨製品（7）1点、銅銭1点である。6は16弁の花文を押印。内外面とも縦位のミガキ調整が施されている。7は下端が切断面、表面は自然面、ほかは欠損している。

8～16は土坑15A・Bから出土したもの。総出土数は、ロクロ成形のかわらけ（1）が26点で、そのうち小皿が5点・大（中）皿が21点、瓦器質火鉢（9～11）1点、常滑窯の甕（12）2点・片口鉢Ⅰ類1点、龍泉窯青磁鎬連弁文碗1点、鳴滝産の砥石（13）1点、加工骨（14・15）に実測外から切断痕のあるクジラ骨小片1点を加えて計3点、鉄釘（16）は実測外の6点22.0gを加えて計7点、スラグ1点64.8gである。10は撹乱、11は確認面までに出土したものだが、9と胎土・作り、爆ぜたように表面が剥離し破損する様子が極めて似ており同一個体の可能性が高い。9の口縁部下は横線区画内に8弁の花文、11の底部脇は9と同様の花文の区画上に連珠文が貼られている。体部片10に押される花文は9・11のそれより大きく、上下と違う文様帯となるのか、別個体となるのかわからない。14・15は上下端が切断面、表面は自然面、ほかは欠損している。

方形竪穴12出土遺物（図40）

総出土数は、ロクロ成形のかわらけ（1～5）が22点で、そのうち小皿が8点・大（中）皿が14点、常滑窯の壺（6）1点、骨製品（7）1点、鉄製品は鍋とみられる器状のもの（8）が1点・刀子の可能性のあるもの（9・10）2点・板状のもの（11）1点・断面四角形で棒状のもの（12）1点・釘（13・14）は実測外から16点80.0gを加えて計18点である。7の背面の溝は浅く、まばらに工具痕が見える程度でしっかり整形されていない。8は鍋とみたが、小片のため確実ではない。9・10は遺存する1側面から厚さを減ずるもので片刃になる。刀子残欠か。11は板状のもの。12は断面3～4㎜の四角形で長さは17㎝。

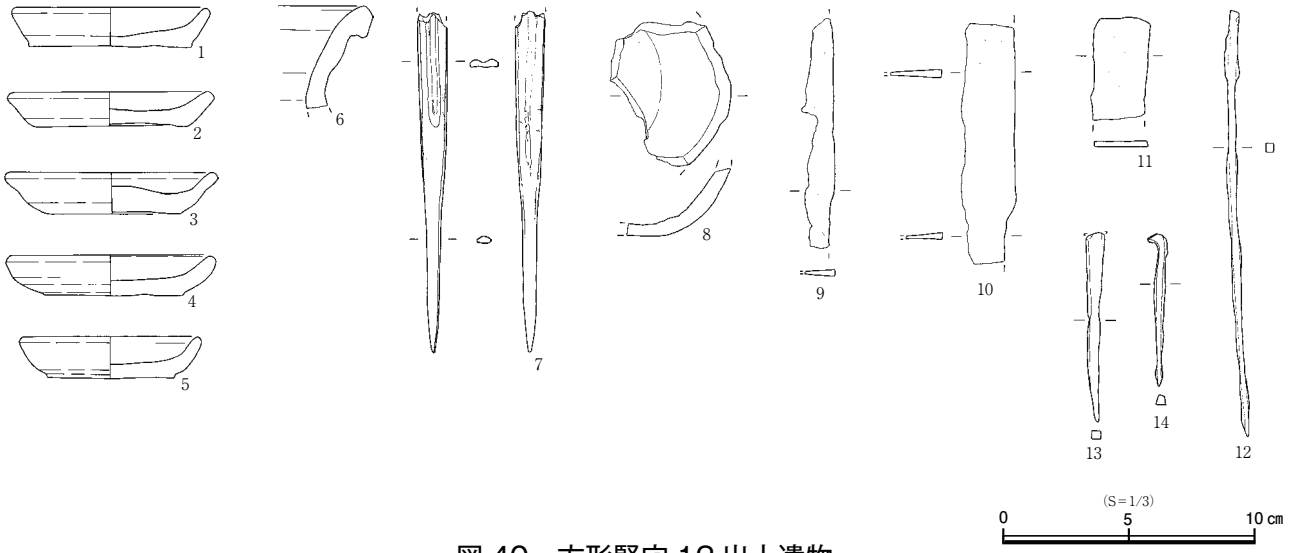
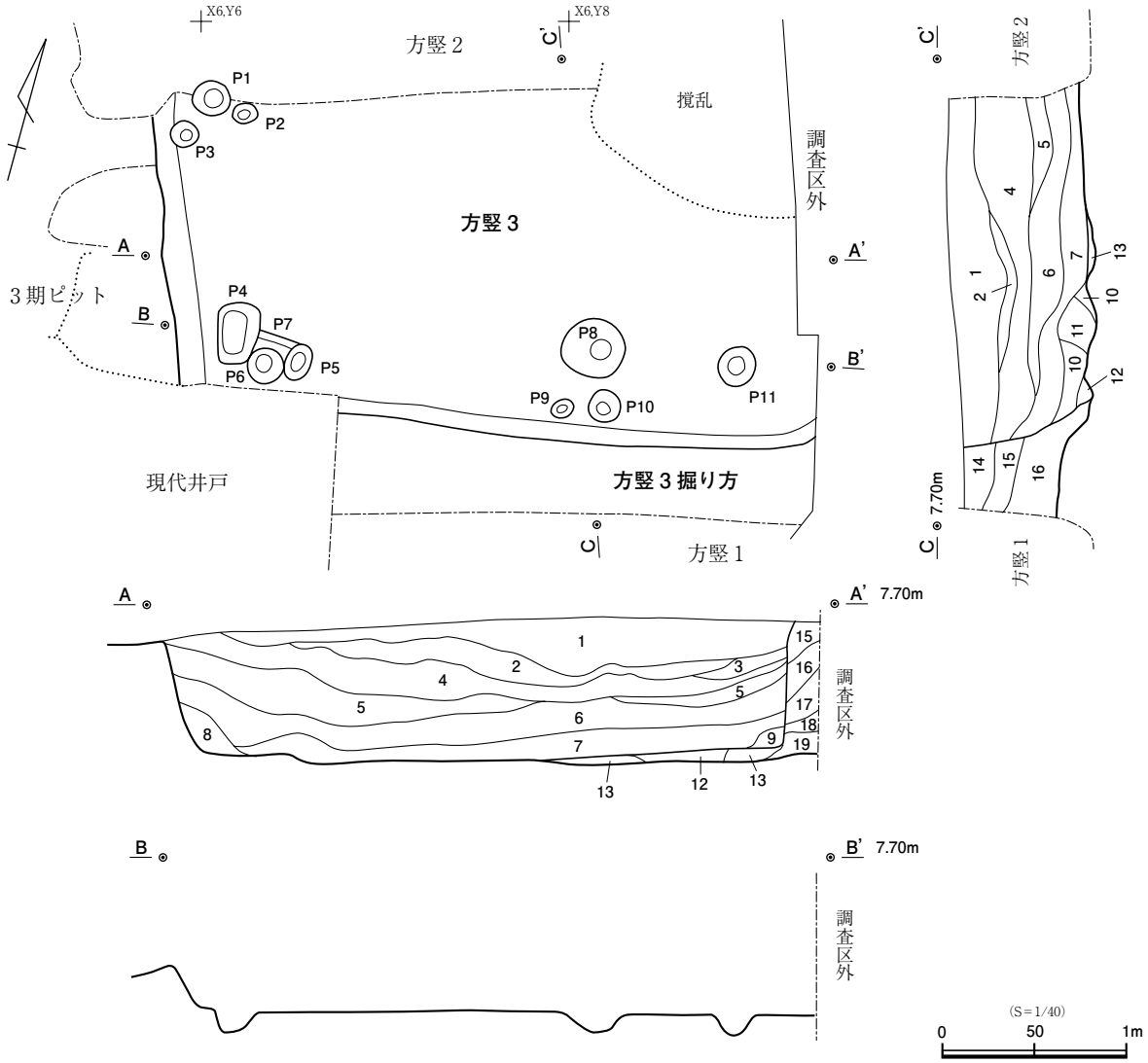


図 40　方形竪穴 12 出土遺物

方形竪穴3（図41）

Ⅱ区東側、X3～5,Y6～8付近に位置する。北東側・南西角は現代の削平により失う。方形竪穴1・2



方竪３　土層説明

１層	暗褐色砂質土	褐色砂を多く混じえ色調明るい。5㎝大の土丹、2～3㎝大の炭、貝片を含む。しまりややあり。
２層	暗褐色砂質土	１層より腐植土が多い。1㎝大の土丹、2～3㎝大の炭、貝片を含む。しまりややあり。
３層	暗褐色砂質土	褐色砂を多く混じえる。含有物少ない。しまりややあり。
４層	暗褐色砂質土	褐色砂を帯状に混じえ色調明るい。3～5㎝大の土丹少量。含有物１・２層より小さく少ない。
５層	暗褐色砂質土	1～4層よりしまり弱く、含有物の粒径小さい。
６層	暗褐色砂質土	腐植土を多く混じえ色調暗い。含有物少ない。しまり弱い。
７層	暗褐色砂質土	白黄色砂を混じえ色調明るい。粘質土ブロックを帯状に混じえる。しまりあり。
８層	暗褐色砂質土	褐色砂を多く混じえ色調明るい。しまり弱い。
９層	暗褐色砂質土	白黄色砂を混じえ色調明るい。しまりあり。
10層	暗褐色砂質土	白黄色砂を主体に腐植土を混じえる。砂質粗くしまり弱い。炭化物少量。
11層	暗褐色粘質土	1㎝大の土丹を多く含む粘質土ブロック。
12層	暗茶褐色砂質土	腐植土を主体とする。炭化物を少量含む．しまり弱い。
13層	白黄色砂	腐植土を少量混じえる。
14層	暗褐色砂質土	1～12層に比して砂の混じりが多く、しまりに欠ける。土丹粒子・炭化物を少量含む。
15層	暗褐色砂質土	14層より砂の混じり多く、含有物少ない。
16層	褐色砂	白黄色砂主体に腐植土を斑状に混じえ、しまりに欠ける。炭化物を少量含む。
17層	褐色砂	16層より腐植土の混じり少ない。
18層	褐色砂	16・17層より腐植土の混じり少なく、しまり増す。
19層	灰褐色砂	

No.	長軸 × 短軸 × 深さ（㎝）	底面標高（m）
P 1	21 × 20 × 10	6.75
P 2	14 × 12 × 17	6.68
P 3	14 × 14 × 4	6.81
P 4	35 × 23 × 12	6.75
P 5	20 × 13 × 12	6.75
P 6	20 × 19 × 9	6.78
P 7	23 × 12 × 6	6.81
P 8	33 × 32 × 13	6.75
P 9	12 × 9 × 5	6.84
P10	18 × 17 × 10	6.79
P11	23 × 20 × 11	6.75

図41　方形竪穴３

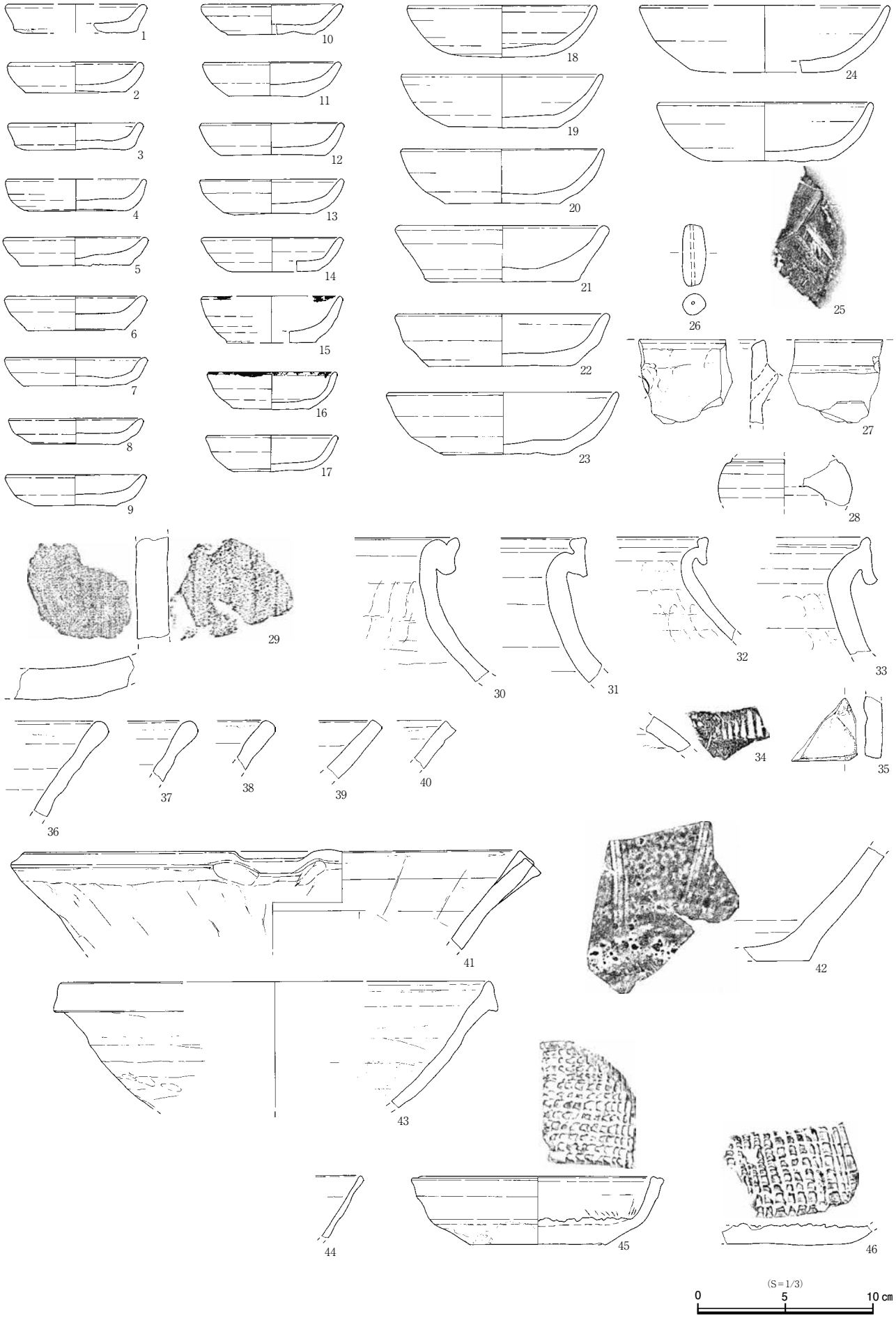


図 42　方形竪穴 3 出土遺物（1）

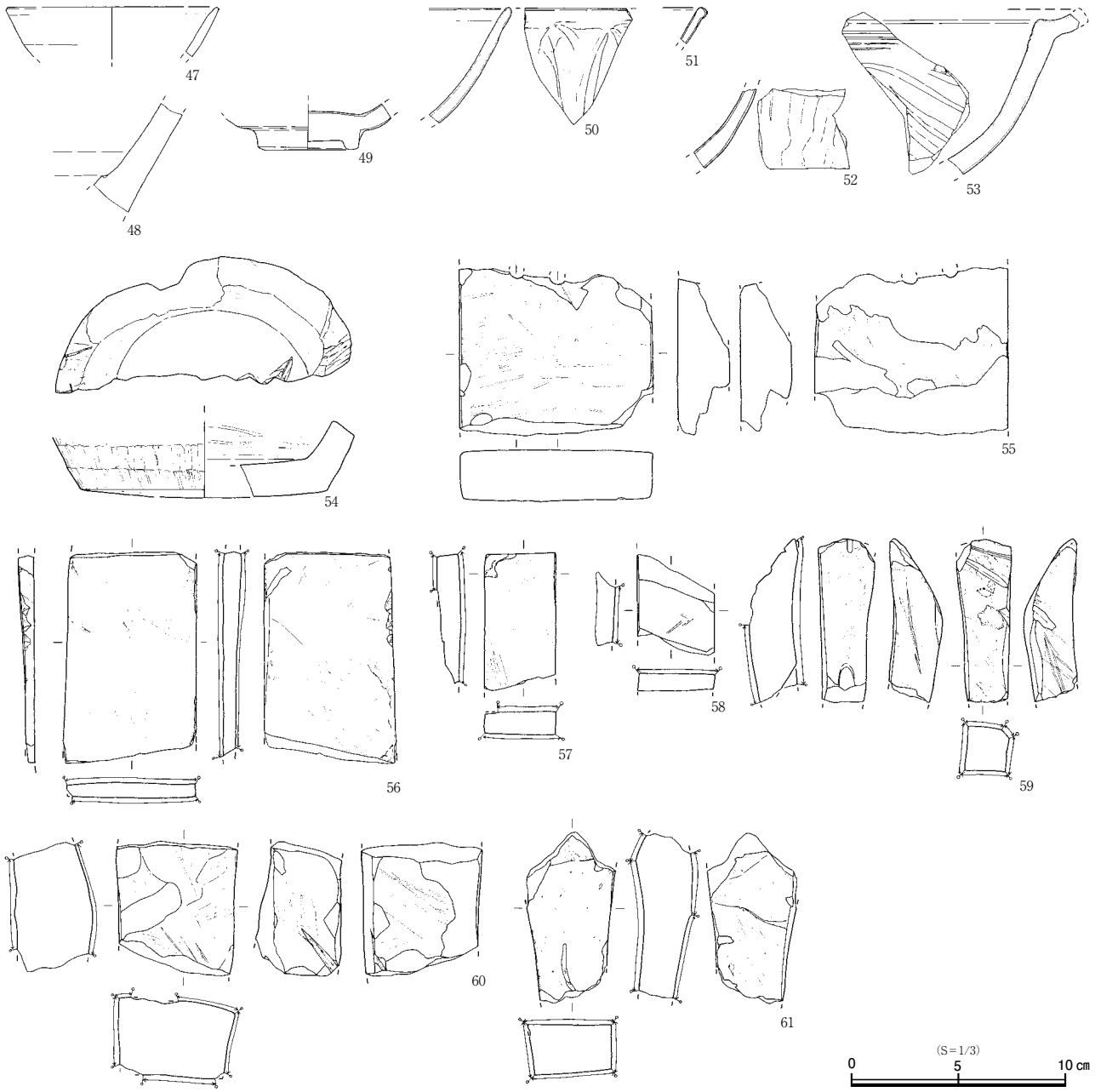


図 43　方形竪穴３出土遺物（2）

に切られ、方形竪穴4を切る。西壁上端は本址より旧い時期のピットを共に掘り上げてしまっている。検出面の標高は7.65mである。主軸方向は西壁ラインでN－21°－W、南側竪穴本体ラインでN－9°－Wとなる。南側・東側には砂を基調とする掘り方埋土を残している。検出された規模は東西方向が367㎝、南北方向は236㎝である。底面標高は6.82～6.86m、深さは83㎝である。底面では11口の小穴が検出されている。

方形竪穴3出土遺物（図42・43）

総出土数は、手づくね成形のかわらけ小皿（1）が1点、ロクロ成形のかわらけ（2～25）が592点で、そのうち小皿が114点・大（中）皿が478点、土錘（26）1点、瓦器質火鉢1点、鍔鍋（27）1点、不明土製品（28）1点、瓦（29）1点、常滑窯の甕（30～35）103点・片口鉢Ⅰ類（36～38）15点・片口鉢Ⅱ類（39～41）8点、備前窯の擂鉢（42）1点、東播系の鉢（43）1点、東濃型山茶碗（44）1点、

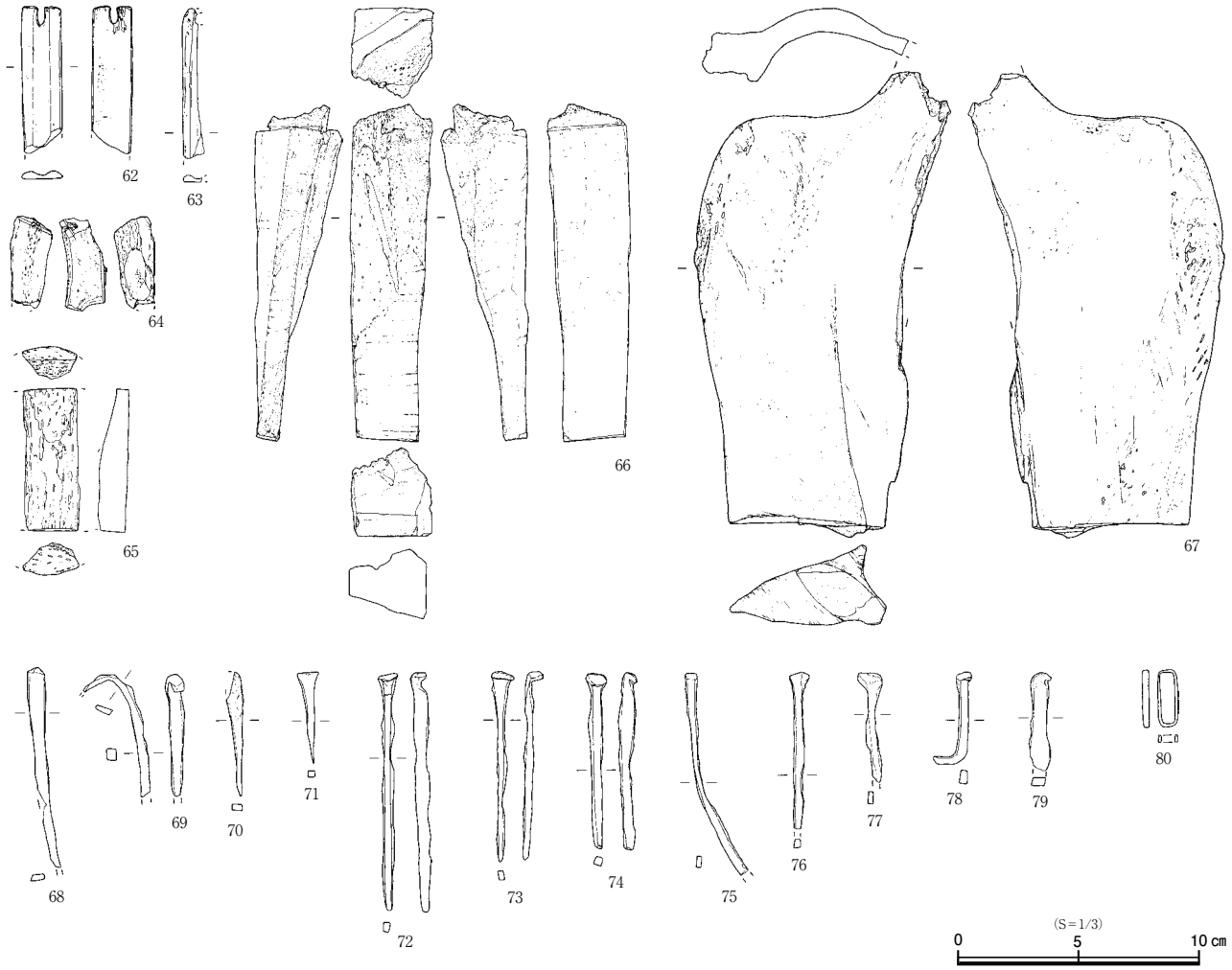
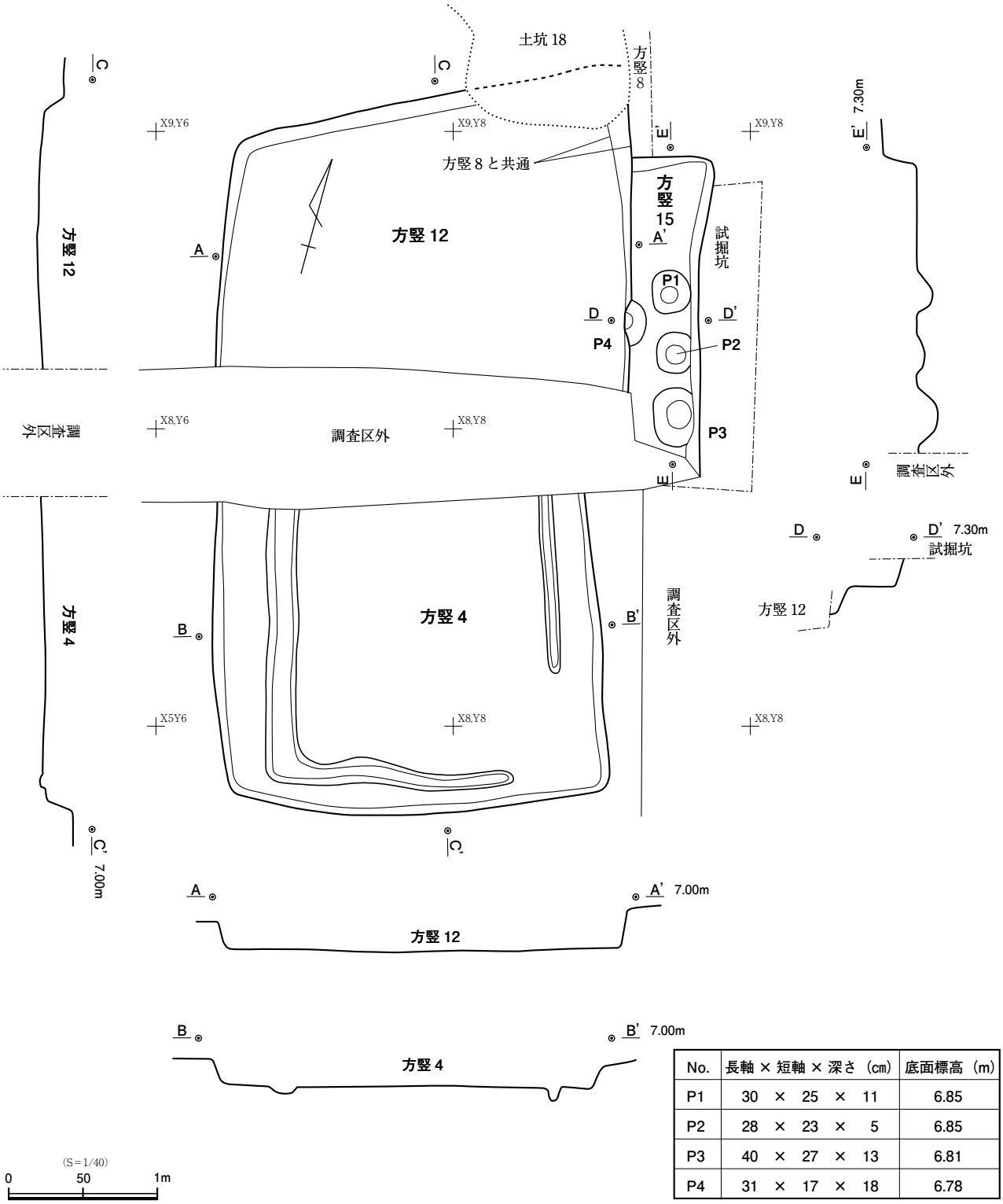


図 44　方形竪穴３出土遺物（3）

瀬戸窯産の卸皿（45・46）4点・折縁深皿2点・深鉢ないし盤形の不明品1点、舶載品は、白磁が口兀皿（47）5点、壺（48）2点、青磁は全て龍泉窯の製品で無文？碗（49）が1点・鎬連弁文碗（50）が4点・折腰碗（51）1点・鎬蓮弁文鉢（52）1点・折縁鉢（53）1点、滑石製品（54・55）2点、鳴滝産の砥石（56～58）3点、上野産の砥石（59）、伊予産の砥石（60・61）3点、骨製品・加工骨（62～67）は実測外から切断痕のあるクジラ骨小片と陸生哺乳類骨小片を1点づつ加えて計9点、鉄製品は板状鉄片3点28.3g・扁平棒状のもの（68～70）3点・釘（71～79）は実測外から38点149.3gを加えて計47点・不明小片1点11.6g、スラグ2点145.7g、銅製品は口金（80）1点・銭2点、その他に軽石10点121.6gである。

かわらけの胎土は粉質のもが多いが、3・12～15・20が砂質気味。18～20は中皿とみなしうる寸法のもので、18は胎土が良い。24は口径14.0cmと大振りのもの。25は焼成後に外底部を擦られている。27は砂粒を含み気孔の多い粗胎。焼成前に穿たれた孔が1カ所遺存。外方より断面の丸い棒状工具を押し込み、それによりまくれた内面側の粘土を指でナデて平滑にしている。28はかわらけ質の土製品で器種は不明、何らの型にしたものかもしれない。天地不明で、図上の下側は丸く抉れる器形、上側は欠損している。胴部は最大径7.6cmに復元される。29は鶴岡八幡宮国宝館用地で女瓦E類に分類されるもの。34の押印は縦線が連続するもの。35は内外面と下端を擦られている。43は気孔の多い軽質胎土。内面下半は使用によりよく摩滅している。45・46はいずれも外底部回転糸切り無調整。49は遺存する部分に

文様が見られないものだが、形態などから内面に劃花文、あるいは外面に鎬蓮弁文を有する可能性が高い。内底周縁には浅い圏線が巡っている。52は外面に鎬蓮弁文を有する鉢、53は内面に草文を片切り彫りする大型の折縁鉢。54は欠損部に刃物痕があり、体部の上向き側欠損部も一部平滑に整形している。56は鳴滝産の仕上砥だが、寸法から近世以降の製品である可能性が高い。混入品とみておく。57の左側下方は折取られている。59の表面上半は斜めに欠損するが、欠損後も使用されたようで、欠損面は摩滅し、刃物痕が見える。背面下端側は断面U字状に抉られている。62の背面は横方向へ刃物痕か



No.	長軸 × 短軸 × 深さ (cm)	底面標高 (m)
P1	30 × 25 × 11	6.85
P2	28 × 23 × 5	6.85
P3	40 × 27 × 13	6.81
P4	31 × 17 × 18	6.78

図 45　方形竪穴 4・12・15

とみえるキズが残る。63は笄上部の残欠。66はほぼ全面が整形面、上端は半ば刃物を入れて折り取られている。67はクジラの下顎骨で下端から右側下半は鋸挽きの後折り取って切断、右側上半から上端突出部は欠損。他は自然面で表裏面には細かい刃物痕が多数みられる。69は上部が薄く緩く折れるもので、用途は不明。何らの工具になるものかもしれない。

方形竪穴4（図45）

Ⅰ区・Ⅱ区のX4～6,Y6～8付近に位置する。方形竪穴2・3の底面で確認、切られている。検出面の標高は6.81～6.86mである。主軸方向はN－17°－Wを指す。検出された規模は東西方向が279㎝、南北方向は218㎝。底面標高は6.66～6.69m、深さは20㎝である。南東角で途切れるものの壁下底面を土台材の痕跡とみられる溝が巡っている。西から南にかけての溝が幅9～23㎝で深さ4～11㎝。東溝は幅が10㎝で、深さ8㎝である。方形竪穴12は単独の竪穴として報告済みだが、底面の確認に不安があり、西壁の位置から本址につながる可能性を否定できず、共に図化した。

方形竪穴15（図45）

Ⅰ区のX7～8,Y7付近に位置する。大部分が試掘坑内となり、北上端は落ち込み1に切られ、削平されている。方形竪穴8・12に切られる。検出面の標高は7.18mである。主軸方向はN－14°－Wを指す。検出された規模は東西方向が57㎝、南北方向は220㎝である。底面標高は6.91～6.96m、深さは27㎝である。底面では4口のピットが検出されている。遺物はロクロ成形のかわらけ大（中）皿の破片が2点出土している。

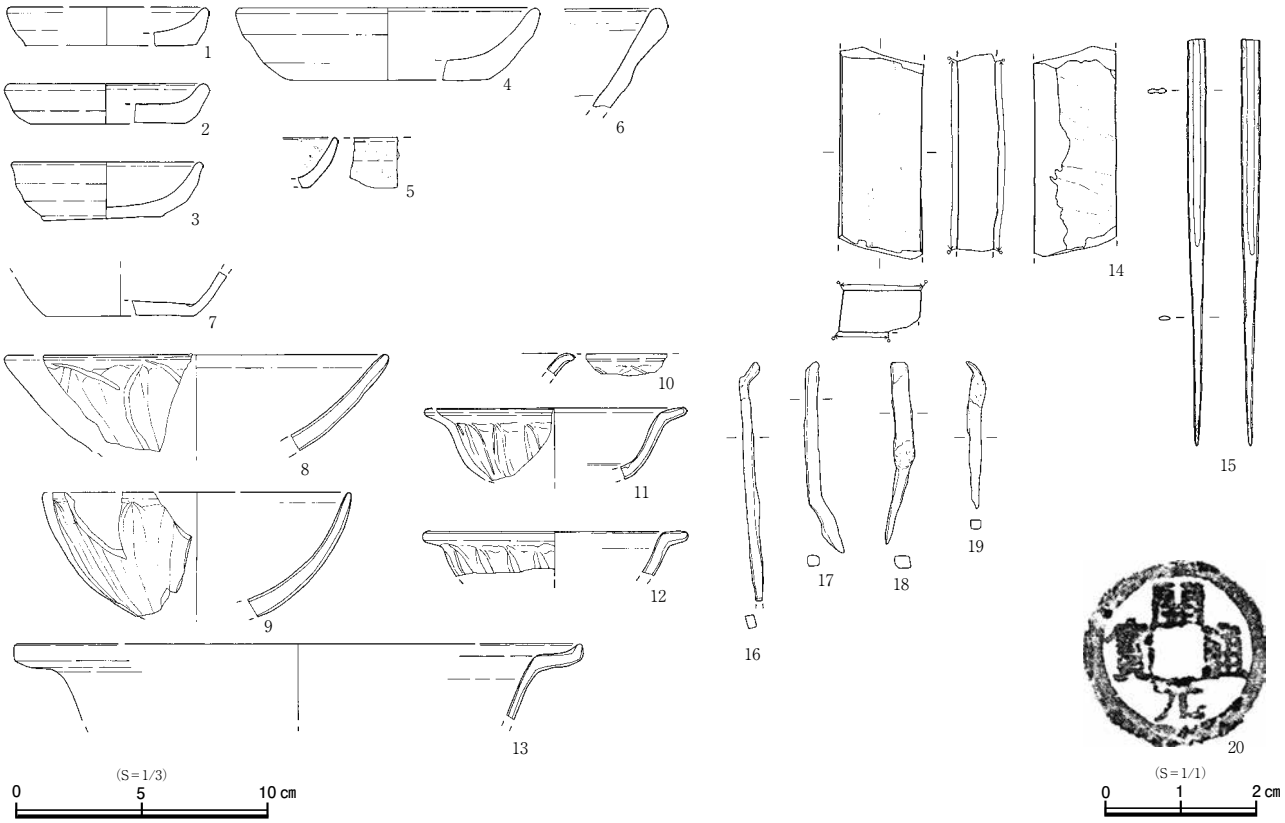


図46　方形竪穴４出土遺物

方形竪穴4出土遺物（図46）

総出土数は、ロクロ成形のかわらけ（1～4）が16点で、そのうち小皿が6点・大（中）皿が10点、かわらけを他の用途に使ったもの（5）が1点、常滑窯の甕18点・片口鉢Ⅰ類（6）2点、舶載品は、白磁口兀皿（7）1点、青磁は全て龍泉窯窯の製品で鎬連弁文碗（8～10）が4点・折縁鉢（11～13）3点、産地不明の中砥（14）1点、骨製品（15）1点、鉄製品は幅1㎝以下の板状鉄片3点8.0g、釘（16～19）は実測外から7点53.5gを加えて計11点、銅銭（20）1点である。

5はロクロ成形のかわらけ小皿を坩堝として使用したものと思われる。被熱により焼きしまり、表面にはブクがでている。7は内底周縁に圏線が巡るもの。8は浅い碗で遺存する口唇部にわずかだが突起がみられる。小片のためどういった形態を意図した突起かはわからない。10は口径10㎝に満たないの小碗。11は内底周縁に圏線が巡っている。13は口径20㎝を超える大振りな鉢。15は表裏に溝を有するもの。

方形竪穴5～7AB・13、竪穴②、ピット18・19（図47・48）

未調査部分を挟んでⅠ区南西側からⅡ区西側に展開する竪穴群である。重複関係は新しいものから順に竪穴②→方形竪穴13→方形竪穴5→方形竪穴6→方形竪穴7A→方形竪穴7Bとなる。方形竪穴5・13はA・B別々に調査が行なわれ、整理の段階で同一遺構としたものである。その名称で調査された範囲をAとし、後に加えられた範囲をBとして報告する。方形竪穴7A・Bはひとつの遺構として調査され、重複関係が判明した時点で切り合い順にA・Bの名称を与えた。土坑17は方形竪穴13に切られる単独の遺構として調査されたものだが、方形竪穴13、あるいは周辺の他竪穴の付帯部分となる可能性もあるとみて共に図化した。

竪穴②

方形竪穴6の土層観察ベルトで確認された掘り込みで、南側の平面形を推測ラインを示した。北側はⅠ区に達せず未調査部分で収束している。西側は土層B－B'に達せずに収束、東側の範囲は不明である。図中の鎌倉石は直下の標高で6.85mに位置し、本址下層・底面上15㎝付近に投げ込まれた可能性が高い。大きさは長さ35㎝、幅33×厚さ12㎝で、被熱している。

方形竪穴13

X5～7,Y2～4付近に位置する。南側Bとした範囲は方形竪穴6の底面付近まで掘抜いてしまったため復元形を示した。検出面は北側で7.06m、主軸方向はN－13°－Wを指す。検出された規模は南北方向が326㎝、東西方向が258㎝である。底面標高は6.49～6.53mで、深さは57㎝である。

土坑17

Ⅰ区X7,Y4に位置する溝状の落ち込みである。検出面の標高は7.06m。検出された規模は長さ76㎝、幅41㎝、底面は標高6.70m前後でほぼ平坦、深さは36㎝である。

方形竪穴5

X5～7,Y1付近に位置する。検出面は北側が6.80m、南側が7.20mであるが調査区壁の土層で7.60mからの掘り込みを確認できる。主軸方向はN－10°－W付近か。検出された規模は南北方向が309㎝、東西

方向が80㎝、底面標高6.56mで深さは104㎝である。

方形竪穴6

Ⅱ区東側、X3～5,Y1～4付近に位置する。東南上端は現代井戸に削平されている。東上端は北側未調査部分に達し、調査区際までプランが延びるが、途中別遺構と重なっている可能性もあり、北側は本址の範囲に含まれるとは言い切れない。西側は調査区壁に達しておらず、未調査部分で収束している。検出面は西側で7.49mである。主軸方向はN－16°－Wを指す。検出された規模は南北方向が土層E－E'で270㎝、東西方向は313㎝以上363㎝未満と推測される。底面は標高6.51mで平坦、深さは98㎝である。北側底面直上で長さ50㎝程の炭化した板材が検出されている。堆積土層をみると、西側未調査部分沿いB－B'で掘り方埋め土（32～36層）を確認できる。E－E'土層の29～31層も掘り方埋め土と考えられる。

方形竪穴7A

Ⅱ区南東隅、X1～2,Y1付近に位置する。方形竪穴6に切られ、方形竪穴7Bを切っている。南側は調査区外に延びる。検出面は7.32mであるが南側土層で7.54mからの掘り込みを確認できる。主軸方向は東壁ラインではN－9°－Wとなる。検出された規模は南北方向が未調査部分を含めて101㎝、東西方向は47㎝である。底面標高は6.68m、深さは86㎝である。

方形竪穴7B

Ⅱ区南東隅、X1～2,Y2付近に位置する。方形竪穴6・方形竪穴7B、P18に切られ、P19との新旧関係は不明である。南側は調査区南壁に達せず収束している。検出面は7.32mであるが南側土層で7.56mからの掘り込みを確認できる。主軸方向はN－14°－W付近か。検出された規模は南北方向が112㎝、東西方向は115㎝である。底面は竪穴の南東隅の掘り方部分近くを検出していることにより、6.85～6.96mと北西側へ傾斜している。深さは最深で71㎝。堆積土層の44・45層は掘り方埋め土である。

ピット18：方形竪穴7Bの底面で検出、土層断面E－E'で方形竪穴7Bを切っていることが確認されている。検出された規模は43×39㎝、底面標高は6.73mで、深さは43㎝である。

ピット19：方形竪穴7Bの底面で検出。方形竪穴7Bとの新旧関係は不明。検出された規模は27×24㎝、底面標高は6.58mで、深さは竪穴底面からで29㎝である。遺物は出土していない。

方形竪穴13出土遺物（図49・50）

ほとんどがⅠ区側Aとした部分で出土した遺物である。総出土数は、ロクロ成形のかわらけ（1～15）が62点で、そのうち小皿が26点・大（中）皿が36点、土錘（16）1点、鍔釜（17）1点、常滑窯の壺（18・19）2点・甕（20～26）54点・片口鉢Ⅰ類（27～31）12点・片口鉢Ⅱ類（32）1点、瀬戸窯の水注（33）1点、舶載品は、白磁が口兀碗（34）1点・口兀皿（35）1点・壺（36）1点、青白磁小壺（37）1点、青磁は全て龍泉窯の製品で鎬連弁文碗（38・39）が3点・鎬連弁文浅型碗（40）1点・双魚文鉢（41）1点、滑石製品（42）1点、不明鉄製品（43）1点、鉄釘（44～50）は実測外から19点81.8gを加えて計26点、その他に軽石7点112.1gである。

竪穴②　土層説明

1 層　暗褐色砂質土　褐色砂を主体とし色調明るめ。腐植土を混じえる。
1 ㎝大以下の粘質土ブロック、炭化物を少量含む。しまり弱い。
2 層　暗褐色砂質土　1 層より腐植土を多く混じえ、含有物の粒径大きく、量も多い。1 層よりしまる。
3 層　暗褐色砂質土　炭化物をやや多く含む。しまり非常に弱い。
4 層　暗褐色砂質土　腐植土を多く混じえ、キメ細かく色調暗い。炭化物多め。しまりややあり。
5 層　暗褐色砂質土　褐色砂を主体とし、少量の腐植土を帯状に混じえる。炭化物を含む。しまりややあり。

方竪 13B　土層説明

6 層　暗茶褐色砂質土　腐植土を多く混じえ、キメ細かい。微細な炭化物を少量含む。しまり弱い。
7 層　暗茶褐色砂質土　6 層と同質だが、褐色砂を帯状に混じえる。しまり弱い。

方竪 5A　土層説明

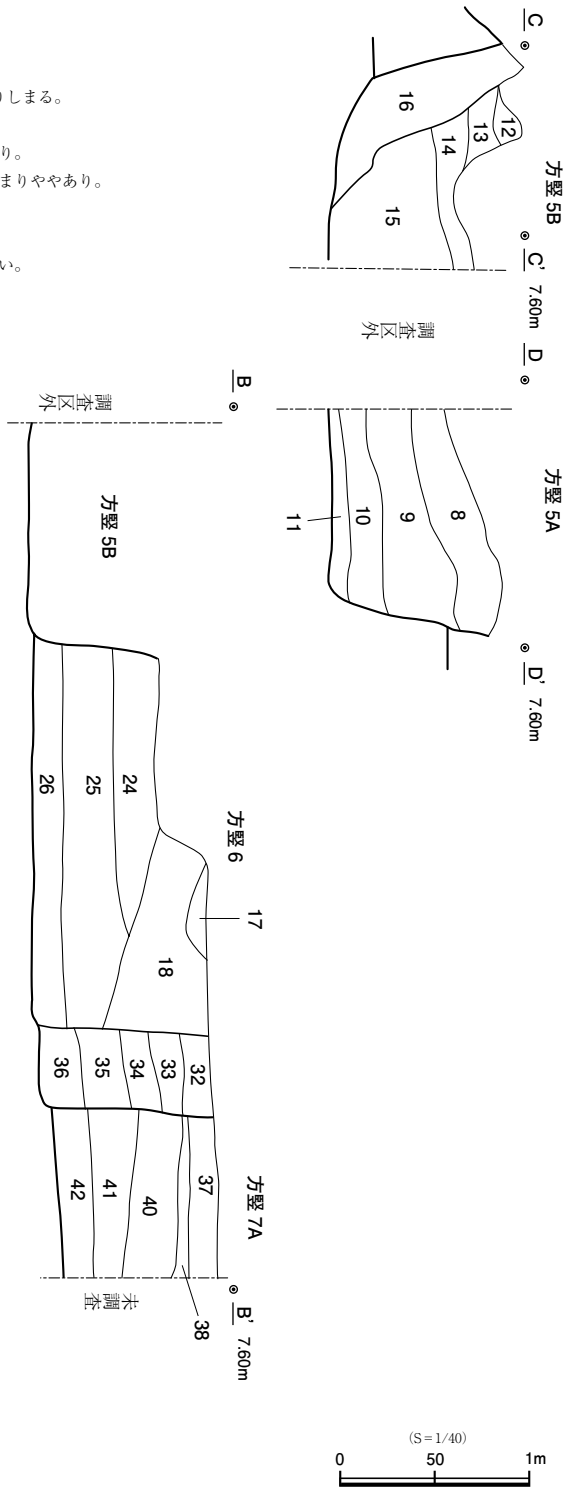
8 層　暗茶褐色砂質土　炭化物を非常に多く、かわらけ片を含む。しまり弱い。
9 層　茶褐色砂質土　白黄色砂を混じえる。炭化物・貝片を含む。しまりややあり。
10 層　茶褐色砂質土　2 層より白黄色砂の混じり多く、炭化物を多く含む。しまりややあり。
11 層　茶褐色砂質土　白黄色砂を多く混じえる。しまりややあり。

方竪 5B　土層説明

12 層　茶褐色砂質土　粘質土を混じえる。しまりややあり。
13 層　茶褐色砂質土　土丹・焼土・炭化物を含む粘質土ブロック、
黄褐色砂を混じえる。しまり弱い。
14 層　茶色砂質土　白黄色砂を混じえる。炭化物・貝片を含む。しまり弱い。
15 層　茶色砂質土　7 層より白黄色砂を多く混じえ、貝片を多く含む。しまり弱い。
16 層　茶色砂質土　白黄色砂を多く混じえ、しまりに欠ける。

方竪 6　土層説明

17 層　茶褐色砂質土　土丹粒子・炭化物を含む。
18 層　暗茶褐色砂質土　炭化物を全体に混じえる。3～7 ㎝大の土丹、
貝・かわらけ細片を少量含む。しまりあり。
19 層　暗褐色砂質土　褐色砂を主体に腐植土を混じえる。
1 ㎝大以下の粘質土ブロック、炭化物を少量含む。しまり弱い。
20 層　褐色砂　腐植土を少量混じえる。炭化物を含む。しまり弱い。
21 層　暗褐色砂質土　褐色砂を主体に腐植土を混じえる。
粘質土ブロック・炭化物を少量含む。しまり弱い。
22 層　暗褐色砂質土　22 層より腐植土の混じり少なく、しまりがある。
23 層　暗褐色砂質土　1～1.5 ㎝大の炭を多めに含む。土丹粒子・貝片少量。しまりややあり。
24 層　暗褐色砂質土　炭化物を多めに含む。しまり非常に弱い。
25 層　暗褐色砂質土　褐色砂の割合多く色調明るい。炭化物を多く含む。しまりややあり。
26 層　暗褐色砂質土　腐植土を多く混じえキメ細かい。炭化物を含む。しまりあり。
27 層　白黄色砂　少量の腐植土を帯状に混じえる。炭化材の痕跡（黒灰色帯状）あり。
しまり弱い。
28 層　暗褐色砂質土　腐植土を多く混じえキメ細かい。しまり弱い。
29 層　褐色砂　褐色粗砂を主体に腐植土を帯状に混じえる。
炭化物を少量含む。しまりややあり。
30 層　褐色砂　30 層と同質。砂粒の流れにより分層される。
31 層　暗褐色砂質土　褐色粗砂を少量混じえる。炭化物を含む。しまりあり。
32 層　茶褐色砂質土　白黄色砂を混じえる。貝片を多く含む。しまり弱い。
33 層　茶褐色砂質土　33 層より白黄色砂を多く混じえる。
34 層　茶褐色砂質土　白黄色砂の混じり少ない。炭化物を少量含む。しまり弱い。
35 層　茶褐色砂質土　白黄色砂をブロック状に混じえる。炭化物を多く含む。しまり弱い。
36 層　白黄色砂　白黄色砂を主体とし、地山に近い。炭化物を少量含む。



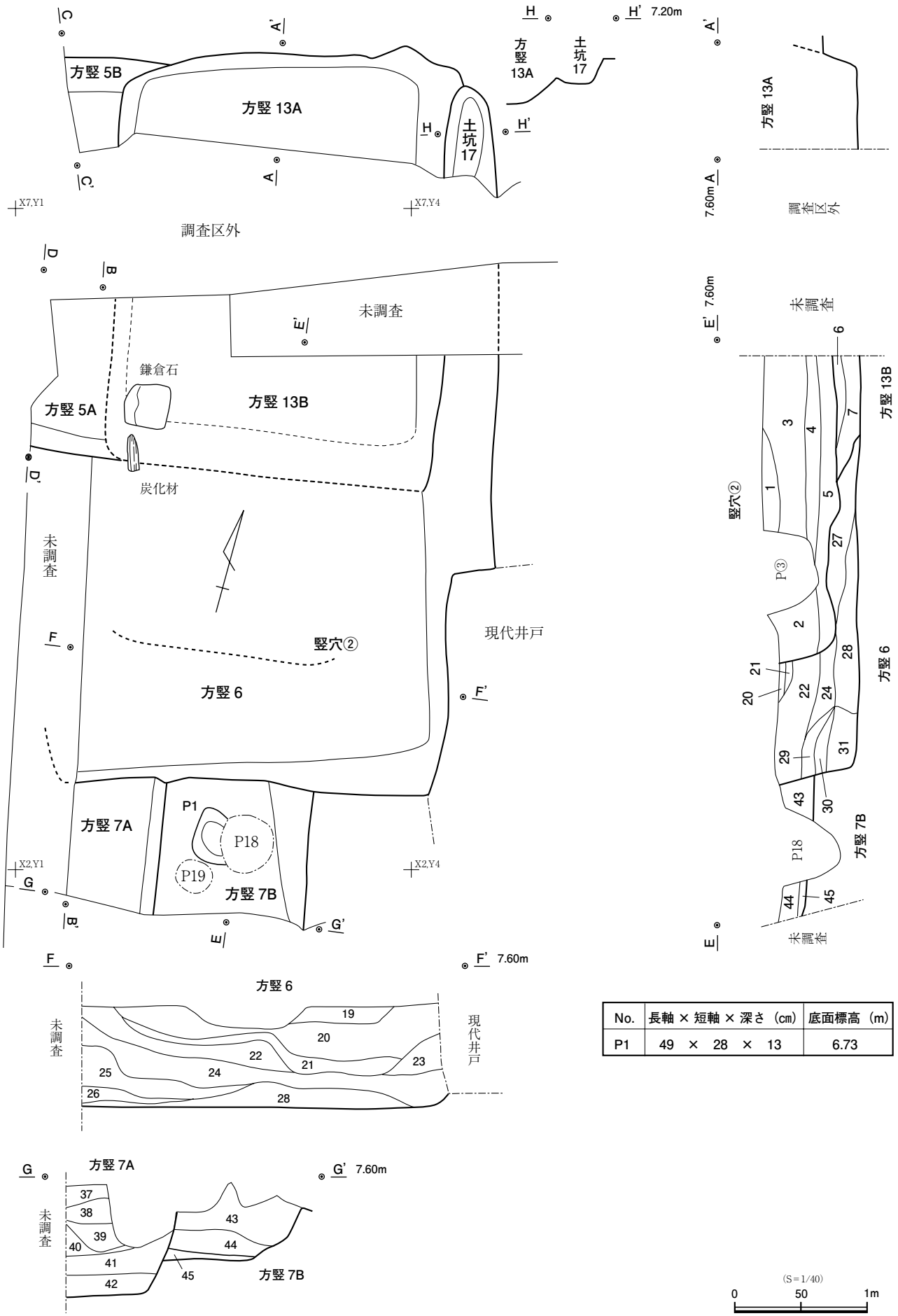
方竪 7A　土層説明

37 層　茶褐色砂質土　白黄色砂を多く混じえる。炭化物・かわらけ片を含む。しまり弱い。
38 層　茶褐色砂質土　炭化物を多く含み色調黒ずむ。しまり弱い。
39 層　暗茶色砂質土　白黄色砂を混じえる。炭化物を含む。しまり弱い。
40 層　茶褐色砂質土　白黄色砂を多く混じえる。炭化物・かわらけ片・貝片を含む。しまりややあり。
41 層　暗茶褐色砂質土　白黄色砂を混じえる。炭化物を含む。しまりややあり。
42 層　白黄色砂　白黄色砂を主体とし、地山に近い。炭化物を少量含む。

方竪 7B　土層説明

43 層　暗茶褐色砂質土　2 ㎝大の粘質土ブロック・炭化物を含む。しまり弱い。
44 層　茶色砂質土　炭化物を含む。しまりややあり。
45 層　暗茶褐色砂質土　炭化物を含む。しまり弱い。

図 47　方形竪穴 5 ～ 7・13（1）



No.	長軸 × 短軸 × 深さ (cm)	底面標高 (m)
P1	49 × 28 × 13	6.73

図 48　方形竪穴 5 ～ 7・13（2）

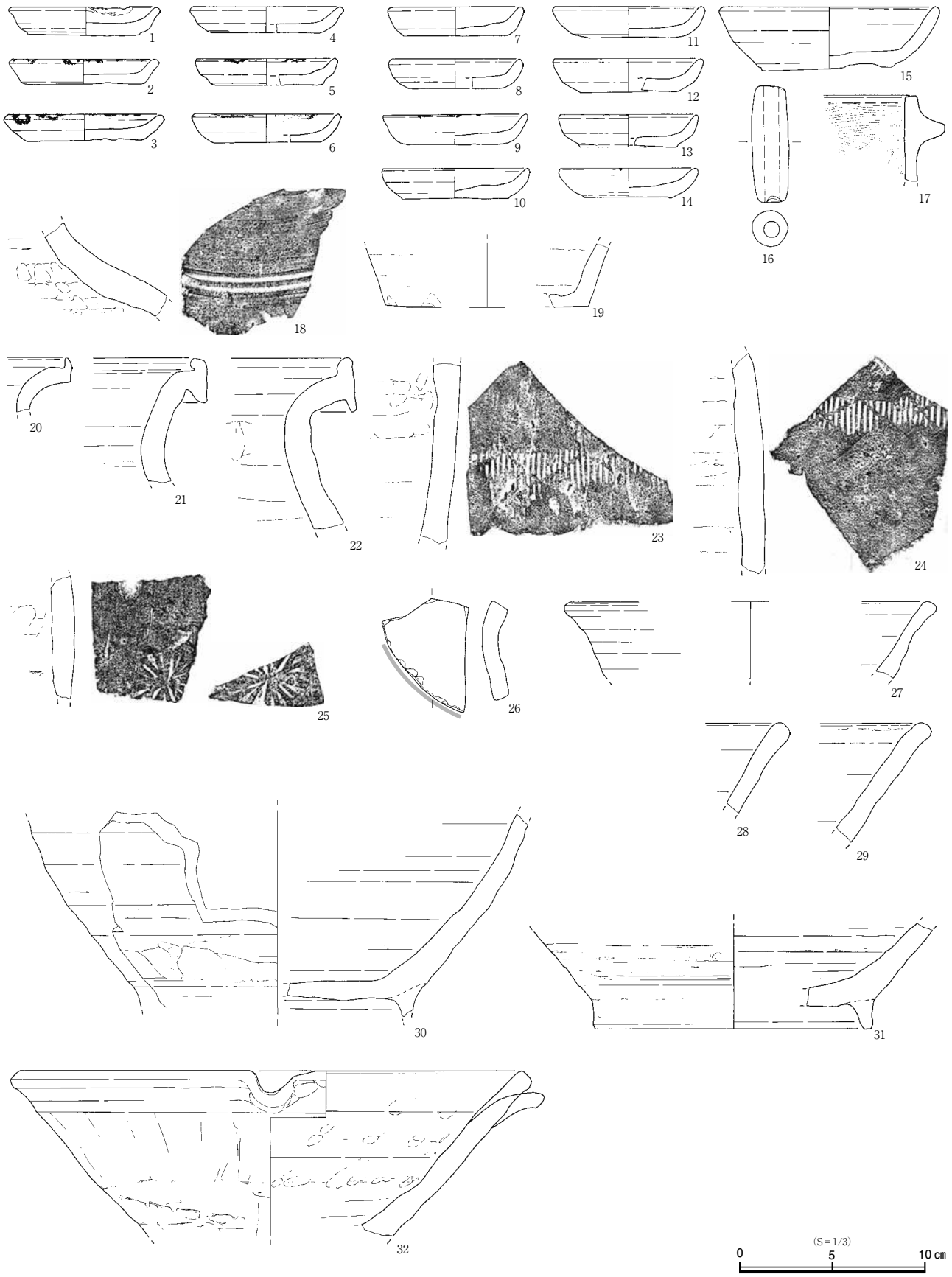


図 49　方形竪穴 13 出土遺物（1）

かわらけ小皿は底径広く背低の器形をとるものが多い。15は中皿といえる寸法で橙色粒子を多く含む粉質気味胎土。17は口径25cm程度になるか。気孔のある軽質胎土。外面はナデ調整されている。18

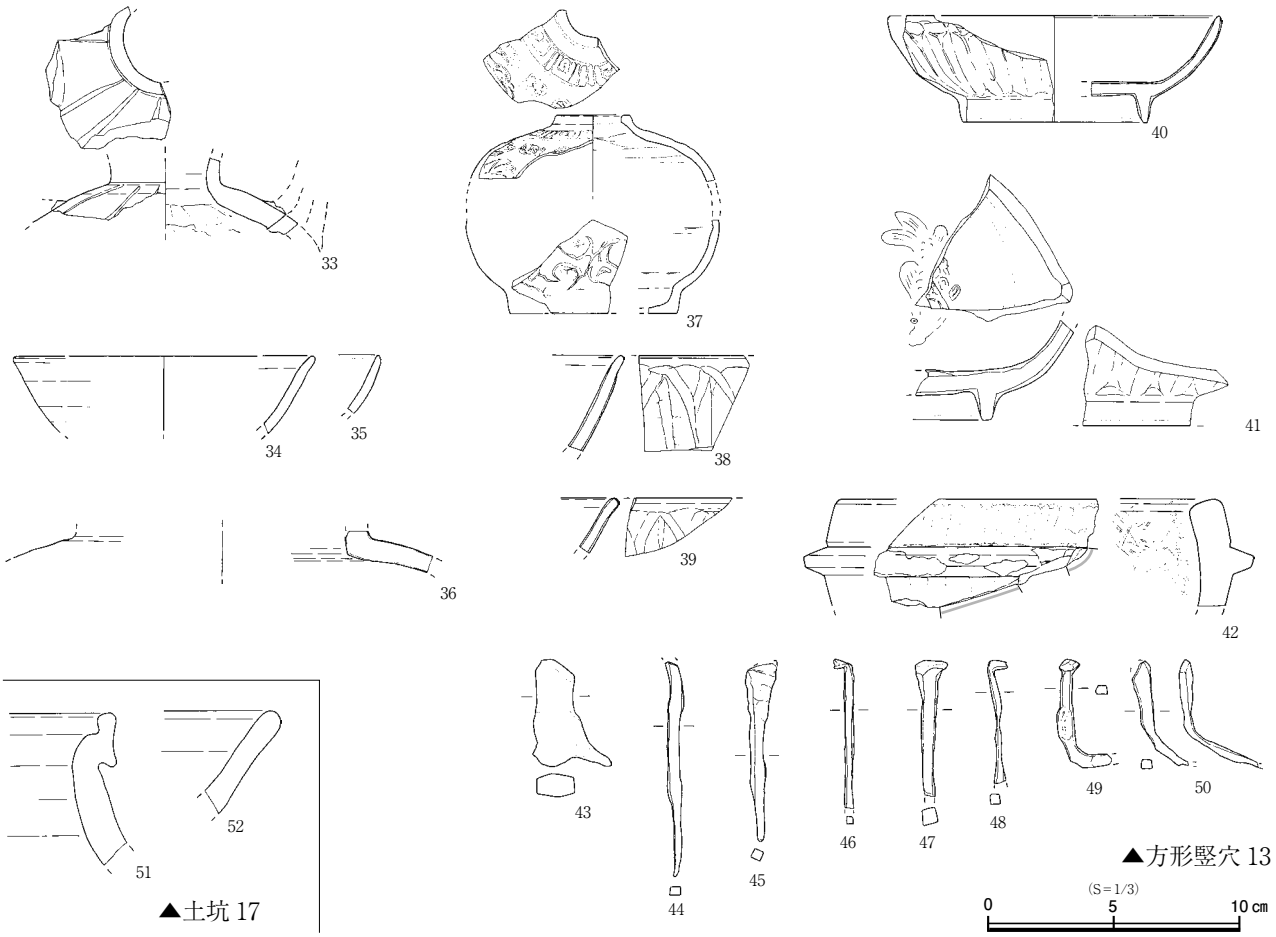


図 50　方形竪穴 13（2）、土坑 17 出土遺物

は肩部にヘラ描きの横線が3条巡っている。19の外面は底部脇に指頭圧痕をわずかに残して横位のヘラナデ調整が施されている。23・24は連続縦線を対角線で区画した同パターンの文様だが、大きさが異なる。25は放射状の細線による花文か。26は左側に擦痕、表面縁辺は敲打気味に使用したものか爆ぜている。30～32の内面下部は使用によりよく摩滅している。33は粘土紐を積み上げた後にロクロを使用し整形したものとみられ、内面にはしぼり痕、指頭ないし工具による強い圧痕が残っている。瓜型水注を模したものか、頚基部から放射状に延びる細線をヘラ描きしている。37は型作り成形による製品。内面胴部中位に器の上部下部を合わせた粘土の継ぎ目が残っている。肩部頸部脇に雷文帯を巡らし、胴部には唐草文を配する。器表面は2次焼成を受けたとみえ肌荒れ、失透しブクが出ている。40は内底に浅い圏線が入るようだが不明瞭。41は双魚文を復元した。内底周縁に浅く不明瞭ながら圏線が2条巡っている。42は滑石鍋の残欠で下方の割れ口に切断痕が残る。鍋内面には先端の細く尖ったもので引っ掻いたような痕跡が多数みられる。43は用途不明の鉄製品。錆が進んでおり本来の形状がわからない。

土坑17出土遺物（図50－51・52）

総出土数はロクロ成形のかわらけ小皿が2点・大（中）皿が5点、常滑窯の甕（51）3点・片口鉢Ⅰ類（52）1点、鳴滝産の砥石1点である。

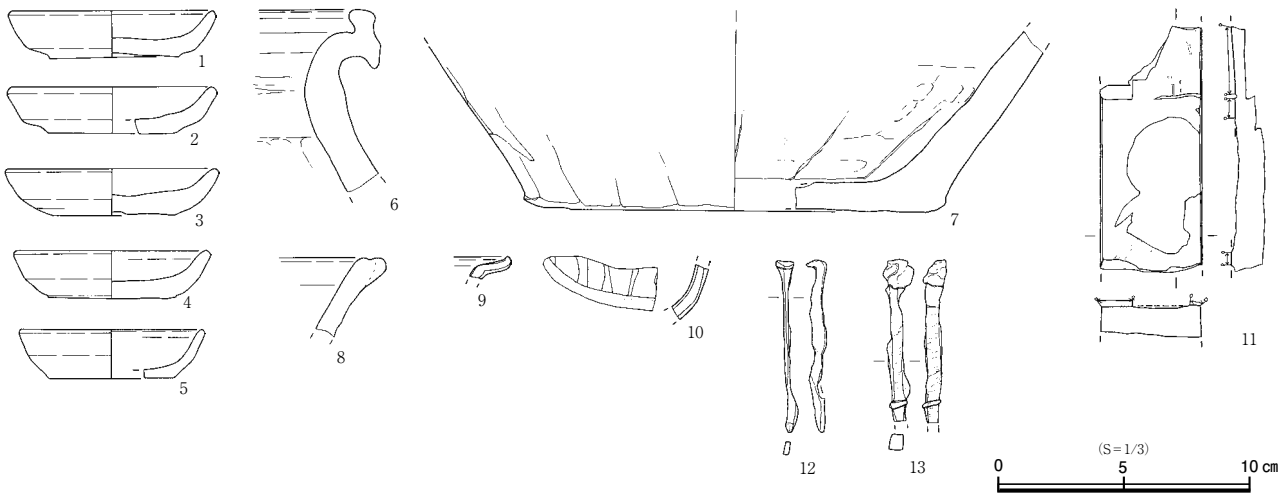


図 51　方形竪穴５出土遺物

方形竪穴5出土遺物（図51）

総出土数は、手づくね成形のかわらけ小皿1点、ロクロ成形のかわらけ（1～5）が62点で、そのうち小皿が13点・大（中）皿が49点、常滑窯の甕（6・7）25点、尾張山茶碗系片口鉢（8）1点、舶載品は、白磁が口兀皿4点・壺1点、青磁は全て龍泉窯の製品で鎬連弁文碗が1点・折縁鉢（9・10）2点、鳴滝産の砥石（11）1点、鉄製品は板状小片1点1.3g・釘（12・13）は実測外から6点28.2gを加えて計8点、その他に軽石1点22.1gである。5の胎土は混入物が少なく粉質気味の良土である。10は内面に連弁文を陰刻している。

方形竪穴6出土遺物（図52～54）

総出土数は、ロクロ成形のかわらけ（1～25）が301点で、そのうち極小皿が1点、小皿が94点・大（中）皿が206点、吉備系土師器碗（26）1点、瓦器碗（27）1点、土錘（28）1点、土器質火鉢（29～31）4点、瓦器質火鉢（32）2点、常滑窯の壺（33）1点・甕（34～41）128点・片口鉢Ⅰ類（42～46）17点、尾張山茶碗系片口鉢（47）1点、常滑窯片口鉢Ⅱ類（48）2点、渥美窯の甕1点、瀬戸窯の小瓶（49）1点・小壺（50～52）3点ほか壺類2点、舶載品は、白磁が口兀皿（53）2点・壺（54）1点、青白磁梅瓶（55）1点、青磁は全て龍泉窯の製品で鎬連弁文碗（56～58）が8点・無文碗（59）1点・折縁鉢（60）1点・盤（61）1点、褐釉壺1点、滑石製品（62）4点、鳴滝産の砥石（63～65）4点、鉄製品は槍先とみられるもの（66）1点・釘（67～77）は実測外から15点86.5gを加えて計27点、銅銭（78）1点、その他に軽石13点127.6gである。

かわらけは20・21・24・25の胎土が比較的精良。28の土錘は緻密胎土で作りが非常に良い。29～31は内面ナデ調整、外面口縁部から体部上位はいずれも横ナデ、外面体部の以下の調整は、29が斜め気味の縦位ハケ調整、30は孔下に指頭圧痕、下半ナデ調整、31は指頭圧痕、下半縦位ハケ調整である。29は気孔のある軽質土、30・31は良く締まる良土である。32の内面は焼成後に「◉」印が線刻されている。36・37の押印は長方形の区画内に葉脈様の文様が入るもの。37・38は接合がかなわなかったが、同一個体である可能性が高い。39はヘラ描き線の入るもの。40の押印は矢羽根形、41は花文か。42は高台径が12㎝を超える程度のもの。外底に回転ヘラケズリ痕が残る。42・45・46・48の内面下半は使用により良く摩滅している。48は口唇部は沈線状で口縁部横ナデ。外面体部は上位が横位ヘラナデ、それ以下は1段ないし2段の縦位ヘラナデで中位付近に工具端の当たった痕が残る。底部脇はおそ

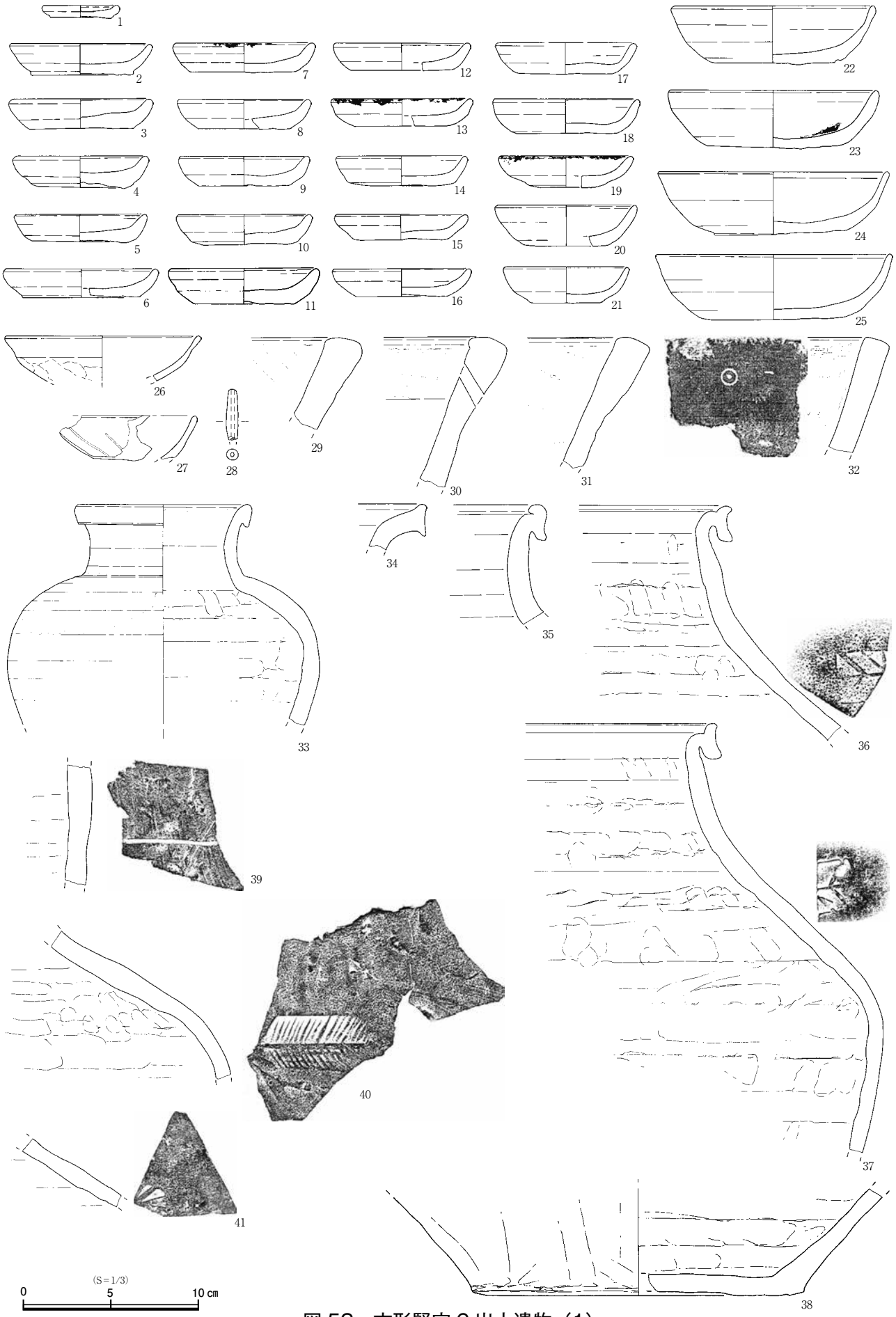


図 52　方形竪穴 6 出土遺物（1）

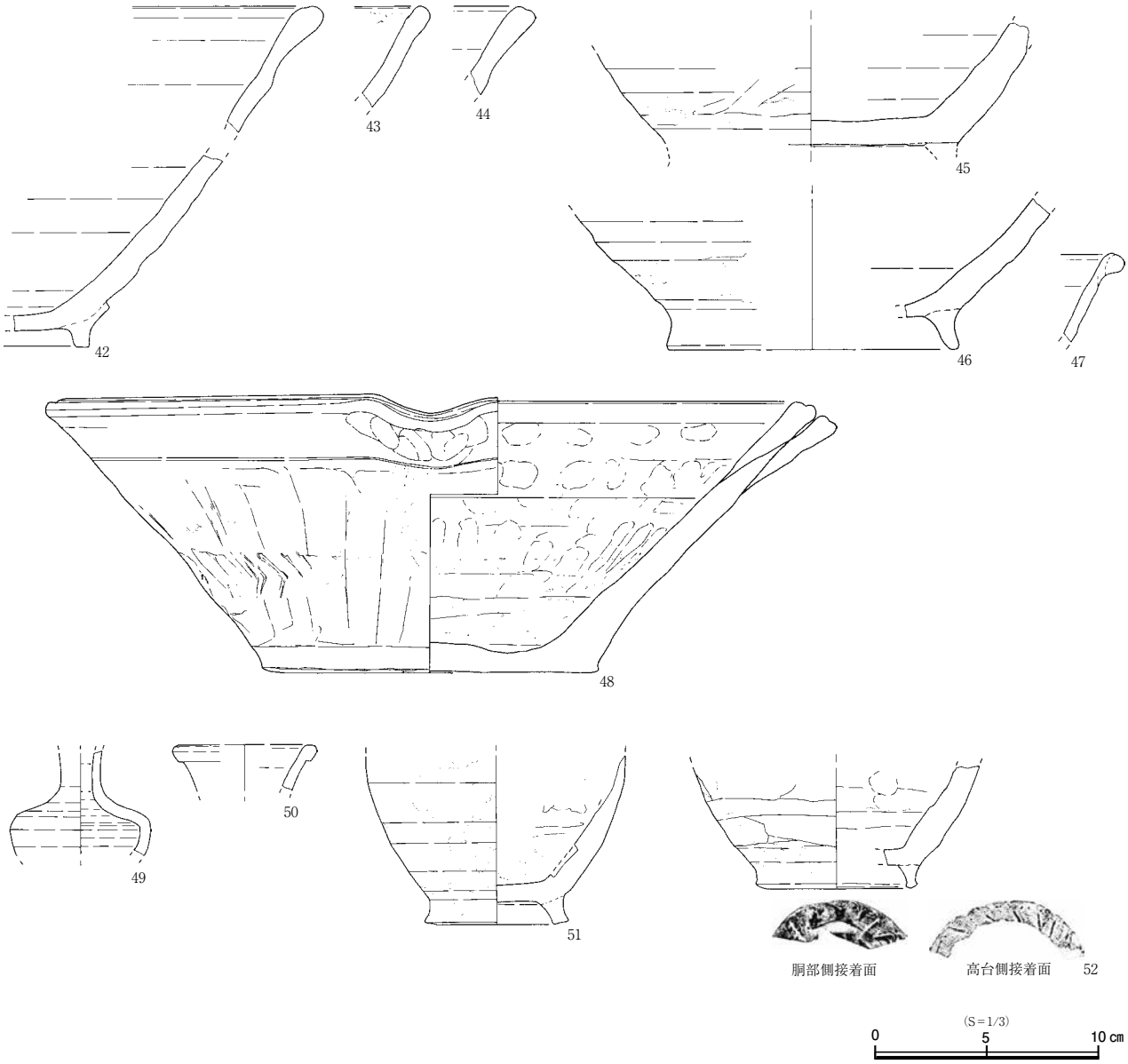


図 53　方形竪穴６出土遺物（2）

らく指頭による横ナデ。外底砂底。外面の注ぎ口部と内面には指頭痕がよく残っている。51の内面は打ち欠かれたようにやや不自然に爆ぜているが、意図的なものかどうかはわからない。52は接合前に高台貼付け部分の拓本を記録した。接着部にヘラで抉り線を入れ、粘土紐を圧着する様子のわかる資料である。53は口唇部の割れ口にススが付着している。灯明皿としての使用を意図して打ち欠かれたものかもしれない。56は内底部に草花文が印刻されるもの。56～58・60・61の内底周縁には圏線が巡っている。62は鍋の残欠を2次加工したものが更に欠損したもの。下端、右側に整形痕が残る。鍋外面には細かい刃物痕が多数あり、通常の鍋成形時の工具痕とは異なるものにみえる。64は下端欠損後も表裏から先端が尖るまで研がれている。左側は消費地での加工痕が残る。66は先端を尖らせて利器としたものか。67～70は表面に木質が遺存している。77は5本の釘とみえる棒状のものが結束している。

方形竪穴6・7出土遺物（図55－1～8）

方形竪穴6と7とのどちらに所属するものかわからない遺物である。総出土数はロクロ成形のかわらけ（1）30点で、うち小皿が6点・大（中）皿が24点、常滑窯の甕（2・3）3点・片口鉢Ⅰ類1点、尾張

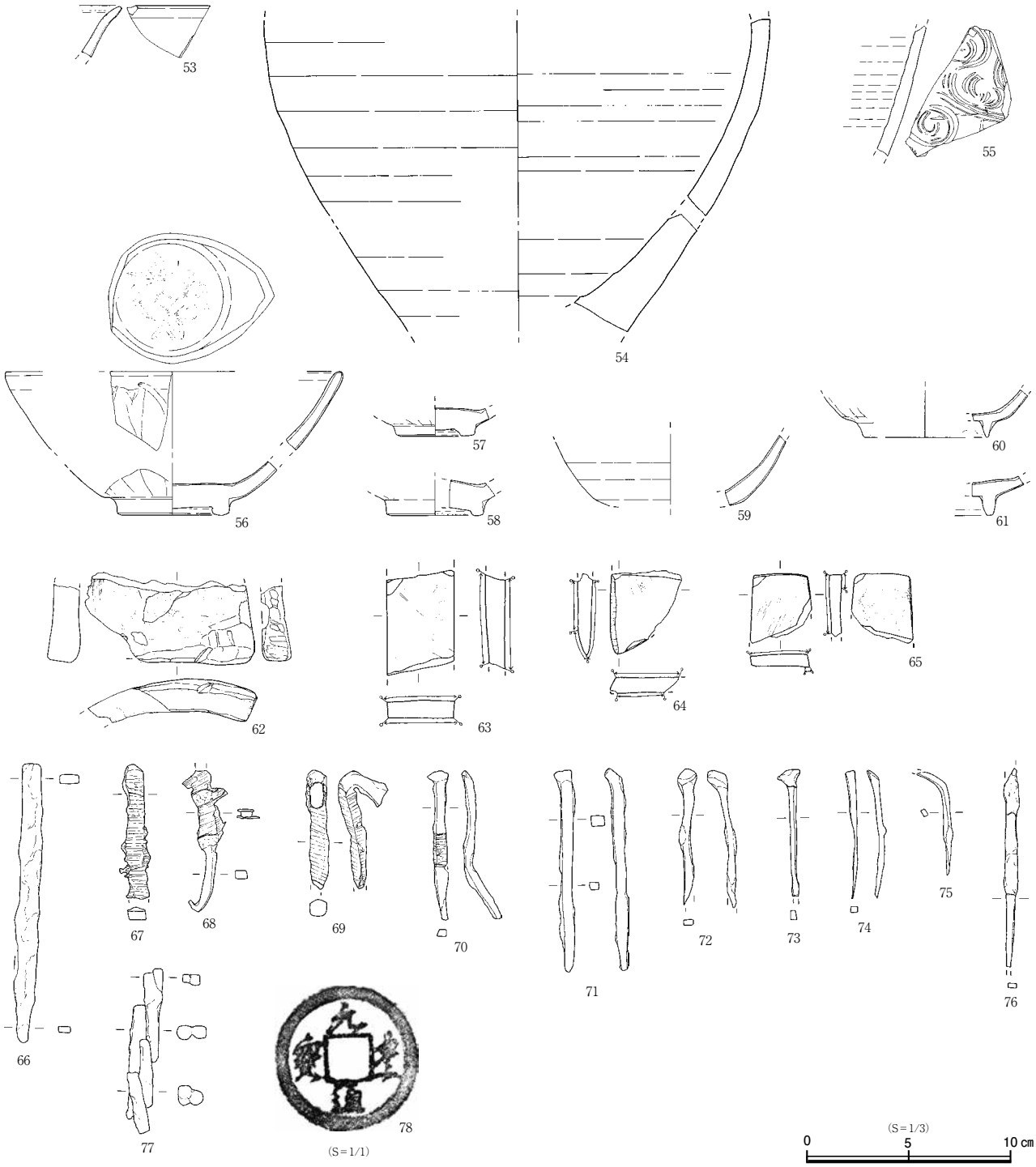


図 54　方形竪穴６出土遺物（3）

山茶碗系片口鉢（4）1点、龍泉窯青磁鎬連弁文碗（5）1点、鉄釘（6・7）2点、スラグ1点27.1g、銅銭（8）1点、その他に軽石5点72.8gである。7は表裏に木質が残るもの。

方形竪穴7A・B出土遺物（図55－9～28）

同時に掘り上げたためA・Bの遺物が混在している。また調査1面で設定したトレンチ1・2から出土したものも本址の遺物に含めた。総出土数はロクロ成形のかわらけ（9～16）70点で、うち小皿が15点・大（中）皿が55点、常滑窯の甕（17・18）28点・片口鉢Ⅰ類（19）4点、瀬戸窯の入子（20）1点、龍泉窯青磁の鎬連弁文碗4点・折縁鉢（21）1点、天草産の砥石（22）1点、骨製品（23）1点、鉄釘（24

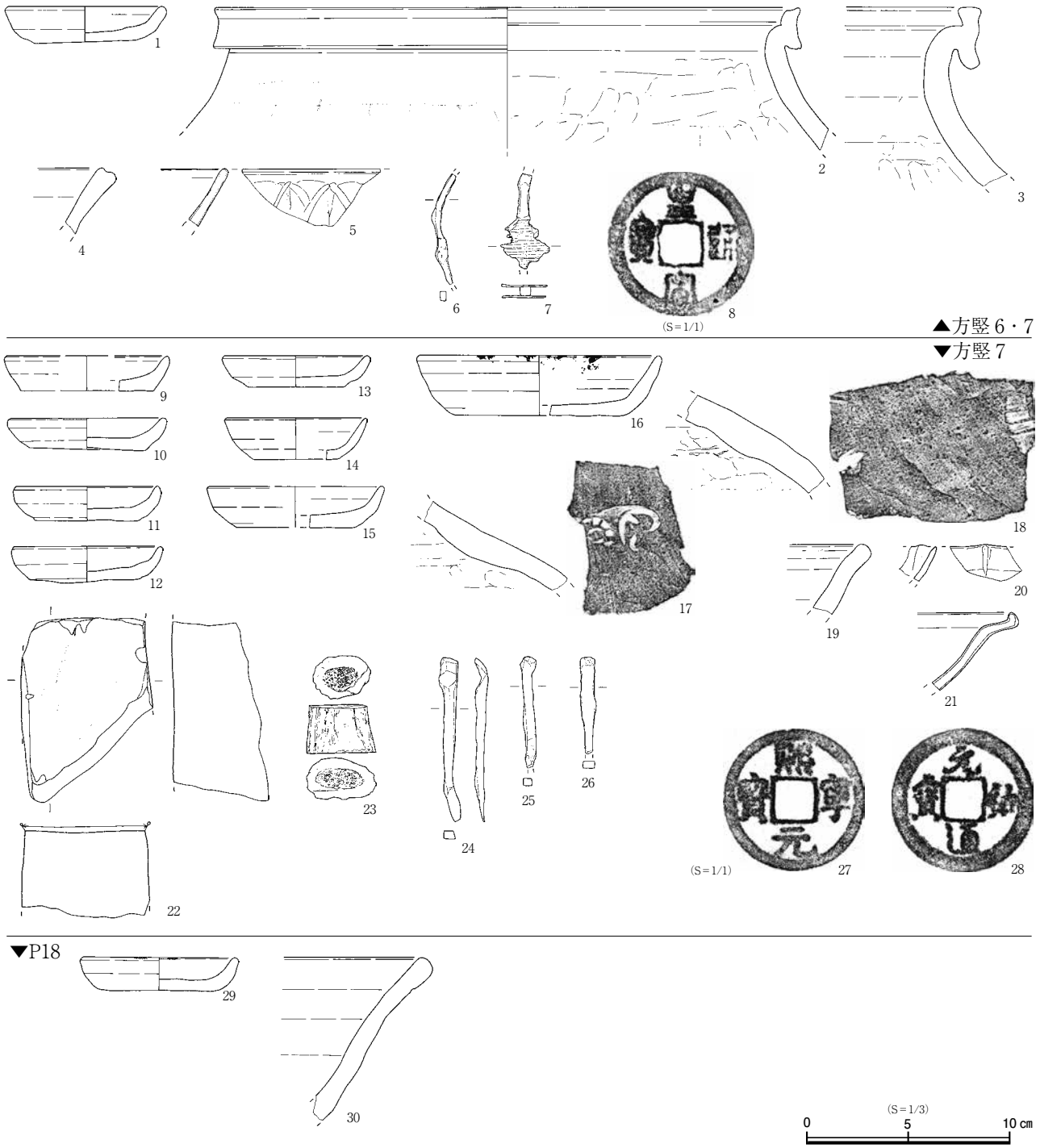


図 55　方形竪穴６・７、方形竪穴７、P18 出土遺物

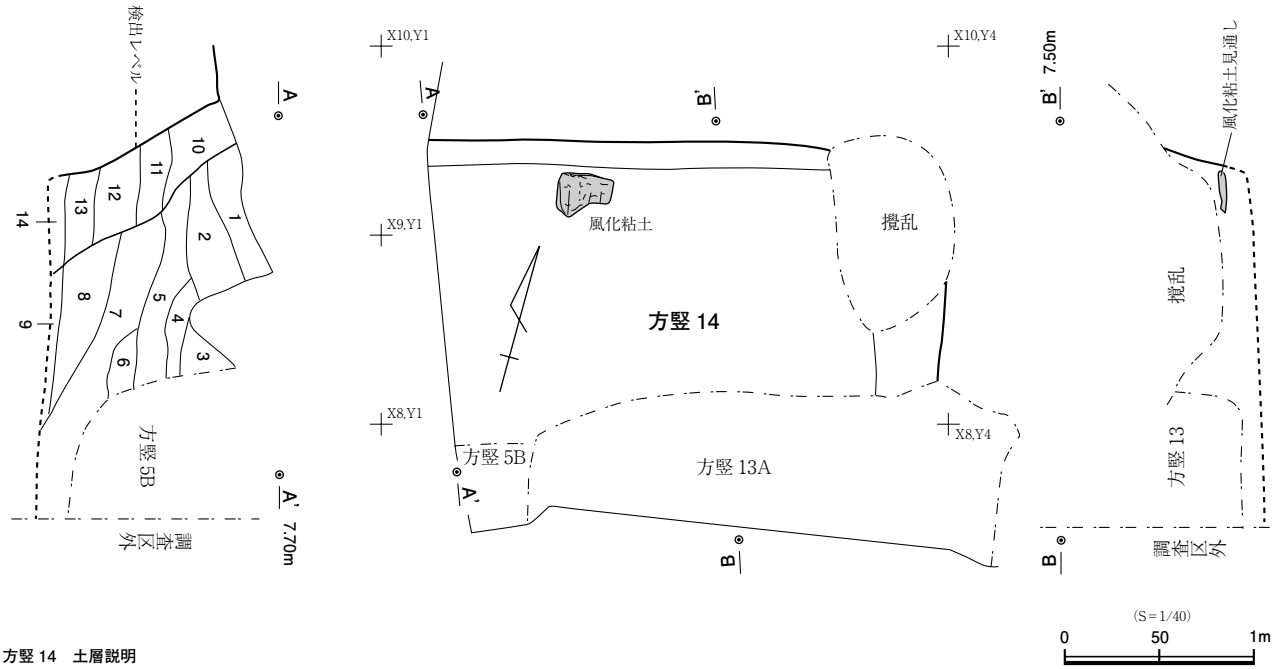
～26）は実測外の5点21gを加えて計8点、銅銭（27・28）2点、その他に軽石1点20.3gである。17の押印は何らの記号文。18の押印は大振りの花文か。21は口径24cm程になりそうなもの。22は表面が砥面。右左側は砥いでいるように見えず、整形面が残る。上下の欠損面は摩滅している。23はシカ角の両端を切断したもの。

ピット18出土遺物（図55－29・30）

ロクロ成形のかわらけ（29）11点で、うち小皿が3点・大（中）皿が6点、常滑窯の甕4点・片口鉢Ⅰ類（30）1点が出土している。

方形竪穴14（図56）

Ⅰ区東側、X8～9,Y1～3付近に位置する。北東側は現代の削平により失う。方形竪穴5・方形竪穴13に切られ、方形竪穴10を切っている。湧水のため底面の確認不十分ながら、土層断面から南側は方形竪穴5B・方形竪穴13A下まで延びていると判断した。検出面は東側が7.13m、西側が6.96mだが調査区壁土層で7.40mからの掘り込みを確認できる。主軸方向はN－14°－Wを指す。検出された規模は東西方向が280㎝、南北方向は213㎝である。底面標高は6.40m付近、深さは100㎝程となる。北側壁下で、風化した板状の粘土が検出されている。風化粘土上の標高は6.65mで、おそらく13層中となる。



方竪 14　土層説明

1層	暗茶色砂質土	褐鉄分多い。貝片を含む。しまりややあり。
2層	暗茶色砂質土	炭化物を多く含む。しまり弱い。
3層	灰白色砂質土	茶褐色砂質土を混じえる。炭化物を少量含む。
4層	灰白色砂質土	3層より茶褐色砂質土の混じりが少ない。
5層	暗茶褐色砂質土	炭化物を少量、貝片・かわらけ片を含む。しまり弱い。
6層	暗茶褐色砂質土	5層の流れ込み。
7層	灰茶色砂質土	炭化物・貝片を含む。しまり弱い。
8層	灰茶色砂質土	7層を主体に暗茶褐色粘質土を混じえる。しまりややあり。
9層	灰茶色砂質土	7・8層と同質で暗茶褐色粘質土を混じえない。炭化物を多く含む。しまりなし。
10層	茶色砂質土	褐鉄分多く、色調は黄色味を帯びる。灰白砂を混じえる。炭化物・かわらけ細片を含む。
11層	茶色砂質土	灰白砂の混じりやや多い。炭化物を少量含む。
12層	茶色砂質土	暗褐色粘質土を少量混じえ、しまりがある。
13層	白黄色粗砂	白黄色粗砂をブロック状に多く混じえる。
14層	茶色砂	炭化物を少量含む。しまりあり。

図 56　方形竪穴 14

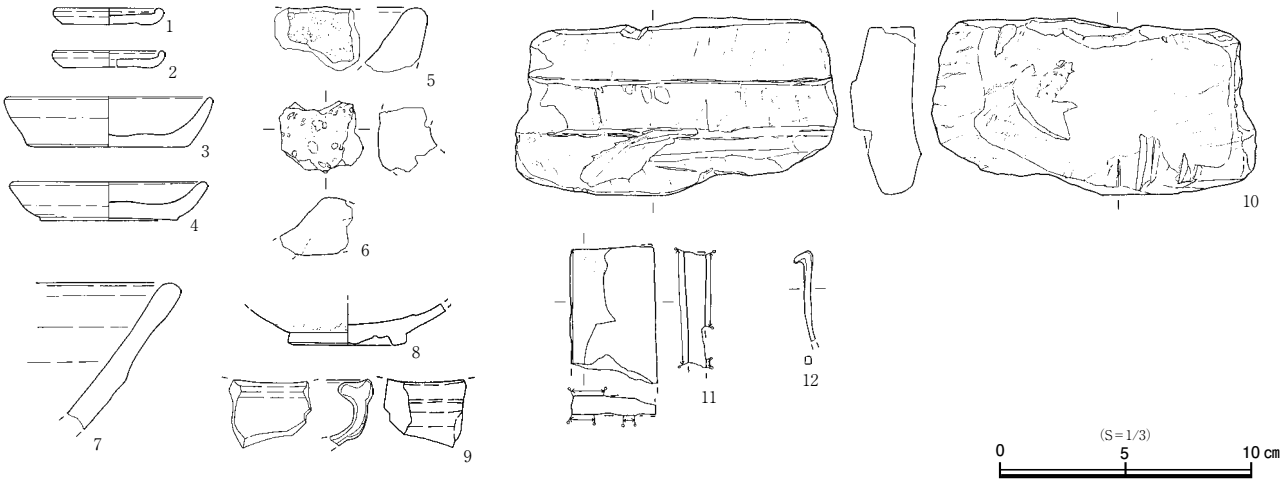
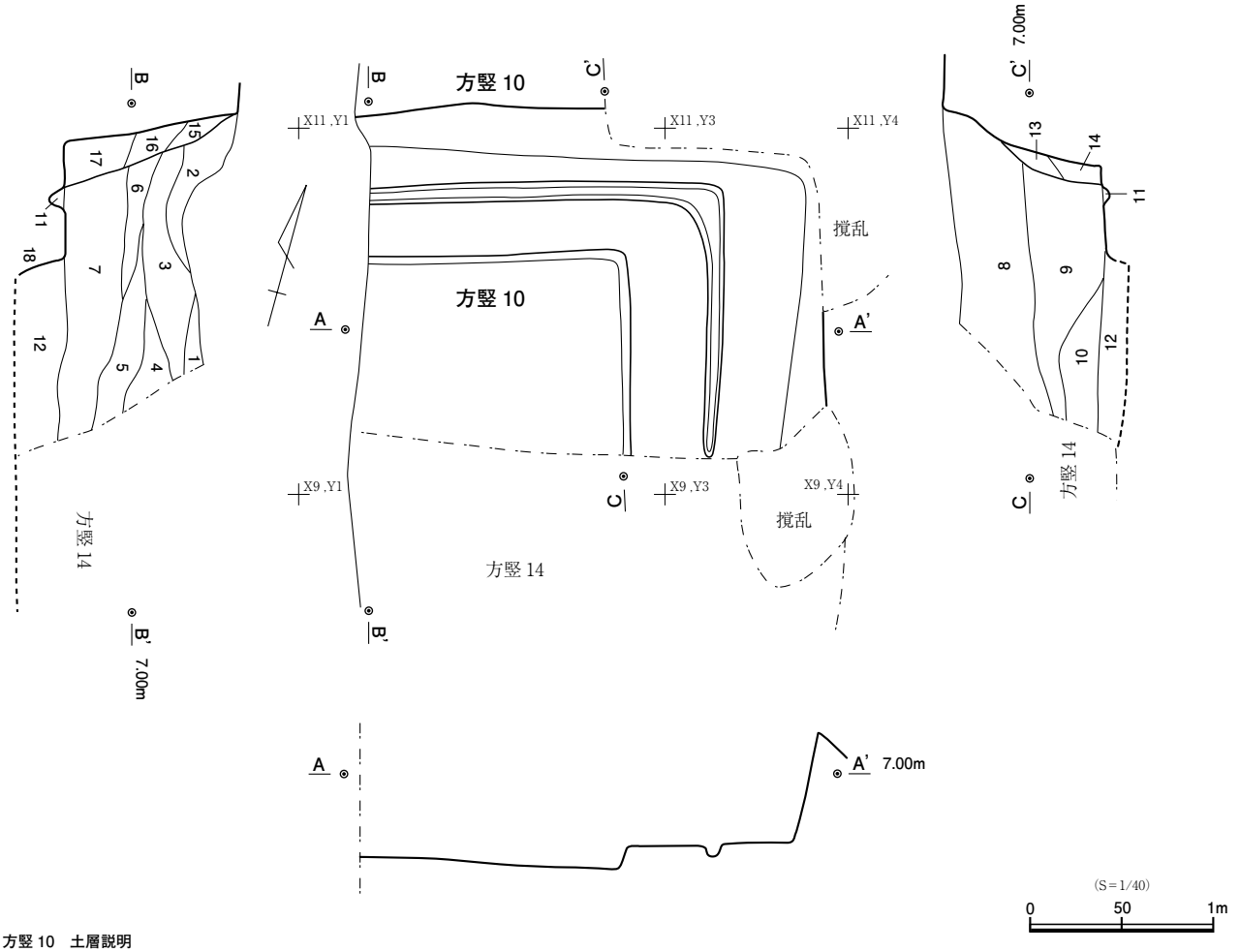


図 57　方形竪穴 14 出土遺物

方形竪穴14出土遺物（図57）

総出土数はロクロ成形のかわらけ（1～4）26点で、うち極小の内折れタイプが2点、小皿が3点・大（中）皿が21点、坩堝（5）1点、鞴の羽口（6）1点、常滑窯の甕14点・片口鉢Ⅰ類（7）2点、白磁の碗（8）1点、龍泉窯青磁の鎬連弁文碗1点・折縁鉢1点・香炉（9）1点、滑石製品（10）1点、鳴滝産の砥石（11）1点、鉄釘（12）は実測外の7点24gを加えて計8点、その他に軽石15点185.7gである。6は炉側の先端近くの残欠か、外面に鉱物が釉着している。8は内底周縁に浅い段が巡っている。9は口縁部が輪花型になるもので、外面体部に貼付け文を配するもの。10は鍋の口縁部片を加工したもので、外面鍔の部分をを低く削っている。下側の割れ口も1部整形、内面側には刃物痕が残っている。11の左側は半ば工具を入れて、下方は折り取られている。



方竪 10　土層説明

1 層	暗茶色砂質土	褐鉄分多い。貝片を含む。しまりあり。
2 層	暗茶褐色砂質土	灰褐色砂を少量混じえる。土丹粒子を少量、炭化物を多く含む。しまり弱い。
3 層	暗茶褐色砂質土	暗茶褐色粘質土ブロックを混じえる。炭化物・貝片を少量含む。しまり弱い。
4 層	茶色細砂	灰褐色砂を 30%混じえる。貝片を少量含む。しまりややあり。
5 層	茶色細砂	4 層に似る。炭化物・かわらけ片を含む。
6 層	灰褐色砂	茶色細砂を 30%混じえる。しまりややあり。
7 層	灰褐色砂	茶色細砂を 20%混じえる。炭化物・貝片を含む。しまりややあり。
8 層	灰褐色砂	腐食土ブロックを少量混じえる。炭を含む。しまり弱い。
9 層	灰褐色砂	8 層より腐食土の混じり少なく、粗い。色調 8 層より明るめ。
10 層	暗褐色砂質土	炭を少量含む。しまりややあり。
11 層	灰褐色砂	腐食土を少量混じえる。しまり弱い。
12 層	灰褐色砂	腐食土を少量混じえる。炭化物を含む。しまり弱い。
13 層	灰褐色砂	腐食土を少量、斑状に混じえる。しまり弱い。
14 層	灰褐色砂	13 層より腐食土の混じり少ない。
15 層	茶色細砂	灰褐色砂を混じえる。炭化物・貝片を含む。しまり弱い。
16 層	茶色細砂	褐鉄分多く、色調黄色みを帯びる。しまりあり。
17 層	灰褐色砂	茶色細砂を 15%・灰褐色砂を 30%混じえる。しまり弱い。
18 層	茶褐色砂	炭化物を少量含む。しまりあり。

図 58　方形竪穴 10

方形竪穴10（図58）

Ⅰ区東側、X9～10,Y1～3付近に位置する。北東上端、南東側は現代の削平を受けている。方形竪穴14に切られ、方形竪穴11を切っている。検出面はの標高は7.60mである。主軸方向はN－14°－Wを指す。検出された規模は南北方向が193㎝、東西方向は263㎝、底面標高は6.58～6.63mで深さは102㎝である。北側・東側壁下底面で、土台材の痕跡とみられる幅6～12㎝、深さ4～8㎝の溝が検出されている。また、底面からは方形の土坑が掘り込まれている。検出された土坑の規模は156×113㎝、土坑底面は湧水により確認不十分ながら、標高6.43mで地山に達するようでおそらく平坦、深さは18㎝程である。

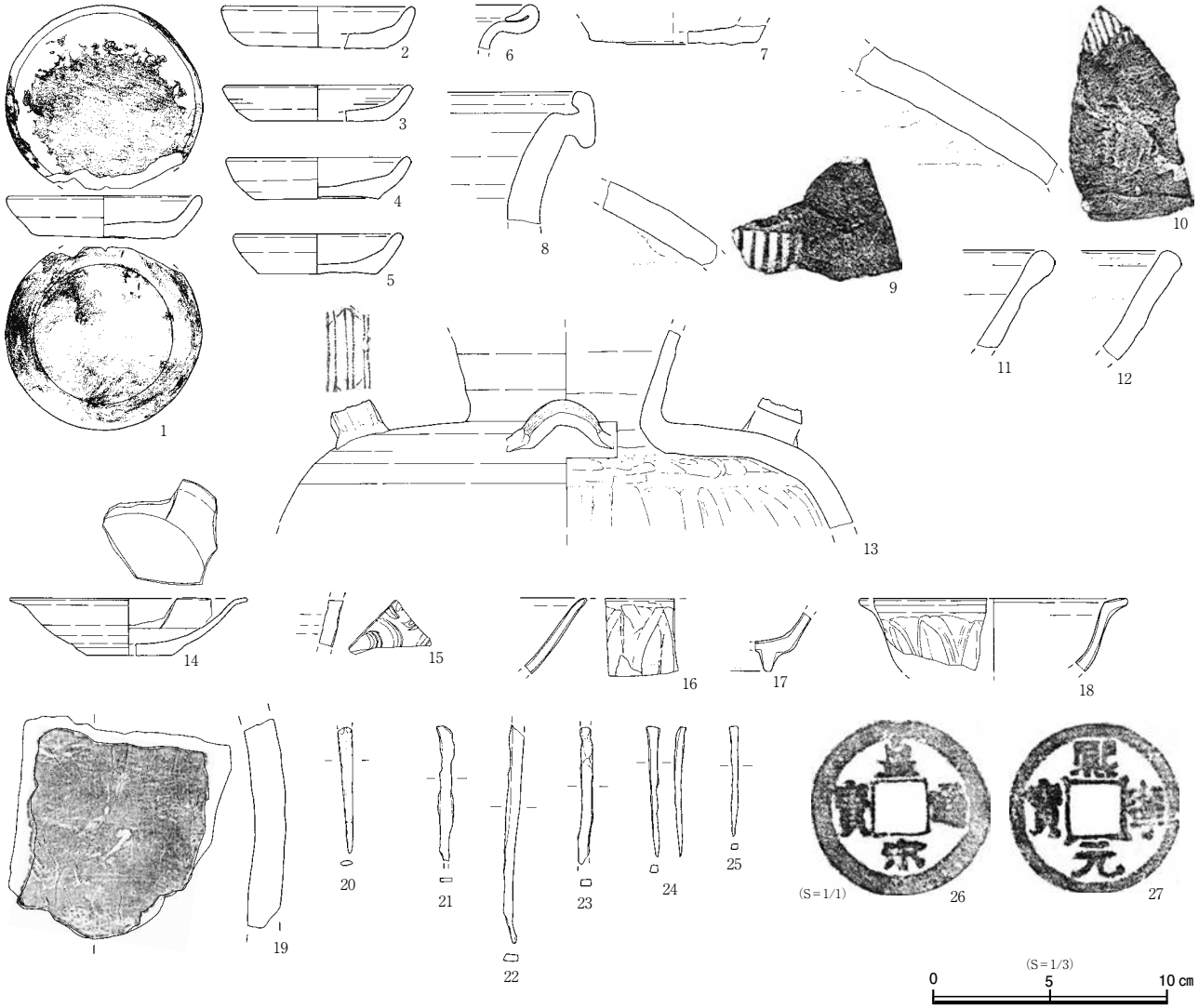


図 59　方形竪穴 10 出土遺物

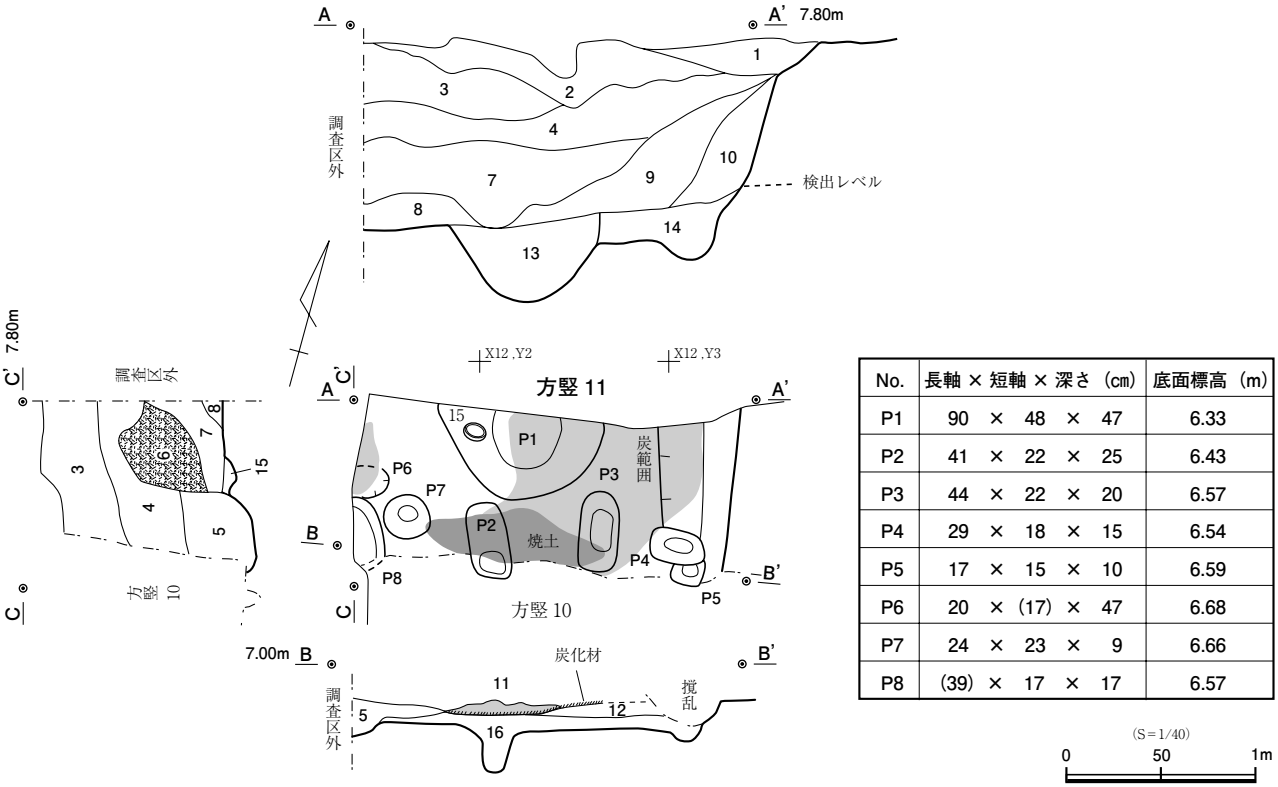
方形竪穴10出土遺物（図59）

総出土数はロクロ成形のかわらけ（1～5）46点で、うち小皿が24点・大（中）皿が22点、伊勢系土鍋（6）1点、常滑窯の壺（7）1点・甕（8～10）59点・片口鉢Ⅰ類（11・12）5点、瀬戸窯四耳壺（13）1点、舶載陶磁器は、青白磁皿（14）1点・梅瓶（15）1点、龍泉窯青磁の鎬連弁文碗（16）3点・折腰碗（17）1点・鎬連弁文折縁鉢（18）1点、滑石製品（19）1点、骨製品（20）1点、鉄製品は刀子1点であったと思われる接合不能な破片が計39.6g・扁平棒状のもの（21）1点・釘（22～25）は実

測外から11点60gを加えて計16点、銅銭（26・27）2点、その他に軽石3点42.6gである。かわらけの胎土は1・5が粉質気味で、2～4は色調橙色を呈し、橙色粒子を多く含む砂質土である。1は内外面に何らの物質が付着している。物質の種類はわからないが、樹脂のような粘りのある液状のものの膜ができているよう見受けられる。7は鳶口壺の底部片。体部は粘土の圧着部分から剥離、底部円盤のみが遺存している。常滑窯甕の押印は9が2～3㎜幅の縦線が連続、10は細めの縦線が連続するもの。13は粘土紐積み上げ後、外面肩部は回転ヘラケズリ、頸部は回転ナデが施されている。耳は細い粘土紐を貼付けて飾られている。14は口縁部輪花型、内面体部を巡る浅い段に向かい口縁から縦線が降りている。外面体部下位は深い削り込みによる段を有する。19は内面に先端の細いもので引っ掻いた痕が多数見られる滑石鍋の体部片。20は笄の先端部のみの残欠。

方形竪穴11（図60）

Ⅰ区北東隅、X11,Y1～3付近に位置する。南東側は現代の削平を受けている。方形竪穴10に切らる。検出面の標高は6.94mであるが調査区壁土層で7.70mからの掘り込みを確認できる。主軸方向はN－11°－W付近か。検出された規模は南北方向が90㎝、東西方向は209㎝である。底面の南西側に掘り方を有する構造と見られ、12～16層は掘り方、小穴1～7は床下施設となる。以下竪穴本体底面（7～11層下）



No.	長軸 × 短軸 × 深さ (㎝)	底面標高 (m)
P1	90 × 48 × 47	6.33
P2	41 × 22 × 25	6.43
P3	44 × 22 × 20	6.57
P4	29 × 18 × 15	6.54
P5	17 × 15 × 10	6.59
P6	20 × (17) × 47	6.68
P7	24 × 23 × 9	6.66
P8	(39) × 17 × 17	6.57

(S＝1/40)
0 50 1m

方竪 11　土層説明

1層	茶色細砂	炭化物・かわらけ片・貝片を含む。しまり弱い。
2層	黄灰色砂質土	褐鉄分多い。貝片を多く含む。しまりあり。
3層	茶色砂質土	黄色砂を混じえる。炭化物・貝片を含む。しまりややあり。
4層	茶色砂質土	炭化物多め。貝片・貝粉を含む。しまり弱い。
5層	白黄色砂	灰白砂を混じえる。炭化物・かわらけ片を含む。
6層	粘土ブロック	しまり強い。
7層	茶色砂質土	黒茶色粘土塊を多く混じえる。焼土・炭を多く含む。
8層	暗茶色砂	黄色砂・灰白砂を混じえる。 土丹・炭化物・かわらけ片を含む。
9層	暗茶褐色砂	炭化物・貝片を含む。しまりなし。
10層	暗褐色砂質土	灰白色砂を少量混じえる。土丹・炭を少量含む。しまり弱い。
11層	灰赤色砂質土	焼土層。灰を多く混じえる。 粘質土ブロック・炭化材片を含む。
12層	茶灰色細砂	
13層	茶灰色砂	灰白色粗砂と赤茶褐色砂が混合する。 土丹・炭化物・貝片を含む。しまり弱い。
14層	茶灰色砂	灰白色粗砂と赤茶褐色砂が混合する。しまり弱い。
15層	白黄色砂	暗茶褐色粘土粒子・炭化物を含む。しまり弱い。
16層	暗褐色砂	褐色砂を主体に茶灰色砂（14層）を少量混じえる。 炭化物を少量含む。しまり弱い。

図 60　方形竪穴 11

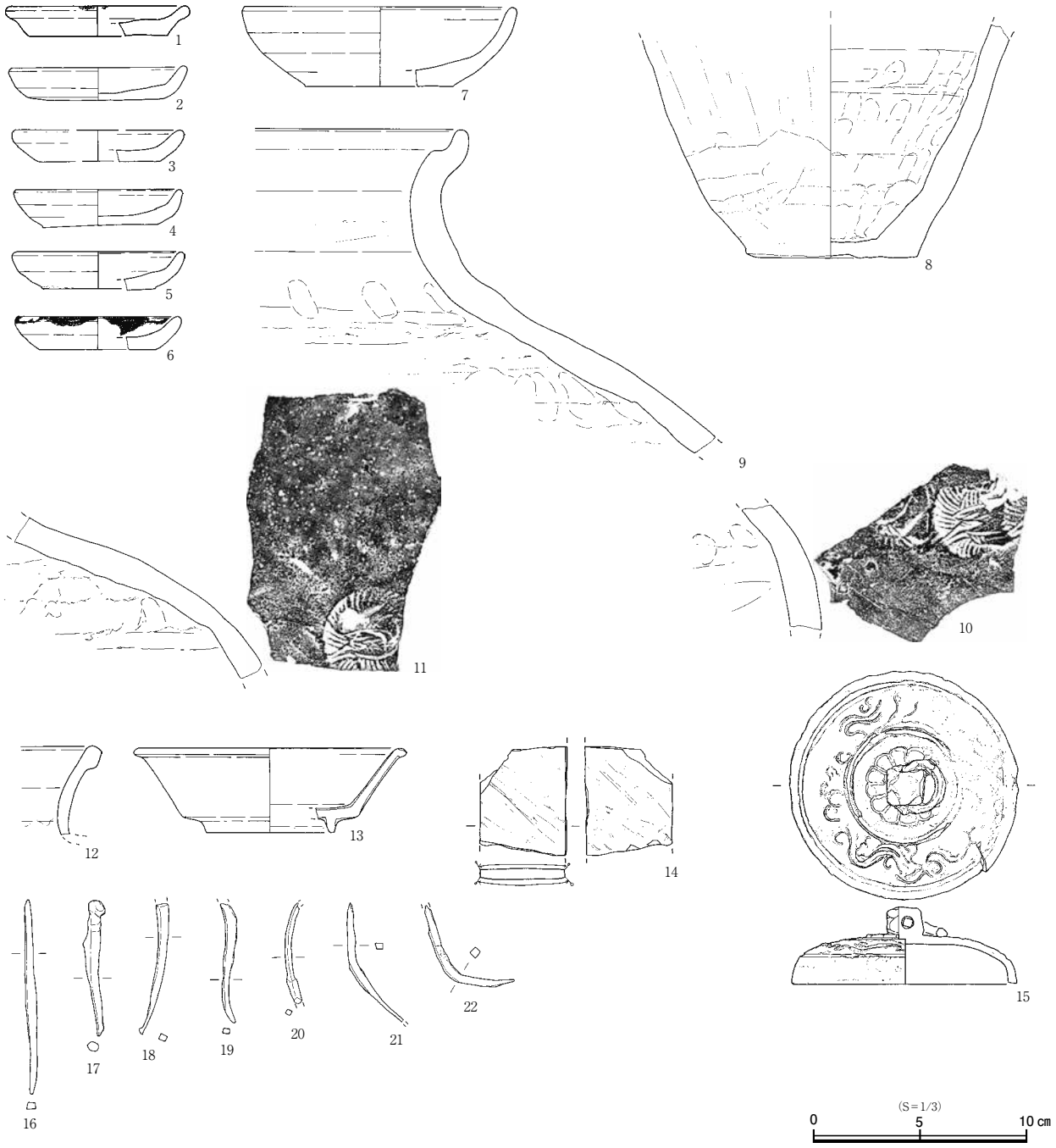


図 61　方形竪穴 11 出土遺物

を底面とし、掘り方底面は掘り方下端として説明、混乱を避ける。底面の標高は北東側が6.83mと北西側がやや高いが、他は6.7m付近でほぼ一定している。底面直上は広い範囲が焼土・炭に覆われており、炭化材とみられる炭の帯も見受けられることから、竪穴内に床材が遺存する時期に火を受けていると思われる。小穴1～7は炭層下でのでの検出、小穴8は炭層の時期に開口している。北側の底面直上からは鉄製の蓋（図61－15、口絵）が裏返った状態で出土している。検出範囲南端の炭の帯上には焼土がまとまっており、部分的に赤化ブロック化している。堆積土層を見ると、火を受けた後ある期間は8～10層で自然に埋まり、間をおいて焼土・炭・粘土塊を含む7層、大型粘土塊の6層が北側から流入している。7層以降に火事場始末的な行為があり、人為的に埋め立てられたものかもしれない。竪穴内で火が起きていた場合、燃焼の中心は北側調査区外にあったとみられる。また、大型粘土塊の存在から、竪穴内に粘土を使った構造物が在った可能性を考えておきたい。

方形竪穴11出土遺物（図61）

総出土数はロクロ成形のかわらけ（1～7）16点で、うち小皿が7点・大（中）皿が9点、常滑窯の壺（8）1点・甕（9～11）7点、瀬戸窯壺（12）1点、舶載品は白磁の碗1点・壺1点、龍泉窯青磁の鎬蓮弁文碗1点・折腰碗（13）1点、鳴滝産の砥石（14）1点、鉄製品は蓋（15）1点・細い板状のもの2点8.1g・棒状のもの（16）が1点・釘（17～22）は実測外から27点121.1gを加えて計33点・形状不明の破片6点39.7gと鉄クズ16.4gである。8は粘土紐積み上げ成形で、内面に指頭痕が強く残る。外面は胴部上位は縦位ヘラナデ、胴下部はケズリ気味に整えた後、ナデて表面を押さえている。外底部は細かい砂底である。9と10・11は胎土などが似ており同一個体の可能性があるが、接合できない。9は口径60㎝程になりそうなもの。10・11の押印は同文にみえる鶴丸文。10を見ると鶴が松葉を咥えているようだが、はっきりしない。12は折り返し口縁が退化している。口径10㎝程になるもの。15は頂部に環状の釣り金具を付けた摘みを持つもので、四角形の摘みの角は面取りされている。摘みの周囲には12弁の花文が配され、2重線で区画された天井外縁部は唐草文により埋められる文様帯となっている。文様帯の外・体部にも唐草文か、何らの文様があったようにも見えるのだが、錆が進んで遺存状態が悪くわからない。16は断面四角形の棒状のもので、中程が太く両端に向かい太さを減じている。何らを連結する用途のものかもしれない。

方形土坑4（図62）

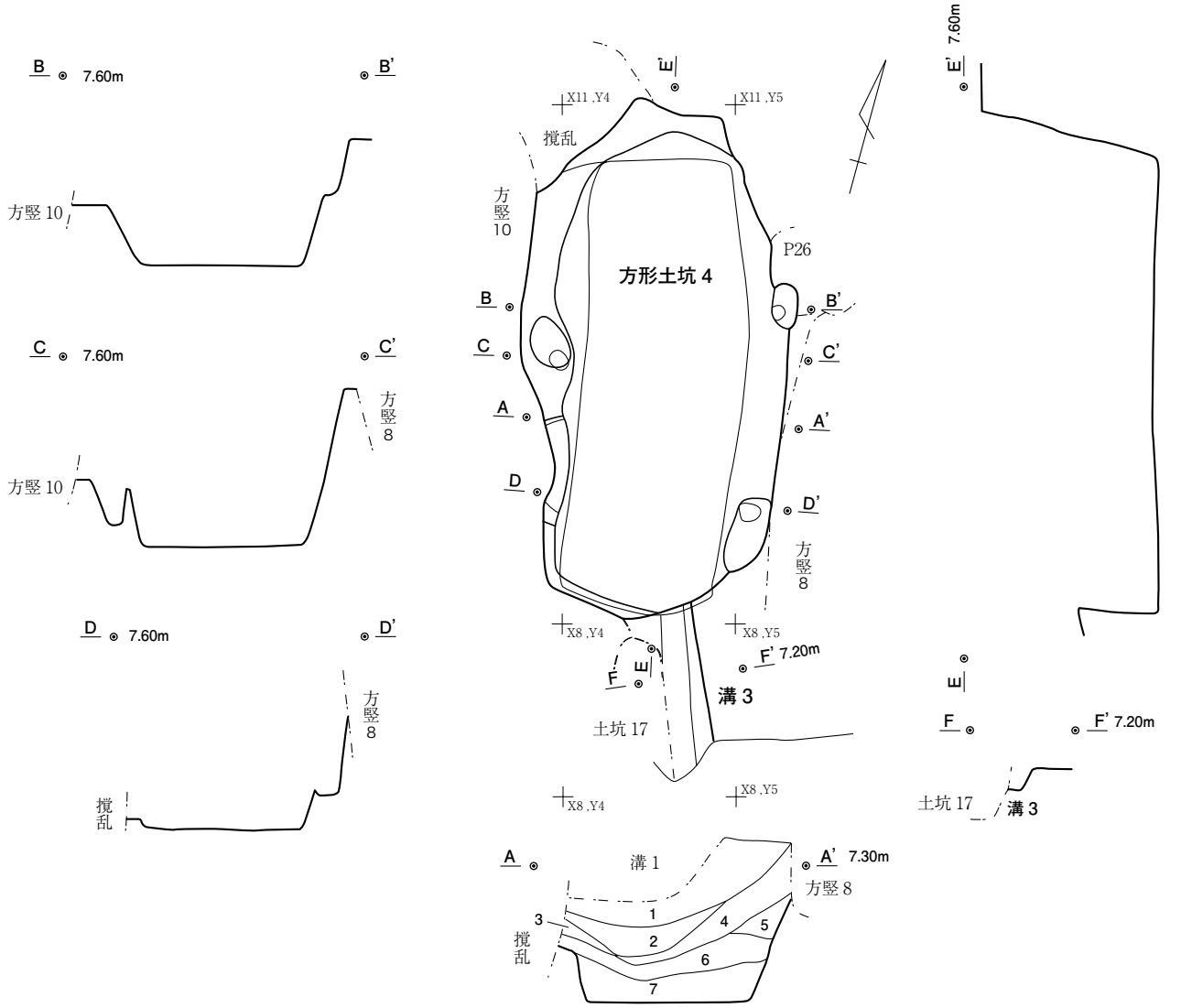
Ⅰ区X8～10,Y4付近に位置する。現代の撹乱、Ⅰ期の遺構・溝1・P26に上端を削平されている。方形竪穴8・10・13・14に切られる。溝3との新旧関係は不明だが、溝3が更に北へ1m以上延びるものであれば、土層断面A－A’から本址の方が新しい。また、軸方向がずれるものではあるが、切り合い関係を持たない本址の付帯施設という可能性も考えておく。方形土坑4は他遺構の削平により上端平面が不正形となっているものの、整った長方形の掘り込みである。検出面はの標高は北側が最も高く7.50m、他は7.03～7.47m。主軸方向はN－11°－W。検出された規模は上端で、307×163㎝。底面では長軸が245～265㎝、短軸が78～93㎝と、最大値で1間半×半間、最小値でも長軸3：短軸1の比率に合う。底面は標高6.47～6.50mで平坦、深さは最深103㎝である。西壁は標高6.83～6.89mでテラス状となり南西側に浅い段差を持っている。段差下の標高は6.66m。東西の壁に穿たれた小穴下端の標高は、北東の穴から時計回りに、6.91・6.69・6.62mである。

溝3（図62）

Ⅰ区南側X7,Y4に位置する。土坑17に切られ、Ⅲ期の遺構・P100を切っている。検出面の標高は7.00mである。主軸方向はN－19°－W。検出された規模は長さ108㎝、幅20㎝、底面標高は北側が6.83m、南側が6.95mと北へ傾斜している。遺物は出土していない。

方形土坑4出土遺物（図63・64）

総出土数は手づくね成形のかわらけ小皿（1・2）が2点、ロクロ成形のかわらけ（3～25）が60点で、うち小皿が23点・大（中）皿が37点、鍔釜（26）1点、瓦器質火鉢（27）1点、常滑窯の壺2点・甕（28）25点、片口鉢Ⅰ類（29・30）3点・片口鉢Ⅱ類（31）1点、東播系鉢（32）1点、瀬戸窯の壺1点、龍泉窯青磁の鎬蓮弁文碗1点・鎬蓮弁文鉢（33）1点・大型鉢類1点、石製品は鳴滝産の砥石（34）2点・天草産の砥石（35）1点・産地不明の砥石（36）1点、加工骨（37）は実測外から切断痕のあるク



方形土坑４　土層説明

１層	暗褐色砂質土	褐色砂を多く混じえる。粘質土ブロック・４㎝大の土丹・炭化物を少量含む。しまりあり。
２層	黒褐色砂質土	粘性のある腐食土を混じえ、色調１層より暗い。
３層	黒褐色弱粘質土	粘性のある腐食土が帯状に堆積する。
４層	暗褐色砂質土	砂質が強くよくしまる。炭化物を少量含む。
５層	暗褐色砂質土	白黄色粗砂を混じえる。しまりあり。
６層	褐色砂	白黄色粗砂を主体に腐食土を少量混じえる。しまりあり。
７層	褐色砂	６層より腐食土の混じり少ない。

(S＝1/40)
0　50　1m

図62　方形土坑４、溝３

ジラ骨小片1点を加えて計2点、鉄製品は棒状のもの（38）1点9.8g、何らの金具（39）1点・釘（40～43）は実測外の11点44.2gを加えて計15点、その他に軽石2点33.1gである。　かわらけ小皿は14～20が深い形態を採るものだが、橙色粒子等含むものが多く、精良胎土のものは見受けられない。21は中皿といえる寸法のもの。26は胎土緻密で硬質に焼き上がっており、胎土・成形が方形竪穴2で出土しているもの（図35－10）に似ている。27は輪花型の瓦器質火鉢で、外面右端割れ口際にヘラ押し部分が遺存し、口縁部下には中央に十字をあしらった亀甲文が押されている。口縁部は横位、体部は内外面とも斜位のミガキ調整が施され、内面体部下位は横方向へナデられている。29の内面底部はよく摩滅するが、体部下半はさほど使用されていない。30の内面、31の内面下半はよく摩滅している。32は金雲母を含む軽質胎土で軟質。33の外面にはわずかに鎬蓮弁文が見える。36は近畿地方産かと思われるが産地不明。砥面は表面・下端の2面、下端は砥面としては傷み気味だが下方に丸鑿を砥いだと見られる抉

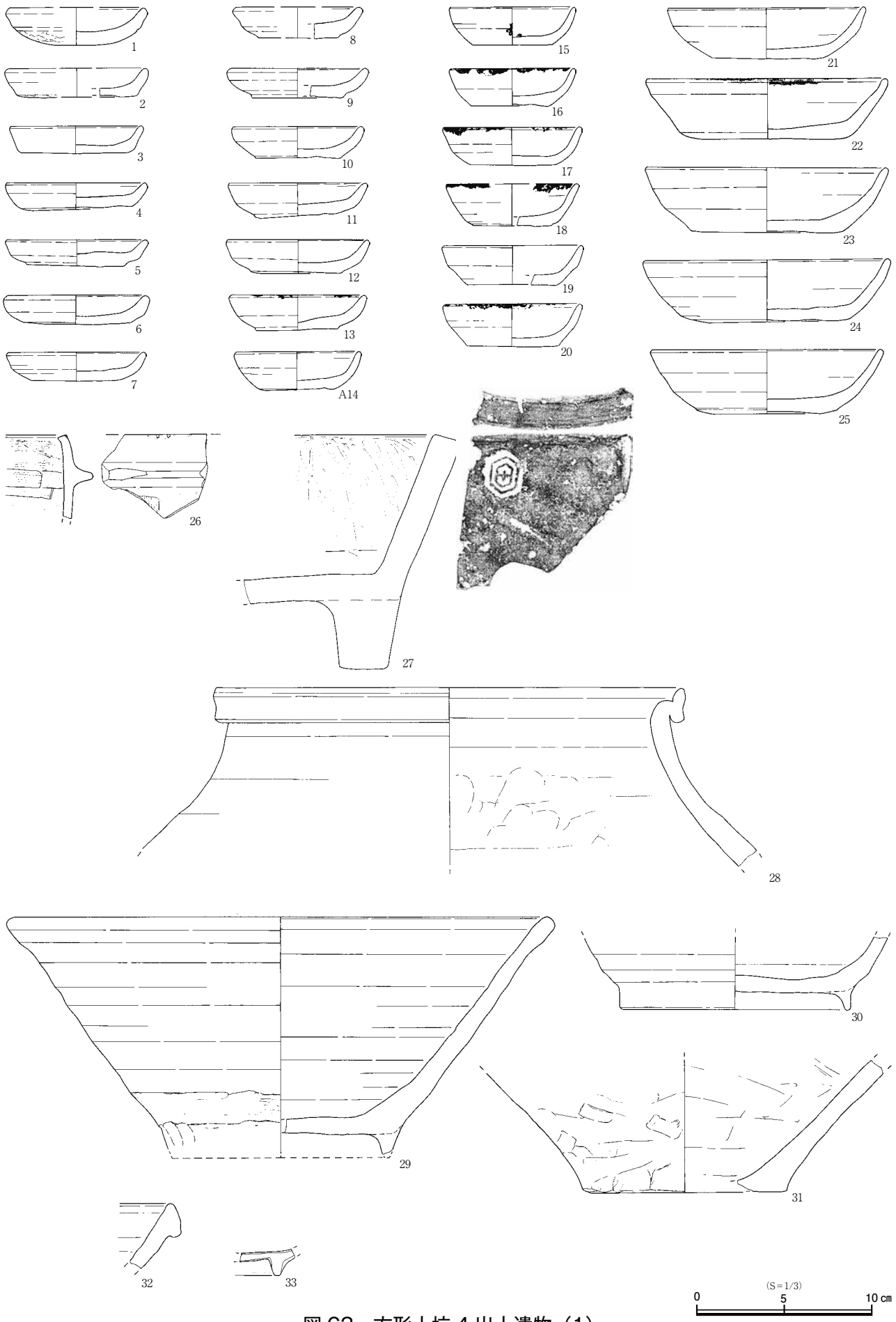


図 63　方形土坑 4 出土遺物（1）

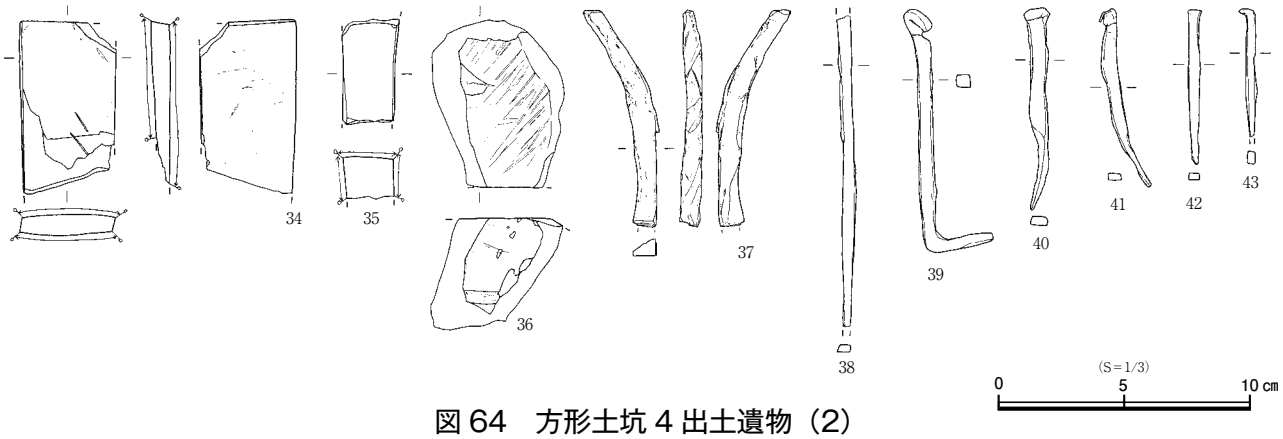


図 64　方形土坑 4 出土遺物（2）

れが残っている。37の下端は欠損面とみたが、折り取られた部分かもしれない。39は上端が小さく鉤状に巻かれているもので、下方は直角に近い方向へ折れている。同様の形態のものはⅡ期遺構外（図67－45）からも出土しており、下方の折れも意図して鍛造されたものであれば建築金物の類いにみえる。

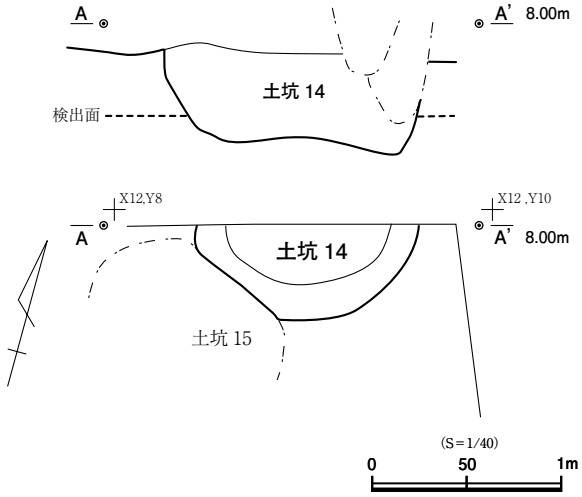


図 65　土坑 14

土坑14（図65）

Ⅰ区のX11,Y8～9付近に位置する。土坑15Aとの新旧関係は不明。検出面の標高は7.51mであるが、調査区壁の土層で7.88mからの掘り込みを確認できる。検出された規模は117×48cm、底面標高6.30mで深さは58cmである。遺物はロクロ成形のかわらけ小皿3点・大（中）皿10点、常滑窯の甕1点、鳴滝産の砥石1点が出土している。

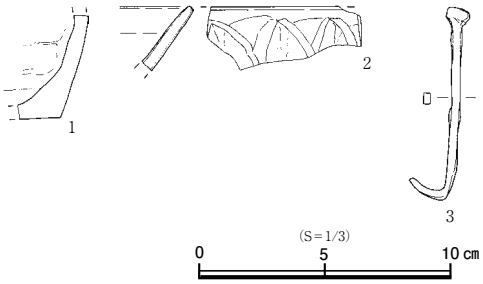


図 66　P31 出土遺物

ピット31（図29・66）

Ⅰ区のX10,Y4付近に位置する。Ⅰ期の遺構・溝1に切られ、方形土坑4を切っている。確認面の標高は7.65mである。検出された規模は70×49cm、底面標高は7.24mで深さは41cmである。

遺物（図66）はロクロ成形のかわらけ小皿1点・大（中）皿8点、常滑窯の鳶口壺（1）1点、龍泉窯青磁鎬蓮弁文碗（2）1点、鉄釘（3）1点7.5gである。1の内面は指頭による強い横ナデ、外面は斜位・横位のナデが施され1部に指頭痕が残っている。

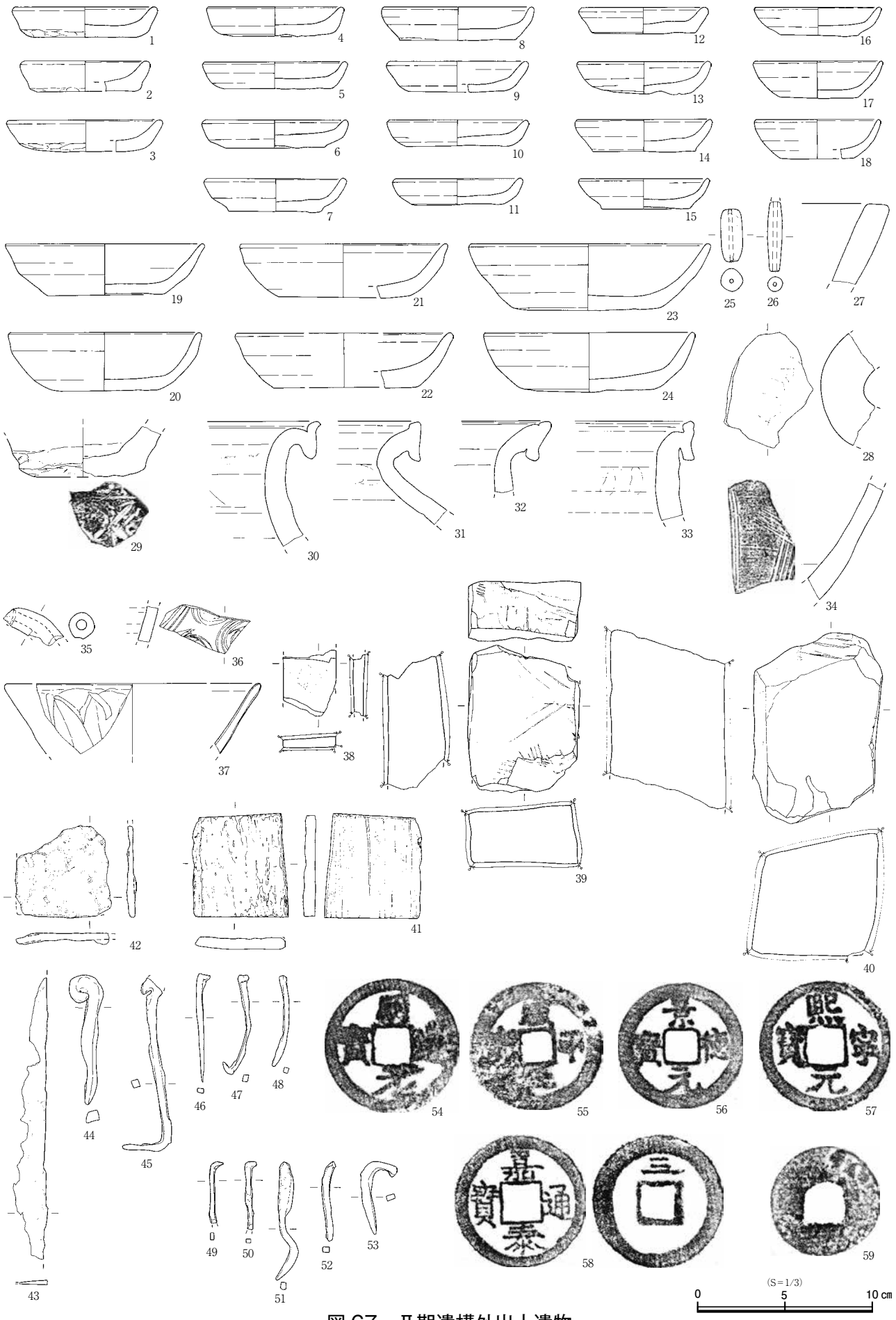


図 67　Ⅱ期遺構外出土遺物

Ⅱ期遺構外出土遺物（図67）

主に方形竪穴群のプラン確認中に出土した遺物である。総出土数は手づくね成形のかわらけ（1～3）小皿が4点・大皿が2点、ロクロ成形のかわらけ（4～24）は192点で、うち小皿が61点・大（中）皿が131点、土錘（25・26）2点、土器質火鉢1点、瓦器質火鉢（27）2点、鞴の羽口（28）1点、常滑窯の壺（29）2点・甕（30～33）68点、片口鉢Ⅰ類4点、片口鉢Ⅱ類3点、備前窯擂鉢（34）1点、舶載品は、青白磁の水注（35）1点・梅瓶（36）1点、龍泉窯青磁鎬蓮弁文碗（37）1点、鳴滝産の砥石（38）1点、出羽産かと見える砥石1点、天草産の砥石（39・40）2点、加工骨は（41）に実測外から切断痕のあるクジラ骨小片1点を加えて計2点、鉄製品は、薄板状の不明品（42）1点、刀子（43）1点・金具類（44・45）2点・釘（46～53）は実測外の22点76.5gを加えて30点、粉砕されたスラグ20.6g、銅銭（54～59）7点である。かわらけは15・17・18の胎土が混入粒子も少なく良い。19・20は中皿になり得る寸法のもの。23は口径13cmを超える大降りなもの。26の土錘は胎土緻密で作りが非常に良い。27は器表面が摩滅して1次調整のナデ痕が見えている。28は復元がかなわなかったが、外径8cm、内径2.5cm程になる。29の外底面には先端の尖った棒状工具で掻いたような痕跡が残る。内底面には窯クソが厚く付着している。35は水注の注ぎ口部分の残欠。器表面は2次焼成を受け失透している。39は上下端を欠損するものだが、欠損後も継続して使用されていたように見受けられる。上端欠損面には刃物が当たった痕跡が残っており、下端も表面の欠損部際に刃物痕が集中している。40は下端を欠損、表裏・両側の4面が砥面。上端は何らの工具が当たった痕跡が見える。消費地で加工されているかもしれない。41は全面を加工して四角い板状にしたもの。42は左側・下端が遺存、四角いもののようだが、傷みがひどくわからない。43の左側は欠損部分の範囲がはっきりせず、遺存する状態をそのまま図化した。下端の細くなる部分は、中子部分か欠損したのか判断できない。44の上端は環状金具とも欠け金具とも付かない形状、45は方形土坑4からも同様なもの（図64－39）が出土している。59は周縁と表面を磨いて加工している。

第３節　中世Ⅲ期

土坑1基、ピット82口を中世Ⅲ期として報告する。基本土層のⅢa層を掘り込んだと考えられる遺構群である。中世Ⅱ期からⅢ期はほとんど同一面上で調査されており、掘り込み時期のわからない遺構も含まれるが、ピットの大半を本時期の遺構として扱う。理由として、調査区北壁の土層でみると、遺構検出面の標高7.34～7.55mは、Ⅱ期のピット底面の標高と大差がなく、この面で検出されたピットの多くがⅢ期の所産である可能性が高いこと、重複関係を持つものは方形竪穴などのⅡ期の遺構に切られていること、多くのピットの覆土がⅢ期の基盤層である赤茶色～茶褐色砂であったことを上げておく。また、最終調査面の基本土層Ⅳ層上（標高6.90～7.20m）で検出された遺構はすべて本時期の所産とした。

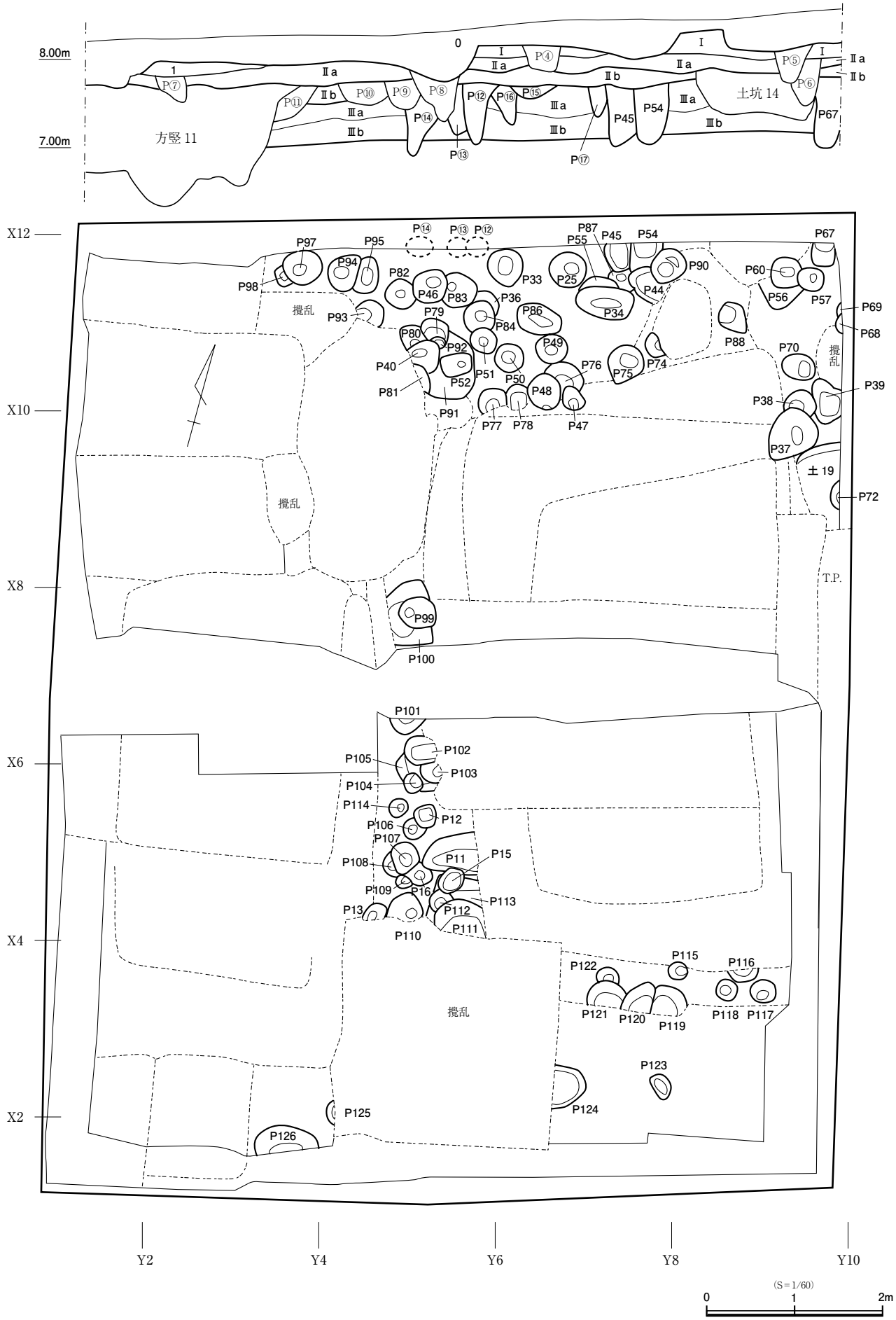

8.00m
7.00m
方竪 11
土坑 14
撹乱
T.P.
土 19
X12
X10
X8
X6
X4
X2
Y2
Y4
Y6
Y8
Y10
(S=1/60)
0
1
2m

図 68　Ⅲ期遺構配置図

土坑19・かわらけ溜まり（図69）

かわらけ溜まりは調査1面で検出されたものだが、他遺構との重複関係や覆土の観察からⅢ期遺構と判断した。また、Ⅲ期の遺構である土坑19（現地調査ではP61）に重なる位置にあるため、同一遺構と見て土坑19をかわらけ廃棄土坑とした。土坑19はP72に切られている。検出面の標高は7.43m。検出された規模は101×50㎝、底面標高は7.23mで深さは23㎝である。かわらけは7.5m付近で検出、土坑底面より20～25㎝上にまとまって廃棄されている。

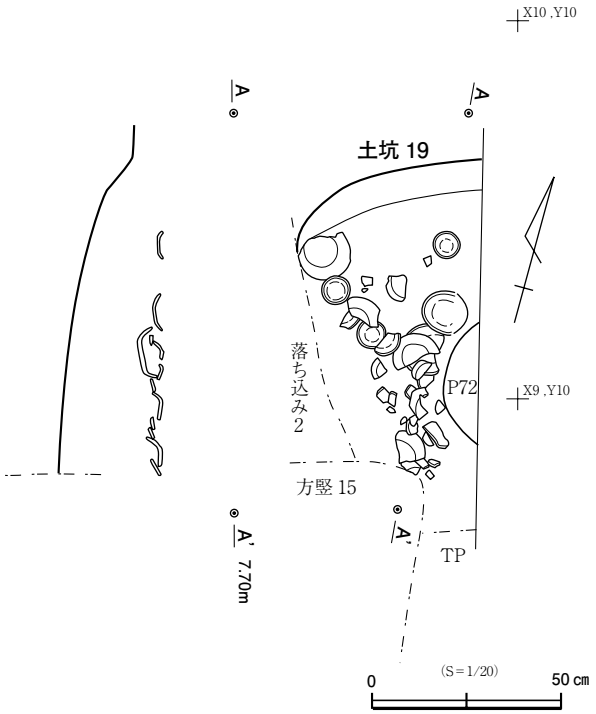


図 69　土坑 19・かわらけ溜まり

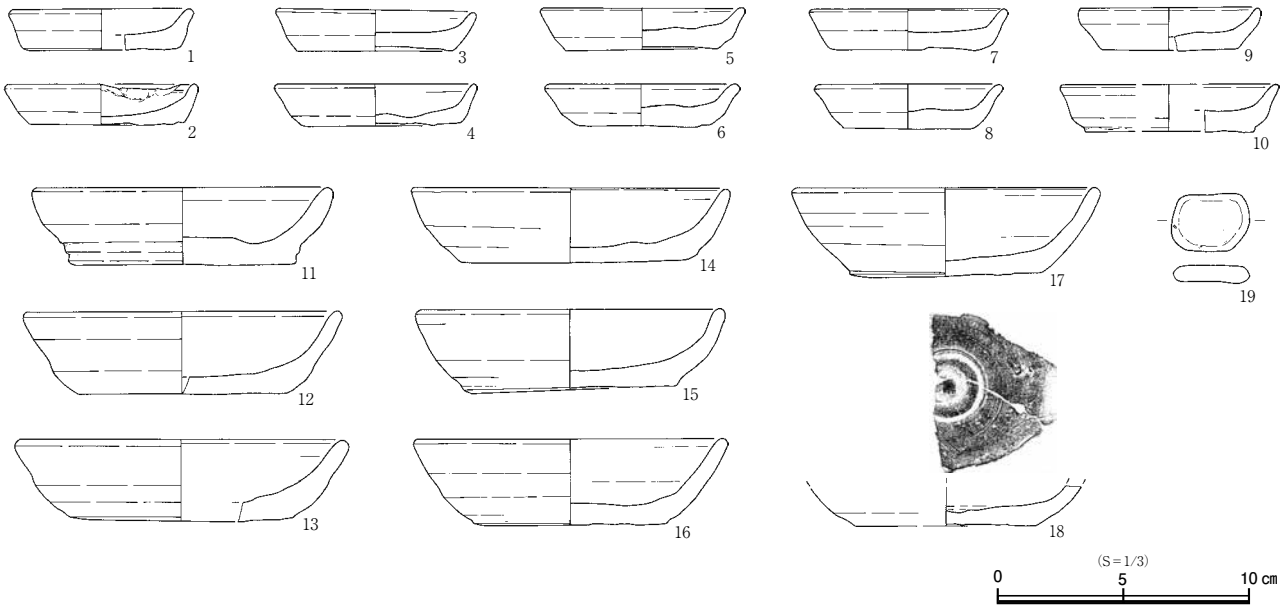


図 70　かわらけ溜まり（土坑 19）出土遺物

土坑19・かわらけ溜まり出土遺物（図70）

手づくね成形のかわらけ大皿1点、ロクロ成形のかわらけ（1～18）が106点で、うち小皿が22点・大（中）皿が84点、かわらけ片を転用した円盤状土製品（19）1点が出土している。かわらけ小皿はいずれも色調にぶい淡橙色～淡褐色を呈する微砂質胎土で、形状も似るものが多い。2はロクロ成形後に破損した部分を粘土を貼り増しして補修している。18は内底の横ナデが甘くロクロ目を明瞭に残すもの。19はかわらけ片を擦って楕円形に加工している。

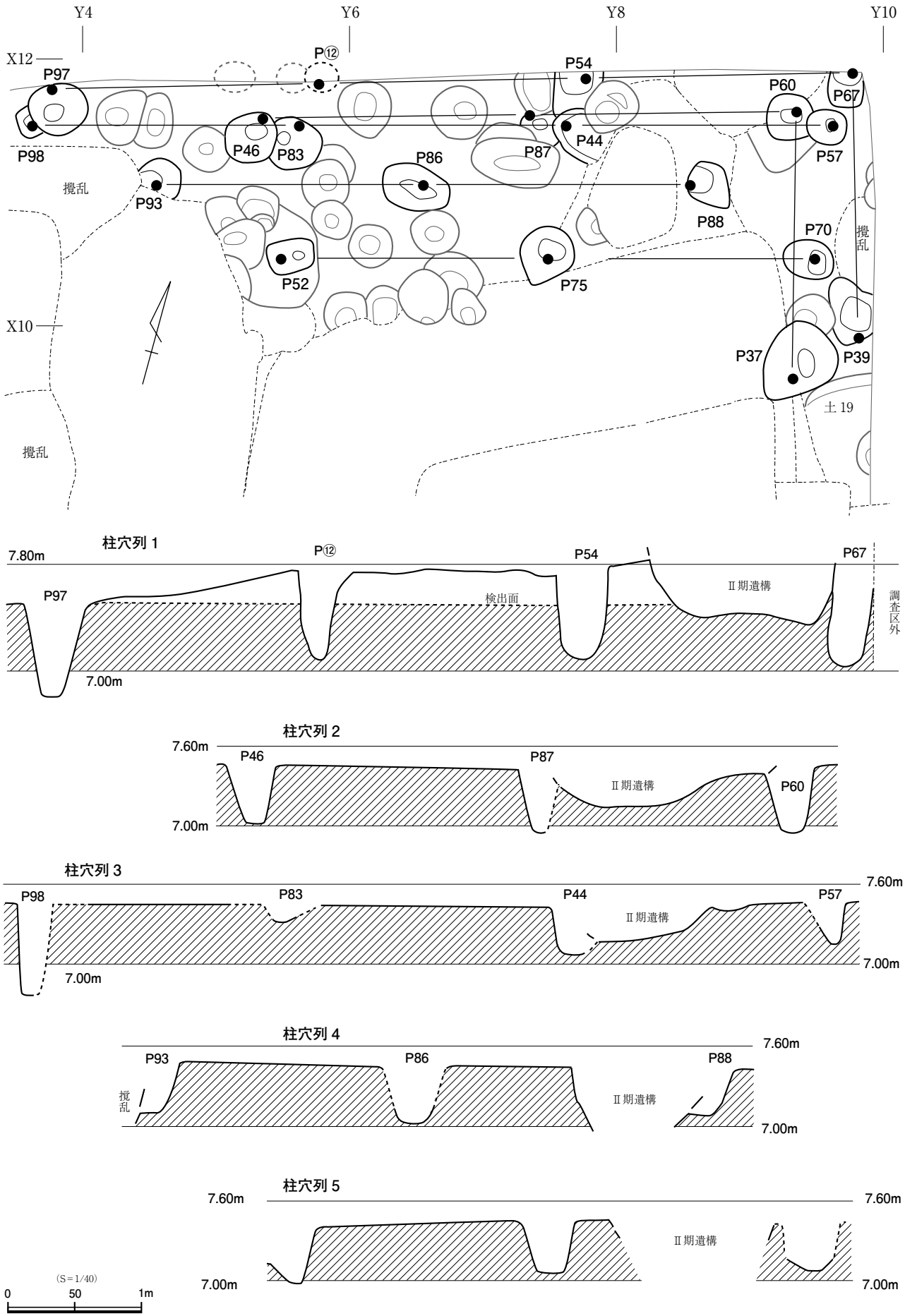

Y4
Y6
Y8
Y10
X12
X10
P97
P98
P⑫
P54
P60
P67
P46
P83
P86
P87
P44
P57
P93
P88
P70
P52
P75
P37
P39
撹乱
土19
柱穴列 1
7.80m
7.00m
検出面
Ⅱ期遺構
調査区外
柱穴列 2
7.60m
柱穴列 3
柱穴列 4
柱穴列 5
(S=1/40)
0
50
1m

図 71　Ⅲ期ピット群（1）

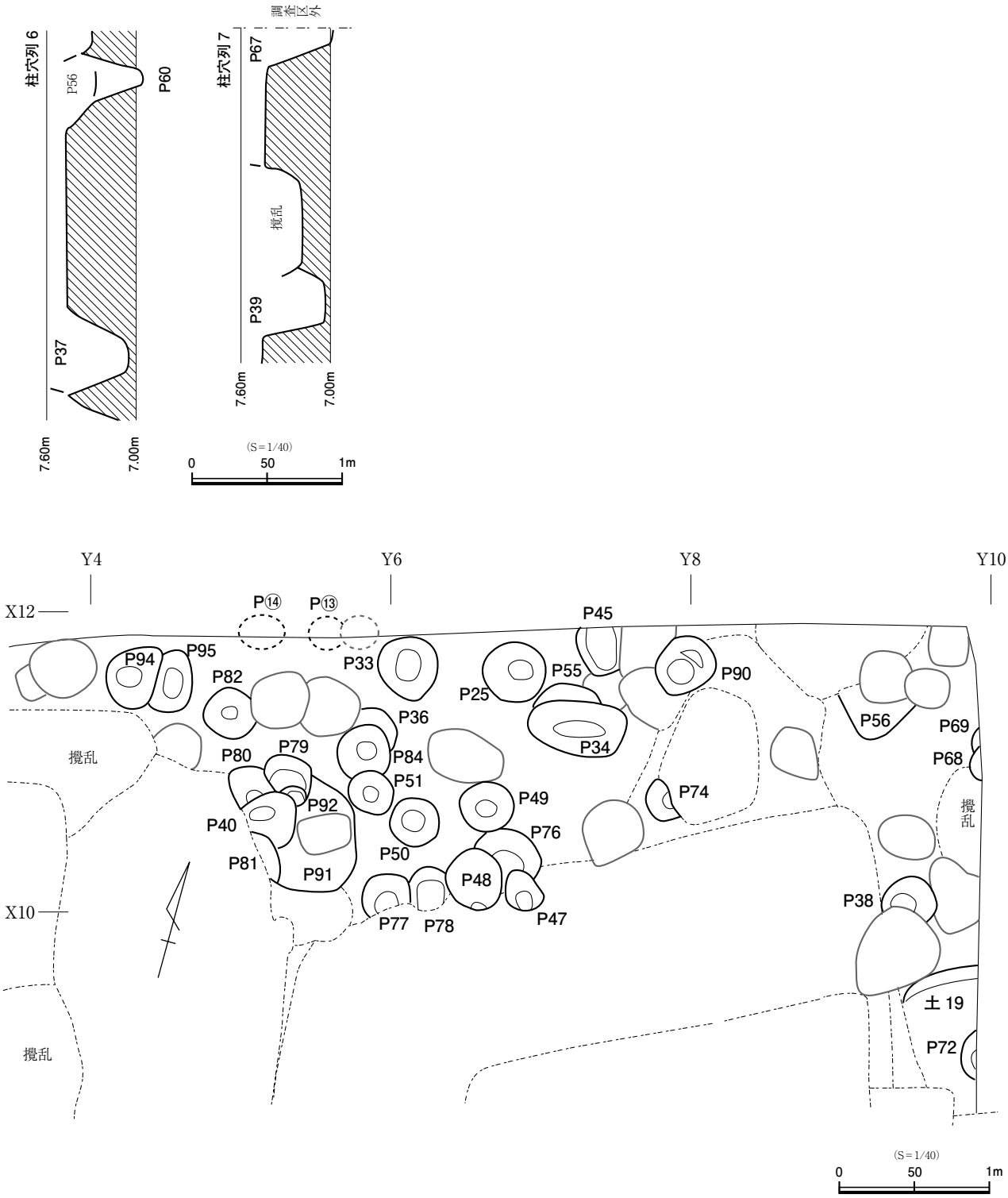


図 72　Ⅲ期ピット群（2）

Ⅲ期ピット群（図71～73）

柱穴列：Ⅱ期の方形竪穴等、掘り込みの深い遺構に削平された部分を除き調査区のほぼ全域にピットが分布している。掘立柱建物を構成し得る可能性のあるものとして、ピットの中から柱間がおよそ2mで3口以上並ぶものを抽出し、柱穴列1～5とした。更に、南北方向の2口の並びを加えて、柱穴列1と柱穴列7で東西3間以上、南北1間以上の組み合わせ、柱穴列2と柱穴列6で東西2間以上、南北1間以上の組み合わせが考えられる。

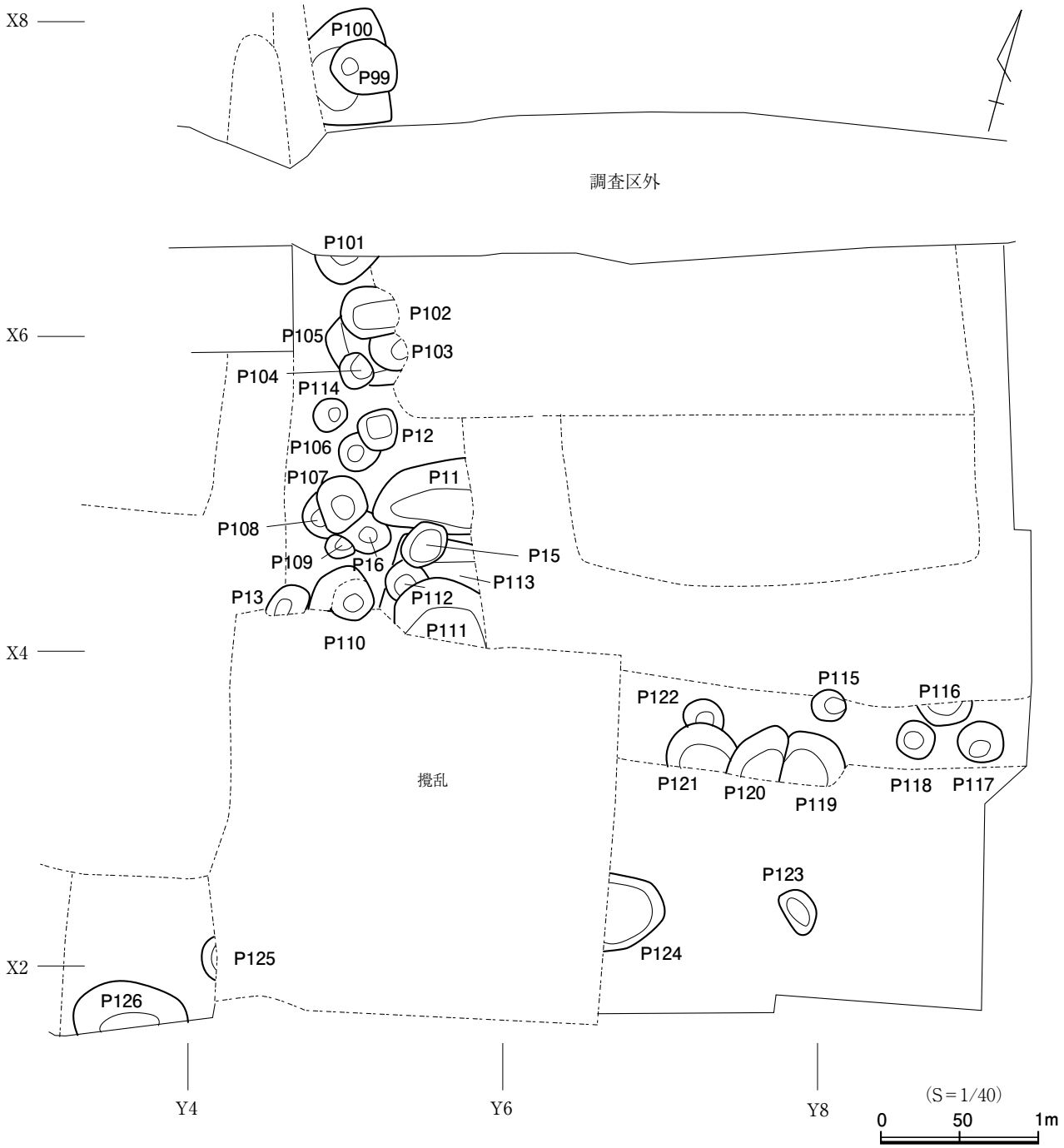


図 73　Ⅲ期ピット群（3）

ピット：記録がなくピットを特定出来ないが、Ⅰ区北側のいくつかは茶褐色砂を掘り方埋土とし、中心に柱痕と見られる腐植土層を残していた。ピット⑫～⑭は土坑16の名称で、ひとつの遺構として掘り上げてしまったものだが、調査区北壁の土層断面をたよりに復元した。その他、平面的に全く検出されていないピットについては、土層断面（図68）にピット名を記すにとどめた。個々のピットの詳細はⅢ期ピット表を参照されたい。

表２　Ⅲ期ピット表（1）

遺構名	備考	検出標高	底面標高	長径 × 短径	出土遺物（図 74）
P 97	柱穴列 1	7.46m	6.78m	44×29 ㎝	
P 54	柱穴列 1	（7.72）m	7.04m	33×36 ㎝	かわらけ小 2・大（中）3
P 58	柱穴列 1	（7.79）m	6.99m	27×27 ㎝	かわらけ小 1・大（中）1、常滑窯甕 1
P ⑫	柱穴列 1	（7.71）m	7.05m	（38）㎝	P⑫～⑭は遺物混在、本文参照。
P 39	柱穴列 7	7.46m	7.04m	52×41 ㎝	かわらけ小 1（16）・大（中）1、常滑窯甕 1、鳴滝産砥石 1
P 46	柱穴列 2	7.46m	7.02m	39×37 ㎝	かわらけ小 3（21・22）・大（中）2、土器質火鉢（23）1、白磁口兀皿（24）1
P 87	柱穴列 2	7.42m	6.94m	35×23 ㎝	
P 60	柱穴列 2	7.46m	6.96m	37×35 ㎝	かわらけ小 1
P 37	柱穴列 6	7.44m	6.99m	65×45 ㎝	かわらけ小 1・大（中）9、渥美窯甕 1、鉄釘 2 点 3.5g
P 98	柱穴列 3	7.46m	6.77m	33×27 ㎝	
P 83	柱穴列 3	7.10m	6.97m	43×39 ㎝	
P 44	柱穴列 3	7.43m	7.09m	46×36 ㎝	手づくねかわらけ小 1（18）、かわらけ大（中）5、鉄製品（19）1 点 21.9g
P 57	柱穴列 3	7.45m	7.15m	30×26 ㎝	かわらけ大（中）1
P 93	柱穴列 4	7.49m	7.10m	34×26 ㎝	
P 86	柱穴列 4	7.44m	7.32m	55×33 ㎝	
P 88	柱穴列 4	（7.42）m	7.09m	39×31 ㎝	
P 52	柱穴列 5	7.40m	6.95m	37×25 ㎝	かわらけ小 5・大（中）8
P 75	柱穴列 5	7.46m	7.06m	40×37 ㎝	
P 70	柱穴列 5	7.46m	7.05m	40×29 ㎝	
P 11		7.48m	7.05m	64×44 ㎝	かわらけ（1～10）小 9・大（中）20、鉄釘 1 点 5.2g
P 12		7.31m	7.04m	27×25 ㎝	かわらけ小 1・大（中）2
P 13		7.27m	6.88m	23×21 ㎝	
P 14		7.27m	7.15m	36×28 ㎝	かわらけ大（中）1、鞴羽口 1
P 15		7.48m	7.28m	33×25 ㎝	鉄釘 1 点 1.1g
P 16		7.27m	7.02m	27×25 ㎝	鞴羽口 1
P 33		7.49m	7.34m	43×39 ㎝	かわらけ小（11）2・大（中）2、鉄製品 1 点 121g、スラグ 1 点 16.1g、銅銭（12・13）2
P 34		7.48m	7.23m	65×36 ㎝	かわらけ小 3・大（中）4、鉄釘（14）1 点 2.0g
P 36		7.46m	7.27m	40×37 ㎝	白磁口兀皿（15）1、鉄釘 1 点 3.8g
P 38		7.47m	7.33m	38×34 ㎝	かわらけ大（中）1
P 40		（7.40）m	6.88m	40×37 ㎝	かわらけ小 3・大（中）4
P 45	旧 P53 を含む	（7.71）m	7.01m	33×40 ㎝	かわらけ小 1・大（中）7、常滑窯片口鉢Ⅰ類 1、龍泉窯青磁合子（20）1、鉄釘 2 点 4.7g
P 47		（7.48）m	7.10m	29×23 ㎝	かわらけ小 1、滑石鍋 1
P 48		7.48m	7.15m	39×32 ㎝	
P 49		7.46m	7.30m	37×33 ㎝	手づくねかわらけ小 1、かわらけ小 1・大（中）3、常滑窯片口鉢Ⅰ類 1
P 50		7.46m	7.27m	33×33 ㎝	かわらけ小（25）1
P 51		7.42m	7.28m	32×29 ㎝	
P 55		7.40m	7.28m	47×21 ㎝	かわらけ大（中）2
P 56		7.46m	7.27m	51×39 ㎝	かわらけ小 1
P 68		7.20m	7.09m	22× 7 ㎝	
P 69		7.20m	7.09m	15× 7 ㎝	
P 72		7.20m	7.10m	35×13 ㎝	
P 74		7.17m	6.95m	30×17 ㎝	

表２　Ⅲ期ピット表（2）

遺構名	備考	検出標高	底面標高	長径 × 短径	出土遺物（図 74）
P 76		7.49m	7.35m	43×37 ㎝	
P 77		7.43m	7.29m	33×21 ㎝	
P 78		7.43m	7.12m	30×29 ㎝	
P 79		7.40m	7.14m	32×28 ㎝	
P 80		7.40m	6.98m	27×21 ㎝	
P 81		（7.40）m	6.99m	45×17 ㎝	
P 82		7.48m	7.02m	35×33 ㎝	
P 84		7.13m	7.02m	37×35 ㎝	
P 90		7.44m	6.73m	42×37 ㎝	
P 91		7.40m	7.13m	76×43 ㎝	
P 92		（7.40）m	7.12m	17×12 ㎝	
P 94		7.48m	7.22m	45×33 ㎝	
P 95		7.48m	7.22m	43×26 ㎝	
P 99		7.29m	6.53m	44×36 ㎝	
P100		7.29m	6.98m	77×58 ㎝	
P101		7.33m	6.96m	39×15 ㎝	
P102		7.33m	7.00m	37×34 ㎝	
P103		7.33m	6.99m	27×23 ㎝	
P104		7.33m	7.11m	24×21 ㎝	
P105		7.33m	7.18m	53×28 ㎝	
P106		7.37m	7.23m	25×22 ㎝	
P107		7.27m	7.03m	33×32 ㎝	
P108		7.27m	7.15m	28×16 ㎝	
P109		7.27m	7.12m	15×15 ㎝	
P110		7.26m	7.11m	42×34 ㎝	
P111		7.51m	6.97m	59×38 ㎝	
P113		7.44m	7.17m	60×60 ㎝	
P114		7.31m	7.21m	23×19 ㎝	
P115		6.99m	6.94m	22×17 ㎝	
P116		6.99m	6.96m	34×14 ㎝	
P117		6.99m	6.87m	29×26 ㎝	
P118		6.99m	6.94m	24×23 ㎝	
P119		6.99m	6.85m	38×33 ㎝	
P120		6.99m	6.85m	36×35 ㎝	
P121		6.99m	6.88m	45×29 ㎝	
P122		6.99m	6.94m	25×21 ㎝	
P123		6.78m	6.59m	30×19 ㎝	
P124		6.76m	6.70m	49×34 ㎝	
P125		7.29m	7.23m	27×10 ㎝	
P126		7.31m	7.10m	72×27 ㎝	
P⑫	土坑 16 として調査、土層より復元	7.72m	7.04m	（39）㎝	土坑 16 として共に取りあげ、かわらけ小（26～28）3・かわらけ大（中）（29）1、尾張型山茶碗 1、珠洲窯？甕（30）1
P⑬		7.72m	7.15m	（18）㎝	
P⑭		7.60m	6.90m	（38）㎝	

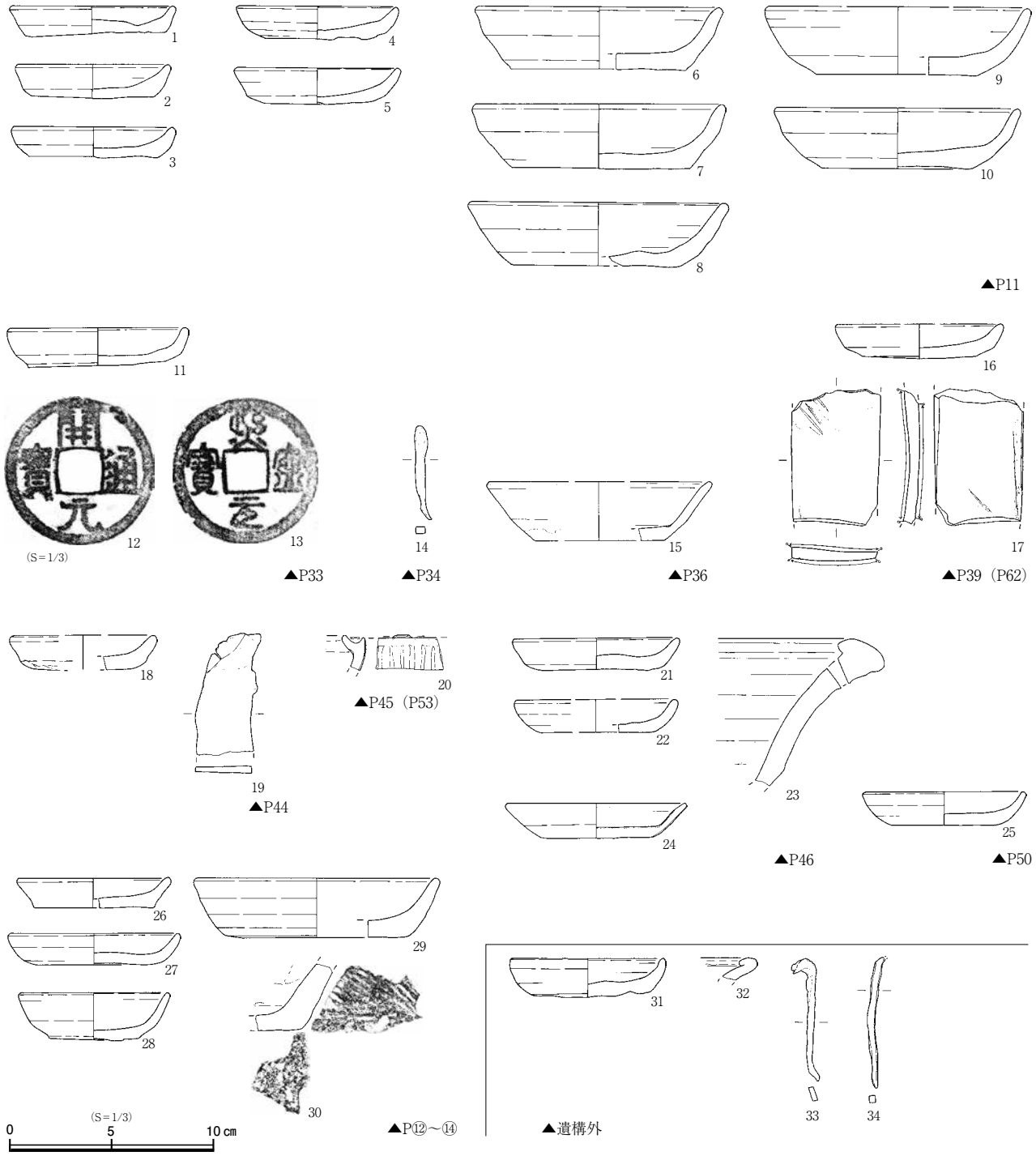


図 74　Ⅲ期ピット、Ⅲ期遺構外出土遺物

Ⅲ期ピット出土遺物（図74－1～30）

各ピットの総出土数はⅢ期ピット表に示した。1～10はピット11から出土したもの。いずれもロクロ成形のかわらけで、胎土は微砂質のものが多い。15は白磁口兀皿で内底周縁に圏線が巡っている。17は鳴滝産の仕上げ砥。18は手づくね成形のかわらけ、19は鉄製品で長さのある板状のもの。用途はわからない。20は龍泉窯青磁の合子である。外面に線書きの連弁文を有する。23は土器質火鉢。口縁部下に孔を有し、口径30cmを超えそうなもの。粉質気味の良土を胎土とし、比較的作りが良い。口縁部から内面は丁寧な横ナデ、外面は上半未調整で手づくね痕が残る。下半稜より下はケズリ気味のヘラナデ調整が施されている。24は白磁口兀皿で内底周縁に圏線が巡っている。30は珠洲窯産の可能性があ

るが断定できず産地不明。甕の底部片と思われる。外面は斜位の平行タタキ目、底部脇は横位ヘラケズリ後、横位ヘラナデ、底部には籾殻と見える痕跡が残る。内面は指頭ナデのように見えるが器表面が荒れており調整不明である。

Ⅲ期遺構外出土遺物（図74－31～34）

Ⅱ期の遺構掘削終了後、最終調査面までに検出された遺物である。総出土数はロクロ成形のかわらけ小皿（31）1点、大（中）皿1点、土鍋（32）1点、鉄釘（33・34）は実測外の2点3.8gを加えて計4点。その他に軽石が54点1656.8gである。32は口縁部を内側に折り返す形態をとるもの。胎土は金雲母を含んでいない。

表土・撹乱出土遺物（図75・76）

総出土数はロクロ成形のかわらけ（1～14）174点で、うち小皿33点・大（中）皿141点、吉備系土師器碗（15）1点、土錘（16）1点、土器質火鉢（17）1点、瓦器質火鉢（18）2点、近代瓦（19）4点、常滑窯産の甕（20～24）71点・片口鉢Ⅰ類（25）4点、尾張山茶碗系片口鉢（26）1点、常滑窯片口鉢Ⅱ類（27～30）5点、備前窯の擂鉢（31・32）2点、東播系鉢（33）1点、瀬戸窯の不明盤類1点、小壺（34）1点、壺1点、華瓶2点、瀬戸美濃系の大型椀皿類（35）1点・大型碗類1点・縁折れの鉢（36・37）2点、不明陶器1点、近世以降の鉄絵が描かれた小片2点、舶載品は白磁口兀皿3点、青白磁梅瓶2点、龍泉窯青磁の劃花文碗（38）2点・鎬連弁文碗（39・40）3点・劃花文鉢（41）1点・鎬連弁文折縁鉢1点、国産磁器はいずれも近代以降のもので白磁碗1点・クロム青磁丸碗（42）1点・染付小片1点、石製品は、硯（43）1点・産地不明の硯石（44）1点・稲庭石（45）1点・産地不明の砥石（46）1点・鳴滝産の砥石（47～50）4点・上野産の砥石（51）1点、加工骨（52・53）2点、鉄製品は、蝶番（54）1点・鎹（55）1点・板状のもの1点5.6g・棒状のもの1点10.3g・鉄クズ2.7g・釘（56・57）21点115.4g、銅銭（58～66）9点である。

3は口縁部から外面の広い範囲にタールが付着している。6・8は混入物の少ない粉質気味良土を胎土とする。14は内面から外面にかけて帯状にタールが付着、灯明皿の使用痕としてはやや不自然に見える。口縁部の欠けは意図的な打ち欠きではなく、破損したもの。15はよく似たものが方形竪穴6から出土している（図52－26）。体部下の欠損部際に高台が剥がれたとみえる痕が残る。17は内外面とも回転を利用したナデ調整が施されている。18は近世以降の瓦器質火鉢。19は近代の軒平瓦で瓦当には均整唐草文が押されている。凹面・凸面とも丁寧なナデ調整が施され、瓦当裏は顎を貼付けた後に粘土紐で補強しているように見える。21はヘラ描き文、22の押印は鋭角的な弁による花文、23の押印は細かい格子目文。30は内面体部下半が摩滅しているが、さほど使用されているようには見えない。31は外面及び口縁部内側に敲打痕が残る。33の口縁部は外方下から体部に至る部分が面取り気味にナデられている。35は大窯期の製品で、大型の皿ないし平碗。36・37は連房窯期の製品。43は赤間が関産の硯で、側足部分の残欠とみられる。設置面の1部が遺存、残存する高さは1.6㎝。硯本体向き側に残るコーナー部分は内側が丸く整形されている。44は硯石か。産地は不明であるが、丹波から京都辺りのものかもしれない。表面は非常に滑かで斜め方向の細かいキズが見られる。45は稲庭石で、右左側は整形面。砥石ないし硯としての使用を考えられるが、残存部分からは用途を判断できない。46は産地不明の仕上砥。緻密で色調は赤味が強い。47の右側は半ば工具を入れて折り取られている。48の左側上側は石目割れにより欠損するが、よく摩滅しており欠損後も継続使用されていたよう見受けられる。49は表面に砥面が遺存、その他は欠損しているが、規格以上の寸法のものに見える。原材で搬入されたも

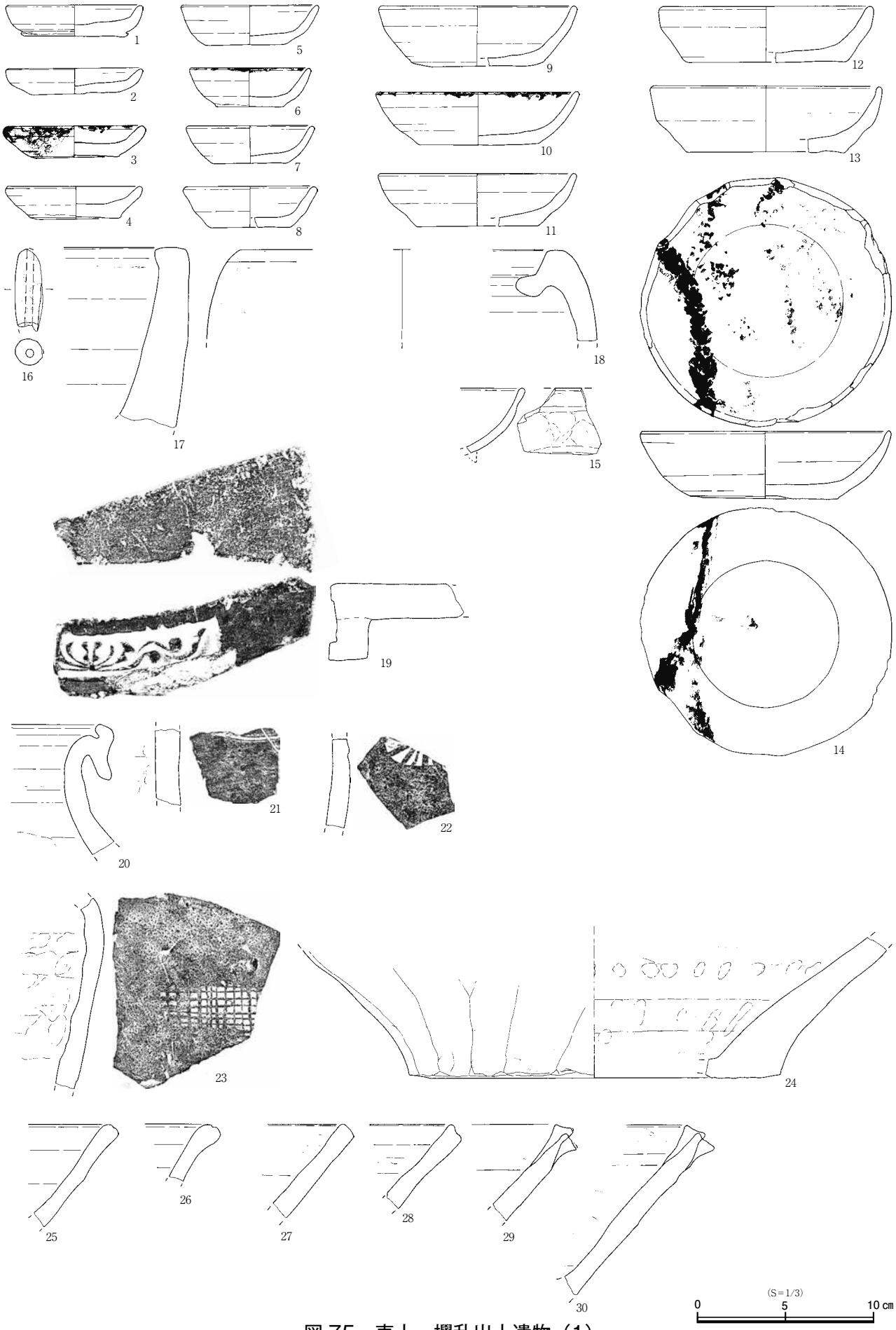


図 75　表土・攪乱出土遺物（1）

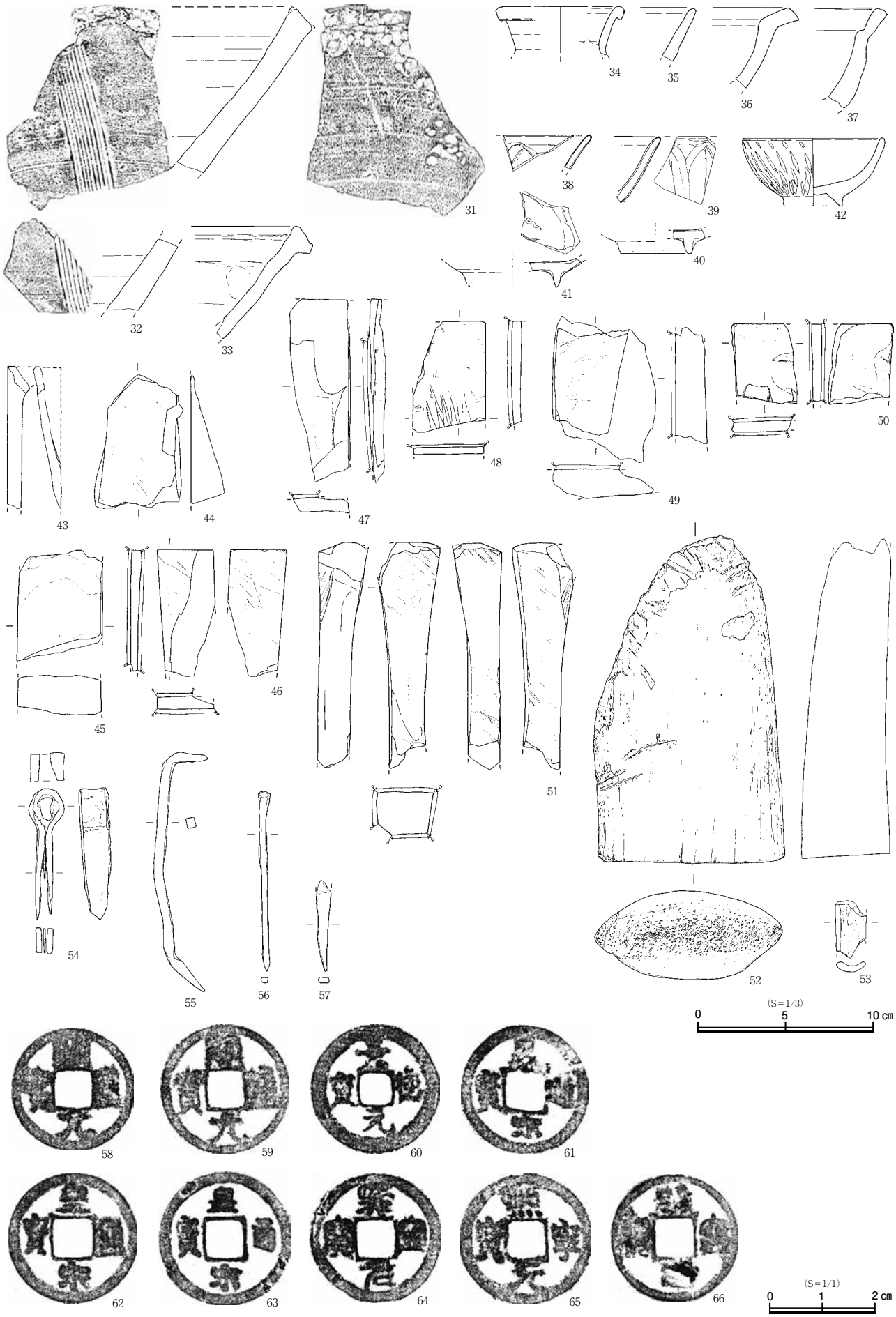


図 76　表土・攪乱出土遺物（2）

のかもしれない。50の右側は半ば工具を入れて折り取られている。背面は剥離後もよく研いで使用されている。51は角の1部を斜めに整形している。消費地で加工したものかもしれない。52は下端が切断面。上方は欠損部に沿って刃物痕が多数見られる。表面を刃物で削り薄くしたうえで、芯の部分を折り取っているかもしれない。53は縦に裂いた四肢骨の割れ口を平滑に加工している。背面は自然面である。54・55は中世より同様の用途・形態が在るものだが、ごく新しい時代のものの可能性もないとは言えない。

第4節　中世以前の遺物（図77）

土師器坏は17点出土し、ロクロ土師器（1）の他に相模型や扁平な丸底形態を採る有稜坏がみられる。土師器甕は21点で、武蔵型（2）や相模型の他に、厚手のものや台付きになるもの、口唇部にキザミを持つもの（3）など古墳時代前期頃までさかのぼるものも見受けられる。須恵器坏は19点で、回転糸切り無調整のものを主体に、周縁をヘラケズリするものなどがあり、御殿山5号窯式とみえるものも含まれる。須恵器壺・瓶類は長頸瓶（4）のほか、取手を持つもの、南比企産の小型壺などあり、甕（5）を含めて45点出土している。土師器・須恵器が示す年代は7世紀末から9世紀代が中心となる。

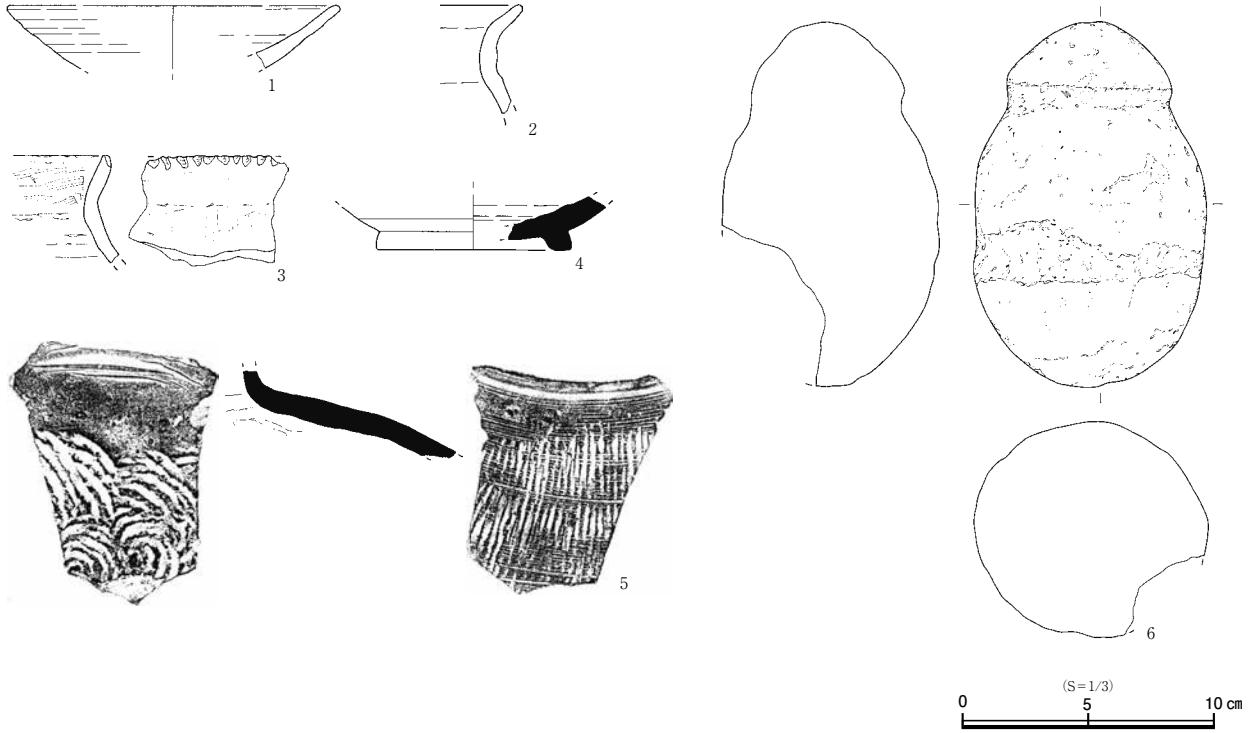


図77　中世以前の遺物

第四章　まとめ

調査では３時期にわたる中世の遺構群を検出した。軸方向の確かな遺構を見る限り、この地では一貫して「長谷小路」であったとされる調査地北側道路に沿った生活が営まれている。土地利用の変遷をみるとⅢ期の掘立柱建物にはじまる土地の使用は、Ⅱ期には方形竪穴による構成へ変化する。方形竪穴群の廃絶後をⅠ期とすれば、谷戸地開発に伴う土丹を含む客土層が遺跡内に積極的に持ち込まれ、新たな土地利用が始まるようだが、生活面が削平により消失しており、この時期の詳細は明らかに出来ない。Ⅰ期・Ⅱａ期として報告した遺構群のうち土坑３・7、方形土坑１など、覆土に大型の土丹を多く含むものはⅠ期の所産である可能性が高いものと考える。Ⅱａ期はⅡ期の方形竪穴とほぼ同軸方向に並ぶ溝１（土坑４・5）・溝２や方形土坑２を考えたい。これらの遺構は、大半の方形竪穴が姿を消した後に、設置された施設となるのだが、近隣調査地の成果を合わせれば、他地点で方形竪穴が存続している時期に、この地が区画溝とその周囲に空閑地をもつ構成へ変化しても不都合はない。また、本調査地内でも方形竪穴１は位置と重複関係から、この区画溝と共存していた可能性もないとはいえない。溝１・溝２を壊して作られた方形土坑２では、口縁部を打ち欠かれ、肩部を穿孔された鳶口壺が出土し、壺内からは４枚の銅銭が見つかっている。坑内には炭化した木材と見られる層があり、鉄釘が 19 点出土していることから考えて、儀礼的な処置を施された蔵器が木箱に納められていたものと想定する。この方形土坑２が位置する調査グリッドのY4付近は、Ⅱ期以降、旧い順に方形土坑４→方形竪穴間の空き地（通路？）→溝１→方形土坑２という利用がなされており、ある期間、敷地境となってたことがほぼ確実な位置となるのだが、方形土坑４は壁に小穴を持つ構造や、整った形態、規格性の高い寸法を有し、単に区画を担う性格だけのものとは思われない。方形土坑２の存在も含めて、そこが単なる敷地の境にとどまらない意味をもった場であった可能性を考えられるかもしれない。

遺物は大半がⅡ期の方形竪穴覆土中から出土したもので、重複が密なため他遺構間で接合したものや、接合されないものの同一個体と認められる例が目立つ。確認面、確認面まで、Ⅱ期遺構外とした遺物も、多くは方形竪穴の平面確認時に覆土上層の遺物を取り上げてしまったものと考えられる。Ⅰ期の遺構は方形竪穴の覆土上の窪地であったり、Ⅱ期の遺構覆土を掘り返して構築されたためか、Ⅱ期のそれから外れる時期を示すものは見受けられない。Ⅲ期は出土遺物が少なく時期を伺う資料に乏しい。かわらけ溜まりは背低で底部の広い小皿が揃い、他時期のかわらけに比して、複数の形態の混在もなく、旧い傾向を示す一群のまとまりとなるが、共伴遺物がなく時期を明確にするには至らない。

全体を見渡して、国産陶器の生産地年代に限っていえば 13 世紀後半から 14 世紀前半に集中している。方形竪穴群の存続時期をそのあたりにあて、Ⅰ期も方形竪穴の埋没完了期として、その内の新しい時期に含めておきたい。上記年代より溯る遺物として、13 世紀初頭、13 世紀第２四半期の特徴を示す常滑産の製品が出土している。前者は度外視するとして、後者についても、この地の開発時期を示す量といえるかわからない。Ⅲ期はⅡ期の旧い時期に含めるか、さほど隔たらない時期を考えておきたい。

図 78 に示した近隣調査地点のうち地点３・５は調査年度が古く、明確な位置の資料がないため隣接道路や隣地境、方位をたよりに合成している。地点８は報告書の記録から新測地系の国土座標値を計算した。新たな座標値は調査グリッドの F10 が X ＝－ 76161.823, Y ＝ -26652,616、F12 が X ＝－ 76165.804, Y ＝－ 26652.817 である。

図 78　調査地周辺の遺構配置

表３　出土遺物観察表（１）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
7	1	土坑１	かわらけ	口 1/3 ～底 3/4	(7.4)	4.5	1.8	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
7	2	土坑１	かわらけ	口 1/4 ～底 1/2	(7.6)	4.6	1.8	**胎土**：橙色　橙色粒多い砂質土
7	3	土坑１	かわらけ	口 1/4 ～底 2/5	(7.4)	(5.6)	2.0	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
7	4	土坑１	かわらけ	口～底 1/3	(7.3)	(5.3)	1.8	**胎土**：にぶい淡褐色　微砂多い砂質土
7	5	土坑１	かわらけ	口 3/7 ～底全	(11.8)	6.5	3.6	**胎土**：橙色　泥岩粗粒・橙色粒多い弱砂質土
7	6	土坑１	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：白灰色（器表茶色）　微粒子少量　風化長石混じる細砂質土　**備考**：口縁部内外 - 降灰（灰緑色）
7	7	土坑１	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部片				**胎土**：暗灰色　長石粒極多い砂質良土 **備考**：口唇部～内面 - 降灰　よく焼しまり硬質
7	8	土坑１	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部片				**胎土**：暗茶色　長石粒多い砂質土 **備考**：よく焼しまり硬質
7	9	土坑１	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	底 1/3		高台径 (12.0)		**胎土**：灰色　粗粒子含む細砂質良土 **備考**：よく焼しまり硬質
7	10	土坑１	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部片				**胎土**：暗茶色　粒子少ない細砂質土
7	11	土坑１	青白磁梅瓶	肩部片				**胎土**：灰味白色　精良土　**釉調**：青白色半透明　貫入あり　**備考**：外面 - 渦巻文櫛描
7	12	土坑１	石製品　砥石	下端欠 背面剥離	6.1 ～	2.9	1.1	鳴滝・中山産仕上砥　砥面は表裏２面 **色調**：淡黄橙色　**重さ**：32.8g
7	13	土坑１	鉄製品　釘	下端欠	7.6 ～	0.25	0.6	**重さ**：9.6g
7	14	土坑１	鉄製品　釘	完形	5.6	0.4	0.5	**重さ**：3.9g
7	15	土坑１	銅製品　銭	完形	径 2.4	穴 0.6		政和通寶　**重さ**：3.6 g
7	16	土坑２	瀬戸窯　卸皿	口～底部片				**胎土**：褐灰色　弱砂質良土　**釉調**：緑灰色灰釉ハケ塗り　**備考**：外底 - ヘラケズリ　内外底部 - 釉着痕
9	1	土坑３	かわらけ	口 1/2 ～底 3/7	(7.4)	(5.5)	1.8	**胎土**：にぶい淡橙色（胎芯黒灰色）　混入粒子並　弱粉質土　**備考**：外面体部下 - 黒変
9	2	土坑３	かわらけ	口 1/6 欠	12.1	7.6	3.4	**胎土**：にぶい淡橙色　黒色微砂多い弱砂質土
9	3	土坑３	瓦器質火鉢	底部片				**胎土**：淡橙色　黒砂極多い細砂質土
9	4	土坑３	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：明灰色（器表茶色）　風化長石混じる気孔ある細砂質土　**備考**：口縁部内面 - 降灰（褐緑色）
9	5	土坑３・土坑１	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：灰色（器表暗赤色）　粒子少ない良土 **備考**：口縁部～外面 - 降灰（緑灰色）
9	6	土坑３	尾張山茶碗系 片口鉢	口 1/5	(31.7)			**胎土**：明灰色　細砂質良土　**備考**：口唇部～内面 - 降灰ゴマ状　よく焼しまり硬質
9	7	土坑３	白磁口兀皿	口縁部片				**胎土**：白色　精良土　**釉調**：褐味白色透明　口唇部 - 露胎
9	8	土坑３・方竪３裏込・方竪６･7	白磁四耳壺	肩部片				**胎土**：白色　緻密土　**釉調**：青白色透明
9	9	土坑３	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	口縁部片				**胎土**：明灰色　精良土　**釉調**：薄青緑色半透明　貫入あり
9	10	土坑３	鉄製品　環状金具	完形	3.7	0.4	0.4	**重さ**：2.5g
9	11	土坑７	かわらけ	口～底 1/2	7.2	5.4	1.9	**胎土**：暗灰色～淡橙色　橙色粒多い砂質土
9	12	土坑７	かわらけ	口～底 1/4	(7.7)	(5.1)	1.6	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
9	13	土坑７	かわらけ	口～底 1/3	(12.1)	(7.0)	3.2	**胎土**：淡褐色　白色粒多め弱粉質土 **備考**：口縁部～内底部タール付着（灯明皿）
9	14	土坑７	常滑窯　鳶口壺	底 1/4		(9.4)		**胎土**：暗灰色（器表暗茶色）　微粒子少量　緻密土　**備考**：内底 - 降灰ゴマ状（緑色）
9	15	土坑７	銅製品　銭	完形	径 2.3	穴 0.5		至和通寶　**重さ**：3.3 g

表３　出土遺物観察表（２）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
9	16	方形土坑１	かわらけ	口 1/4 ～底 1/3	(7.9)	(5.6)	1.7	**胎土**：暗橙色　混入粒子並　弱粉質土
9	17	方形土坑１	かわらけ	口１部欠	7.8	5.6	1.6	**胎土**：にぶい淡橙色　泥岩粗粒・橙色粒多め微砂質土
9	18	方形土坑１	かわらけ	完形	7.9	5.9	1.5	**胎土**：にぶい淡褐色　泥岩粗粒・橙色粒多い弱粉質土
9	19	方形土坑１	かわらけ	口～底 3/7	(6.9)	(4.8)	1.5	**胎土**：にぶい淡褐色　橙色粒多め微砂質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
9	20	方形土坑１	かわらけ	口 1/5 ～底 2/5	(11.4)	(7.0)	3.4	**胎土**：暗橙色　泥岩粗粒含む微砂質土
9	21	方形土坑１	かわらけ	完形	12.0	8.0	3.1	**胎土**：暗橙色　泥岩粗粒多い微砂質土
9	22	方形土坑１	かわらけ	口～底 1/5	(12.8)	(8.0)	3.4	**胎土**：暗橙色　白色粒多い微砂質土
9	23	方形土坑１	瓦器質火鉢	口縁部片				**胎土**：白色（器表灰色）　白色粗粒多め軽質土　**備考**：外面 -9 弁以上花文押印
9	24	方形土坑１	常滑窯　甕	部位不明残欠				**胎土**：暗灰色（器表茶色）　粒子少ない細砂質土　**備考**：外面 - 押印あり
9	25	方形土坑１	常滑窯 片口鉢Ｉ類	口縁部片				**胎土**：灰色　粒子含む砂質土
9	26	方形土坑１	常滑窯 片口鉢Ｉ類	底部 1/6		高台径 (13.2)		**胎土**：白灰色　粒子少ない粉質気味良土 **備考**：よく焼しまり硬質
9	27	方形土坑１	尾張山茶碗系 片口鉢	口縁部片				**胎土**：灰色　粒子少ない細砂質良土　**備考**：口唇部～内面 - 降灰（暗灰色）　よく焼しまり硬質
9	28	方形土坑１	滑石鍋	底 5/6		11.4		**色調**：褐灰色　**備考**：内面 - 横位針先状工具引っ掻き痕　外底 - 細棒状工具による引っ掻き痕　外面体部下～外底–コゲ痕
9	29	方形土坑１	石製品　砥石	背面・上下端欠	6.5 ～	6.7	5.3 ～	天草産中砥　整形面３面遺存　**色調**：灰茶色 **重さ**：393.5g
9	30	方形土坑１	鉄製品　釘	下端欠	7.3 ～	0.3	0.4	**重さ**：6.0g
9	31	方形土坑１	鉄製品　釘	下端欠	6.2 ～	0.45	0.45	**重さ**：5.1g
9	32	方形土坑１	鉄製品　釘	完形	6.8	0.4	0.4	**重さ**：6.3g
9	33	方形土坑１	鉄製品　釘	上端欠	4.4 ～	0.35	0.35	**重さ**：2.1g
9	34	P2	かわらけ	口～底 1/3	(7.5)	(5.8)	1.7	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
9	35	P2	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：茶色（器表黒灰色）　粒子含む砂質良土　**備考**：口縁部～外面 - 降灰ゴマ状
9	36	P2	白磁合子	口縁部片				**胎土**：白色　精良土　**釉調**：白色透明　細かい貫入少々　口縁部 - 露胎
9	37	P2	白磁口兀皿	口 1/5	(10.1)			**胎土**：白色　やや粗土　**釉調**：白色半透明 口唇部 - 露胎
9	38	P3	龍泉窯 青磁蓮弁文折縁鉢	口縁部片				**胎土**：明灰色　粘質緻密土　**釉調**：暗緑色透明　貫入少々　**備考**：内面 - 蓮弁文陰刻
9	39	P5	かわらけ	口 1/3 ～底全	(7.8)	5.1	2.0	**胎土**：暗褐色　混入物並　弱粉質土
9	40	P5	かわらけ	口 1/3 ～底 3/4	(8.0)	5.3	1.6	**胎土**：暗褐色　混入物少なめ弱粉質良土
9	41	P5	石製品　砥石	上下端・背面欠	5.3 ～	3.7	(0.6?)	鳴滝・中山産仕上砥　砥面は表面１面遺存 背面剥離後磨滅（接地面としたか） **色調**：淡黄橙色　**重さ**：22.4g
11	1	土坑８	常滑窯　甕	肩部片				**胎土**：淡橙色（器表暗茶色）　長石細粒含む細砂質土　**備考**：外面 - 押印あり
11	2	土坑８	骨製品	１部欠	2.6	3.4	1.7	不明獣骨
11	3	土坑８	鉄製品　釘	下端欠	3.6 ～	0.3	0.6	**重さ**：5.6g
11	4	土坑９	銅製品　銭	完形	径 2.4	穴 0.6		天聖元寶　**重さ**：3.9 g
11	5	土坑 12	瓦器質火鉢	口縁部片				**胎土**：明灰色（器表黒灰色）　黒色粒少量 気孔多い軽質土
11	6	土坑 12	瀬戸窯　卸皿	口縁部片				**胎土**：灰白色　弱砂質良土　釉調：緑灰色灰釉ハケ塗り　**備考**：口唇部 - 釉剥離

表３　出土遺物観察表（３）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
11	7	土坑 13	かわらけ	口 3/4 ～底全	7.6	4.7	2.6	**胎土**：淡橙色　橙色粒多い弱砂質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
11	8	土坑 13	瀬戸窯　卸皿	口 1/3 ～底全	(13.7)	7.2	2.9	**胎土**：白灰色　弱砂質良土　**釉調**：灰緑色灰釉ハケ塗り　**備考**：外底 - 回転糸切り無調整
13	1	落ち込み①	かわらけ	口１部欠 ～底全	7.3	4.5	2.3	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質良土
13	2	落ち込み①	かわらけ	完形	7.4	5.6	2.0	**胎土**：淡橙色　泥岩粗粒・白針多め弱砂質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
13	3	落ち込み①	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	口縁部片				**胎土**：明灰色　砂質精良土 **釉調**：暗青緑色半透明
13	4	落ち込み①	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	口縁部片				**胎土**：白色　粘質緻密土　**釉調**：暗緑色透明
13	5	落ち込み①	鉄製品　釘	完形	6.0	0.4	0.5	**重さ**：5.8g
13	6	落ち込み①	鉄製品　釘	完形	6.4	0.7	0.6	**重さ**：5.0g
13	7	落ち込み②	かわらけ	口～底 1/4	(7.1)	(5.9)	1.4	**胎土**：淡褐色　泥岩粗粒含む弱粉質土
13	8	落ち込み②	かわらけ	口 1/5 ～底 1/4	(12.8)	(8.0)	2.9	**胎土**：橙色（胎芯黒色）　橙色粒多い砂質土 **備考**：底部中央径８㎜焼成後穿孔
13	9	落ち込み②	土器質火鉢	口縁部片				**胎土**：灰色　黒色細砂、白色粒（貝殻質）・微量の白針含む細砂質軽質土
13	10	落ち込み②	常滑窯 片口鉢Ｉ類	底 1/4		高台径 (15.4)		**胎土**：明灰色　粗粒子多い砂質粗土 **備考**：外底 - 砂粒付着　よく焼しまり硬質
13	11	落ち込み②	龍泉窯 青磁劃花文碗	底部片				**胎土**：灰味白色　精良土　**釉調**：薄緑色透明釉層薄い　**備考**：内底 - 草花文櫛描
15	1	土坑 11	瓦器質香炉	脚部片				**胎土**：淡橙色　砂粒少量含む軽質土
15	2	土坑 11	鉄製品　釘	下端欠	4.7 ～	0.3	0.4	**重さ**：2.5g
15	3	P20	かわらけ	略完形	7.8	4.1	1.9	**胎土**：にぶい淡橙色　泥岩粗粒含む弱粉質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
15	4	P20	かわらけ	口 1/4 ～底 1/3	(13.1)	(7.4)	3.4	**胎土**：淡橙色　混入粒子少なめ弱粉質土
15	5	P20	瀬戸窯　卸皿	口縁部片				**胎土**：褐白色　弱砂質良土 **釉調**：褐灰色灰釉ハケ塗り
15	6	P20	銅製品　銭		2.5	穴 0.7		元豊通寶　初鋳 1078 年　北宋　**重さ**：3.7 g
15	7	P28	かわらけ	口 2/5 ～ 底 2/3	(8.1)	5.7	2.0	**胎土**：淡褐色　微砂・白色（貝殻質）粒・白針多い弱砂質土
15	8	P28	鉄製品　釘	完形	8.7	0.4	0.3	**重さ**：7.8g
15	9	P29	かわらけ	口～底 1/3	(7.0)	(4.1)	2.0	**胎土**：橙色　混入粒子少ない弱粉質良土
15	10	P29	かわらけ	口 3/5 ～底全	7.3	4.4	2.0	**胎土**：淡橙色　橙色粒・白色粒多い弱砂質土
18	1	方形土坑 2	かわらけ	口～底 1/4	(7.8)	(5.7)	1.5	**胎土**：橙色　橙色粒含む弱砂質土
18	2	方形土坑 2	かわらけ	口 1/3 ～底 1/2	(13.7)	8.3	3.6	**胎土**：暗褐色　白色粒含む弱粉質土
18	3	方形土坑 2	常滑窯　鳶口壺	略完形		10.7	9.4	**胎土**：白橙色　長石等粒子・小礫含む弱粉質土　**備考**：口縁部 - 打ち欠き　肩部 - 焼成後穿孔　２次焼成を受け器表肌荒れ
18	4	方形土坑 2	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：明灰色（器表暗茶色）　白色粒含み、風化長石混じる細砂質土　**備考**：口縁部～外面 - 降灰（緑灰色）厚い
18	5	方形土坑 2	鉄製品　釘	下端欠	10.1 ～	0.4	0.7	**重さ**：18.8g
18	6	方形土坑 2	鉄製品　釘	完形	9.9	0.6	0.4	**重さ**：9.3g
18	7	方形土坑 2	鉄製品　釘	下端欠	8.5 ～	0.2	0.6	**重さ**：8.2g
18	8	方形土坑 2	鉄製品　釘	完形	7.0	0.3	0.3	**重さ**：4.4g
18	9	方形土坑 2	鉄製品　釘	下端欠	5.9 ～	0.2	0.2	**重さ**：3.4g
18	10	方形土坑 2	鉄製品　釘	下端欠	6.2 ～	0.4	0.3	**重さ**：6.2g
18	11	方形土坑 2	銅製品　銭	完形	径 2.4	穴 0.6		元豊通寶　初鋳 1078 年　北宋　**重さ**：3.9 g

表３　出土遺物観察表（４）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
18	12	方形土坑２	銅製品　銭	完形	径 2.4	穴 0.5		紹聖元寶　初鋳 1094 年　北宋　**重さ**：3.8 g
18	13	方形土坑２	銅製品　銭	完形	径 2.4	穴 0.6		宣和通寶　初鋳 1119 年　北宋　**重さ**：4.2 g
18	14	方形土坑２	銅製品　銭	完形	径 2.4	穴 0.5		正隆元寶　初鋳 1157 年　金　**重さ**：3.7 g
20	1	溝１	かわらけ	１部欠	8.0	5.4	2.1	**胎土**：橙色　泥岩粗粒・橙色粒多い砂質土
20	2	溝１	かわらけ	口～底 2/5	7.6	5.0	1.6	**胎土**：淡褐色　泥岩粒・橙色粒多め弱粉質土
20	3	溝１	かわらけ	口１部～底全	(7.8)	4.3	2.2	**胎土**：淡褐色　黒色微砂多め弱砂質土
20	4	溝１	かわらけ	口～底 1/3	(13.4)	(7.4)	3.6	**胎土**：橙色　橙色粒多め弱粉質土
20	5	溝１	土錘	両端欠	6.1 ～	胴径 2.1	孔 0.9	**胎土**：褐色～黒褐色　弱砂質土　**重さ**：20.2g
20	6	溝１	土錘	完形	3.6	胴径 1.3	孔 0.15	**胎土**：にぶい淡橙色　粉質良土　**重さ**：5.4g
20	7	溝１	常滑窯　鳶口壺	頸部～胴 1/3				**胎土**：黒灰色（器表暗赤色）　粒子少なく、風化長石混じる弱粘質土
20	8	溝１	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部片				**胎土**：暗茶色　長石粒・白色粒多め　気孔ある細砂質土　**備考**：焼しまり甘い
20	9	溝１	滑石スタンプ	下端欠	2.7 ～	4.2	1.2	**色調**：灰色　**備考**：草花文陽刻　表面-抉りあり
20	10	溝１	碁石	完形	1.6	1.7	0.6	**色調**：灰黒色　**重さ**：2.6 g
20	11	溝１	棒状鉄製品	上端欠	12.2 ～	0.4	0.4	**重さ**：5.3g
20	12	溝１	鉄製品　釘	下端欠	9.0 ～	0.3	0.5	**重さ**：7.5g
20	13	溝１	銅製品　銭	完形	径 2.4	穴 0.5		開元通寶　初鋳 621 年　唐　**重さ**：3.6 g
20	14	溝１	銅製品　銭	完形	径 2.3	穴 0.6		皇宋通寶　初鋳 1038 年　北宋　**重さ**：4.0 g
20	15	溝１	銅製品　銭	完形	径 2.3	穴 0.6		熙寧元寶　初鋳 1068 年　北宋　**重さ**：4.0 g
20	16	溝１	銅製品　銭	2/5	径 (2.4)	穴 0.6		元○○寶　**重さ**：1.6 g
20	17	溝２	かわらけ	口 1/4 ～底 3/5	(7.2)	4.6	2.1	**胎土**：橙色　混入粒子少なめ弱粉質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
20	18	溝２	かわらけ	口 1/3 ～底 1/4	(12.9)	(8.0)	3.2	**胎土**：淡褐色　混入粒子少ない弱粉質土
20	19	溝２	かわらけ	口 1/6 ～底全	(13.7)	7.2	3.2	**胎土**：橙色　混入粒子少ない弱粉質土
20	20	溝２	土器質火鉢	口縁部片				**胎土**：淡褐色（胎芯黒灰色）　微粒子少量粉質気味良土　**備考**：回転ナデ
20	21	溝２	土器質火鉢	底部片				**胎土**：淡橙色（胎芯黒灰色）　白針少量　粉質良土　**備考**：外底 - 粗い糸切り痕
20	22	溝２	白磁口兀皿	口 1/4	(10.0)			**胎土**：白色　精良土　**釉調**：灰味白色透明貫入少々　口唇部 - 露胎
20	23	溝２	石製品　砥石	下端欠	6.7 ～	3.7	0.8	鳴滝・向田産仕上砥　砥面は表裏２面 **色調**：緑灰色　**重さ**：44.8g
20	24	溝２	鉄製品　釘	下端欠	7.4 ～	0.7	0.4	**重さ**：9.7g
20	25	溝２	鉄製品　釘	完形	5.2	0.3	0.4	**重さ**：3.3g
20	26	P30	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	体部片				**胎土**：白色　粘質緻密土　**釉調**：浅草緑色半透明
20	27	P32	かわらけ	口 3/4 ～底全	7.2	4.9	2.5	**胎土**：橙色　橙色粒多い弱粉質良土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
22	1	土坑４	かわらけ	口 1/4 ～底 4/5	(7.6)	5.0	2.2	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
22	2	土坑４	かわらけ	口～底 1/4	(7.6)	(5.2)	1.9	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
22	3	土坑４	かわらけ	口～底 2/7	(7.7)	(6.2)	1.5	**胎土**：暗橙色　橙色粒多い砂質粗土
22	4	土坑４	かわらけ	口 1/4 ～底 2/5	(12.9)	(7.8)	3.7	**胎土**：暗橙色　混入粒子並　弱粉質土
22	5	土坑４	土錘	１端欠	5.1 ～	胴径 1.8	孔径 0.7	**胎土**：橙色　弱砂質良土　**重さ**：13.2 g **備考**：２次焼成を受け半面変色（黒灰色）

表３　出土遺物観察表（５）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
22	6	土坑 4	瓦器質火櫃	脚部片				**胎土**：淡橙色　白色（貝殻質）粒多く、細砂含む弱粉質土　**備考**：接地面より穴　焼しまり甘い
22	7	土坑 4	常滑窯　壺	口縁部片				**胎土**：暗灰色（器表暗赤色）　細粒子含む細砂質良土　**備考**:口縁部～外面 - 降灰(灰緑色)
22	8	土坑 4	常滑窯　甕	肩部片				**胎土**：白褐色（器表茶色）　粒子少量　風化長石混じる緻密土　**備考**：外面 - 押印あり
22	9	土坑 4	備前窯　擂鉢	口縁部片				**胎土**：淡茶色（胎芯灰色）　白濁鉱物粒多い砂質良土
22	10	土坑 4・土坑 11	東播系　鉢	口 1/5				**胎土**：暗灰褐色～暗茶色　白色微粒子・少量の礫含む粗砂質土
22	11	土坑 4	龍泉窯 青磁水注蓋	口 2/3	4.1		1.8	**胎土**：灰色　精良土　釉調：暗緑灰色不透明　外面身受け部～内面 - 露胎　**備考**：手づくね成形
22	12	土坑 5	白磁口兀皿	口縁部片				**胎土**：白色　砂質気味精良土　**釉調**：褐白色透明　貫入あり　口唇部 - 露胎
22	13	土坑 6	かわらけ	口～底 1/4	(7.6)	(5.9)	1.9	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
22	14	土坑 6	石製品　砥石？	表裏遺存 1 部自然面	12.3 ～	4.7 ～	8.1 ～	笹口産荒砥か？　整形面は表裏 2 面 **色調**：明灰色（表面黒褐色）　**重さ**：396.8g
22	15	P9	常滑窯　甕	肩部片				**胎土**：白褐色（器表茶褐色）　風化長石極多く混じる細砂質土　**備考**：外面 - 押印あり　外面 - 降灰ゴマ状（薄緑色）
22	16	P9・P13	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	口縁部片				**胎土**：明灰褐色　精良土 **釉調**：褐色透明　細かい貫入あり
22	17	P10	常滑窯　壺	口縁部片				**胎土**:明灰色（器表茶色）　長石粒･石英多め、風化長石混じる細砂質土　**備考**：口縁部～内面 - 降灰ゴマ状（褐色）
23	1	P1	かわらけ	口～底 2/5	(7.4)	(5.4)	1.4	**胎土**：橙色　橙色粒多い砂質粗土
23	2	P1	かわらけ	口 1 部 ～底 2/5	(7.8)	(5.7)	1.7	**胎土**：暗褐色　白色粒多い弱粉粗土
23	3	P1	かわらけ	口 1/3 ～底 3/4	(12.6)	7.2	3.1	**胎土**：淡橙色　泥岩粗粒・橙色粒含む弱粉質土
23	4	P1	吉備系 土師器碗	口縁部片				**胎土**：白褐色（胎芯暗灰色）　長石粒含む
23	5	P1	常滑窯 片口鉢Ｉ類	口縁部片				**胎土**：灰色　粒子含み、気孔ある粉質気味軽質粗土
23	6	P21	かわらけ	口～底 1/4	(7.4)	(6.8)	1.5	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱砂質土
23	7	P21	かわらけ	口～底 1/3	(7.4)	(6.1)	1.5	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　砂質土
23	8	P21	常滑窯　甕	部位不明残欠				**胎土**：明灰色（器表茶色）　微粒子少量　風化長石混じる細砂質土　**備考**：外面 - 押印あり
23	9	P26	石製品　砥石	背面剥離 右側・下端欠	3.4 ～	2.6 ～	0.35 ～	出羽産仕上砥　砥面は表面１面遺存、背面剥離不明　**色調**：明橙色　**重さ**：4.8g
23	10	P27	常滑窯 片口鉢Ｉ類	口縁部片				**胎土**：茶灰色　粒子少なめ砂質土
23	11	P27	鉄製品　釘	下端欠	4.7 ～	0.3	0.5	**重さ**：4.1g
24	1	確認面マデ	かわらけ	口～底 4/7	3.7	2.9	0.8	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
24	2	確認面マデ	かわらけ	口 3/5 ～底全	4.7	3.8	1.0	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
24	3	確認面マデ	かわらけ	口 1/3 ～底 2/5	(7.7)	(5.7)	1.6	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土 **備考**：糸切り痕幅広
24	4	確認面マデ	かわらけ	口～底 3/7	(7.8)	(6.2)	1.7	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱砂質土
24	5	確認面マデ	かわらけ	完形	8.0	6.0	1.6	**胎土**：淡褐色　泥岩粗粒・橙色粒・白針含む弱粉質土
24	6	確認面マデ	かわらけ	略完形	7.6	4.9	1.9	**胎土**：淡橙色　泥岩粗粒多め弱粉質土

表３　出土遺物観察表（６）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
24	7	確認面マデ	かわらけ	口 2/3 ～底全	7.6	5.2	1.7	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
24	8	確認面マデ	かわらけ	底全～口１部	(7.5)	4.6	1.9	**胎土**：橙色　泥岩粗粒多め弱粉質土
24	9	確認面マデ	かわらけ	完形	7.6	5.0	1.7	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱砂質土 **備考**：内外底面２～３㎜大の衝き痕多数
24	10	確認面マデ	かわらけ	口 1/3 ～底 3/5	7.6	4.9	1.8	**胎土**：橙色（胎芯桃色）　泥岩粗粒・橙色粒・白針含む弱粉質土　**備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
24	11	確認面マデ	かわらけ	口～底 3/5	7.7	6.0	1.6	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
24	12	確認面マデ	かわらけ	口～底 4/7	7.7	5.5	1.7	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
24	13	確認面マデ	かわらけ	口 1/3 ～底全	(7.1)	4.8	1.5	**胎土**：淡褐色　泥岩粗粒含む弱粉質土
24	14	確認面マデ	かわらけ	口 4/5 ～底全	7.6	5.1	1.9	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
24	15	確認面マデ	かわらけ	口 1/4 ～底略全	(7.4)	5.3	2.0	**胎土**：淡褐色　弱粉質土　**備考**：内面体部スス付着（灯明皿）　内底 - 朱色物質付着
24	16	確認面マデ	かわらけ	口 1/6 欠	7.6	5.4	1.9	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　　弱粉質土
24	17	確認面マデ	かわらけ	略完形	7.6	5.5	1.8	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
24	18	確認面マデ	かわらけ	口～底 1/3	(7.7)	(5.4)	2.0	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
24	19	確認面マデ	かわらけ	完形	7.0	4.6	1.7	**胎土**：灰橙色　泥岩・橙色粒・白針含む弱砂質土
24	20	確認面マデ	かわらけ	口 1/8 ～底全	(7.3)	5.6	2.4	**胎土**：淡褐色　橙色粗粒含む弱粉質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
24	21	確認面マデ	かわらけ	口 1/3 ～底 1/2	(7.4)	4.9	2.0	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
24	22	確認面マデ	かわらけ	口 1/3	(6.9)	(4.4)	2.1	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
24	23	確認面マデ	かわらけ	口 1/3 ～底全	(7.0)	4.0	2.0	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
24	24	確認面マデ	かわらけ	口 2/5 ～底 3/4	(7.5)	4.3	2.1	**胎土**：淡褐色　混入物少なめ弱粉質土
24	25	確認面マデ	かわらけ	完形	7.5	4.1	2.1	**胎土**：にぶい淡橙色　白色（貝殻質）・橙色・泥岩細粒多め弱粉質土
24	26	確認面マデ	かわらけ	口 1/8 欠	7.3	4.9	1.9	**胎土**：にぶい橙褐色　泥岩・橙褐色粒、白針少量含む弱粉質土　**備考**：口唇部打ち欠き・タール付着（灯明皿）
24	27	確認面マデ	かわらけ	口 2/3 ～底全	7.1	4.6	2.1	**胎土**：淡橙色　混入粒子少なめ弱粉質良土
24	28	確認面マデ	かわらけ	口～底 3/5	7.1	4.5	2.1	**胎土**：暗褐色　混入粒子並　弱粉質土
24	29	確認面マデ	かわらけ	口 2/3 ～底 5/6	(7.9)	4.4	2.4	**胎土**：淡褐色　泥岩粗粒・橙色粒含む弱粉質土　**備考**：内外面タール・スス付着（灯明皿）
24	30	確認面マデ	かわらけ	口 2/3 ～底全	10.2	5.8	3.0	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
24	31	確認面マデ	かわらけ	口 1/5 ～底 1/5	(11.1)	(6.9)	3.0	**胎土**：橙色（胎芯桃色）　橙色粒多め弱粉質土
24	32	確認面マデ	かわらけ	口 2/5 ～底１部	(10.8)	(6.0)	3.0	**胎土**：淡橙色　泥岩・橙色細粒・白針含む弱粉質土
24	33	確認面マデ	かわらけ	口 1/8 ～底 2/5	(10.4)	(6.0)	2.8	**胎土**：淡褐色　泥岩粒含む弱粉質土
24	34	確認面マデ	かわらけ	口 1/7 ～底全	(11.2)	6.5	2.8	**胎土**：にぶい淡橙色　泥岩粗粒・橙色粒・白針含む弱粉質土
24	35	確認面マデ	かわらけ	口 1/3 ～底 1/2	(11.1)	7.0	3.1	**胎土**：暗橙色　泥岩粗粒・橙色粒・白針含む弱粉質土

表３　出土遺物観察表（７）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
24	36	確認面マデ	かわらけ	口 3/5 ～底全	12.4	8.7	3.4	**胎土**：橙褐色　混入粒子並　弱粉質土
24	37	確認面マデ	かわらけ	口 3/4 ～底全	12.5	8.7	3.2	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
24	38	確認面マデ	かわらけ	口 1/8 欠	11.8	8.7	2.7	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
24	39	確認面マデ	かわらけ	口 1/3 ～底全	(12.3)	7.6	3.5	**胎土**：暗褐色　泥岩粗粒多め・橙色粒・白針含む弱粉質土
24	40	確認面マデ	かわらけ	口 2/5 ～底 3/5	(11.2)	8.0	2.9	**胎土**：橙色　泥岩粗粒・橙色粒多い弱粉質土
24	41	確認面マデ	かわらけ	底 1/2 ～口 1/5	(12.8)	7.9	3.1	**胎土**：淡褐色　泥岩粗粒・橙色粒含む粉質粗土
24	42	確認面マデ	かわらけ	口 1/5 ～底 1/3	(12.0)	(7.8)	3.4	**胎土**：橙色　橙色粗粒多い弱粉質粗土
24	43	確認面マデ	かわらけ	口 1/2 ～底全	12.2	7.4	3.2	**胎土**：橙色　泥岩粗粒多い弱粉質土
24	44	確認面マデ	かわらけ	口 3/4 ～底全	11.9	7.7	3.7	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
24	45	確認面マデ	かわらけ	口 1/4 欠	13.5	6.8	3.8	**胎土**：暗橙色　白色（貝殻質）粒子多い弱粉質土
24	46	確認面マデ	かわらけ	口～底 3/7	(13.7)	(9.0)	3.3	**胎土**：灰褐色（胎芯橙色）　橙色粒子多い弱砂質土
24	47	確認面マデ	かわらけ質円盤	1 部欠	2.7	2.5	0.8	**胎土**：にぶい淡橙色　橙色粒含む弱砂質良土 **備考**：かわらけ片転用か
24	48	確認面マデ	土錘	完形	3.3	胴径 1.6	孔径 0.2	**胎土**：淡橙色　粉質良土　**重さ**：7.3g
24	49	確認面マデ	土錘	完形	2.8	胴径 1.6	孔径 0.2	**胎土**：淡橙色　粉質良土　**重さ**：6.4g
24	50	確認面マデ	土錘	完形	3.7	胴径 1.4	孔径 0.2	**胎土**：淡橙色　粉質良土　**重さ**：5.3g
24	51	確認面マデ	土錘	完形	3.2	胴径 1.3	孔径 0.2	**胎土**：淡橙色　粉質良土　**重さ**：5.2g
24	52	確認面マデ	土錘	完形	3.7	胴径 1.4	孔径 0.2	**胎土**：淡橙色　粉質良土　**重さ**：5.6g
24	53	確認面マデ	土錘	完形	3.5	胴径 1.4	孔径 0.2	**胎土**：淡橙色　粉質良土　**重さ**：5.3g
24	54	確認面マデ	土錘	完形	3.2	胴径 1.3	孔径 0.2	**胎土**：淡橙色　粉質良土　**重さ**：4.5g
24	55	確認面マデ	土錘	略完形	(3.3)	胴径 1.2	孔径 0.2	**胎土**：淡橙色　粉質良土　**重さ**：4.2g
24	56	確認面マデ	土錘	完形	2.9	胴径 1.3	孔径 0.2	**胎土**：淡橙色　粉質良土　**重さ**：4.7g
24	57	確認面マデ	土錘	完形	3.1	胴径 1.6	孔径 0.2	**胎土**：淡橙色　粉質良土　**重さ**：6.1g
24	58	確認面マデ	土錘	完形	3.4	胴径 1.3	孔径 0.2	**胎土**：淡橙色　粉質良土　**重さ**：4.9g
24	59	確認面マデ	土錘	完形	3.1	胴径 1.2	孔径 0.2	**胎土**：にぶい淡橙色　粉質良土　**重さ**：4.1g
24	60	確認面マデ	土錘	完形	3.2	胴径 1.5	孔径 0.25	**胎土**：にぶい淡褐色　粉質良土　**重さ**：6.0g
24	61	確認面マデ	土錘	完形	3.5	胴径 1.4	孔径 0.2	**胎土**：淡褐色　粉質良土　**重さ**：5.9g
24	62	確認面マデ	土錘	完形	3.2	胴径 1.4	孔径 0.2	**胎土**：暗褐色　粉質良土　**重さ**：5.7g
24	63	確認面マデ	土錘	完形	3.2	胴径 1.5	孔径 0.2	**胎土**：淡褐色　粉質良土　**重さ**：6.0g
24	64	確認面マデ	土錘	完形	2.8	胴径 1.3	孔径 0.2	**胎土**：淡褐色　粉質良土　**重さ**：4.5g
24	65	確認面マデ	土錘	完形	2.9	胴径 1.3	孔径 0.2	**胎土**：にぶい淡橙色　粉質良土　**重さ**：4.1g
24	66	確認面マデ	鍔釜	鍔片				**胎土**：褐白色（胎芯黒色）　砂粒多い **備考**：よく焼しまり密度ある
25	67	確認面マデ	瓦器質火鉢	口縁部片				**胎土**：濃桃色（器表桃灰色）　粒子少量　粉質気味軽質良土
25	68	確認面マデ	瓦器質火鉢	底部片				**胎土**：灰色（器表黒灰色）　白色（貝殻質）粒多い砂質粗土　**備考**：輪花型
25	69	確認面マデ	瓦器質火鉢	底部片				**胎土**：灰色（器表黒灰色）　白色（貝殻質）粒含む、気孔多め砂質土
25	70	確認面マデ	平瓦	広狭端欠 上下不明				**胎土**：橙灰色（胎芯灰色）　小礫含む粗土 **せいけい**：凹面 - 布目痕→ナデ　凸面 - 粗い離れ砂→斜格子叩き締め　**備考**：よく焼しまり密度ある
25	71	確認面マデ	常滑窯　壺	口縁部片				**胎土**：明灰色（器表茶色）　風化長石混じる、気孔ある細砂質土　**備考**：口縁部 - 降灰（灰緑色）

表３　出土遺物観察表（８）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
25	72	確認面マデ	常滑窯　壺	肩部片				**胎土**：灰色（器表暗赤色）　粒子多め細砂質良土　**備考**：外面 - 降灰ゴマ状（褐色）
25	73	確認面マデ	常滑窯　壺	肩部片				**胎土**：黒灰色（器表暗赤色）　長石細粒含み、気孔ある細砂質土　**備考**:外面上位 - 降灰（緑灰色）厚い　外面 - ヘラ描き
25	74	確認面マデ	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：明灰色（器表暗赤色）　長石粒・泥岩・白色粗粒多い細砂質土　**備考**：外面肩部 - 降灰（緑灰色）厚い
25	75	確認面マデ	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：暗灰色（器表茶色）　粒子多い細砂質土　**備考**：口縁部内面・外面下部 - 降灰ゴマ状（褐灰色）
25	76	確認面マデ	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：灰白色（器表茶色）　風化長石主体気孔ある細砂質土　**備考**：口縁部縁帯下端 -- 降灰（緑褐色）厚い
25	77	確認面マデ	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：灰色（器表暗赤色）　長石粗粒多い細砂質良土　**備考**：外面肩部 - 降灰（灰緑色）
25	78	確認面マデ	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：暗灰色（器表暗赤色）　長石粗粒多い細砂質良土　**備考**：口縁部内面・外面下部 - 降灰（薄緑色）厚い
25	79	確認面マデ	常滑窯　甕	肩部片				**胎土**：明灰色（器表暗赤色）　風化長石混じる細砂質土　**備考**：外面 - ヘラ描き
25	80	確認面マデ	常滑窯　甕	肩部片				**胎土**：明灰色（器表暗赤色）　風化長石多く混じる細砂質軽質土　**備考**：外面 - ヘラ描き外面 - 降灰（灰緑色）厚い
25	81	確認面マデ	常滑窯　甕	肩部片				**胎土**：緑灰色　長石粗粒多め弱粘質土 **備考**：外面 - 押印あり　外面 - 降灰（褐色）
25	82	確認面マデ	常滑窯　甕	肩部片				**胎土**：明灰色（器表赤灰色）　粗粒子多く、風化長石混じる砂質やや粗土　**備考**：外面 - 押印あり　外面 - 降灰（緑色）厚い
25	83	確認面マデ	常滑窯　甕	肩部片				**胎土**：白灰色（器表茶色）　風化長石極多く混じる、気孔多い軽質土　**備考**：外面 - 押印あり　外面 - 降灰（褐緑色）
25	84	確認面マデ	常滑窯　甕	肩部片				**胎土**：明灰色（器表暗茶色）　風化長石多く混じる細砂質土　**備考**：外面 - 押印あり　外面 - 降灰（褐緑色）
25	85	確認面マデ	常滑窯 甕転用捏ね鉢	底部片				**胎土**：灰色（器表暗橙色）　長石粒極多い細砂質土　**備考**：内面 - 降灰（褐緑色）厚い
25	86	確認面マデ	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部片				**胎土**：明灰色　粒子多い強砂質粗土
25	87	確認面マデ	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部片				**胎土**：茶灰色　長石粒・白色粒多め細砂質土
25	88	確認面マデ	尾張山茶碗系 片口鉢	口縁部片				**胎土**：明灰色　長石粗粒多い砂質土 **備考**：よく焼しまり硬質
25	89	確認面マデ	尾張山茶碗系 片口鉢	口縁部片				**胎土**：灰色　長石粗粒多い弱砂質土 **備考**：焼しまり甘め
25	90	確認面マデ	尾張山茶碗系 片口鉢	口縁部片				**胎土**：明灰色　長石粒多め砂質良土 **備考**：内外面 - 降灰（緑灰色）厚い　よく焼しまり硬質
25	91	確認面マデ	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部片				**胎土**：橙色　粒子含む弱粉質軽質土
25	92	確認面マデ	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部片				**胎土**：暗灰色（器表暗赤色）　粗粒子含み、気孔ある軽質砂質粗土　**備考**：焼しまり甘い
25	93	確認面マデ	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部片				**胎土**：暗灰色（器表暗赤色）　粗粒子多め砂質やや粗土　**備考**：よく焼しまり硬質
25	94	確認面マデ	備前窯　擂鉢	口 1/8	最大径 (29.0)			**胎土**：黒灰色　白濁鉱物粗粒、石英少々含む砂質緻密土　**備考**：条線- 6 本以上組　口唇部～内面 - 降灰ゴマ状
25	95	確認面マデ	備前窯　擂鉢	口縁部片				**胎土**：茶灰色（胎芯灰赤色）　砂粒少なめ気孔多い砂質粗土　**備考**：条線 - ８本組み外面 - 降灰ゴマ状
25	96	確認面マデ	東播系　鉢	口縁部小片				**胎土**：暗赤褐色　白色微粒子少量含む砂質土 **備考**：硬質に焼締まる
25	97	確認面マデ	東播系　鉢	口縁部片				**胎土**：灰白色　微砂・小礫含む砂質土

表３　出土遺物観察表（９）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
25	98	確認面マデ	東播系　鉢	口縁部片				**胎土**：灰白色　微砂・小礫含む砂質土
25	99	確認面マデ	尾張型　山茶碗	口縁部片				**胎土**：褐白色　白色粒・小石含む、気孔ある軽質粗土
25	100	確認面マデ	東濃型　山茶碗	口縁部片				**胎土**：明灰色　弱砂質精良土　**備考**：口縁部～内面 - 降灰（薄緑褐色）
25	101	確認面マデ	東濃型　山茶碗	底全		5.0		**胎土**：灰白色　弱砂質精良土
26	102	確認面マデ	瀬戸窯　入子	口 2/5 ～底全	(4.0)	3.8	1.0	**胎土**：褐白色　粉質気味緻密土　**備考**：口縁部～内面 - 降灰（薄緑色）　外底 - 静止ヘラ切り？
26	103	確認面マデ	瀬戸窯　卸皿	体 1/5 ～口１部	(12.0)			**胎土**：灰白色　微砂質良土　**釉調**：緑白色灰釉ハケ塗り
26	104	確認面マデ	瀬戸窯　卸皿	口 1/4 ～底 1/3	(14.9)	(8.2)	4.4	**胎土**：淡橙色　弱粉質土　**釉調**：緑灰色灰釉ハケ塗り　**備考**：外底 - 回転糸切り無調整
26	105	確認面マデ	瀬戸窯 底卸目卸皿	底 1/4		高台径 (7.1)		**胎土**：白灰色　弱砂質良土　**釉調**：浅緑色灰釉　細かい貫入あり
26	106	確認面マデ	瀬戸窯 折縁中（小）皿	口縁 ～胴部片				**胎土**：灰白色　弱砂質良土　**釉調**：暗緑色灰釉　細かい貫入あり
26	107	確認面マデ	瀬戸窯　折縁深皿	口縁 ～胴部片				**胎土**：褐白色　弱粉質土　**釉調**：浅緑褐色灰釉浸け掛け　細かい貫入あり
26	108	確認面マデ	瀬戸窯　折縁深皿	底部片				**胎土**：淡橙色　弱粉質土　**釉調**：緑茶褐色灰釉　**備考**：内底 - ４本組櫛描回転文
26	109	確認面マデ	瀬戸窯　筒形香炉	口縁部片				**胎土**：褐白色　砂質良土　**釉調**：緑茶色鉄釉　内面 - ハケ塗り　**備考**：外面 - 印花文・ﾍﾗ描文
26	110	確認面マデ	瀬戸窯　筒形香炉	口縁部片				**胎土**：灰白色　弱砂質良土　**釉調**：内外掛け分け　口縁部～外面 - 浅緑色灰釉　細かい貫入あり　内面 - 緑茶色鉄釉
26	111	確認面マデ	瀬戸窯　水注	体 3/ 4 ～底全	－	2.7	-	**胎土**：乳白色　弱砂質精良土　**釉調**：浅緑色灰釉浸け掛け　**備考**：外面 - 印花文
26	112	確認面マデ	瀬戸窯　茶入	頸部 ～肩部片				**胎土**：乳白色　弱砂質精良土　**釉調**：黒褐色鉄釉　**備考**：外面 - 貼花文・ﾍﾗ描文
26	113	確認面マデ	瀬戸窯　仏華瓶	口縁細全	3.2	-	-	**胎土**：灰白色　弱砂質精良土　**釉調**：緑茶色鉄釉
26	114	確認面マデ	瀬戸窯　仏華瓶	頸部１部のみ 全周				**胎土**：褐白色　弱砂質土　**釉調**：浅緑色～茶緑色灰釉　細かい貫入あり
26	115	確認面マデ	白磁口兀碗	口縁部片				**胎土**：白色　精良土　**釉調**：白色透明　口唇部 - 露胎
26	116	確認面マデ	白磁壷	頸 1/8				**胎土**：灰白色　粘質緻密土　**釉調**：灰白色半透明
26	117	確認面マデ	青白磁華瓶？	胴部片				**胎土**：白色　精良土　**釉調**：青白色半透明 **備考**：外面−草文？貼付＋櫛描文
26	118	確認面マデ	青白磁小壷	口～肩 1/5	(3.8)			**胎土**：白色　精良土　**釉調**：青白色透明　貫入あり　口縁部 - 露胎　**備考**：外面 - 蓮弁文
26	119	確認面マデ	龍泉窯 青磁劃花文碗	底 1/5		(5.8)		**胎土**：明灰色　精良土　**釉調**：緑灰色透明　貫入あり　高台畳付～高台内 - 露胎　**備考**：内底 - 草花文
26	120	確認面マデ	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	口縁部片				**胎土**：白色　精良土　**釉調**：水青色半透明　粗い貫入あり　釉層厚い
26	121	確認面マデ	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	口縁部片				**胎土**：灰色　精良土　**釉調**：浅草緑色半透明 **備考**：外面 - 釉着痕あり
26	122	確認面マデ	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	体部片				**胎土**：褐白色　精良土　**釉調**：明褐色透明　細かい貫入あり
26	123	確認面マデ	龍泉窯 青磁折腰碗	口 1/4 ～底 1/3	(7.9)	(4.4)	3.1	**胎土**：明灰色　粘質緻密土　**釉調**：暗灰緑色半透明　貫入あり　高台畳付 - 露胎
26	124	確認面マデ	龍泉窯 青磁折腰碗	底 1/4		(6.0)		**胎土**：白褐色　砂質気味精良土　**釉調**：緑褐色半透明　細かい貫入多数　高台畳付 - 露胎
26	125	確認面マデ	龍泉窯 青磁蓮弁文折縁鉢	口 1/3	(12.0)			**胎土**：白色　精良土　**釉調**：水青色半透明　粗い貫入あり　**備考**：内面 - 蓮弁文陰刻
26	126	確認面マデ	龍泉窯 青磁蓮弁文折縁鉢	口縁部片				**胎土**：白色　精良土　**釉調**：水青色半透明　貫入あり　**備考**：内面 - 蓮弁文陰刻

表３　出土遺物観察表（10）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
26	127	確認面マデ	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文 折縁鉢	口縁部片				**胎土**：褐味灰白色　砂質精良土　**釉調**：緑白色不透明　白濁　**備考**：外面 - 鎬蓮弁文陽刻
26	128	確認面マデ	滑石鍋片加工品	残欠	0.8 ～	2.9 ～	1.5	**色調**：灰銀色　**備考**：欠損部 - 加工痕あり
26	129	確認面マデ	滑石鍋片加工品	残欠	5.6 ～	2.4 ～	1.8	**色調**：白銀色　**備考**：欠損部 - 切断痕あり
26	130	確認面マデ	滑石鍋片加工品	体部片	7.9	2.6	1.6	**色調**：銀灰色　**備考**：欠損部 - 研磨痕あり
26	131	確認面マデ	石製品　砥石	背面剥離 下端欠	4.2 ～	3.8	0.4 ～	鳴滝産仕上砥　砥面は表面１面遺存、背面剥離不明　**色調**：暗橙色　**重さ**：8.6g
26	132	確認面マデ	石製品　砥石	下端欠	5.3 ～	3.1	0.9	鳴滝・向田産仕上砥　砥面は表裏２面 **色調**：灰白色　**重さ**：25.0g
26	133	確認面マデ	石製品　砥石	上下端欠	3.7 ～	3.1	0.85	鳴滝・向田産仕上砥　砥面は表裏２面 **色調**：淡緑褐色　**重さ**：13.2g
26	134	確認面マデ	石製品　砥石	左側・下端欠	8.5 ～	4.7 ～	1.0	鳴滝・向田産仕上砥　砥面は表裏２面 **色調**：淡緑褐色　**重さ**：50.1g
26	135	確認面マデ	石製品　砥石	下端欠	2.8 ～	3.6	0.8	鳴滝・門前産仕上砥　砥面は表裏２面 **色調**：薄桃色　**重さ**：12.4g
26	136	確認面マデ	石製品　砥石	上下端欠	5.2 ～	3.4	0.8	鳴滝・中山産仕上砥　砥面は表裏２面 **色調**：淡黄色　**重さ**：26.0g
26	137	確認面マデ	石製品　砥石	略完形	7.3 ～	3.0	1.5	鳴滝・中山産仕上砥　砥面は表裏２面 下端は消費地加工痕　**色調**：淡黄橙色　**重さ**：40.5g
26	138	確認面マデ	石製品　砥石	上下端欠	8.5 ～	3.4	0.6 ～ 1.15	鳴滝・中山産仕上砥　砥面は表裏２面 **色調**：淡黄色　**重さ**：48.0g
26	139	確認面マデ	石製品　砥石	下端欠	5.8 ～	3.3	0.9	鳴滝・中山産仕上砥　砥面は表裏２面 **色調**：淡黄色　**重さ**：27.9g
26	140	確認面マデ	石製品　砥石	右側・上下端欠	4.3 ～	2.4 ～	0.6	鳴滝・中山産仕上砥　砥面は表裏２面 **色調**：淡緑褐色　**重さ**：10.1g
26	141	確認面マデ	石製品　砥石	下端欠	6.8 ～	2.3	2.5	上野・砥沢産中砥　砥面は４面　**色調**：緑白色　**重さ**：60.1g
26	142	確認面マデ	石製品　砥石	下端欠	7.0 ～	3.6	2.1	伊予産中砥　砥面は４面　右左側から上端へ丸鑿状の抉り　**色調**：黄白色　**重さ**：78.9g
27	143	確認面マデ	石製品　砥石	背面剥離 右側・下端欠	7.2 ～	3.9 ～	1.3 ～	七沢産仕上砥　砥面は表面１面遺存　**色調**：橙灰色　**重さ**：56.3g　**備考**：近世以降
27	144	確認面マデ	石製品　砥石？	２面遺存	18.7	6.5	8.3	石材：砂岩（笹口産荒砥？）　整形面２面遺存　**重さ**：1209 g
27	145	確認面マデ	骨製品　笄	上部右遺存	5.0 ～	1.3 ～	0.3 ～	不明獣骨
27	146	確認面マデ	骨製品　装飾具	左側欠	3.5 ～	0.9	0.35	不明獣骨
27	147	確認面マデ	加工骨	完形	6.0	2.6	1.8	シカ角
27	148	確認面マデ	加工骨	完形	5.0	2.9	1.2	シカ角
27	149	確認面マデ	加工骨	左右側欠	5.2	1.5 ～	0.5	シカ角
27	150	確認面マデ	加工骨	完形	2.7	1.3	1.0	陸生哺乳類
27	151	確認面マデ	加工骨	下端欠	9.5 ～	5.5 ～	2.0 ～	クジラ
27	152	確認面マデ	加工骨	左右側欠	5.8	6.2 ～	3.9 ～	クジラ
27	153	確認面マデ	加工骨	左右側欠	5.9	3.6 ～	1.7 ～	クジラ
27	154	確認面マデ	加工骨	下端遺存	5.1 ～	3.0 ～	0.7 ～	クジラ
27	155	確認面マデ	鉄製品　火打金	完形	3.0	6.2	0.4	**重さ**：12.8g
27	156	確認面マデ	鉄製品　不明金具	下端欠	5.4 ～	1.0 ～ 0.4	0.4	**重さ**：3.5g
27	157	確認面マデ	鉄製品　掛け金具	下端欠	4.6 ～	0.4	0.4	**重さ**：5.5g
27	158	確認面マデ	鉄製品　釘	完形	7.0	0.5	0.6	**重さ**：6.2g
27	159	確認面マデ	鉄製品　釘	完形	5.9	0.5	0.2	**重さ**：2.3g
27	160	確認面マデ	鉄製品　釘	下端欠	5.3 ～	0.3	0.5	**重さ**：3.7g
27	161	確認面マデ	鉄製品　釘	下端欠	4.2 ～	0.3	0.6	**重さ**：6.4g
27	162	確認面マデ	鉄製品　釘	完形	4.0	0.7	0.7	**重さ**：3.3g
27	163	確認面マデ	鉄製品　釘	完形	4.7	0.3	0.3	**重さ**：2.0g

表３　出土遺物観察表（11）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
27	164	確認面マデ	鉄製品　釘	完形	4.8	0.2	0.3	**重さ**：1.9g
27	165	確認面マデ	鉄製品　釘	下端欠	3.8 ～	0.3	0.3	**重さ**：0.9g
27	166	確認面マデ	鉄製品　釘	上端欠	5.0 ～	0.3	0.2	**重さ**：1.6g
27	167	確認面マデ	銅製品　銭	完形	径 2.4	穴 0.6		景徳元寶　初鋳 1004 年　北宋　**重さ**：4.2 g
27	168	確認面マデ	銅製品　銭	完形	径 2.5	穴 0.7		皇宋通寶　初鋳 1038 年　北宋　**重さ**：3.4 g
27	169	確認面マデ	銅製品　銭	完形	径 2.5	穴 0.8		元豊通寶　初鋳 1078 年　北宋　**重さ**：3.6 g
27	170	確認面マデ	銅製品　銭	完形	径 2.4	穴 0.7		聖宋元寶　初鋳 1101 年　北宋　**重さ**：3.7 g
27	171	確認面マデ	銅製品　銭	完形	径 2.4	穴 0.6		慶元通寶　背「四」　初鋳 1195 年　南宋 **重さ**：4.0 g
28	1	確認面	かわらけ	口 1/4	(4.0)	(3.3)	0.65	**胎土**：橙色　微砂含む弱砂質土
28	2	確認面	かわらけ	口 1/6 ～底 1/3	(9.7)	(7.6)	2.0	**胎土**：にぶい淡橙色　混入粒子並　弱砂質粗土
28	3	確認面	かわらけ	口 1 部 ～底 2/5	(8.0)	(6.4)	1.7	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱砂質土
28	4	確認面	かわらけ	口～底 1/3	(7.7)	(6.0)	1.6	**胎土**：にぶい橙色　混入粒子並　弱砂質土
28	5	確認面	かわらけ	口～底 2/5	(7.0)	(4.4)	1.4	**胎土**：橙褐色　泥岩粗粒含む弱粉質土
28	6	確認面	かわらけ	口～底 1/4	(7.9)	(5.9)	1.3	**胎土**：にぶい淡橙色　泥岩粒含む弱粉質土
28	7	確認面	かわらけ	口 1/2 強 ～底 2/3	7.8	(5.3)	1.5	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土 **備考**：体部の一部～底部擦痕あり
28	8	確認面	かわらけ	口～底 1/4	(7.6)	(5.2)	1.8	**胎土**：橙褐色　橙色粒含む弱粉質土
28	9	確認面	かわらけ	略完形	7.3	5.5	1.5	**胎土**：橙褐色　混入粒子並　弱粉質土
28	10	確認面	かわらけ	口 4/5 ～底全	7.2	4.6	1.6	**胎土**：暗橙色　泥岩粒多め弱粉質土
28	11	確認面	かわらけ	略完形	7.8	5.4	1.9	**胎土**：橙色　泥岩粗粒含む弱粉質土 **備考**：口縁部 2 ヵ所打ち欠き
28	12	確認面	かわらけ	口 3/5 ～底 3/4	7.7	4.9	2.0	**胎土**：淡橙色　橙色・黒色微砂含む弱砂質土 **備考**：口縁部タール付着（灯明皿）
28	13	確認面	かわらけ	口 1/3 ～底 3/5	(11.8)	8.2	3.5	**胎土**：暗橙色　混入粒子並　弱粉質土 **備考**：口縁部打ち欠き
28	14	確認面	かわらけ	完形	12.4	8.2	3.6	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
28	15	確認面	かわらけ	口～底 1/3	(13.2)	(7.4)	3.5	**胎土**：暗橙色　混入粒子並　弱粉質土
28	16	確認面	かわらけ	口 1/4 ～底 1 部	(13.0)	(7.4)	3.5	**胎土**：橙色　白針多め弱粉質土
28	17	確認面	土器質火鉢	口縁部片				**胎土**：暗褐色（胎芯暗灰色）　白色（貝殻質）粒多く、微細黒色輝石含む粉質気味味良土
28	18	確認面	瓦器質香炉	底 1/3		(7.9)		**胎土**：黒色（胎芯灰白色）　黒砂含む、軽質土　**備考**：18 弁花文押印
28	19	確認面	平瓦	広端欠				**胎土**：にぶい淡橙色　粗砂含む粗土　**せいけい**：凹面 - 離れ砂→横位ナデ　凸面 - 離れ砂→斜格子叩き締め　**備考**：よく焼しまり密度ある
28	20	確認面	平瓦	広狭端欠 上下不明				**胎土**：淡橙色　黒色粒・白色粒含む軽質土 **せいけい**：凹面 - 離れ砂　凸面 - 叩き→縦位ナデ
28	21	確認面	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：暗灰色（器表暗茶色）　風化長石少量混じり、気孔ある細砂質軽質土
28	22	確認面	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：暗灰色（器表茶色）　粒子少なめ細砂質緻密土　**備考**：口縁部内面 - 降灰ゴマ状（白褐色）
28	23	確認面	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：明灰色（器表暗茶色）　長石粗粒少量風化長石混じる良土　**備考**：口縁部内面 - 降灰（褐白色）
28	24	確認面	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：暗灰色（器表暗赤色）　長石粗釉含む細砂質良土

表３　出土遺物観察表（12）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
28	25	確認面	常滑窯　甕	部位不明残欠				**胎土**：橙色（器表暗茶色）　粒子多め　弱粉質土　**備考**：外面 - 押印あり　※天地不明
28	26	確認面	常滑窯　甕	胴部片				**胎土**：灰色（器表暗赤色）　粒子少ない細砂質土　**備考**：外面 - 押印あり
28	27	確認面	常滑窯　甕	肩部片				**胎土**：灰色（器表黒灰色）　長石細粒含む細砂質土　**備考**：外面 - 押印あり　外面 - 降灰ゴマ状（白色）
28	28	確認面	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部片				**胎土**：明茶色　長石粗粒多め砂質土
28	29	確認面	備前窯　擂鉢	底部片				**胎土**：黒灰色（胎芯暗赤色）　白濁粒含む砂質緻密土　**備考**：条線 -7 本組み
28	30	確認面	尾張型　山茶碗	口縁部片				**胎土**：灰色　長石粒・白色粒多く、気孔ある砂質やや粗土　**備考**：焼しまり甘く軟質
28	31	確認面	白磁四耳壷	耳片				**胎土**：白色　精良土　**釉調**：青白色半透明　**備考**：手づくね成形
28	32	確認面	青白磁小壷	肩 1/6	(4.5)			**胎土**：白色　精良土　**釉調**：青白色半透明　細かい貫入あり　**備考**：体部–細凸線文型押し　肩部–蓮弁削り出し
28	33	確認面	青白磁梅瓶	口 3/5	4.1			**胎土**：白色　精良土　**釉調**：水青色半透明　貫入あり
28	34	確認面	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	口縁部片				**胎土**：褐味白色　精良土　**釉調**：水青色半透明
28	35	確認面	龍泉窯 青磁鎬連弁文碗	底 1/5		(5.0)		**胎土**：明灰色　粘質緻密土　**釉調**：草緑色半透明　高台畳付～高台内 - 露胎
28	36	確認面	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文 折縁鉢	底部片				**胎土**：明灰色　精良土　**釉調**：緑褐色半透明　高台畳付 - 露胎
28	37	確認面	龍泉窯 青磁双魚文鉢	底部片				**胎土**：白色　粘質緻密土　**釉調**：水青色半透明　釉層厚い　**備考**：器表肌荒れ失透（２次焼成を受けているか？）
28	38	確認面	龍泉窯 青磁尊式花瓶	頸 1/4 ～口１部	(8.6)			**胎土**：白色　粘質緻密土　**釉調**：水青色半透明　釉層厚い　**備考**：器表肌荒れ失透（２次焼成を受けているか？）
28	39	確認面	滑石鍋片加工品	底部片	11.2	4.7	3.0	**色調**：黒銀色　**備考**：欠損部 - 整形痕・研磨痕あり
28	40	確認面	加工骨　杼？	両端欠	4.3 ～	1.2	0.5	シカ角？
28	41	確認面	棒状鉄製品	下端欠	12.1 ～	0.4	0.5	**重さ**：11.8g
28	42	確認面	棒状鉄製品	下端欠	11.6 ～	0.5	0.5	**重さ**：7.4g
28	43	確認面	鉄製品　釘	完形	8.4	0.4	0.4	**重さ**：14.0g　**備考**：木質遺存
28	44	確認面	鉄製品　釘	完形	7.0	0.3	0.4	**重さ**：4.6g
28	45	確認面	鉄製品　釘	完形	5.5	0.4	0.4	**重さ**：4.8g
28	46	確認面	鉄製品　釘	完形	5.8	0.3	0.4	**重さ**：3.1g
28	47	確認面	鉄製品　釘	下端欠	3.9 ～	0.4	0.3	**重さ**：2.2g
28	48	確認面	銅製品　銭	完形	径 2.2	穴 0.6		開元通寶　初鋳 621 年　唐　**重さ**：2.9 g
28	49	確認面	銅製品　銭	完形	径 2.2	穴 0.6		宣和通寶　初鋳 1119 年　北宋　**重さ**：2.1 g
32	1	方竪１	手づくねかわらけ	口～底 1/3	(8.6)	(6.6)	1.8	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質良土 **備考**：外底 - 棒状圧痕・焼成後擦痕あり
32	2	方竪１	かわらけ	完形	7.5	4.8	1.8	**胎土**：橙色　橙色粒多い弱砂質土
32	3	方竪１	かわらけ	口 3/4 ～底全	7.7	5.4	1.9	**胎土**：にぶい淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
32	4	方竪１	かわらけ	口 4/5 ～底全	7.4	5.4	1.7	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
32	5	方竪１	かわらけ	口 1/2 ～底 2/3	(7.4)	5.5	1.8	**胎土**：淡褐色　混入粒子少なめ弱粉質良土
32	6	方竪１	かわらけ	口 1/4 ～底 1/3	(7.7)	(5.7)	1.6	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
32	7	方竪１	かわらけ	口 1/6 ～底 2/7	(10.7)	(7.2)	3.1	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　粉質土

表３　出土遺物観察表（13）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
32	8	方竪１	かわらけ	口１部 ～底 3/5	(12.2)	7.3	3.0	**胎土**：灰橙色　混入粒子並　弱粉質土
32	9	方竪１	かわらけ	口～底 1/3	(11.9)	(7.8)	3.2	**胎土**：橙色　混入粒子並　弱粉質土
32	10	方竪１　裏込	かわらけ	口 1/6 ～底 1/3	(12.8)	(8.2)	3.6	**胎土**：淡橙色　混入粒子少なめ弱粉質土
32	11	方竪１　裏込	かわらけ	口 1/6 ～底 3/7	(13.8)	(8.0)	3.6	**胎土**：にぶい淡橙色　白色粒子極多い弱粉質土
32	12	方竪１	土錘	１部欠	3.4	胴径 1.5	孔径 0.2	**胎土**：淡褐色　粉質良土　**重さ**：6.6g
32	13	方竪１	土器質火鉢	底部片				**胎土**：薄桃色　粉質土　**備考**：外底 - 糸切り痕
32	14	方竪１	瓦器質火鉢	底部片				**胎土**：灰白色（器表灰色）　粒子少なめ弱粉質土
32	15	方竪１	瓦器質火鉢	底部片				**胎土**：橙色　砂粒多い弱粉質土 **備考**：内底 - 斜格子暗文
32	16	方竪１	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：淡橙色（器表暗赤色）　細粒子少量粉質気味良土
32	17	方竪１	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：明灰色（器表暗赤色）　風化長石多く混じる細砂質土　**備考**：口縁部内面～外面 - 降灰ゴマ状（緑茶色）
32	18	方竪１	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：褐色（器表黒茶色）　粒子含む細砂質土
32	19	方竪１	尾張山茶碗系 片口鉢	口縁部片				**胎土**：灰色　粒子含む砂質土 **備考**：よく焼しまり硬質
32	20	方竪１	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部片				**胎土**：暗橙色　細粒子少量　気孔ある細砂質土
32	21	方竪１	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口１部 ～底 3/4	(32.3)	14.2	10.7	**胎土**：橙色　粗粒子少なめ弱粉質土 **備考**：外底 - 砂粒付着　よく焼しまり硬質
32	22	方竪１	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部片				**胎土**：褐灰色（器表淡橙色）　白色粒多く、気孔ある細砂質土
32	23	方竪１	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部片				**胎土**：暗橙色　粒子含む粘質気味粗土
32	24	方竪１	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部片				**胎土**：黒灰色（器表暗赤色）　粗砂・小礫多い砂質土　**備考**：よく焼しまり硬質
32	25	方竪１	東濃型　山茶碗	底全		5.5		**胎土**：褐白色　弱砂質緻密土　**備考**：内底 - 降灰ゴマ状　外底 - 回転糸切り→板状圧痕高台-籾殻痕
32	26	方竪１	瀬戸窯　入子	口縁部片				**胎土**：褐白色　粉質気味良土　**備考**：輪花型
32	27	方竪１	瀬戸窯　椀皿類	口縁部片				**胎土**：灰白色　弱砂質良土　**釉調**：浅緑色灰釉浸け掛け　細かい貫入多数
32	28	方竪１	瀬戸窯　折縁深皿	口縁部片				**胎土**：灰白色　弱砂質良土　**釉調**：浅緑色灰釉
32	29	方竪１	瀬戸窯　小壺	胴部 1/5				**胎土**：褐白色（胎芯暗灰色）　粉質気味良土 **釉調**：茶緑色鉄釉　**備考**：外面 - ヘラ描き沈線１条
32	30	方竪１	白磁口兀皿	口縁部片				**胎土**：白色　精良土　**釉調**：灰味乳白色透明口唇部 - 露胎
32	31	方竪１	白磁口兀皿	底 1/5		(5.6)		**胎土**：白色　精良土　**釉調**：乳白色透明　外底 - 露胎
32	32	方竪１	白磁合子蓋	1/6	(7.0)			**胎土**：白色　精良土　**釉調**：白色透明　口唇部～内面下半 - 露胎　**備考**：外面 - 型押し文
32	33	方竪１	青白磁水注	底部片				**胎土**：白色　粘質緻密土　**釉調**：白青色半透明　外底露胎　**備考**：渦巻文　２次焼成を受け器表面ブク出る
32	34	方竪１	青白磁梅瓶	胴部片				**胎土**：白色　精良土　**釉調**：青白色半透明 **備考**：外面 - 渦巻文
32	35	方竪１	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文 折縁鉢	口 1/4	(7.0)			**胎土**：明灰色　緻密土　**釉調**：暗草緑色半透明　上半 - 貫入あり　**備考**：欠損後２次利用・割れ口 - 擦痕あり
32	36	方竪１	龍泉窯 青磁折縁鉢	底部片				**胎土**：橙色　やや粗土　**釉調**：黄味灰白色不透明　粒状白濁　**備考**：酸化焔焼成

表３　出土遺物観察表（14）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
32	37	方竪１　裏込	龍泉窯 青磁華瓶	胴部片				**胎土**：白色　粘質緻密土　**釉調**：緑青色半透明　釉層厚い　**備考**：外面 - 唐草文貼付
32	38	方竪１	石製品　砥石	背面剥離 上下端欠	4.5 ～	3.0	0.55	産地不明仕上砥　砥面は表面１面　背面剥離不明　**色調**：橙色～赤色　**重さ**：10.4g
32	39	方竪１	石製品　砥石	上下端欠	7.5 ～	3.6	2.1	上野産中砥　砥面は４面　上端 - 磨滅（欠損後使用か）　**色調**：暗橙色　**重さ**：86.4g
32	40	方竪１	骨製品　笄	上端欠	4.0 ～	0.5 ～	0.15 ～	不明獣骨
32	41	方竪１	加工骨	上端・背面欠	3.7 ～	3.6	0.5	哺乳類
32	42	方竪１	加工骨	左右側欠	7.1	2.7 ～	1.2 ～	クジラ
32	43	方竪１	鉄製品　釘	完形	5.8	0.5	0.4	**重さ**：3.7g
32	44	方竪１　裏込	鉄製品　釘	完形	5.8	0.4	0.4	**重さ**：4.2g
32	45	方竪１　裏込	鉄製品　釘	下端欠	4.7 ～	0.4	0.3	**重さ**：1.7g
32	46	方竪１　裏込	鉄製品　釘	完形	4.2	0.4	0.3	**重さ**：3.5g
32	47	方竪１	鉄製品　釘	完形	4.2	1.3	0.4	**重さ**：3.6g
32	48	方竪１　裏込	銅製品　銭		径 2.4	穴 0.6		元祐通寶　初鋳 1086 年　北宋　**重さ**：3.3 g
35	1	方竪２	手づくねかわらけ	口～底 1/5	(7.7)	(6.0)	1.4	**胎土**：橙色　混入粒子並　弱粉質土
35	2	方竪２	手づくねかわらけ	小片				**胎土**：灰赤色～淡褐色　混入粒子少ない粉質良土
35	3	方竪２	かわらけ	口～底 3/4	7.5	6.0	1.8	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
35	4	方竪２	かわらけ	口～底 1/3	(7.6)	(5.8)	1.5	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
35	5	方竪２	かわらけ	口～底 1/3	(7.8)	(6.0)	1.4	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
35	6	方竪２	かわらけ	口～底 1/3	(7.7)	(5.6)	1.5	**胎土**：赤褐色　泥岩粗粒含む弱粉質土
35	7	方竪２	かわらけ	口～底 3/4	7.9	5.1	1.9	**胎土**：淡褐色　泥岩粗粒・橙色粒含む弱粉質土
35	8	方竪２	かわらけ	口 2/5 ～底 3/5	(12.7)	(8.0)	3.1	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
35	9	方竪２	かわらけ	口 1/6 ～底 1/2	(12.3)	8.5	3.2	**胎土**：にぶい淡橙色　混入粒子並　弱粉質土 **備考**：内底スス付着（灯明皿？）
35	10	方竪２	鍔釜	口縁部片				**胎土**：暗橙色（胎芯灰色）　黒色粒多い緻密良土　**備考**：よく焼しまり硬質・焼成前穿孔２ヵ所
35	11	方竪２	常滑窯　甕	肩部片				**胎土**：明灰色（器表灰茶色）　長石粒多い砂質土　**備考**:外面 - 押印あり　外面 - 降灰（濃緑色）厚い
35	12	方竪２	白磁小壺類	胴部片				**胎土**：白色　精良土　**釉調**：白色透明 **備考**：外面 - 唐草文型押し
35	13	方竪２	石製品　砥石	上下端欠	7.6 ～	3.5	2.7	上野・砥沢産中砥　砥面は３面　１部面取り整形痕　**色調**：灰白色　**重さ**：110.9g
35	14	方竪２	扁平棒状鉄製品	完形	8.9	0.7	0.1	**重さ**：9.8g　**備考**：用途不明
35	15	方竪２	鉄製品　釘	上下端欠	8.1 ～	0.6	0.4	**重さ**：7.7g
35	16	方竪２	鉄製品　釘	上下端欠	4.7	0.3	0.1	**重さ**：2.0g
35	17	方竪２	鉄製品　釘	下端欠	4.1 ～	0.2	0.4	**重さ**：2.6g
35	18	方竪２	鉄製品　釘	上端欠	4.4 ～	0.4	0.4	**重さ**：1.9g
36	1	方竪８	手づくねかわらけ	口１部 ～稜 1/4	(8.1)	稜 (6.9)	(1.7)	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
36	2	方竪８	かわらけ	口 1/3 ～底 2/5	(7.7)	(6.3)	1.6	**胎土**：暗橙色　混入粒子並　弱粉質土 **備考**：内外面スス付着（灯明皿？）
36	3	方竪８	かわらけ	完形	7.6	5.7	1.7	**胎土**：淡褐色　微砂多め弱砂質土
36	4	方竪８	かわらけ	略完形	7.0	5.3	1.6	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
36	5	方竪８	かわらけ	口～底 2/7	(7.8)	(5.2)	1.8	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
36	6	方竪８	かわらけ	口～底 1/3	(7.1)	(5.4)	1.3	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土

表３　出土遺物観察表（15）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
36	7	方竪８	かわらけ	口 2/5 ～底 3/4	7.7	5.7	1.5	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
36	8	方竪８	かわらけ	口～底 1/3	(7.9)	(4.8)	1.8	**胎土**：淡褐色　泥岩粗粒・橙色粒含む弱粉質土　**備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
36	9	方竪８	かわらけ	口～底 1/4	(8.1)	(5.8)	2.0	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱砂質土 **備考**：口唇部スス付着（灯明皿）
36	10	方竪８	かわらけ	口 1/5 ～底 1/3	(7.5)	(5.0)	1.9	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
36	11	方竪８	かわらけ	口 1/5 ～底 2/7	(7.0)	(4.7)	2.0	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土 **備考**：口縁部 - 打ち欠き
36	12	方竪８	かわらけ	略完形	7.1	4.7	2.1	**胎土**：淡橙色　橙色粒・微細雲母多め弱砂質良土
36	13	方竪８	かわらけ	口 2/3 ～底全	7.4	5.0	2.5	橙色　泥岩粒・橙色粒多め弱砂質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
36	14	方竪８	かわらけ	口～底 1/4	(7.2)	(5.2)	2.2	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱砂質土
36	15	方竪８	かわらけ	完形	7.3	4.8	2.1	**胎土**：淡褐色　混入粒子少ない弱粉質良土
36	16	方竪８	かわらけ	口 2/3 ～底全	7.6	4.4	2.2	**胎土**：暗橙色　微砂多め弱砂質土
36	17	方竪８	かわらけ	口 1/4 ～底 1/3	(7.7)	(4.7)	2.2	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
36	18	方竪８	かわらけ	口 1/4 ～底 3/5	8.1	4.3	2.5	**胎土**：淡橙色　混入粒子少なめ弱粉質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
36	19	方竪８	かわらけ	口 1/6 ～底 2/7	(7.7)	(4.4)	2.5	**胎土**：橙色　橙色粒多め弱砂質土
36	20	方竪８	かわらけ	口 1/4 ～底 2/5	(10.8)	(6.0)	3.2	**胎土**：橙色　橙色粒多め弱砂質良土
36	21	方竪８	かわらけ	口１部 ～底 2/5	(11.2)	(6.4)	3.0	**胎土**：橙色　混入粒子並　弱粉質土
36	22	方竪８	かわらけ	口～底 2/7	(11.0)	(7.4)	3.1	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱砂質土
36	23	方竪８	かわらけ	口 1/4 ～底 2/5	(11.6)	(7.1)	2.9	**胎土**：淡橙色　微砂質土
36	24	方竪８	かわらけ	口～底 1/3	(12.7)	(9.1)	3.3	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
36	25	方竪８	かわらけ	口～底 2/7	(12.9)	(8.1)	3.3	**胎土**：淡橙色　混入粒子少なめ弱粉質土 **備考**：外底 - 擦痕
36	26	方竪８	かわらけ	口 1/6 ～底 4/5	(13.2)	8.0	3.5	**胎土**：淡橙色　混入粒子少なめ弱粉質土 **備考**：外底 - 擦痕　底面中央 - 打ち欠きか？
36	27	方竪８	土錘	完形	3.2	胴径 1.4	孔径 0.2	**胎土**：にぶい淡橙色　粉質良土　**重さ**：5.3g
36	28	方竪８	土錘	完形	3.5	胴径 1.5	孔径 0.3	**胎土**：にぶい淡橙色　粉質良土　**重さ**：6.6g
36	29	方竪８	土錘	完形	3.3	胴径 1.5	孔径 0.2	**胎土**：にぶい淡橙色　粉質良土　**重さ**：6.2g
36	30	方竪８	土錘	完形	3.7	胴径 1.3	孔径 0.2	**胎土**：にぶい淡橙色　粉質良土　**重さ**：5.0g
36	31	方竪８	土錘	完形	3.1	胴径 1.2	孔径 0.2	**胎土**：にぶい淡橙色　粉質良土　**重さ**：4.1g
36	32	方竪８	土錘	完形	3.1	胴径 1.4	孔径 0.2	**胎土**：にぶい淡橙色　粉質良土　**重さ**：5.4g
36	33	方竪８	土錘	１部欠	3.2	胴径 1.5	孔径 0.2	**胎土**：にぶい淡橙色　粉質良土　重さ：6.2g
36	34	方竪８	土錘	略完形	2.9	胴径 1.4	孔径 0.2	**胎土**：にぶい淡橙色　粉質良土　**重さ**：4.5g
36	35	方竪８	土錘	完形	3.5	胴径 1.4	孔径 0.2	**胎土**：にぶい淡橙色　粉質良土　**重さ**：6.0g
36	36	方竪８	土錘	１端欠	2.1 ～	胴径 1.5	孔径 0.2	**胎土**：にぶい淡橙色　粉質良土　**重さ**：3.6g
36	37	方竪８	円板状土製品	2/5	外径 (3.6)	孔径 (0.6)	1.0	**胎土**：淡橙色　微砂含むかわらけ質精良土 **備考**：手づくね成形
36	38	方竪８	伊勢系　鍔鍋	口縁部片				**胎土**：褐白色（胎芯灰色）　金雲母多く、砂粒多い粗土　**備考**：焼しまり甘く軽質
36	39	方竪８	瓦器質火鉢	胴部片				**胎土**:暗灰色　黒色微砂多く、赤色･白色（貝殻質）粒、白針含む弱粉質土　**備考**：焼しまり甘い　(16 弁) 花文 2 つ以上組押印

表３　出土遺物観察表（16）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
36	40	方竪８	瓦器質火鉢	口縁部片				**胎土**：明灰色（胎芯白色）　粗粒子少なめ弱粉軽質質土　**備考**：輪花型
36	41	方竪８	常滑窯　鳶口壺	底 1/4		(10.4)		**胎土**：明灰色（器表淡橙色）　粒子多く、気孔ある細砂質土
36	42	方竪８	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部片				**胎土**：灰色　粗粒子多い砂質粗土 **備考**：焼しまり甘い
36	43	方竪８	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部片				**胎土**：灰色　黒色粒・白色粒含む砂質土
36	44	方竪８	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部片				**胎土**：灰色　粒子少ない細砂質良土 **備考**：よく焼しまり硬質
36	45	方竪８	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	底部 1/5		高台径 (12.0)		**胎土**：灰色　粒子少い細砂質緻密土 **備考**：よく焼しまり硬質
36	46	方竪８+ 方竪２	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	体部 1/5				**胎土**：灰色　粗粒子含む砂質やや粗土
36	47	方竪８	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	底部 1/5		高台径 (13.0)		**胎土**：暗灰色　細砂質良土 **備考**：よく焼しまり硬質
37	48	方竪８+ 方竪３	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部片				**胎土**：灰色（器表暗赤色）粒子少ない細砂質良土　**備考**：内面 - 降灰ゴマ状（緑褐色）よく焼しまり硬質
37	49	方竪８+ 方竪３	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口１部 ～底 1/4	(31.1)	(15.0)		**胎土**：黒灰色（器表暗橙色）長石細粒多い細砂質土　**備考**：内面 - 降灰（緑褐色）よく焼しまり硬質
37	50	方竪８	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部片				**胎土**：暗灰色（器表暗橙色）粗粒子少量細砂質良土　**備考**：よく焼しまり硬質
37	51	方竪８	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部片				**胎土**：淡橙色（器表暗赤色）細粒子含む弱粉質土　**備考**：よく焼しまり硬質
37	52	方竪８	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部片				**胎土**：橙灰色（器表暗赤色）粗粒子多め砂質粗土　**備考**：口唇部端・欠損面 - 擦痕あり焼成良好も粗胎の為焼しまりに欠ける
37	53	方竪８	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	底部片		(7.5)		**胎土**：暗灰色（器表暗橙色）微粒子多く、気孔ある細砂質軽質土　**備考**：外底 - 繊維痕
37	54	方竪８	備前窯　擂鉢	口縁部片				**胎土**：茶灰色　白濁粒多め砂質緻密土 **備考**：条線 -6 ～ 7 本組み
37	55	方竪８	備前窯　擂鉢	胴部片				**胎土**：茶灰色　白濁粒多め砂質緻密土 **備考**：条線 -6 本組み
37	56	方竪８	東播系　鉢	口 1/5	(28.7)			**胎土**：暗赤色　白色微粒子・少量の礫含む弱砂質土
37	57	方竪８	尾張型　山茶碗	口縁部片				**胎土**：灰色　白色粒含む砂質粗土 **備考**：口唇部 - 僅か降灰
37	58	方竪８	瀬戸窯　卸皿	口 1/6	(14.4)			**胎土**：白褐色　粉質気味軟質土 **釉調**：緑白色灰釉ハケ塗り
37	59	方竪８	瀬戸窯　折縁中皿	口１部 底部 1/2	(16.3)	10.4	(6.2)	**胎土**：灰白色　粘質気味緻密土　**釉調**：浅緑褐色灰釉　**備考**：外面体部 - ４本組櫛描条線外底 -1 ～ 2mm 凹み多数（離れ砂の痕跡？）
37	60	方竪８	瀬戸窯　折縁深皿	口～体部片				**胎土**：白褐色　砂質粗土　**釉調**：茶緑色鉄釉ハケ塗り
37	61	方竪８	瀬戸窯　折縁深皿	口縁部片				**胎土**：白褐色　弱粉質良土　**釉調**：浅緑色灰釉
37	62	方竪８	瀬戸窯　折縁深皿	口１部 ～底 4/7	(19.8)	11.6	(5.8)	**胎土**：白褐色　弱粉質土　**釉調**：浅緑褐色灰釉浸け掛け　細かい貫入あり　**備考**：内底 - 釉着痕２ヵ所マデ
37	63	方竪８	瀬戸窯　折縁深皿	口１部 ～底 1/4	(19.2)	(11.6)	5.5	**胎土**：灰白色　細砂質精良土　**釉調**：浅緑色灰釉浸け掛け　細かい貫入あり　**備考**：内底 - 釉着痕１ヵ所マデ　外面底部脇 - 釉着痕
37	64	方竪８	瀬戸窯　瓶子？	肩部片				**胎土**：白褐色　弱粉質土　**釉調**：浅緑褐色灰釉浸け掛け　細かい貫入あり　**備考**：外面 -4 本組櫛描文
37	65	方竪８	白磁口兀碗	口縁部片				**胎土**：白色　砂質気味精良土　**釉調**：乳白色透明　口唇部 - 露胎
37	66	方竪８	白磁口兀碗	口 1/8				**胎土**：白色　砂質気味精良土　**釉調**：乳白色透明　口唇部 - 露胎

表３　出土遺物観察表（17）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
37	67	方竪８	白磁口兀碗	底 3/5		(5.4)		**胎土**：白色　やや粗土　**釉調**：乳白色半透明 外底 - 露胎
37	68	方竪８	青白磁合子蓋	口 1/10				**胎土**：白色　精良土　**釉調**：青白色半透明 口縁見受け部 - 露胎　**備考**：外面 - 蓮弁文型押し
37	69	方竪 8+P2 方竪 6・方竪 3	青白磁水注？	胴部 1/5				**胎土**：白色　精良土　**釉調**：青白色不透明 **備考**：2 次焼成を受け器表面肌荒れ
37	70	方竪８	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	口縁部片				**胎土**：灰色　気孔あるやや粗土　**釉調**：灰緑色不透明　釉層薄め
37	71	方竪８	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	底 1/4				**胎土**：灰味白色　粘質緻密土　**釉調**：草緑色透明
37	72	方竪８	龍泉窯 青磁無文碗	口縁部片				**胎土**：淡茶色　砂質気味精良土　**釉調**：褐色透明　細かい貫入多い　釉層薄い
37	73	方竪８	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文 折縁鉢	口縁部片				**胎土**：白色　緻密土　**釉調**：緑青色半透明 **備考**：２次焼成を受け器表失透
37	74	方竪８	龍泉窯 青磁蓮弁文 折縁鉢	口縁部片				**胎土**：白色　粘質緻密土　**釉調**：青白色不透明　貫入あり　口唇端 - 露胎　**備考**：外面 - 蓮弁文陽刻　内面 - 蓮弁文陰刻　口縁部 - 輪花型
37	75	方竪８	龍泉窯 青磁折縁鉢	底 1/6		(10.0)		**胎土**：灰味白色　粘質緻密土　**釉調**：濃青緑色透明　高台畳付 - 露胎
37	76	方竪８	龍泉窯 青磁蓮弁文合子	口 1/4 ～底 1/8	(10.0)	(7.0)	3.7	**胎土**：白色　粘質緻密土　**釉調**：濃灰緑色透明　口縁部・高台畳付一露胎　**備考**：外面 - 蓮弁文線刻　内底 - 細かいキズ多数　口縁露胎部 - 黒ずむ（墨付着？）
38	77	方竪８	石製品　硯石原材	残片	4.0 ～	3.9 ～	1.4 ～	赤間ヶ関産　表裏 - 粗型取りの線引き痕あり **色調**：赤茶色　**重さ**：19.9 g
38	78	方竪８	石製品　砥石	背面剥離 左・上下端欠	3.9 ～	2.7 ～	0.2	鳴滝・向田産仕上砥　砥面は表面１面遺存、背面剥離不明　**色調**：橙灰色　**重さ**：2.1g
38	79	方竪８	石製品　砥石	下端欠	4.0 ～	3.1	0.6	鳴滝・菖蒲ヶ谷産仕上砥　砥面は表裏２面 **色調**：桃色　**重さ**：13.3g
38	80	方竪８	石製品　砥石	下端欠	5.6 ～	2.6	0.9 ～	鳴滝・中山産仕上砥　砥面は表裏２面 **色調**：淡緑褐色　**重さ**：14.3g
38	81	方竪８	石製品　砥石	下端欠	5.4 ～	2.8	0.6	鳴滝・中山産仕上砥　砥面は表裏２面　上端 - 消費地加工痕　**色調**：淡桃褐色　**重さ**：12.4g
38	82	方竪８	石製品　砥石	上下端欠	5.5 ～	3.2	2.1	伊予産中砥　砥面は４面　**色調**：黄白色 **重さ**：72.6g
38	83	方竪８	石製品　砥石	背面・上下端欠	3.9 ～	3.7	2.4 ～	天草産中砥　砥面は３面　上端・背面磨滅（欠損後使用か）　**色調**：白茶色　**重さ**：53.6g
38	84	方竪８	石製品　砥石	上下端欠	6.1 ～	3.9	2.8	天草産中砥　砥面は４面　表面～左側 - アクのる　**色調**：白橙色　**重さ**：89.7g
38	85	方竪８	石製品　砥石	上下端欠	6.8 ～	3.6	2.6	上野・砥沢産中砥　砥面は４面　**色調**：灰白色　**重さ**：96.4g
38	86	方竪８	石製品　砥石	上下端欠	6.0 ～	3.1	2.7	上野・砥沢産中砥　砥面は４面　右側 - アクのる　**色調**：緑白色　**重さ**：75.1g
38	87	方竪８	骨製品　笄		8.9 ～	1.4	0.3	不明獣骨
38	88	方竪８	骨製品　笄		3.6 ～	1.2	0.2	不明獣骨
38	89	方竪８	加工骨		6.1	3.4 ～	2.3 ～	クジラ
38	90	方竪８	加工骨		5.7	3.9 ～	2.8	クジラ
38	91	方竪８	加工骨		4.6	1.4 ～	0.6 ～	クジラ
38	92	方竪８	板状鉄製品	一端欠	6.0 ～	1.2	0.4	**重さ**：14.0g
38	93	方竪８	鉄製品　刀子	一端欠	3.6 ～	1.1	0.25	**重さ**：6.6g　中子孔径 (0.3)　**備考**：木質遺存
38	94	方竪８	鉄製品　環状金具	下端欠	5.7 ～	0.25	0.25	**重さ**：3.1g
38	95	方竪８	鉄製品　掛け金具	完形	4.9	0.4	0.4	**重さ**：7.6g
38	96	方竪８	扁平棒状鉄製品	下端欠	7.0 ～	0.9	0.35	**重さ**：8.6g
38	97	方竪８	扁平棒状鉄製品	上下端欠	4.2 ～	0.85	0.15	**重さ**：1.9g
38	98	方竪８	鉄製品　釘	下端欠	9.8 ～	0.7	0.25	**重さ**：8.9g
38	99	方竪８	鉄製品　釘	完形	6.0	0.4	0.4	**重さ**：3.5g
38	100	方竪８	鉄製品　釘	下端欠	4.8 ～	0.35	0.3	**重さ**：3.2g

表３　出土遺物観察表（18）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
38	101	方竪８	鉄製品　釘	下端欠	4.5 ～	0.35	0.3	重さ：2.4g
38	102	方竪８	鉄製品　釘	下端欠	4.2 ～	0.25	0.45	重さ：3.1g
38	103	方竪８	鉄製品　釘	下端欠	4.1 ～	0.4	0.3	重さ：2.5g
38	104	方竪８	鉄製品　釘	上下端欠	4.9 ～	0.15	0.15	重さ：1.2g
38	105	方竪８	鉄製品　釘	完形	7.2	0.45	0.45	重さ：4.1g
38	106	方竪８	鉄製品　釘	下端欠	4.6 ～	0.25	0.4	重さ：1.9g
38	107	方竪８	鉄製品　釘	下端欠	4.7 ～	0.3	0.3	重さ：2.1g
38	108	方竪８	銅製品　銭	完形	2.4	穴 0.6		政和通寶　初鋳 1111 年　北宋　重さ：3.2 g
39	1	土坑 15（方竪８）	かわらけ	口 1/3 ～底 2/5	(7.2)	(5.0)	2.2	胎土：淡橙色　混入粒子並　弱砂質土
39	2	土坑 15（方竪８）	かわらけ	口～底 1/4	(7.1)	(5.0)	1.9	胎土：橙色（胎芯桃色）　橙色粒多い弱砂質土　備考：口唇部タール付着（灯明皿）
39	3	土坑 15（方竪８）	かわらけ	口 2/3 ～底全	13.4	7.8	3.5	胎土：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
39	4	土坑 15（方竪８）	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部片				胎土：明灰色　粒子少ない細砂質良土 備考：焼しまり甘い
39	5	土坑 15（方竪８）	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部片				胎土：灰色　細粒子少ない粘質気味緻密土 備考：よく焼しまり硬質
39	6	土坑 15（方竪８）	瓦器質火鉢	口～底				胎土：明灰色（器表明灰色）　白色（貝殻質）粒多い強砂質粗土　備考：外面 -16 弁花文押印
39	7	土坑 15（方竪８）	加工骨		6.2 ～	2.8 ～	1.3 ～	クジラ
39	8	土坑 15	かわらけ	口～底 2/5	(7.8)	(5.2)	1.8	胎土：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
39	9	土坑 15	瓦器質火鉢	口縁部片				胎土：白灰色（器表黒灰色）　黒色（発泡質）粒含む軽質土　備考：外面 - 平行沈線区画内８弁花文押印
39	10	撹乱	瓦器質火鉢	胴部片				胎土：白灰色（器表黒灰色）　黒色（発泡質）粒含む軽質土　備考：外面 - 花文押印
39	11	確認面マデ	瓦器質火鉢	胴部片				胎土：白灰色（器表黒灰色）　黒色（発泡質）粒含む軽質土　備考：外面 - 平行沈線区画内８弁花文押印、連珠文貼花
39	12	土坑 15	常滑窯　甕	底 1/4		(15.0)		胎土：橙色（器表暗赤色）　粒子含む砂質粗土　備考：焼成良好も焼しまり甘い
39	13	土坑 15	石製品　砥石	左側・下端欠	8.4 ～	(3.4)	0.4 ～ 1.2	鳴滝・向田産仕上砥　砥面は表裏２面 色調：緑灰色　重さ：41.7g
39	14	土坑 15	加工骨	左右側欠	5.8	4.1 ～	2.3 ～	クジラ
39	15	土坑 15	加工骨	左右側欠	5.9	3.8 ～	2.0 ～	クジラ
39	16	土坑 15	鉄製品　釘	下端欠	4.5 ～	0.5	0.3	重さ：3.6g
40	1	方竪 12	かわらけ	口 2/5 ～底 2/3	(7.4)	6.5	1.5	胎土：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
40	2	方竪 12	かわらけ	口 2/5 ～底 3/4	(7.6)	5.8	1.4	胎土：暗橙色　橙色粒・白針多い砂質土
40	3	方竪 12	かわらけ	口～底 2/7	(8.0)	(5.4)	1.6	胎土：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
40	4	方竪 12	かわらけ	口～底 1/2	7.9	5.4	1.5	胎土：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
40	5	方竪 12	かわらけ	口～底 1/3	(6.9)	(4.9)	1.6	胎土：にぶい淡橙色　混入粒子並　弱砂質土
40	6	方竪 12	常滑窯　壺	口縁部片				胎土：灰色（器表茶灰色）　粒子多め細砂質土　備考：口唇部～内面 - 降灰（白緑色）
40	7	方竪 12	骨製品　笄	上端欠	13.4 ～	1.2	0.2	不明獣骨
40	8	方竪 12	鉄製品　鍋？	底部片？	5.7 ～	4.8 ～	0.6	重さ：47.9g
40	9	方竪 12	鉄製品　刀子	１側辺残存	9.1 ～	1.3 ～	0.3	重さ：5.2g（+ 残片 2.7 g ）
40	10	方竪 12	鉄製品　刀子？	１側辺残存	9.4 ～	2.2 ～	0.2	重さ：25.2g（+ 残片 29.7 g ）
40	11	方竪 12	板状鉄製品	下端欠	3.9 ～	2.1	0.2	重さ：8.4g
40	12	方竪 12	棒状鉄製品	完形	17.0	0.3	0.4	重さ：9.8g
40	13	方竪 12	鉄製品　釘	上端１部欠	7.5	0.4	0.4	重さ：8.0g

表３　出土遺物観察表（19）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
40	14	方竪 12	鉄製品　釘	完形	6.0	0.3	0.4	**重さ**：3.6g
42	1	方竪 3	手づくねかわらけ	口 1/5 ～底 1/4	(7.5)	(6.0)	1.6	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　粉質土
42	2	方竪 3	かわらけ	口～底 1/3	(7.3)	(5.6)	1.7	**胎土**：橙色　混入粒子並　弱粉質土
42	3	方竪 3	かわらけ	口 1/6 ～底 2/7	(7.2)	(6.0)	1.5	**胎土**：橙色　橙色粒多い砂質土
42	4	方竪 3	かわらけ	口 1/4 ～底 3/4	(7.7)	5.4	1.8	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　粉質土
42	5	方竪 3	かわらけ	口～底 1/3	(7.7)	(6.1)	1.6	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　粉質土
42	6	方竪 3	かわらけ	口～底 2/7	(7.6)	(5.4)	1.9	**胎土**：淡褐色　黒砂多い粉質土
42	7	方竪 3	かわらけ	口～底 1/2	7.8	5.8	1.6	**胎土**：淡橙色　泥岩粗粒・橙色粒多め弱粉質土
42	8	方竪 3	かわらけ	口～底 1/3	(7.4)	(5.0)	1.4	**胎土**：淡褐色　混入物少なめ弱粉質土
42	9	方竪 3	かわらけ	口 2/5 ～底全	(7.7)	4.6	1.7	**胎土**：淡褐色　混入粒子少なめ弱粉質土
42	10	方竪 3	かわらけ	口 2/7 ～底 2/5	(7.7)	(5.0)	1.7	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
42	11	方竪 3	かわらけ	口 2/5 ～底 1/2	(7.6)	4.4	1.9	**胎土**：淡褐色　泥岩粒多め弱粉質土
42	12	方竪 3	かわらけ	口 1 部 ～底 1/2	(7.8)	5.8	1.8	**胎土**：淡橙色　橙色粒多め弱砂質土
42	13	方竪 3	かわらけ	完形	7.9	5.2	2.0	**胎土**：橙色　橙色粒多い砂質土
42	14	方竪 3	かわらけ	口～底 2/7	(7.7)	(5.0)	1.9	**胎土**：橙色　橙色粒多い砂質土
42	15	方竪 3	かわらけ	口 1 部 ～底 1/3	(7.7)	(5.0)	2.6	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
42	16	方竪 3	かわらけ	完形	7.2	4.4	2.1	**胎土**：淡橙色　泥岩粒多め弱粉質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
42	17	方竪 3	かわらけ	完形	7.2	4.8	2.0	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
42	18	方竪 3	かわらけ	口 1/3 ～底 1/2	(10.6)	(6.0)	2.9	**胎土**：淡橙色　混入粒子少なめ　弱粉質良土
42	19	方竪 3	かわらけ	略完形	11.2	6.2	3.0	**胎土**：暗橙色　泥岩粗粒多い微砂質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
42	20	方竪 3　裏込	かわらけ	口 1/6 ～底 1/3	(11.3)	(6.5)	3.1	**胎土**：橙色　橙色粒多い弱砂質土
42	21	方竪 3	かわらけ	口 1/4 ～底全	(11.6)	8.3	3.1	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　粉質土
42	22	方竪 3	かわらけ	口 2/5 ～底 1/2	(11.8)	8.3	3.0	**胎土**：淡褐色　泥岩粗粒・黒砂多い砂質土
42	23	方竪 3	かわらけ	口 1/4 ～底 1/2	(12.9)	7.4	3.5	**胎土**：淡橙色　混入粒子少なめ　弱粉質良土
42	24	方竪 3	かわらけ	口 1 部 ～底 1/4	(14.0)	(8.4)	3.8	**胎土**：橙色　混入粒子少なめ　弱粉質良土
42	25	方竪 3	かわらけ	口～底 1/4	(11.9)	(7.2)	3.3	**胎土**：淡橙色　混入粒子少なめ　弱粉質土 **備考**：外底 - 擦痕
42	26	方竪 3	土錘	完形	3.5	胴径 1.3	孔径 0.15	**胎土**：淡褐色　粉質良土　**重さ**：5.0g
42	27	方竪 3	鍔釜	口縁部片				**胎土**：暗褐色（胎芯黒色）　砂粒多く気孔ある粗土　**備考**：径 0.8cm 焼成前穿孔
42	28	方竪 3	不明土製品	胴 1/4				**胎土**：橙色（胎芯灰色）　黒砂多く、泥岩粒・白色粒含む　**備考**：ロクロ成形　外面上位 - ヘラ描き沈線１条
42	29	方竪 3	平瓦	広狭側端欠 上下不明				**胎土**：にぶい淡橙色　小礫含む粗土　**せいけい**：凹面 - 布目痕　凸面 - 粗い離れ砂→縦位強ナデ　**備考**：よく焼しまり密度ある

表３　出土遺物観察表（20）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
42	30	方竪 3+ 方竪 13	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：赤灰色（器表暗茶色）　長石粗粒含み、気孔ある細砂質土　**備考**：口縁部～外面 - 降降灰ゴマ状（緑白色）
42	31	方竪 3	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：淡橙色（器表灰茶色）　細粒子含み、気孔ある細砂質土
42	32	方竪 3･ 方竪 13	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：明灰色（器表暗赤色）　風化長石混じる細砂質良土　**備考**：口縁部内面 - 降灰ゴマ状（灰緑色）
42	33	方竪 3	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：明灰色（器表暗茶色）　風化長石少量混じる細砂質土　**備考**:口縁部内面 - 降灰（緑色）
42	34	方竪 3	常滑窯　甕	肩部片				**胎土**：白褐色　粒子少ない粉質土 **備考**：外面 - 押印あり
42	35	方竪 3	常滑窯 陶片加工品	略完形	3.5	3.7	1.0	**胎土**：褐灰色（器表茶色）　細砂質土 **備考**：外面・内面周縁・縁辺下端 - 擦痕
42	36	方竪 3	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部片				**胎土**：白褐色　長石粒・赤色粒・白色粒多く、気孔ある軽質やや粗土
42	37	方竪 3	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部片				**胎土**：淡茶色　粒子含む砂質土
42	38	方竪 3	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部片				**胎土**：明灰色　細粒子含む砂質良土
42	39	方竪 3	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部片				**胎土**：暗灰色（器表茶灰色）　長石粒・白色粒多め細砂質土
42	40	方竪 3	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部片				**胎土**：黒灰色（器表暗赤色）　白色微細粒含む砂質緻密土　**備考**：よく焼しまり硬質
42	41	方竪 3	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口 1/5	(28.2)			**胎土**：灰色（器表暗橙色）　粗粒子多く、気孔ある弱粉質土　**備考**：焼しまり甘め
42	42	方竪 3	備前窯　擂鉢	底部片				**胎土**：淡橙色（器表赤茶色）　微細黒色粒・暗赤色小礫多い層状緻密土　**備考**：条線 -5 本組み　内面 - 降灰（乳白色）
42	43	方竪 3　裏込	東播系　鉢	口 1/7	(24.2)			**胎土**：灰白色～暗灰色　白色微粒子・小石含む気孔多い軽質土
42	44	方竪 3	東濃型　山茶碗	口縁部片				**胎土**：白灰色　弱砂質精良土
42	45	方竪 3	瀬戸窯　卸皿	口 1/6 ～底 1/4	(13.1)	(7.7)	3.8	**胎土**：白褐色　粉質気味良土　**釉調**：緑白色灰釉ハケ塗り　**備考**：外底 - 回転糸切り無調整
42	46	方竪 3	瀬戸窯　卸皿	底部片				**胎土**：灰白色　弱砂質良土　**釉調**：緑灰色灰釉ハケ塗り　**備考**：外底 - 回転糸切り無調整
43	47	方竪 3	白磁口兀皿	口 1/8	(9.7)	-	-	**胎土**：白色　やや粗土　**釉調**：灰白色不透明細かい貫入あり　口唇部 - 露胎
43	48	方竪 3	白磁壺	胴部片				**胎土**：灰白色　気孔あるやや粗土　**釉調**：灰白色透明
43	49	方竪 3	龍泉窯 青磁碗	底 2/5		(4.6)		**胎土**：灰白色　精良土　**釉調**：浅緑青色透明　高台畳付～高台内 - 露胎
43	50	方竪 3	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	口縁部片				**胎土**：灰色　緻密土　**釉調**：濃緑色透明
43	51	方竪 3	龍泉窯 青磁折腰碗	口縁部片				**胎土**：明灰色　精良土　**釉調**：暗灰緑色半透明　貫入あり　**備考**：器表磨滅失透
43	52	方竪 3	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文鉢	体部片				**胎土**：浅橙色　砂質気味精良土　**釉調**：暗灰緑色半透明　細かい貫入あり　**備考**：焼成不良
43	53	方竪 3	龍泉窯 青磁折縁鉢	口～体部片				**胎土**：灰白色　緻密土　**釉調**：緑青色透明 **備考**：内面口縁部下 - 横線 4 条　内面体部 - 草文　外面 - 失透白濁青灰色（２次焼成をうけているか？）
43	54	方竪 3	滑石鍋片加工品	底 1/3		(11.6)		**色調**：桃灰色　**備考**：欠損部 - 刃物痕あり
43	55	方竪 3	滑石製　温石	右左側欠	7.5 ～	9.0	2.3	**色調**：桃銀色　**重さ**：265.5 g
43	56	方竪 3	石製品　砥石	下端欠	9.8 ～	6.2	0.5 ～ 0.8	鳴滝産仕上砥　砥面は表裏２面　**色調**：白桃色　**重さ**：90.1g　**備考**：近世以降の製品か
43	57	方竪 3	石製品　砥石	下端欠	6.4 ～	3.3	1.0	鳴滝・向田産仕上砥　砥面は表裏２面 **色調**：緑灰色　**重さ**：41.1g

表３　出土遺物観察表（21）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
43	58	方竪３	石製品　砥石	上下端欠	4.6 ～	3.5	0.9 ～	鳴滝・中山産仕上砥　砥面は表裏２面 **色調**：淡黄色　**重さ**：19.5g
43	59	方竪３	石製品　砥石	下端欠	7.6 ～	2.6	2.2	上野産中砥　砥面は４面　上端 - 刃物痕　背面～下端 - 丸鑿状の抉りあり　**色調**：白緑色 **重さ**：63.0g
43	60	方竪３	石製品　砥石	上下端欠	6.2 ～	5.2	3.5	伊予産中砥　砥面は４面　右側 - 棒状工具？による抉り痕　**色調**：褐白色斑状　**重さ**：170.6g
43	61	方竪３	石製品　砥石	上下端欠	7.6 ～	3.8	2.3	伊予産中砥　砥面は４面　**色調**：褐白色 **重さ**：103.8g
44	62	方竪３	骨製品　笄	下端欠	6.0 ～	1.6	0.3	シカ？
44	63	方竪３	骨製品　笄	下端右側欠	6.2 ～	0.9 ～	0.3	不明獣骨
44	64	方竪３　裏込	加工骨	完形	3.6 ～	1.6	1.5	シカ角
44	65	方竪３　裏込	加工骨	左右側欠	5.9	2.3 ～	1.3 ～	クジラ
44	66	方竪３	加工骨	完形	14.0	3.1	3.5	クジラ下顎骨？
44	67	方竪３	加工骨	１部欠	19.7	8.6	3.3	クジラ下顎骨
44	68	方竪３	扁平棒状鉄製品	下端欠	8.2 ～	0.5	0.2	**重さ**：3.8g
44	69	方竪３	扁平棒状鉄製品	上端欠	6.3 ～	0.4	0.5	**重さ**：3.6g
44	70	方竪３	扁平棒状鉄製品	一部欠	5.1	0.4	0.2	**重さ**：2.2g
44	71	方竪３	鉄製品　釘	完形	3.8	0.2	0.2	**重さ**：2.0g
44	72	方竪３	鉄製品　釘	完形	9.8	0.2	0.4	**重さ**：8.8g
44	73	方竪３	鉄製品　釘	完形	7.9	0.2	0.4	**重さ**：3.8g
44	74	方竪３	鉄製品　釘	完形	7.2	0.3	0.4	**重さ**：7.7g
44	75	方竪３	鉄製品　釘	下端欠	8.5 ～	0.2	0.5	**重さ**：5.7g
44	76	方竪３	鉄製品　釘	下端欠	6.4 ～	0.2	0.3	**重さ**：5.7g
44	77	方竪３	鉄製品　釘	下端欠	4.4 ～	0.2	0.5	**重さ**：3.1g
44	78	方竪３	鉄製品　釘	完形	4.7	0.3	0.5	**重さ**：2.0g
44	79	方竪３	鉄製品　釘	下端欠	4.0 ～	0.5	0.3	**重さ**：5.0g
44	80	方竪３	銅製品　口金	完形	2.3	0.8	0.25	**重さ**：1.48g
46	1	方竪４	かわらけ	口 1/4 ～底 1/2	(7.6)	6.7	(1.5)	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
46	2	方竪４	かわらけ	口～底 1/3	(7.7)	(6.0)	1.5	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
46	3	方竪４	かわらけ	口１部～底全	(7.3)	4.7	2.3	**胎土**：橙色　混入粒子並　粉質土
46	4	方竪４	かわらけ	口～底 1/4	(11.8)	(8.1)	2.8	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
46	5	方竪４	坩堝	口縁部片				**胎土**：暗灰色　混入粒子少ない良土 **備考**：かわらけ転用か？
46	6	方竪４	常滑窯 片口鉢Ｉ類	口縁部片				**胎土**：白褐色　粒子含む砂質やや粗土
46	7	方竪４	白磁口兀皿	底 1/3		(5.8)		**胎土**：白色　粘質緻密土　**釉調**：青味白色透明　外底 - 露胎
46	8	方竪４・土坑 15 ・方竪８	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文 浅形碗	口 1/8	(14.9)			**胎土**：明灰色　粘質気味精良土　**釉調**：白緑青色不透明　白濁気味　**備考**：口唇部 - 突起あり
46	9	方竪４	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	口 1/6	(12.0)			**胎土**：灰味白色　精良土　**釉調**：暗灰緑色半透明　粗い貫入あり
46	10	方竪４	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	口縁部片				**胎土**：灰色　砂質気味精良土　**釉調**：薄灰青色透明
46	11	方竪４	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文 折縁鉢	口 1/5	(10.2)			**胎土**：白色　精良土　**釉調**：草緑色半透明　貫入あり
46	12	方竪４	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文 折縁鉢	口 1/4	(10.4)			**胎土**：明灰色　粘質気味緻密土　**釉調**：灰青色半透明　貫入少々　**備考**：２次焼成を受け器表肌荒れ
46	13	方竪４	龍泉窯 青磁折縁鉢	口 1/8	(22.4)			**胎土**：白色　精良土　**釉調**：浅青緑色半透明

表３　出土遺物観察表（22）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
46	14	方竪 4	石製品　砥石	上下端欠	7.7 ～	3.2	1.6 ～	産地不明中砥　砥面は表裏 2 面　**色調**：橙灰色　**重さ**：77.2 g
46	15	方竪 4	骨製品　笄	完形	16.1 ～	0.7	0.2	不明獣骨
46	16	方竪 4	鉄製品　釘	下端欠	9.6 ～	0.3	0.5	**重さ**：7.2g
46	17	方竪 4	鉄製品　釘	完形	7.9	0.4	0.5	**重さ**：7.3g
46	18	方竪 4	鉄製品　釘	完形	7.2	0.6	0.5	**重さ**：6.9g
46	19	方竪 4	鉄製品　釘	略完形	5.8	0.4	0.4	**重さ**：2.8g
46	20	方竪 4	銅製品　銭	完形	2.4	穴 0.6		開元通寶　初鋳 621 年　唐　**重さ**：3.8 g
49	1	方竪 13	かわらけ	口 3/4 ～底 7/8	7.7	6.0	1.5	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
49	2	方竪 13	かわらけ	口～底 5/6	7.5	6.6	1.4	**胎土**：橙色　橙色粒・泥岩粒ほか混入粒子多い砂質粗土　**備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
49	3	方竪 13	かわらけ	口 1/4 ～底 1/2	(8.1)	6.0	1.5	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　粉質土 **備考**：口唇部スス付着（灯明皿）
49	4	方竪 13	かわらけ	口～底 1/3	(7.8)	(5.5)	1.4	**胎土**：淡橙色　微砂多め弱砂質土 **備考**：口縁部暗灰色に変色、ブクが出ている（２次焼成を受けているか？）
49	5	方竪 13	かわらけ	口～底 1/3	(7.3)	(6.0)	1.4	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
49	6	方竪 13	かわらけ	口～底 1/3	(7.6)	(5.7)	1.5	**胎土**：にぶい淡褐色　混入粒子並　弱粉質土 **備考**：口唇１部黒灰色に変色（灯明皿？） 外底面擦痕あり
49	7	方竪 13	かわらけ	口～底 1/3	(6.8)	(5.5)	1.5	**胎土**：橙色　混入粒子並　弱砂質土
49	8	方竪 13	かわらけ	口～底 2/7	(6.8)	(5.0)	1.6	**胎土**：橙色　橙色粒多い砂質土
49	9	方竪 13	かわらけ	口～底 1/3	(7.6)	(5.6)	1.6	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱砂質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
49	10	方竪 13	かわらけ	口 1/3 ～底 2/3	(7.7)	5.7	1.6	**胎土**：淡橙色　橙色粒・泥岩粒ほか混入粒子多い砂質粗土
49	11	方竪 13	かわらけ	略 3/5	(7.7)	(6.0)	1.8	**胎土**：赤褐色（胎芯黒灰色）　微砂多め弱砂質土
49	12	方竪 13	かわらけ	口～底 1/4	(7.8)	(5.1)	1.8	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
49	13	方竪 13	かわらけ	口～底 2/5	(7.0)	(5.2)	1.7	**胎土**：暗橙色　混入粒子並　弱粉質土
49	14	方竪 13	かわらけ	口～底 1/3	(7.8)	(4.9)	1.5	**胎土**：橙色　混入粒子多め弱砂質土
49	15	方竪 13	かわらけ	口 1/2 ～底全	11.3	6.9	3.5	**胎土**：橙色　橙色粒多い弱粉質土
49	16	方竪 13	土錘	端部１部欠	6.2	胴径 2.0	孔径 0.8	**胎土**：橙色　粉質良土　**重さ**：20.5g
49	17	方竪 13	鍔釜	口縁部片				**胎土**：にぶい淡橙～暗茶色　白色粒（貝殻質）多い　細砂質土　**備考**：焼しまり甘く軽質
49	18	方竪 13	常滑窯　三筋壺	肩部片				**胎土**：明灰色（器表黒茶色）　粗粒子多い風化長石混じる細砂質土　**備考**：外面 - ヘラ描き沈線３条
49	19	方竪 13	常滑窯　鳶口壺	底 1/4		(11.0)		**胎土**：灰色（器表明茶色）　長石粒多い砂質粗土　**備考**：内底 - 降灰ゴマ状（緑色）
49	20	方竪 13	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：灰色（器表茶褐色）　粒子少量　風化長石混じる細砂質土　**備考**：口縁部内面 - 降灰ゴマ状（黒茶色）
49	21	方竪 13	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：暗橙色（器表暗茶色）　長石粒少なめ、他粒子含む細砂質良土
49	22	方竪 13	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：黒灰色（器表茶色）　粒子少量　細砂質土　**備考**：口縁部内面 - 降灰ゴマ状（緑灰色）
49	23	方竪 13	常滑窯　甕	胴部片				**胎土**：黒灰色（器表黒褐色）　粗粒子多め細砂質粗土　**備考**：外面 - 押印あり
49	24	方竪 13	常滑窯　甕	部位不明残欠				**胎土**：黒灰色（暗茶色）　長石粒極多い砂質粗土　**備考**：外面 - 押印あり　※天地不明

表３　出土遺物観察表（23）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
49	25	方竪 13	常滑窯　甕	部位不明残欠				**胎土**：灰色　細粒子少量　粘質気味緻密土 **備考**：外面 - 押印あり　※天地不明
49	26	方竪 13	常滑窯 陶片加工品		6.1	4.5	0.9	**胎土**：明灰色（器表明赤色）　淡褐色軟質鉱物粒含む弱粉質土　**備考**：縁辺１部 - 擦痕
49	27	方竪 13・土坑 17	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口 1/7	(19.2)			**胎土**：明灰色　粒子含む細砂質良土
49	28	方竪 13	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部片				**胎土**：明灰色　黒色輝石多め砂質良土 **備考**：よく焼しまり硬質
49	29	方竪 13	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部片				**胎土**：明灰色　粒子含む砂質やや粗土
49	30	方竪 13+ 方竪 14	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	底部 1/5		高台径 (14.4)		**胎土**：灰色　粗粒子多い砂質粗土 **備考**：焼しまり甘い
49	31	方竪 13	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	底 1/4		高台径 (14.8)		**胎土**：明灰色　粗粒子含む細砂質良土 **備考**：よく焼しまり硬質
49	32	方竪 13	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口～体 1/5	(27.0)			**胎土**：にぶい灰橙色　粗粒子多い弱砂質粗土
50	33	方竪 13・溝 1	瀬戸窯　水注	頸～肩片 1/3				**胎土**：白灰色　弱砂質良土　**釉調**：浅緑灰色灰釉　**備考**：外面 - ヘラ描き文
50	34	方竪 13	白磁口兀碗	口 1/8	(12.0)			**胎土**：白色　精良土　**釉調**：灰味白色透明 口唇部 - 露胎
50	35	方竪 13	白磁口兀皿	口縁部片				**胎土**：白色　砂質気味精良土　**釉調**：黄味白色透明　外面 - 細かい貫入あり　口唇部 - 露胎
50	36	方竪 13	白磁壺	頸 1/8				**胎土**：白色　粘質緻密土　**釉調**：緑味白色透明　細かい貫入あり
50	37	方竪 13 ＋落ち込み②	青白磁小壺？	口 1/4 胴下部 1/5 底 1/8	(2.8)	(6.5)	(7.8)	**胎土**：灰味白色　粘質緻密土　**釉調**：水青色半透明　細かい貫入多数　**備考**：外面肩部 - 雷文・体部 - 唐草文型押し　２次焼成を受け器表肌荒れ失透、ブク出る
50	38	方竪 13	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	口縁部片				**胎土**：灰味白色　砂質気味精良土 **釉調**：浅草緑色透明
50	39	方竪 13	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	口縁部片				**胎土**：白色　精良土　**釉調**：水青色半透明 貫入少々
50	40	方竪 13	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文 浅形碗	口１部 ～底 1/5	(13.0)	(7.3)	4.2	**胎土**：明灰色　粘質緻密土　**釉調**：灰緑色半透明　高台畳付 - 露胎
50	41	方竪 13	龍泉窯 青磁双魚文鉢	底 1/8				**胎土**：灰味白色　粘質緻密土　**釉調**：草緑色不透明　**備考**：内底 - 魚文貼付　外面–鎬蓮弁文　器表 - キズ多く失透
50	42	方竪 13	滑石鍋片加工品	口 1/6	(15.0)			**色調**：銀黒色　**備考**：欠損部 - 整形痕・刃物痕あり　内面 - 引っ掻き痕多数
50	43	方竪 13	不明鉄製品	略完形	4.4	1.4	0.9	**重さ**：11.1g
50	44	方竪 13	鉄製品　釘	上部欠	8.5	0.4	0.4	**重さ**：4.6g
50	45	方竪 13	鉄製品　釘	上部欠	7.0 ～	0.4	0.4	**重さ**：7.8g
50	46	方竪 13	鉄製品　釘	下端欠	5.9 ～	0.2	0.3	**重さ**：2.6g
50	47	方竪 13	鉄製品　釘	下端欠	5.4 ～	0.5	0.6	**重さ**：7.0g
50	48	方竪 13	鉄製品　釘	下端欠	4.8 ～	0.4	0.4	**重さ**：2.3g
50	49	方竪 13	鉄製品　釘	下端欠	5.6 ～	0.4	0.4	**重さ**：3.7g
50	50	方竪 13	鉄製品　釘	上部・下端欠	4.8 ～	0.4	0.4	**重さ**：2.7g
50	51	方竪 17	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：灰白色（器表暗茶色）　微粒子少量、風化長石混じる細砂質土　**備考**：外面 - 降灰（褐緑色）厚い
50	52	方竪 17	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部片				**胎土**：茶灰色　小礫含み、気孔ある細砂質やや粗土　**備考**：焼しまり甘い
51	1	方竪 5A・方竪 13B	かわらけ	口～底 3/5	7.9	5.0	1.9	**胎土**：暗褐色　泥岩粗粒含む弱粉質土
51	2	方竪 5A・方竪 13B	かわらけ	口～底 1/3	(7.8)	(5.1)	1.8	**胎土**：にぶい橙色　混入粒子少なめ弱粉質土
51	3	方竪 5A・方竪 13B	かわらけ	口～底 1/4	(8.2)	(4.8)	1.8	**胎土**：にぶい淡橙色（胎芯黒橙色）　微砂・橙色粒多め弱砂質土

表３　出土遺物観察表（24）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
51	4	方竪 5A・方竪 13B	かわらけ	口～底 1/4	(7.4)	(5.0)	1.9	**胎土**：橙色　泥岩粗粒多め弱砂質土
51	5	方竪 5A・方竪 13B	かわらけ	口～底 1/4	(7.1)	(4.9)	1.9	**胎土**：にぶい淡橙色　混入粒子少ない弱粉質良土
51	6	方竪 5+ 方竪 13	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：明灰色（器表暗赤色）　粗粒子多め、風化長石混じる細砂質土　**備考**：口縁部内面・外面下部 - 降灰（黒茶色）
51	7	方竪 5+P29	常滑窯　甕	底 3/5		16.6		**胎土**：暗灰色　粗粒子多い弱粉質土 **備考**：外底 - 砂粒付着
51	8	方竪 5	尾張山茶碗系 片口鉢	口縁部片				**胎土**：灰色（器表黒茶色）　粒子含む砂質良土　**備考**：口唇部～内面 - 降灰ゴマ状（白褐色）よく焼しまり硬質
51	9	方竪 5	龍泉窯 青磁折縁鉢	口縁部片				**胎土**：明灰色　精良土　**釉調**：浅灰緑色透明
51	10	方竪 5	龍泉窯 青磁蓮弁文折縁鉢	体部片				**胎土**：灰白色　緻密土　**釉調**：灰青色半透明貫入あり　**備考**：内面 - 蓮弁文陰刻
51	11	方竪 5	石製品　砥石	上下端欠	9.7 ～	3.9	1.2 ～	鳴滝・門前産仕上砥　砥面は表面１面遺存背面剥離不明　**色調**：薄桃色　**重さ**：63.3g
51	12	方竪 5	鉄製品　釘	完形	6.8	0.25	0.5	**重さ**：4.3g
51	13	方竪 5	鉄製品　釘	下端欠	6.4 ～	0.6	0.6	**重さ**：7.7g　**備考**：木質遺存
52	1	方竪 6	かわらけ	完形	4.2	3.4	0.7	**胎土**：暗橙色　白色（貝殻質）粒多め弱粉質土
52	2	方竪 6	かわらけ	完形	7.8	5.8	1.8	**胎土**：淡橙色　微砂多め弱砂質土
52	3	方竪 6	かわらけ	完形	7.7	5.9	1.7	**胎土**：にぶい淡橙色　白色粒含む弱粉質土
52	4	方竪 6	かわらけ	口～底 3/4	7.3	5.7	1.8	**胎土**：にぶい淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
52	5	方竪 6	かわらけ	口～底 3/5	7.3	5.5	1.6	**胎土**：橙色　橙色粒含む弱粉質土
52	6	方竪 6	かわらけ	口～底 2/5	(8.4)	(6.6)	1.6	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
52	7	方竪 6	かわらけ	口～底 1/4	(7.6)	(6.0)	1.6	**胎土**：にぶい淡橙色　白色粒多め弱粉質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
52	8	方竪 6	かわらけ	口～底 1/4	(7.3)	(5.2)	1.6	**胎土**：暗橙色　混入粒子並　弱粉質土
52	9	方竪 6	かわらけ	口～底 1/4	(7.1)	(5.1)	1.7	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
52	10	方竪 6	かわらけ	口～底 1/3	(7.4)	(5.9)	1.7	**胎土**：褐色　混入粒子並　弱粉質土
52	11	方竪 6	かわらけ	口～底 1/3	(7.6)	(5.3)	1.9	**胎土**：橙色　橙色粒多い粉質土
52	12	方竪 6	かわらけ	口～底 1/3	(7.4)	(5.8)	1.5	**胎土**：淡橙色　橙色粒多め弱粉質土
52	13	方竪 6	かわらけ	口～底 1/3	(7.7)	(5.5)	1.5	**胎土**：にぶい淡橙色　混入粒子並　弱粉質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
52	14	方竪 6	かわらけ	口～底 1/4	(7.2)	(6.0)	1.7	**胎土**：淡橙色　微砂含む弱砂質土 **備考**：口唇部スス付着（灯明皿）
52	15	方竪 6	かわらけ	口～底 1/4	(7.2)	(5.3)	1.4	**胎土**：灰橙色　混入粒子少なめ弱粉質土
52	16	方竪 6	かわらけ	口～底 1/3	(7.6)	(5.2)	1.6	**胎土**：にぶい淡橙色　混入粒子少なめ弱粉質土
52	17	方竪 6	かわらけ	口 1/5 ～底 1/2	(7.7)	5.2	1.7	**胎土**：淡褐色　微砂含む弱粉質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
52	18	方竪 6	かわらけ	口～底 1/4	(8.0)	(5.6)	1.9	**胎土**：橙色　微砂含む弱粉質土
52	19	方竪 6	かわらけ	口～底 1/4	(7.4)	(4.2)	1.8	**胎土**：にぶい淡橙色　混入粒子並　弱砂質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
52	20	方竪 6	かわらけ	口～底 1/3	(7.7)	(4.7)	2.3	**胎土**：淡橙色　混入粒子少ない弱粉質良土

表３　出土遺物観察表（25）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
52	21	方竪 6	かわらけ	口 1/3 ～底全	(6.9)	4.1	2.0	**胎土**：橙色　混入粒子少ない弱粉質良土
52	22	方竪 6	かわらけ	口 2/3 ～底全	11.7	6.9	3.3	**胎土**：橙色　微砂含む弱粉質土
52	23	方竪 6	かわらけ	口～底 1/4	(11.6)	(7.4)	3.3	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　粉質土 **備考**：内底スス付着（灯明皿？）
52	24	方竪 6	かわらけ	口 2/3 ～底全	12.9	7.4	3.6	**胎土**：橙色　白色粒多い粉質良土
52	25	方竪 6	かわらけ	口～底 4/5	13.1	8.1	3.7	**胎土**：橙色　混入粒子少なめ弱粉質良土
52	26	方竪 6+ 方竪 13	吉備系 土師器碗	口 1/6	(10.9)	稜径 (9.8)		**胎土**：肌色（胎芯褐白色）　砂粒多い粉質良土　**備考**：手づくね成形
52	27	方竪 6	瓦器碗	口縁部片				**胎土**：にぶい淡褐色　長石粒少量含む良土 **備考**：手づくね成形　内面 - 暗文あり
52	28	方竪 6	土錘	1 端欠	2.8 ～	胴径 0.6	孔径 0.2	**胎土**：橙色　緻密精良土　**重さ**：0.9g
52	29	方竪 6	土器質火鉢	口縁部片				**胎土**：黒色（器表淡褐色）　白色（貝殻質）粒極多い、気孔ある軽質砂質土
52	30	方竪 6・土坑 13・方竪 8・方竪 13・方形土坑 4	土器質火鉢	口縁部片				**胎土**：淡褐色　白色（貝殻質）微細粒含む細砂質良土
52	31	方竪 6	土器質火鉢	口縁部片				**胎土**：黒灰色（器表暗褐色）　白色（貝殻質）粒含む細砂質良土　**備考**：よく焼しまり硬質
52	32	方竪 6	瓦器質火鉢	口縁部片				**胎土**：橙色（器表黒色）　橙色粒・黒色細粒多い細砂質土　**備考**：内面 -「◎」印焼成後線刻
52	33	方竪 6+ 方竪 10+ 土坑 17+4+ 方形土坑 4	常滑窯　壺	口 2/3 ～胴 1/3	9.7			**胎土**：褐灰色（器表暗茶色）　粗粒子含む細砂質土　**備考**:外面肩部 - 降灰ゴマ状(灰緑色)
52	34	方竪 6	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**:明灰色(器表暗赤色)　風化長石混じり、気孔ある細砂質土　**備考**:内面 - 降灰(褐緑色)厚い
52	35	方竪 6	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：灰色（器表茶色）　黒色発泡粒多め細砂質良土　**備考**:口縁部内面 - 降灰ゴマ状（白褐色）　外面 - 器表剥離
52	36	方竪 6	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：淡褐色（器表茶色）　長石粒少なめ良土　**備考**：口縁部～外面 - 降灰（緑灰色）押印あり
52	37	方竪 6・土坑 1・P4+ 方竪 5	常滑窯　甕	口頸部片				**胎土**：淡橙色（器表灰茶色）　粒子少ない粉質土　**備考**：肩部 - 押印あり　口縁部～外面 - 降灰（緑褐色）
52	38	方竪 6	常滑窯　甕	底部片		(18.6)		**胎土**：淡橙色　粒子少ない弱粉質土 **備考**：内面 - 降灰ゴマ状　外底 - 砂粒付着
52	39	方竪 6	常滑窯　甕	胴部片				**胎土**：黒茶色　粒子多い砂質土 **備考**：外面 - ヘラ描き文　※天地不明
52	40	方竪 6	常滑窯　甕	肩部片				**胎土**：淡橙色（器表暗茶色）　粒子少ない弱粉質土　**備考**：外面 - 押印あり
52	41	方竪 6	常滑窯　甕	肩部片				**胎土**：暗灰色（器表暗茶色）　細粒子含む砂質緻密土　**備考**：外面 - 押印あり
53	42	方竪 6	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁 ～底部片				**胎土**：褐白色　粗粒子含む粉質気味土
53	43	方竪 6	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部片				**胎土**：茶灰色　長石粒極多い砂質粗土 **備考**：口唇部～内面 - 僅かに降灰
53	44	方竪 6	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部片				**胎土**：明灰色　長石粒・白色粒多い砂質良土 **備考**：よく焼しまり硬質
53	45	方竪 6	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	底 1/4		(130)		**胎土**：明灰色　白色粒多め砂質土
53	46	方竪 6	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	底 1/3		高台径 (13.0)		**胎土**：明灰色　粗粒子多い砂質粗土
53	47	方竪 6	尾張山茶 碗系片口鉢	口縁部片				**胎土**：明灰色　長石粒多い砂質良土 **備考**：口唇部～内面 - 降灰（浅緑色）　よく焼しまり硬質
53	48	方竪 6+ 方竪 13	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口 1/5 ～ 底 3/5	(34.0)	15.0	12.4	**胎土**：褐色（器表茶色）　粗粒子多い弱粉質土　**備考**：外底 - 砂粒付着　焼しまり甘い

表３　出土遺物観察表（26）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
53	49	方竪 6	瀬戸窯　小瓶	頸全～肩～胴 1/4				**胎土**：灰白色　粘質気味緻密土　**釉調**：薄緑色灰釉　細かい貫入少々
53	50	方竪 6	瀬戸窯　小壺	口 1/6	(6.4)			**胎土**：明灰色　弱砂質良土　**釉調**：灰緑色灰釉
53	51	方竪 6+ 方竪 10+ 落ち込み②	瀬戸窯　小壺	底部 3/4		高台 (6.4)		**胎土**：白灰色　弱砂質緻密土　**釉調**：緑灰色灰釉ハケ塗り
53	52	方竪 6	瀬戸窯　小壺	底 1/4		高台 (7.1)		**胎土**：灰白色　弱砂質精良土　**釉調**：灰緑色灰釉ハケ塗り
54	53	方竪 6	白磁口兀皿	口縁部片				**胎土**：白色　精良土　**釉調**：白色透明　口縁部 - 露胎　**備考**：口唇部 - スス付着（灯明皿）　口縁部 - 打ち欠きか？
54	54	方竪 6・土坑 3・P1	白磁壺	胴部 1/4				**胎土**：白色　精良土　**釉調**：青味白色透明
54	55	方竪 6	青白磁梅瓶	胴部片				**胎土**：白色　精良土　**釉調**：青白色透明 **備考**：外面 - 渦巻文
54	56	方竪 6	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	体 1 部～底全		5.4		**胎土**：灰色　緻密土　**釉調**：青緑色半透明 **備考**：内底 - 草花文印刻　高台畳付～高台内 -露胎
54	57	方竪 6	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	底全		3.8		**胎土**：褐灰色～暗灰色　粗土　**釉調**：緑青色透明　高台畳付～高台内 - 露胎
54	58	方竪 6	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	底 1/3		(4.7)		**胎土**：明灰色　粘質気味精良土　**釉調**：明褐色透明　細かい貫入あり　釉層薄い
54	59	方竪 6+ 方竪 10	龍泉窯 青磁無文碗	体 1/5				**胎土**：灰白色　精良土　**釉調**：草緑色半透明
54	60	方竪 6	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文 折縁鉢	底 1/8		(6.0)?		**胎土**：白色　緻密土　**釉調**：白青色透明貫入あり　高台畳付 - 露胎
54	61	方竪 6	龍泉窯 青磁盤	底部片				**胎土**：白色　緻密土　**釉調**：浅緑青色透明
54	62	方竪 6	滑石鍋片加工品	残欠	8.2 ～	4.4 ～	1.6	**色調**：桃銀色　**備考**：欠損部 - 整形痕あり
54	63	方竪 6	石製品　砥石	上下端欠	5.1 ～	3.3	0.9	鳴滝・中山産仕上砥　砥面は表裏 2 面 **色調**：淡黄色　**重さ**：26.8g
54	64	方竪 6	石製品　砥石	右側・上下端欠	3.9 ～	3.5 ～	0.7	鳴滝・中山産仕上砥　砥面は表裏 2 面　左側 - 消費地加工痕　**色調**：淡緑褐色　**重さ**：11.9g
54	65	方竪 6	石製品　砥石	下端欠	3.4 ～	2.9	0.6	鳴滝・中山産仕上砥　砥面は表裏 2 面 **色調**：白桃色　**重さ**：9.2g
54	66	方竪 6	鉄製品　槍先？	略完形	13.6	1.2	0.4	**重さ**：23.2g
54	67	方竪 6	鉄製品　釘	下端欠	6.6	0.9	0.7	**重さ**：9.7g　**備考**：木質遺存
54	68	方竪 6	鉄製品　釘	上端欠	6.8 ～	0.5	0.4	**重さ**：5.8g　**備考**：木質遺存
54	69	方竪 6	鉄製品　釘	下端欠	5.8 ～	0.8	0.8	**重さ**：13.3g　**備考**：木質遺存
54	70	方竪 6	鉄製品　釘	完形	7.6	0.5	0.4	**重さ**：7.8g　**備考**：木質遺存
54	71	方竪 6	鉄製品　釘	完形	9.9	0.7	0.5	**重さ**：14.2g
54	72	方竪 6	鉄製品　釘	下端欠	6.7 ～	0.5	0.3	**重さ**：6.1g
54	73	方竪 6	鉄製品　釘	下端欠	6.2 ～	0.3	0.5	**重さ**：6.2g
54	74	方竪 6	鉄製品　釘	完形	6.3	0.4	0.3	**重さ**：1.9g
54	75	方竪 6	鉄製品　釘	完形	5.8	0.4	0.4	**重さ**：1.7g
54	76	方竪 6	鉄製品　釘	両端欠	9.7 ～	0.4	0.2	**重さ**：5.5g
54	77	方竪 6	鉄製品　釘？	両端欠	8.1			**重さ**：13.3g　**備考**：5 本結束
54	78	方竪 6	銅製品　銭	完形	2.3	穴 0.6		元豊通寶　初鋳 1078 年　北宋　**重さ**：4.0 g
55	1	方竪 6	かわらけ	完形	7.5	4.9	1.8	**胎土**：暗褐色　白色（貝殻質）粒多い弱粉質土
55	2	方竪 6・7 ＋方形土坑 1	常滑窯　甕	口 1/4	(28.7)			**胎土**：明灰色（器表黒褐色）　白色粒・黒色発泡粒含み、風化長石混じる細砂質土 **備考**：外面 - 降灰ゴマ状
55	3	方竪 6・7	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：淡橙色（器表灰茶色）　粒子少ない弱粉質土
55	4	方竪 6・7	尾張山茶碗系 片口鉢	口縁部片				**胎土**：明灰色　粒子少なめ細砂質良土 **備考**：よく焼しまり硬質

表３　出土遺物観察表（27）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
55	5	方竪 6･7	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	口縁部片				**胎土**：明灰色　精良土　**釉調**：浅緑青色透明
55	6	方竪 6･7	鉄製品　釘	上下端欠	5.6 ～	0.3	0.5	**重さ**：4.3g
55	7	方竪 6･7	鉄製品　釘	上下端欠	4.6 ～	0.5	0.4	**重さ**：3.3g　**備考**：木質遺存
55	8	方竪 6･7	銅製品　銭	完形	2.3	穴 0.6		皇宋通寶　初鋳 1038 年　北宋　**重さ**：3.3 g
55	9	方竪 7	かわらけ	口～底 1/5	(7.9)	(6.5)	1.7	**胎土**：淡橙色　混入粒子少ない弱砂質良土
55	10	方竪 7	かわらけ	口 1/6 欠	7.4	5.7	1.5	**胎土**：淡褐色　混入粒子少なめ弱粉質土
55	11	方竪 7	かわらけ	口～底 1/5	(6.9)	(5.1)	1.7	**胎土**：淡褐色　微砂含む弱砂質土
55	12	トレンチ 1	かわらけ	口～底 3/5	7.2	5.5	1.8	**胎土**：淡橙色　橙色粒多め弱粉質土
55	13	方竪 7	かわらけ	口～底 1/5	(8.4)	(5.8)	2.0	**胎土**：淡橙色　混入粒子少なめ弱粉質土
55	14	トレンチ 2	かわらけ	口 1/3 ～底 3/5	(6.9)	4.7	1.5	**胎土**：暗橙色　白色（貝殻質）粒・白針多い弱粉質土
55	15	方竪 7	かわらけ	口～底 1/5	(6.8)	(4.2)	2.0	**胎土**：淡橙色　混入粒子少ない弱砂質良土
55	16	方竪 7	かわらけ	口～底 1/4	(11.7)	(8.2)	3.0	**胎土**：橙色　白色（貝殻質）粒・白針含む弱砂質土　**備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
55	17	方竪 7	常滑窯　甕	胴部片				**胎土**：黒灰色（器表黒褐色）　粗粒子多め細砂質粗土　**備考**：外面 - 押印あり
55	18	方竪 7	常滑窯　甕	肩部片				**胎土**：灰色（器表暗赤色）　粒子多い砂質土 **備考**：外面 - 押印あり
55	19	方竪 7	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部片				**胎土**：白褐色　粒子含む砂質土
55	20	トレンチ 2	瀬戸窯　入子	口縁部片				**胎土**：明灰色　弱砂質良土　**備考**：口唇部～内面 - 降灰　輪花型
55	21	方竪 7	龍泉窯 青磁折縁鉢	口縁部片				**胎土**：白色　精良土　**釉調**：薄緑青色透明 貫入あり
55	22	方竪 7	石製品　砥石	上下端欠	9.0 ～	6.5	4.7 ～	天草産中砥　砥面は表面１面　**色調**：茶灰色 **重さ**：332.7g
55	23	方竪 7	加工骨	完形	2.3	3.4	2.0	シカ角
55	24	トレンチ 2	鉄製品　釘	完形	8.0	0.5	0.4	**重さ**：7.8g
55	25	方竪 7	鉄製品　釘	下端欠	5.5 ～	0.4	0.4	**重さ**：4.1g
55	26	方竪 7	鉄製品　釘	下端欠	5.7 ～	0.6	0.3	**重さ**：3.5g
55	27	方竪 7	銅製品　銭	完形	2.3	穴 0.6		熙寧元寶　初鋳 1068 年　北宋　**重さ**：3.4 g
55	28	トレンチ 2	銅製品　銭	完形	2.4	穴 0.5		元祐通寶　初鋳 1086 年　北宋　**重さ**：4.3 g
55	29	P18	かわらけ	口～底 1/3	(7.4)	(5.8)	1.6	**胎土**：褐色　混入粒子並　弱粉質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
55	30	P18･P2	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部片				**胎土**：灰色　粗粒子含む砂質やや粗土
57	1	方竪 14	かわらけ	口～底 1/2	3.9	3.6	0.6	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱砂質土
57	2	方竪 14	かわらけ	口～底 1/3	(4.2)	(3.6)	0.6	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
57	3	方竪 14	かわらけ	口～底 2/5	(8.0)	(6.4)	2.0	**胎土**：褐色　泥岩粗粒含む弱粉質土
57	4	方竪 14	かわらけ	口 1/4 ～底 3/4	(7.4)	5.4	1.5	**胎土**：淡橙色　橙色粒・雲母多め弱砂質土
57	5	方竪 14	坩堝	口縁部片				**胎土**：暗赤色　白色鉱物粒多い砂質粗土 **備考**：外面：口縁部～内面 - 何らの物質熔着
57	6	方竪 14	鞴羽口	残欠				**胎土**：暗赤色　砂質粗土　**備考**：外面：不明物質熔着
57	7	方竪 14	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部片				**胎土**：灰色　黒色粒含む砂質良土　**備考**：口唇部 - 降灰ゴマ状　よく焼しまり硬質
57	8	方竪 14	白磁口兀碗	底 4/7		4.7		**胎土**：白色　緻密土　**釉調**：白色不透明　**備考**：内面-横線　外面体部下部～高台 - 露胎

表３　出土遺物観察表（28）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
57	9	方竪 14	龍泉窯 青磁香炉	口縁部片				**胎土**：白色　精良土　**釉調**：緑青色半透明 貫入あり　釉層厚い　**備考**：口縁部 - 輪花型 外面 - 貼付文
57	10	方竪 14	滑石鍋片加工品	口縁部片	12.8	7.0	2.4	**色調**：暗灰色　**備考**：欠損部 - 整形痕あり
57	11	方竪 14	石製品　砥石	下端欠	5.4 ～	3.3	0.7 ～ 0.9	鳴滝産仕上砥　砥面は表裏 2 面　**色調**：にぶい淡橙色　**重さ**：23.1g
57	12	方竪 14	鉄製品　釘	下端欠	3.6 ～	0.2	0.3	**重さ**：2.1g
59	1	方竪 10	かわらけ	口 2/3 ～底全	7.9	5.9	1.8	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土 **備考**：内外面 - 不明物質付着
59	2	方竪 10	かわらけ	口～底 2/5	(7.8)	(6.0)	1.8	**胎土**：橙色　橙色粒多い砂質土
59	3	方竪 10 内土坑	かわらけ	口 1/4 ～底 1/4	(7.7)	(5.6)	1.5	**胎土**：橙色　橙色粒多い砂質土
59	4	方竪 10 内土坑	かわらけ	口 2/3 ～底全	7.5	5.3	1.8	**胎土**：橙色　橙色粒多い砂質土
59	5	方竪 10	かわらけ	口 1/4 ～底 1/3	(6.9)	(5.1)	1.7	**胎土**：暗褐色　泥岩粒・白針多め弱粉質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
59	6	方竪 10	伊勢系　土鍋	口縁部片				**胎土**:褐白色（胎芯黒灰色）　粗粒金雲母含む、砂粒多い粗土
59	7	方竪 10	常滑窯　鳶口壺	底 1/2		7.1		**胎土**：黒灰色　風化長石多く混じる細砂質良土　**備考**：内底 - 降灰・窯クソ付着
59	8	方竪 10・方竪 13・ 落ち込み②	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：黒茶色　粒子少なめ細砂質緻密土
59	9	方竪 10	常滑窯　甕	肩部片				**胎土**：明灰色　風化長石混じる気孔ある細砂質軽質土　**備考**：外面 - 押印あり　外面 - 降灰（緑灰色）　焼しまり甘い
59	10	方竪 10	常滑窯　甕	肩部片				**胎土**：暗灰色（器表黒茶色）　粒子含む細砂質土　**備考**：外面 - 押印あり
59	11	方竪 10 内土坑	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部片				**胎土**：褐灰色　粗粒子多め砂質粗土
59	12	方竪 10 内土坑	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部片				**胎土**：明灰色　粒子多い砂質やや粗土 **備考**：口唇部～内面 - 降灰ゴマ状（緑褐色）　よく焼しまり硬質
59	13	方竪 10	瀬戸窯　四耳壺	頸部 ～肩部片				**胎土**：白灰色　弱砂質緻密土　**釉調**：緑灰色灰釉
59	14	方竪 10	青白磁皿	口 1/3	(10.0)	(3.6)	2.4	**胎土**：白色　精良土　**釉調**：青灰色透明 **備考**：輪花型（内面 - 花弁線刻）
59	15	方竪 10	青白磁梅瓶	胴部片				**胎土**：白色　精良土　**釉調**：青白色半透明 **備考**：渦巻文櫛描
59	16	方竪 10	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	口縁部片				**胎土**：灰味白色　砂質気味精良土　**釉調**：浅草緑色透明
59	17	方竪 10	龍泉窯 青磁折腰碗	底部片				**胎土**：淡褐色　精良土　**釉調**：緑褐色透明 細かい貫入あり　高台畳付 - 露胎
59	18	方竪 10・方竪 13	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文 折縁鉢	口 1/6	(11.2)			**胎土**：褐白色　精良土　**釉調**：灰青色透明 細かい貫入あり
59	19	方竪 10	滑石鍋片加工品	体部片	9.3 ～	8.9 ～	1.4	**色調**：黒灰色　**備考**：内面 - 引っ掻き痕多数
59	20	方竪 10	骨製品　笄	上端欠	5.3 ～	0.6 ～	0.2 ～	不明獣骨
59	21	方竪 10	扁平棒状鉄製品	下端欠	5.7 ～	0.5	0.1	**重さ**：1.7g
59	22	方竪 10	扁平棒状鉄製品	上下端欠	5.8 ～	0.4	0.25	**重さ**：4.1g
59	23	方竪 10	鉄製品　釘	上端欠	9.2 ～	0.6	0.3	**重さ**：6.4g
59	24	方竪 10	鉄製品　釘	完形	5.5	0.3	0.3	**重さ**：2.3g
59	25	方竪 10	鉄製品　釘	完形	4.7	0.3	0.2	**重さ**：1.2g
59	26	方竪 10	銅製品　銭	完形	径 2.5	穴 0.6		皇宋通寶　初鋳 1038 年　北宋　**重さ**：3.6 g
59	27	方竪 10	銅製品　銭	完形	径 2.4	穴 0.7		熙寧元寶　初鋳 1068 年　北宋　**重さ**：3.3 g
61	1	方竪 11	かわらけ	口～底 1/3	(8.1)	(6.5)	1.3	**胎土**：橙色（胎芯桃色）　泥岩粗粒・橙色粒多め弱砂質土　**備考**：口唇部タール付着（灯明皿）

表３　出土遺物観察表（29）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
61	2	方竪 11	かわらけ	口 3/4 ～底全	8.0	6.3	1.6	**胎土**：にぶい褐色　混入粒子並　弱粉質土
61	3	方竪 11	かわらけ	口～底 1/4	(7.6)	(5.8)	1.4	**胎土**:淡橙色　混入粒子並　弱粉質土　**備考**:器壁肌荒れ（２次焼成を受けているか？）
61	4	方竪 11	かわらけ	口～底 3/5	(7.6)	(5.3)	1.8	**胎土**：黒褐色　混入粒子並　弱粉質土
61	5	方竪 11	かわらけ	口～底 1/4	(7.0)	(5.2)	1.7	**胎土**：暗灰色（胎芯白灰色）　混入粒子並　弱砂質土
61	6	方竪 11	かわらけ	口～底 1/4	(7.3)	(5.6)	1.5	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
61	7	方竪 11	かわらけ	口～底 2/5	(12.4)	(6.8)	3.7	**胎土**：にぶい褐色　混入粒子並　弱粉質土
61	8	方竪 11	常滑窯　壺	体～底 1/2		8.0		**胎土**：灰褐色～淡橙色　赤色粒・長石粗粒多い細砂質良土　**備考**：内面体部下位～底部 - 降灰（灰緑色）
61	9	方竪 11	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**:白灰色（器表暗赤色）　風化長石混じり、気孔ある細砂質土　**備考**：口縁部内面・外面肩部 - 降灰（灰緑色）
61	10	方竪 11	常滑窯　甕	肩部片				**胎土**：明灰色（器表暗赤色）　長石粒多い砂質やや粗土　**備考**：外面 - 降灰（褐緑色）厚い　肩部 - 鶴文押印
61	11	方竪 11	常滑窯　甕	肩部片				**胎土**：明灰色（器表暗赤色）　長石粒多い砂質やや粗土　**備考**：外面 - 降灰（褐緑色）厚い　肩部 - 鶴文押印
61	12	方竪 11	瀬戸窯 四（三）耳壺	口頸部片				**胎土**：褐白色　弱砂質良土　**釉調**：緑灰色灰釉ハケ塗り
61	13	溝 2+ 方竪 11 + 方竪 13・土坑 5	龍泉窯 青磁折腰碗	口 1/4 底 1/8	(12.7)	(6.0)	4.0	**胎土**：灰味白色　粘質緻密土　**釉調**：草緑色半透明　粗い貫入あり　高台畳付 - 露胎
61	14	方竪 11	石製品　砥石	上下端欠	5.1 ～	4.0	0.5	鳴滝・菖蒲ヶ谷産仕上砥　砥面は表裏２面 **色調**：薄桃色　**重さ**：16.3g
61	15	方竪 11	鉄製品　蓋	完形	10.6		3.6	**重さ**：249.7g
61	16	方竪 11	棒状鉄製品	完形	9.1	0.4	0.4	**重さ**：6.0g
61	17	方竪 11	鉄製品　釘	完形	6.4	0.5	0.5	**重さ**：3.6g
61	18	方竪 11	鉄製品　釘	上端欠	6.1	0.4	0.3	**重さ**：2.0g
61	19	方竪 11	鉄製品　釘	上端欠	5.7	0.2	0.2	**重さ**：3.5g
61	20	方竪 11	鉄製品　釘	下端欠	5.0 ～	0.3	0.2	**重さ**：1.1g
61	21	方竪 11	鉄製品　釘	下端欠	6.8 ～	0.3	0.3	**重さ**：2.4g
61	22	方竪 11	鉄製品　釘	上端欠	6.5 ～	0.4	0.4	**重さ**：4.0g
63	1	方形土坑 4	手づくねかわらけ	口～底 1/6	(7.5)	(4.4)	2.1	**胎土**：にぶい淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
63	2	方形土坑 4	手づくねかわらけ	口～底 1/4	(7.7)	(6.7)	1.6	**胎土**：淡褐色　微砂含む弱砂質土
63	3	方形土坑 4	かわらけ	口～底 1/3	(7.3)	(6.5)	1.6	**胎土**：淡橙色　橙色粒・白針多め弱粉質土
63	4	方形土坑 4	かわらけ	完形	7.8	6.3	1.5	**胎土**：淡褐色　微砂多い弱砂質土
63	5	方形土坑 4	かわらけ	口１部欠	7.8	5.5	1.5	**胎土**：淡褐色　泥岩粗粒・微砂含む弱砂質土
63	6	方形土坑 4	かわらけ	口 1/3 ～底 2/5	(7.7)	(6.1)	1.6	**胎土**：淡褐色　微砂含む粉質土
63	7	方形土坑 4	かわらけ	口～底 1/2	(7.6)	(5.0)	1.7	**胎土**：橙色　混入粒子並　弱粉質土
63	8	方形土坑 4	かわらけ	口～底 1/4	(6.9)	(4.4)	1.7	**胎土**：橙色（胎芯暗灰色）　混入粒子並　弱砂質土
63	9	方形土坑 4	かわらけ	口～底 1/3	(7.59	(5.1)	1.7	**胎土**：橙色　橙色粒多い弱粉質土
63	10	方形土坑 4	かわらけ	口 1/4 ～底 2/3	(7.2)	4.9	1.8	**胎土**：にぶい淡橙色　白針多め弱粉質土
63	11	方形土坑 4	かわらけ	完形	7.6	4.9	2.0	**胎土**：橙色　微砂含む、泥岩粗粒・橙色粒多め弱砂質土

表３　出土遺物観察表（30）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
63	12	方形土坑４	かわらけ	完形	7.8	5.2	1.9	**胎土**：淡橙色　橙色粒含む弱粉質土
63	13	方形土坑４	かわらけ	完形	7.5	4.6	2.0	**胎土**：暗橙色　微砂含む、白針多め弱砂質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
63	14	方形土坑４	かわらけ	口 2/3 ～底全	6.9	4.2	2.2	**胎土**：黒褐色　混入粒子並　弱砂質土
63	15	方形土坑４	かわらけ	口 1/4 ～底全	(6.9)	4.5	2.1	**胎土**：淡橙色　橙色粒含む弱砂質土
63	16	方形土坑４	かわらけ	口 2/5 ～底全	(6.9)	4.5	2.1	**胎土**：橙色　橙色粒多め弱砂質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
63	17	方形土坑４	かわらけ	口 3/4 ～底全	7.6	4.8	2.1	**胎土**：淡橙色　橙色粒多い弱粉質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
63	18	方形土坑４	かわらけ	口 1/4 ～底 1/3	(7.3)	(4.6)	2.4	**胎土**：淡橙色　泥岩粗粒・白針含む弱粉質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
63	19	方形土坑４	かわらけ	口～底 1/4	(7.7)	(5.1)	2.2	**胎土**：橙色　橙色粒多い弱粉質土
63	20	方形土坑４	かわらけ	口 1/3 ～底全	(7.5)	5.1	2.4	**胎土**：淡褐色　微砂・泥岩粗粒・橙色粒含む弱砂質土
63	21	方形土坑４	かわらけ	口 1/5 欠	11.1	6.3	3.0	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
63	22	方形土坑４	かわらけ	口 1/4 ～底全	(13.4)	8.7	3.4	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
63	23	方形土坑４	かわらけ	口 3/4 ～底全	13.6	8.6	3.8	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
63	24	方形土坑４	かわらけ	口 1/3 ～底 3/4	13.7	9.0	3.5	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
63	25	方形土坑４	かわらけ	口 1/4 ～底 1/2	(12.9)	8.0	3.6	**胎土**：淡褐色　泥岩粗粒・橙色粒含む弱粉質土
63	26	方形土坑４	鍔釜	口縁部片				**胎土**：暗橙色（胎芯黒色）　黒色粒多い緻密良土　**備考**：よく焼しまり硬質
63	27	方形土坑 4+ 方竪 8・方竪 1・方竪 3	瓦器質火鉢	口～底				**胎土**：白色（器表黒灰色）　粒子少ない、気孔ある軽質土　**備考**：輪花型　外面 - 亀甲文押印
64	28	方形土坑４ ＋方竪 14	常滑窯　甕	口 1/4	(26.6)			**胎土**：淡橙色（器表暗茶色）　粒子多め細砂質土　**備考**：外面 - 降灰（灰緑色）
64	29	方形土坑４ ＋方形土坑２ ＋方竪６	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口～底 1/4	(30.2)	高台径 (12.4)	(13.7)	**胎土**：明灰色　粗粒子多く 1 cm 弱礫含む砂質粗土　**備考**：口唇部 - 降灰　焼しまり甘い
64	30	方形土坑 4+P26	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	底部片		高台径 (13.2)		**胎土**：茶灰色　粗粒子多い砂質粗土
64	31	方形土坑４	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	底 1/4		(11.6)		**胎土**：にぶい淡橙色（器表橙色）　粒子少なめ　気孔ある弱粉質土　**備考**：焼成良好も焼しまり甘い
64	32	方形土坑４	東播系　鉢	口縁部小片				**胎土**：白褐色（胎芯黒灰色）　多量の長石粒・金雲母含む弱粘質土　**備考**：焼しまり甘く軟質
64	33	方形土坑４	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文鉢	底 1/8				**胎土**：白色　粘質緻密土　**釉調**：灰草緑色半透明　高台畳付 - 露胎
64	34	方形土坑４	石製品　砥石	下端欠	6.8 ～	3.8	0.5 ～ 0.8	鳴滝・奥殿産仕上砥　砥面は表裏２面 **色調**：青灰色　**重さ**：28.4g
64	35	方形土坑４	石製品　砥石	背面・上下端欠	4.2 ～	2.0	1.7 ～	天草産中砥　砥面は３面遺存　背面剥離不明 **色調**：灰色　**重さ**：25.4 g
64	36	方形土坑４	石製品　砥石	２面遺存	6.7 ～	5.2 ～	4.4 ～	産地不明中砥　砥面は２面遺存、下端 - 丸鑿状の抉りあり　**色調**：灰緑色　**重さ**：152.3g
64	37	方形土坑４	加工骨		8.4 ～	1.1	0.8	シカ角
64	38	方形土坑４	棒状鉄製品	両端欠	12.3 ～	0.4	0.3	**重さ**：9.8g
64	39	方形土坑４	鉄製品　金具	完形	12.2	0.6	0.5	**重さ**：17.8g
64	40	方形土坑４	鉄製品　釘	完形	8.0.	0.6	0.3	**重さ**：7.1g
64	41	方形土坑４	鉄製品　釘	完形	7.0	0.5	0.3	**重さ**：4.9g
64	42	方形土坑４	鉄製品　釘	完形	6.1	0.4	0.3	**重さ**：2.3g
64	43	方形土坑４	鉄製品　釘	下端欠	5.0 ～	0.3	0.5	**重さ**：4.1g

表３　出土遺物観察表（31）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
66	1	P31	常滑窯　鳶口壺	底部片				**胎土**：器表黒灰色（胎芯明灰色）　風化気味長石粒含む弱砂質緻密土　**備考**：焼成硬質
66	2	P31	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	口縁部片				**胎土**：明灰白色　粘質緻密土　**釉調**：浅草緑色半透明　粗い貫入少々
66	3	P31	鉄製品　釘	完形	9.0	0.3	0.4	**重さ**：7.5g
67	1	Ⅱ期遺構外	手づくねかわらけ	口～底 1/4	(7.8)	(5.8)	1.7	**胎土**：淡褐色　橙色粒多い弱粉質土
67	2	Ⅱ期遺構外	手づくねかわらけ	口～底 1/4	(6.8)	(6.3)	1.7	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
67	3	Ⅱ期遺構外	手づくねかわらけ	口～底 1/3	(8.6)	(7.5)	(1.8)	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
67	4	Ⅱ期遺構外	かわらけ	口～底 1/3	(7.5)	(6.2)	1.6	**胎土**：暗橙色　泥岩粗粒・橙色粒・白針含む弱粉質土　**備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
67	5	Ⅱ期遺構外	かわらけ	口～底 2/5	(7.9)	(6.4)	1.5	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
67	6	Ⅱ期遺構外	かわらけ	略完形	8.0	5.6	1.6	**胎土**：橙色　橙色粒多い砂質土
67	7	Ⅱ期遺構外	かわらけ	口 1/5 ～底全	(7.6)	5.3	1.9	**胎土**：橙色　橙色粒多い砂質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
67	8	Ⅱ期遺構外	かわらけ	口～底 2/5	(8.3)	(6.5)	1.8	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
67	9	Ⅱ期遺構外	かわらけ	口～底 1/4	(7.5)	(5.5)	1.7	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
67	10	Ⅱ期遺構外	かわらけ	口 1/4 ～底 2/5	(7.7)	(5.9)	1.5	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
67	11	Ⅱ期遺構外	かわらけ	口～底 2/7	(7.0)	(5.2)	1.5	**胎土**：淡褐色　黒砂多い弱砂質土
67	12	Ⅱ期遺構外	かわらけ	口～底 1/4	(6.8)	(5.9)	1.4	**胎土**：橙色　混入粒子並　弱粉質土
67	13	Ⅱ期遺構外	かわらけ	完形	7.3	5.0	1.8	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
67	14	Ⅱ期遺構外	かわらけ	口～底 1/3	(7.5)	(5.8)	1.8	**胎土**：橙色　混入粒子並　弱砂質土
67	15	Ⅱ期遺構外	かわらけ	口１部欠	7.2	5.0	1.7	**胎土**：橙色　混入粒子少なめ弱粉質良土
67	16	Ⅱ期遺構外	かわらけ	口～底 1/2	6.9	4.4	1.6	**胎土**：黒灰色　混入粒子並　弱粉質土
67	17	Ⅱ期遺構外	かわらけ	口 3/5 ～底全	7.1	4.4	2.1	**胎土**：淡褐色　混入粒子並少なめ弱粉質良土
67	18	Ⅱ期遺構外	かわらけ	口～底 1/4	(6.9)	(4.1)	2.2	**胎土**：淡橙色　混入粒子少なめ弱粉質良土
67	19	Ⅱ期遺構外	かわらけ	口 2/5 欠	11.1	6.5	2.9	**胎土**：橙色　混入粒子並　弱砂質土
67	20	Ⅱ期遺構外	かわらけ	口 1/4 ～底 1/2	(10.1)	5.9	3.3	**胎土**：淡橙色　白色粒・白針多い弱粉質土
67	21	Ⅱ期遺構外	かわらけ	口 1/3 ～底 1/4	(11.6)	(7.4)	3.0	**胎土**：赤褐色（胎芯黒灰色）　橙色粒多い砂質土
67	22	Ⅱ期遺構外	かわらけ	口～底 1/4	(12.1)	(8.0)	3.1	**胎土**：淡橙色　黒砂多い弱砂質土
67	23	Ⅱ期遺構外	かわらけ	口 1/4 ～底全	(13.4)	8.4	3.8	**胎土**：暗橙色　混入粒子並　弱砂質土
67	24	Ⅱ期遺構外	かわらけ	口 2/3 ～底全	11.8	7.5	3.4	**胎土**：にぶい淡橙色　微細輝石多め弱粉質土
67	25	Ⅱ期遺構外	土錘	完形	3.0	胴径 1.3	孔径 0.2	**胎土**：暗褐色　粉質良土　**重さ**：4.4g
67	26	Ⅱ期遺構外	土錘	１端欠	4.0 ～	胴径 0.8	孔径 0.2	**胎土**：暗褐色　緻密精良土　**重さ**：2.4g
67	27	Ⅱ期遺構外	瓦器質火鉢	口縁部片				**胎土**：白色（器表黒灰色）　白色・橙色粒等、砂粒粒多め細砂質粗土
67	28	Ⅱ期遺構外	鞴羽口	残欠				**胎土**：暗褐色（胎芯橙色）　白色鉱物粒多い気孔ある砂質粗土

表３　出土遺物観察表（32）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
67	29	Ⅱ期遺構外	常滑窯　壺	底～体下 1/5		(7.1)		**胎土**：明灰色（器表暗赤色）　微細粒子少量　風化長石混じる細砂質良土　**備考**：外底 - 工具痕　内底 - 降灰・窯クソ付着
67	30	Ⅱ期遺構外	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：褐灰色（器表灰茶色）　黒色発泡粒・白色粒多い弱粉質土
67	31	Ⅱ期遺構外	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：明灰色（器表暗赤色）　粒子少量　風化長石混じる細砂質土　**備考**：口縁部内面～外面 - 降灰（灰緑色）厚い
67	32	Ⅱ期遺構外	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：灰色（器表暗赤色）　風化長石混じる細砂質良土　**備考**：口縁部内面・外面下部 - 降灰ゴマ状（暗緑色）
67	33	Ⅱ期遺構外	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：暗灰色（器表暗茶色）　長石粒・白色粒多い粘質気味緻密土
67	34	Ⅱ期遺構外	備前窯　擂鉢	胴部片				**胎土**：茶灰色（胎芯灰色）　微細白濁粒、石英少々含む砂質緻密土　**備考**：条線 -5 本以上組み
67	35	Ⅱ期遺構外	青白磁水注	注口部	孔径 5.5			**胎土**：白色　緻密土　**釉調**：青白色半透明　**備考**：器表失透（２次焼成をうけているか？）
67	36	Ⅱ期遺構外	青白磁梅瓶	胴部片				**胎土**：白色　砂質精良土　**釉調**：青白色半透明　貫入あり　**備考**：渦巻文
67	37	Ⅱ期遺構外	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	口 1/8	(14.4)			**胎土**：灰色　精良土　**釉調**：草緑色半透明
67	38	Ⅱ期遺構外	石製品　砥石	上下端欠	3.7 ～	3.0	0.6	鳴滝・向田産仕上砥　砥面は表裏２面　**色調**：淡緑褐色　**重さ**：10.9g
67	39	Ⅱ期遺構外	石製品　砥石	上下端欠	8.3 ～	6.4	3.4	天草産中砥　砥面は４面　上端 - 刃物痕（欠損後使用か）　**色調**：灰橙色　**重さ**：274.0g
67	40	Ⅱ期遺構外	石製品　砥石	下端欠	10.9 ～	6.5	7.2	天草産中砥　砥面は４面　**色調**：橙白色　**重さ**：666g
67	41	Ⅱ期遺構外	加工骨	細完形	5.9	5.1	0.6	クジラないしウミガメ甲羅
67	42	Ⅱ期遺構外	鉄製品　不明		4.7 ～	5.5 ～	0.35	**重さ**：25.0g
67	43	Ⅱ期遺構外	鉄製品　刀子	一側残存	16.1 ～	1.9	0.3	**重さ**：12.3g
67	44	Ⅱ期遺構外	鉄製品 掛け金具	略完形	7.4	0.8	0.6	**重さ**：14.8g
67	45	Ⅱ期遺構外	鉄製品　金具	上部欠	11.7 ～	0.4	0.4	**重さ**：13.1g
67	46	Ⅱ期遺構外	鉄製品　釘	完形	6.2	0.4	0.2	**重さ**：3.0g
67	47	Ⅱ期遺構外	鉄製品　釘	完形	6.6	0.3	0.4	**重さ**：3.3g
67	48	Ⅱ期遺構外	鉄製品　釘	完形	5.2	0.3	0.3	**重さ**：2.9g
67	49	Ⅱ期遺構外	鉄製品　釘	下端欠	3.5 ～	0.2	0.4	**重さ**：1.9g
67	50	Ⅱ期遺構外	鉄製品　釘	下端欠	3.8 ～	0.2	0.2	**重さ**：1.8g
67	51	Ⅱ期遺構外	鉄製品　釘	完形	6.8	0.3	0.4	**重さ**：7.2g
67	52	Ⅱ期遺構外	鉄製品　釘	完形	4.5	0.4	0.3	**重さ**：3.4g
67	53	Ⅱ期遺構外	鉄製品　釘	完形	6.6	0.5	0.3	**重さ**：3.0g
67	54	Ⅱ期遺構外	銅製品　銭	完形	2.5	穴 0.6		開（元通）寶　初鋳 621 年　唐　**重さ**：3.8 g
67	55	Ⅱ期遺構外	銅製品　銭	完形	2.5	穴 0.5		咸平（元寶）　初鋳 998 年　北宋　**重さ**：3.8 g
67	56	Ⅱ期遺構外	銅製品　銭	完形	2.4	穴 0.6		景徳元寶　初鋳 1004 年　北宋　**重さ**：3.4 g
67	57	Ⅱ期遺構外	銅製品　銭	完形	2.5	穴 0.7		熙寧元寶　初鋳 1068 年　北宋　**重さ**：3.9 g
67	58	Ⅱ期遺構外	銅製品　銭	完形	2.5	穴 0.6		嘉泰通寶　背「三」　初鋳 1201 年　南宋　**重さ**：3.6 g
67	59	Ⅱ期遺構外	銅製品　加工銭	略完形	2.1	穴 0.7		判読不能　**重さ**：1.9 g
70	1	かわらけ溜まり	かわらけ	口～底 1/4	(6.9)	(6.2)	1.6	**胎土**：にぶい淡橙色　微砂多め弱砂質土
70	2	かわらけ溜まり	かわらけ	完形	7.4	6.1	1.6	**胎土**：にぶい淡橙色　微砂多め弱砂質土　**備考**：口縁部１部 - 粘土貼り増し
70	3	かわらけ溜まり	かわらけ	口１部欠 略完形	7.7	6.2	1.6	**胎土**：にぶい淡橙色　微砂多め弱砂質土
70	4	かわらけ溜まり	かわらけ	口１部欠 略完形	7.7	6.3	1.6	**胎土**：にぶい淡橙色　微砂多め弱砂質土
70	5	かわらけ溜まり	かわらけ	完形	7.7	6.0	1.6	**胎土**：にぶい淡橙色　微砂多め弱砂質土

表３　出土遺物観察表（33）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
70	6	かわらけ溜まり	かわらけ	口 1/3 欠	7.3	5.2	1.6	**胎土**：にぶい淡橙色　微砂多め弱砂質土
70	7	かわらけ溜まり	かわらけ	口～底 2/5	(7.5)	(6.4)	1.6	**胎土**：にぶい淡褐色　泥岩粒多め弱粉質土
70	8	かわらけ溜まり	かわらけ	口～底 1/4	(7.1)	(5.2)	1.7	**胎土**：にぶい淡橙色　微砂多め弱砂質土
70	9	かわらけ溜まり	かわらけ	口 1/4 ～底 1/3	(7.0)	(5.4)	1.7	**胎土**：にぶい淡褐色　微砂多め弱砂質土
70	10	かわらけ溜まり	かわらけ	口 1/6 ～底 1/3	(8.4)	(6.6)	1.8	**胎土**：にぶい淡褐色　微砂多め弱砂質土
70	11	かわらけ溜まり	かわらけ	口 1/3 ～底 1/2	(11.4)	8.8	3.0	**胎土**：橙色　泥岩細粒・橙色粒多め砂質土
70	12	かわらけ溜まり	かわらけ	口～底 2/5	(12.2)	(8.2)	3.2	**胎土**：褐色　微砂多い砂質土
70	13	かわらけ溜まり	かわらけ	口～底 1/3	(12.7)	(8.9)	3.3	**胎土**：にぶい淡橙色　混入粒子並　弱砂質土
70	14	かわらけ溜まり	かわらけ	口 1/4 欠	12.3	9.0	2.9	**胎土**：橙色　微砂多い砂質土
70	15	かわらけ溜まり	かわらけ	略完形	11.8	8.5	3.3	**胎土**：橙褐色　橙色粒多め弱砂質土
70	16	かわらけ溜まり	かわらけ	口 1/2 ～底全	(12.1)	7.6	3.4	**胎土**：橙褐色　混入粒子並　弱粉質土
70	17	かわらけ溜まり	かわらけ	口 1/2 ～底全	11.7	7.6	3.5	**胎土**：にぶい淡橙色　混入粒子並　弱砂質土
70	18	かわらけ溜まり	かわらけ	底 1/5		((7.1))		**胎土**：淡橙色　弱粉質土 **備考**：内底ヨコナデ甘くロクロ目残る
70	19	かわらけ溜まり	かわらけ質円盤	完形	3.0	2.2	0.6	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
74	1	P11	かわらけ	口～底 3/4	7.8	6.8	1.5	**胎土**：淡褐色　黒色微砂含む弱粉質土
74	2	P11	かわらけ	口～底 3/5	(7.3)	(6.0)	1.6	**胎土**：淡褐色　黒色微砂含む弱粉質土
74	3	P11	かわらけ	口～底 1/4	(7.6)	(6.2)	1.4	**胎土**：淡褐色　黒色微砂含む弱粉質土
74	4	P11	かわらけ	完形	7.5	5.0	1.6	**胎土**：暗褐色　微砂多い、泥岩粗粒含む弱砂質土
74	5	P11	かわらけ	完形	7.8	5.3	1.7	**胎土**：暗褐色　黒色微砂多め弱砂質土
74	6	P11	かわらけ	口～底 2/5	(11.7)	(8.5)	3.0	**胎土**：暗褐色　微砂多い砂質土
74	7	P11	かわらけ	口 2/5 ～底全	(12.0)	8.7	3.1	**胎土**：暗褐色　黒色微砂多い弱砂質土
74	8	P11	かわらけ	口 3/4 ～底全	12.3	8.3	3.1	**胎土**：にぶい淡橙色　混入粒子少なめ弱粉質土
74	9	P11	かわらけ	口１部 ～底 1/2	(12.6	8.0	3.2	**胎土**：淡橙色　黒色微砂多め弱粉質土
74	10	P11	かわらけ	口 1/3 ～底 1/2	(11.6)	7.3	2.9	**胎土**：暗褐色　微砂多い砂質土
74	11	P33	かわらけ	口～底 1/2	8.4	6.7	1.9	**胎土**：橙褐色　橙色粒多め弱砂質土
74	12	P33	銅製品　銭		2.4	穴 0.6		開元通寶　初鋳 621 年　唐　**重さ**：3.2 g
74	13	P33	銅製品　銭		2.3	穴 0.6		熙寧元寶　初鋳 1068 年　北宋　**重さ**：2.9 g
74	14	P34	鉄製品　釘	完形	4.5	0.5	0.3	**重さ**：2.0g
74	15	P36	白磁口兀皿	口～底 1/5	(10.7)	(6.2)	2.8	**胎土**：白色　砂質精良土　**釉調**：褐身白色透明　口唇部・外面体部下部～底部 - 露胎
74	16	P39	かわらけ	口～底 1/3	(7.9)	(5.5)	1.7	**胎土**：淡橙色　微砂多い、泥岩粒含む砂質土
74	17	P39（P62）	石製品　砥石	上下端欠	6.6 ～	4.3	0.65	鳴滝・中山産仕上砥　砥面は表裏 2 面 **色調**：淡黄橙色　**重さ**：28.2g

表３　出土遺物観察表（34）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
74	18	P44	手づくねかわらけ	口～底 1/6	(6.7)	(4.0)	(1.7)	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
74	19	P44	板状鉄製品	下端欠	5.9 ～	2.7	0.3	**重さ**：21.9g
74	20	P45（P53）	龍泉窯 青磁蓮弁文合子	口縁部片				**胎土**：明灰色　粘質緻密土　**釉調**：灰緑色半透明　口縁部 - 露胎　**備考**：外面 - 蓮弁文線描き
74	21	P46	かわらけ	口～底 2/7	(7.8)	(5.8)	1.5	**胎土**：淡橙色　泥岩粗粒含む弱砂質土
74	22	P46	かわらけ	口～底 1/4	(7.6)	(5.7)	1.5	**胎土**：淡橙色　橙色粒多い弱砂質土
74	23	P46・方竪 8	土器質火鉢	口縁部片				**胎土**:橙色（胎芯白灰色、器表暗灰色）　細砂・微細雲母少量　粉質気味良土　**備考**：口縁部下 - 焼成前穿孔あり　よく焼しまり硬質
74	24	P46	白磁口兀皿	口 2/3 ～底全	8.6	5.5	1.7	**胎土**：白色　砂質精良土　**釉調**：乳白色透明　口唇部・外底 - 露胎
74	25	P50	かわらけ	口～底 2/7	(7.6)	(5.5)	1.6	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱砂質土
74	26	土坑 16	かわらけ	口 1/4 ～底 1/3	(7.2)	(5.8)	1.4	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土
74	27	土坑 16	かわらけ	口 1/4 ～底 2/5	(8.1)	(5.6)	1.5	**胎土**：橙色　混入物少なめ弱粉質良土
74	28	土坑 16	かわらけ	口～底 1/3	(7.1)	(4.4)	2.3	**胎土**：暗褐色　混入物少ない弱粉質土
74	29	土坑 16	かわらけ	口～底 1/3	(11.6)	(8.8)	2.9	**胎土**：橙色　泥岩粒・橙色粒多め弱粉質土
74	30	土坑 16	珠洲窯？　甕	底部片				**胎土**：明灰色　長石粒多め　金属質鉱物（雲母か？）含む砂質土
74	31	Ⅲ期遺構外	かわらけ	口～底 1/3	(7.3)	(5.7)	1.9	**胎土**：淡褐色　混入物少ない弱粉質土
74	32	Ⅲ期遺構外	伊勢系　土鍋	口縁部片				**胎土**：褐白色（胎芯灰色）　砂粒多い粗土
74	33	Ⅲ期遺構外	鉄製品　釘	完形	5.9	0.2	0.7	**重さ**：7.0g
74	34	Ⅲ期遺構外	鉄製品　釘	上部欠	6.3 ～	0.3	0.3	**重さ**：2.9g
75	1	撹乱	かわらけ	口～底 1/3	(7.4)	(5.7)	1.7	**胎土**：淡褐色　橙色粒多め弱粉質土
75	2	表土層	かわらけ	口 1/5 欠	7.5	4.8	1.5	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱砂質土
75	3	撹乱	かわらけ	略完形	7.6	5.0	1.8	**胎土**：暗褐色　泥岩粒多め弱粉質土 **備考**：口唇部外面-タール付着（灯明皿）
75	4	表土層	かわらけ	口 3/4 ～底全	7.4	5.1	1.8	**胎土**：暗橙色　橙色粒多い弱粉質土
75	5	表土層	かわらけ	口略 2/3 ～底 2/3	7.7	4.5	2.2	**胎土**：暗橙色　橙色粒多い弱粉質土
75	6	撹乱	かわらけ	口 2/5 ～底 3/5	(6.7)	3.8	2.1	**胎土**：淡褐色　混入粒子少なめ弱粉質良土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
75	7	表土層	かわらけ	口～底 1/3	(6.9)	(4.2)	2.0	**胎土**：にぶい淡橙色　泥岩粒多め弱粉質土
75	8	撹乱	かわらけ	口～底 2/5	(7.2)	(4.4)	2.3	**胎土**：淡褐色　混入物少なめ弱粉質良土
75	9	表土層	かわらけ	口～底 1/4	(11.0)	(7.5)	3.4	**胎土**：暗橙色　泥岩・橙色粒含む弱砂質土
75	10	表土層	かわらけ	口 1/4 欠	11.2	6.7	3.0	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土 **備考**：口唇部タール付着（灯明皿）
75	11	表土層	かわらけ	口～底 1/4	(11.0)	6.8	2.9	**胎土**：淡褐色　混入粒子並　弱粉質土
75	12	撹乱	かわらけ	口～底 1/3	(11.6)	(8.9)	3.1	**胎土**：淡橙色　橙色粒多い弱粉質土
75	13	表土層	かわらけ	口 1/4	(12.7)	(9.0)	3.7	**胎土**：暗橙色　橙色粒多い弱粉質土
75	14	表土層	かわらけ	口 1/4 ～底全	(13.9)	8.3	4.0	**胎土**：淡橙色　混入粒子並　弱粉質土 **備考**：内外面帯状にタール付着（灯明皿？）

表３　出土遺物観察表（35）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
75	15	撹乱	吉備系　土師器碗	口縁部片				**胎土**：肌色（胎芯褐白色）　砂粒多い粉質良土　**備考**：手づくね成形
75	16	表土層	土錘	１端欠	4.4 ～	胴径 1.5	孔径 0.5	**胎土**：淡褐色　粉質良土　重さ：8.3g
75	17	表土層	土器質火鉢	口縁部片				**胎土**：褐色（胎芯黒灰色）　白針含む粉質良土　**備考**：回転ﾅﾃﾞ
75	18	撹乱	瓦器質火鉢	口 1/8	(18.1)			**胎土**：黒灰色　長石粒・微細雲母多い粉質気味良土
75	19	現代井戸	軒平瓦	残欠				**胎土**：黒灰色（胎芯灰色）　黒色粒少なめ、白針微量　砂質良土　**備考**：器表 - 雲母付着
75	20	現代井戸	常滑窯　甕	口縁部片				**胎土**：暗灰色（器表暗茶色）　粒子少なめ細砂質土　**備考**：口縁部内面 - 降灰ゴマ状（緑灰色）
75	21	表土層	常滑窯　甕	部位不明残欠				**胎土**：淡褐色（器表暗赤色）　細粒子含む粉質土　**備考**：外面 - ヘラ描き文　外面 - 降灰ゴマ状（褐色）　※天地不明
75	22	表土層	常滑　甕	胴部片				**胎土**：黒灰色（器表暗茶色）　長石粒多め弱砂質土　**備考**：外面–押印あり
75	23	撹乱	常滑窯　甕	胴部片				**胎土**：灰茶色（器表暗赤色）　長石細粒・白色粗粒子少量　気孔ある弱粉質土　**備考**：外面 - 押印あり　外面上位 - 降灰（褐白色）
75	24	撹乱	常滑窯　甕	底 1/3		(21.0)		**胎土**：暗灰色（器表暗橙色）　粗粒子含む粘質気味良土　**備考**：外底 - 砂粒付着
75	25	撹乱	常滑窯 片口鉢Ⅰ類	口縁部片				**胎土**：明灰色　粒子含む砂質やや粗土
75	26	撹乱	尾張山茶碗系 片口鉢	口縁部片				**胎土**：明灰色　粒子含む砂質土 **備考**：よく焼しまり硬質
75	27	撹乱	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部片				**胎土**：橙色（器表暗茶色）　粗粒子多い砂質粗土　**備考**：よく焼しまり硬質
75	28	撹乱	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部片				**胎土**：灰橙色（器表灰色）　白色粒多め砂質粗土
75	29	撹乱	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部片				**胎土**：茶色　粒子含む砂質やや粗土
75	30	表土層	常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部片				**胎土**：橙色　粗粒子含む砂質土
76	31	表土層	備前窯　擂鉢	口縁部片				**胎土**：灰白色（器表暗茶色）　微砂含み、気孔あるやや粗土　**備考**：条線 -9 本組み　外面 - 敲打痕
76	32	撹乱	備前窯　擂鉢	胴部片				**胎土**：赤茶色（胎芯灰白色）　砂粒多く、気孔多い軽質粗土　**備考**：条線 -7 本以上組み焼しまり甘く軟質
76	33	撹乱	東播系　鉢	口縁部片				**胎土**：灰色　白色微粒子含む砂質土 **備考**：硬質に焼締まる
76	34	表土層	瀬戸窯　壺	口 1/8	(6.6)			**胎土**：灰白色　弱砂質良土　**釉調**：薄緑色灰釉
76	35	撹乱	瀬戸・美濃系 椀皿類	口縁部片				**胎土**：褐灰色　弱砂質良土　**釉調**：緑褐色透明灰釉浸け掛け　貫入多数
76	36	撹乱	瀬戸・美濃系 鉢	口縁 ～体部片				**胎土**：白褐色　砂質粗土　**釉調**：乳白色藁灰釉？　貫入あり
76	37	現代井戸	瀬戸・美濃系 鉢	口縁 ～体部片				**胎土**：白褐色　粉質気味やや粗土　**釉調**：黒赤色鉄釉
76	38	表土層	龍泉窯 青磁劃花文碗	口縁部片				**胎土**：明灰色　精良土　**釉調**：暗緑灰色半透明　**備考**：内面 - 草花文片切り彫り
76	39	表土層	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	口縁部片				**胎土**：明灰色　精良土　**釉調**：水青色半透明
76	40	表採	龍泉窯 青磁鎬蓮弁文碗	底 1/3		(4.0)		**胎土**：灰味白色　精良土　**釉調**：灰緑色半透明　粗い貫入あり　高台畳付 - 露胎
76	41	現代井戸	龍泉窯 青磁劃花文鉢	低 1/4		(5.0)		**胎土**：白色　緻密土　**釉調**：水青色半透明粗い貫入あり　高台畳付 - 露胎　**備考**：内底 - 文様不明
76	42	撹乱	クロム青磁　丸碗	完形	7.8	3.3	3.8	**胎土**：白色　緻密土　**釉調**：草緑色不透明高台畳付～高台内 - 露胎　**備考**：外面 - 飛鉋文陰刻

表３　出土遺物観察表（36）

図	No.	出土位置	種別	遺存状態	口径／長	底径／幅	高さ／厚	観察内容
76	43	表土層	石製品　硯	側足片？	8.0 ～	1.2 ～	1.6 ～	赤間ヶ関産　**色調**：赤茶色　**重さ**：7.1 g
76	44	撹乱	石製品　硯石	表面のみ遺存	7.3 ～	4.9 ～	1.9 ～	産地不明　表面 - 平滑・細かいキズ多数　右左側 - 石目割れ　**色調**：青灰色　**重さ**：81.9g
76	45	撹乱	石製品　砥石？	表裏・上下端欠	6.1 ～	4.7	2.1 ～	稲庭石　右左側は整形面 **色調**：灰緑色　**重さ**：86.6g
76	46	撹乱	石製品　砥石	下端欠	7.2 ～	3.1	0.6	産地不明仕上砥　砥面は表裏２面 **色調**：橙色　**重さ**：18.4g
76	47	撹乱	石製品　砥石	左側・下端欠	10.4 ～	3.4 ～	1.0 ～	鳴滝・向田産仕上砥　砥面は表面１面遺存、背面剥離不明　**色調**：緑灰色　**重さ**：46.2g
76	48	撹乱	石製品　砥石	左側・下端欠	6.3 ～	(2.7) ～ 4.1	0.3 ～ 0.6	鳴滝・向田産仕上砥　砥面は表裏２面 **色調**：淡褐色　**重さ**：23.9g
76	49	撹乱	石製品　砥石	背面剥離 右左上下端欠	8.4 ～	5.8 ～	1.65 ～	鳴滝・向田産仕上砥　砥面は表面１面遺存 **色調**：緑灰色　**重さ**：104.6g　**備考**：原材搬入か
76	50	撹乱	石製品　砥石	右側・下端欠	4.5 ～	3.4 ～	0.6	鳴滝・中山産仕上砥　砥面は表裏２面 **色調**：淡黄色　**重さ**：16.7g
76	51	表採	石製品　砥石	下端欠	12.8 ～	3.3 ～	2.8 ～	上野産中砥　砥面は４面 **色調**：緑白色　**重さ**：132.4g
76	52	撹乱	加工骨	完形？	18.6 ～	10.6	5.0	クジラ肋骨
76	53	撹乱	加工骨	上下端欠	3.3 ～	1.6	0.4	哺乳類四肢骨
76	54	撹乱	鉄製品　蝶番	略完形	7.5	2.0	1.6	**重さ**：44.7g
76	55	表土層	鉄製品　鋏	完形	16.5	0.5	0.6	**重さ**：30.1g
76	56	撹乱	鉄製品　釘	完形	10.2	0.3	0.3	**重さ**：6.3g
76	57	撹乱	鉄製品　釘	上端欠	5.2 ～	0.5	0.3	**重さ**：4.3g
76	58	撹乱	銅製品　銭	完形	径 2.3	穴 0.7		開元通寶　初鋳 621 年　唐　**重さ**：2.8 g
76	59	撹乱	銅製品　銭	完形	径 2.4	穴 0.6		開元通寶　初鋳 621 年　唐　**重さ**：3.9 g
76	60	表採	銅製品　銭	完形	径 2.5	穴 0.5		景徳元寶　初鋳 1004 年　北宋　**重さ**：3.8 g
76	61	表採	銅製品　銭	完形	径 2.4	穴 0.7		(皇)宋(通)寶　初鋳 1038 年　北宋　**重さ**：3.0 g
76	62	表土層	銅製品　銭	完形	径 2.4	穴 0.7		皇宋通寶　初鋳 1038 年　北宋　**重さ**：3.8 g
76	63	表土層	銅製品　銭	完形	径 2.5	穴 0.6		皇宋通寶　初鋳 1038 年　北宋　**重さ**：4.0 g
76	64	表採	銅製品　銭	完形	径 2.4	穴 0.7		熙寧元寶　初鋳 1068 年　北宋　**重さ**：4.1 g
76	65	撹乱	銅製品　銭	完形	径 2.4	穴 0.6		熙寧元寶　初鋳 1068 年　北宋　**重さ**：3.1 g
76	66	撹乱	銅製品　銭	完形	径 2.4	穴 0.6		熙寧元寶　初鋳 1068 年　北宋　**重さ**：4.3 g
77	1	P24	ロクロ土師器　坏	口縁部片				**胎土**：淡橙色　細砂少量・白針極少量含む **せいけい**：内外面 - ロクロナデ
77	2	P56	土師器　甕	口縁部片				**胎土**：暗橙色　黒色輝石多く、長石・石英・褐色粒含む砂質土　**せいけい**：口縁部 - ナデ　外面胴部 - ヘラケズリ
77	3	確認面マデ	土師器　甕	口縁部片				**胎土**：暗橙色　黒色微砂・白針極少量含む良土　**せいけい**：外面 - ナデ　内面 - ハケメ・ナデ　口唇部 - ハケ工具によるキザミ
77	4	方竪 3	須恵器　長頸瓶	底部 1/4		高台径 (7.7)		**胎土**：白灰色　黒灰色粒少量含む弱粘質良土 **せいけい**：外面 - 回転ヘラケズリ　高台貼付痕ロクロナデ　内面 - ロクロナデ
77	5	方竪 6	須恵器　甕	肩部片				**胎土**：灰色　長石粒・チャート・白色粒含む砂質土　**せいけい**：外面 - 平行叩き目　内面 - 同心円状のあて具痕
77	6	方竪 12	有頭石錘	下部 1/3 欠	14.4	9.2	8.6	**重さ**：1353 g

表４　出土骨集計表（１）

出土位置	鳥or哺乳類	鳥類（カモの仲間？）	不明鳥類		ネズミザメ科	メジロザメ科	ツノザメ	マカジキ科	カジキ？	マグロ？ブリ？大型魚不明	ブリ	マダイ
方形竪穴１								椎骨１				
方形竪穴３												
方形竪穴４												主鰓蓋骨１
方形竪穴５												
方形竪穴６									鰭棘１			主上顎骨１
方形竪穴６･７	四肢骨１	上腕骨１	四肢骨１								歯骨１	前上顎骨１
方形竪穴７												
方形竪穴８												
方形竪穴10												
方形竪穴13	四肢骨１											主上顎骨１
方形竪穴14												角骨１
溝１								椎骨１				
溝２			大腿骨１									
方形土坑１										方骨５		
方形土坑４												
土坑１												
土坑３						椎骨１						
土坑４												
土坑７												
土坑14												
土坑15												
土坑17												
土坑19												
落ち込み②												
ピット２												
ピット５												
ピット18												
確認面					椎骨１							角骨１ 歯骨１
Ⅱ期遺構外												上後頭骨１
確認面まで		上腕骨１	頸骨１									
表土・撹乱	四肢骨２					椎骨１	鰭棘１					前上顎骨１ 歯骨１ 主鰓蓋骨１
合計	4	2	3		1	2	1	2	1	5	1	11

表４　出土骨集計表（２）

出土位置	クロダイ	タイ科	カツオ	カツオ？	カサゴ・メバルの類	カサゴか？	フグ	魚類不明	魚類か？
方形竪穴 1				鰭棘 1				鰭棘 1 不明片 1	
方形竪穴 3	歯骨 1		歯骨 1		前鰓蓋骨 1	主鰓蓋骨 1		鰭棘 3 不明片 4	
方形竪穴 4								不明片 1	
方形竪穴 5									
方形竪穴 6			主鰓蓋骨 1					不明片 1	不明 1
方形竪穴 6･7			主上顎骨 1		前鰓蓋骨 1			鰭棘 3 不明片 2	
方形竪穴 7								鰭棘 1 不明片 1	不明 1
方形竪穴 8								鰭棘 6 不明片 3	
方形竪穴 10									
方形竪穴 13								鰭棘 2	
方形竪穴 14		前鰓蓋骨 1			歯骨 1				
溝 1			尾鰭前椎体 1					不明片 2	
溝 2								棘 1	不明 1
方形土坑 1								鰭棘 1	
方形土坑 4									
土坑 1								鰭棘 1	
土坑 3								鰭棘 1 不明片 2	
土坑 4									
土坑 7									
土坑 14							前上顎骨 1		
土坑 15								不明片 2	
土坑 17									不明 1
土坑 19									
落ち込み②									
ピット 2								不明片 2	
ピット 5								不明片 1	
ピット 18		椎骨 1	角骨 1						
確認面		椎骨 1						不明片 2	
Ⅱ期遺構外								鰭棘 1 不明片 2	
確認面まで	歯骨 1			鰭棘 1				鰭棘 4 ウロコ 5 不明片 3	不明 2
表土・撹乱								不明片 1	
合計	2	3	5	2	3	1	1	60	6

表４　出土骨集計表（３）

出土位置	カエル（大型）		出土位置	イルカ	イルカか？	海生不明哺乳類	海陸不明哺乳類（クジラ？）
方形竪穴 1			方形竪穴 1	背骨（椎骨）1 歯 1			
方形竪穴 3			方形竪穴 3	背骨（椎骨）4 頸椎 1	助骨 2		
方形竪穴 4			方形竪穴 4				
方形竪穴 5			方形竪穴 5		部位不明 1		
方形竪穴 6			方形竪穴 6	頸椎 1			
方形竪穴 6･7			方形竪穴 6･7	背骨（椎骨）2 下顎骨 4 椎骨 1			部位不明 1
方形竪穴 7			方形竪穴 7				
方形竪穴 8			方形竪穴 8	下顎骨 1 椎骨 1 頭骨 1 助骨 1			部位不明 3
方形竪穴 10			方形竪穴 10	背骨（椎骨）1 下顎骨 1			
方形竪穴 13			方形竪穴 13	部位不明 1			
方形竪穴 14			方形竪穴 14	背骨（椎骨）1			
溝 1			溝 1	下顎骨 1			
溝 2	上腕骨 1		溝 2				
方形土坑 1			方形土坑 1	下顎骨 1 歯 1			
方形土坑 4			方形土坑 4	顎の上か？ 1 頭骨 1			
土坑 1			土坑 1				
土坑 3			土坑 3	下顎骨 1			
土坑 4			土坑 4				
土坑 7			土坑 7				
土坑 14			土坑 14				
土坑 15			土坑 15	椎骨 1			
土坑 17			土坑 17				
土坑 19			土坑 19				
落ち込み②			落ち込み②			部位不明 1	
ピット 2			ピット 2				部位不明 1
ピット 5			ピット 5				
ピット 18			ピット 18	歯 1			
確認面			確認面				
Ⅱ期遺構外			Ⅱ期遺構外				部位不明 1
確認面まで			確認面まで	背骨（椎骨）2 後頭骨 1 助骨 3	助骨 1		部位不明 1
表土・撹乱			表土・撹乱	助骨 1			部位不明 2
合計	1		合計	38	4	1	9

表４　出土骨集計表（４）

出土位置	ネズミ	ドブネズミ	ノウサギ	猫	猫 or イヌ	イヌ	イヌ or イノシシ？	（ブタの可能性小）イノシシ	（家畜化している）ブタ？	小型陸生哺乳類
方形竪穴 1										
方形竪穴 3			頸骨 1	大腿骨 1	中手骨 2					
方形竪穴 4		頸骨 1								
方形竪穴 5										
方形竪穴 6	頸骨 1 大腿骨 1	頸骨 1								
方形竪穴 6･7	上腕骨 1	頸骨 1	上腕骨 1 頸骨 1 大腿骨 1				助骨 1		尺骨 1	
方形竪穴 7										
方形竪穴 8		寛骨 2 頸骨 1			中手骨 2	上顎骨 1 頸骨 1	助骨 1			犬歯 1
方形竪穴 10										
方形竪穴 13	下顎骨 1						助骨 2			
方形竪穴 14										
溝 1										
溝 2										
方形土坑 1										
方形土坑 4	大腿骨 1		頸骨 1							
土坑 1	頭骨 1									
土坑 3										
土坑 4			下顎骨 1		中手骨 2	上腕骨 1				
土坑 7										
土坑 14										
土坑 15										
土坑 17										
土坑 19										
落ち込み②										
ピット 2										
ピット 5										
ピット 18										
確認面	上腕骨 1 大腿骨 2					上腕骨 1				
Ⅱ期遺構外		頸骨 1	大腿骨 1							背骨片 1
確認面まで		頸骨 1	大腿骨 1			下顎骨 1 下顎骨第一臼歯 1 肩胛骨 1				
表土・撹乱								助骨 1		
合計	9	8	8	1	6	7	4	1	1	2

表４　出土骨集計表（５）

出土位置	ウマ	ウマ or ウシ	シカ or ウマ	シカ	中型陸生哺乳類	陸生哺乳類　不明	哺乳類　不明	ヒト	哺乳類？	骨　不明	合計
方形竪穴１							助骨１				7
方形竪穴３		助骨１		角１	助骨２		部位不明１				27
方形竪穴４	上顎・臼歯１										4
方形竪穴５							部位不明１				2
方形竪穴６		四肢骨１	上腕骨１								11
方形竪穴６･７			下顎骨１		助骨１		助骨１ 椎骨１				31
方形竪穴７					助骨１						4
方形竪穴８		四肢骨１			助骨１		四肢骨１				28
方形竪穴10	臼歯１							前歯１			4
方形竪穴13							助骨１ 不明部位２				11
方形竪穴14											4
溝１							四肢骨１				6
溝２	中足骨１										5
方形土坑１											8
方形土坑４											4
土坑１											2
土坑３											5
土坑４											4
土坑７							不明部位１				1
土坑14											1
土坑15											3
土坑17											1
土坑19					助骨２						2
落ち込み②											1
ピット２											3
ピット５											1
ピット18											3
確認面	下顎・臼歯１ 臼歯１	助骨１			助骨３	不明部位３			加工品１		20
Ⅱ期遺構外		助骨１ 四肢骨１			助骨１						11
確認面まで	手根骨 or 足根骨１				助骨１		不明部位１			不明２	36
表土・撹乱		四肢骨１		大腿骨１			助骨１			不明１	16
合計	6	7	2	2	12	3	13	1	1	3	266

表５　出土貝集計表

出土位置	ハマグリ	チョウセンハマグリ	バテイラ	ダンベイキサゴ	ツメタガイ	バイガイ	イボキサゴ	カニモリ	キサゴ	ホソウミニナ	イボウミニナ	クボ貝類（不明）	アワビ	アカニシ	サザエ	マガキ	サルボウ	マテガイ	アサリ	サトウガイ	ミガキボラ	シオフキガイ	アズマニシキ	ナミノコ貝類　不明	イシガイ類	ベンケイ貝類か	ムラサキインコ？	不明	（二種類の貝が付着）ごかい	巻き貝の軸？化石か？	化石	合　計
方形竪穴１	24	2	1		1	7			2				1	3	1										1			2				45
方形竪穴２	2			1		1								1																		5
方形竪穴３	47			11	1	6	5				1		1	5	2							1	1									81
方形竪穴４	1		1		1	1							2		1																	7
方形竪穴５						2									2																	4
方形竪穴６	15			1	2								3	1	1																	23
方形竪穴６･７	3			1									1																			5
方形竪穴７	6					1							2	1	1																	11
方形竪穴８	15			3	2	4	1						3	8	2		1												1		1	41
方形竪穴 10	14										1		1	1								1										18
方形竪穴 11	4													2																		6
方形竪穴 12															2											1						3
方形竪穴 13	2																															2
方形竪穴 14	8	1	1			1									2							2					4					19
溝１	1													2																		3
溝２						2																										2
方形土坑１	4												1																			5
方形土坑４	5													1									1									7
土坑３	2												1	1																		4
土坑６														1																		1
土坑 14			1																									1				2
土坑 15																		1										1				2
落ち込み①	2																															2
落ち込み②														1																		1
Pit1					1		1																									2
Pit2						1																										1
Pit3	1		1																													2
Pit5	1																															1
Pit10	1					1																										2
Pit11	1																															1
Pit14	1																															1
Pit18	3																															3
Pit37	1						1																									2
Pit39																				1								1				2
確認面	5					2	1						1	1	1																	11
Ⅱ期遺構外	7					1							2	3										1								14
Ⅲ期遺構外						1									1																	2
確認面まで	75		1	7	8	21	3	1		1	1	1	2	23	6				1				2					1		1		155
表土・撹乱	4			2	1	4								7	1	1					1											21
合計	255	3	6	26	17	56	12	1	2	1	3	1	21	62	23	1	1	1	1	1	1	4	4	1	1	1	4	6	1	1	1	519

表６　中世遺物集計表

種　別	出土位置	Ⅰ期 遺構外	Ⅰ期 遺構	Ⅱ期 遺構外	Ⅱ期 方形竪穴	Ⅱ期 その他遺構	Ⅲ期 遺構外	Ⅲ期 遺構	表土 撹乱	総合計
かわらけ	手づくね成形	0	0	6	6	2	0	2	0	16
	ロクロ成形	752	505	192	1713	146	2	278	174	3762
	加工品（円盤）	1	0	0	0	0	0	1	0	2
かわらけ　小計		753	505	198	1719	148	2	281	174	3780
土製品	吉備系土師器碗	0	1	0	1	0	0	0	1	3
	鍋釜類	1	0	0	5	1	1	0	1	9
	土器質火鉢	1	5	1	6	0	0	1	1	15
	瓦器質火鉢	6	4	2	11	3	0	0	2	28
	瓦器質香炉	1	1	0	0	0	0	0	0	2
	瓦器	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	瓦	3	0	0	1	0	0	0	0	4
	土錘	18	3	2	14	0	0	0	0	37
	坩堝	0	0	0	2	0	0	0	0	2
	鞴羽口	0	0	1	1	0	0	2	0	4
	その他	0	0	0	2	0	0	0	0	2
土製品　小計		30	14	6	44	4	1	3	5	107
国産陶器	渥美	0	1	0	2	0	0	1	0	4
	常滑　壺・甕	347	156	70	573	45	0	2	71	1264
	片口鉢Ⅰ類	54	23	4	74	7	0	2	4	168
	片口鉢Ⅱ類	23	6	3	36	2	0	0	5	75
	尾張山茶碗系片口鉢	3	2	0	4	0	0	0	1	10
	備前	3	1	1	3	0	0	0	2	10
	東播系	3	1	0	2	1	0	0	1	8
	山茶碗	4	0	0	5	0	0	1	0	10
	瀬戸	32	8	0	31	1	0	0	5	77
	珠洲窯？甕	0	0	0	0	0	0	1	0	1
国産陶器　小計		469	198	78	730	56	0	7	89	1627
舶載陶磁器	白磁	12	11	0	31	0	0	2	3	59
	青白磁	4	2	2	8	0	0	0	2	18
	青磁	23	15	1	62	5	0	1	7	114
	褐釉	0	0	0	3	0	0	0	0	3
舶載陶磁器　小計		39	28	3	104	5	0	3	12	194
土器・陶磁器　合計		1291	745	285	2597	213	3	294	280	5708
石製品	滑石製品	4	3	0	10	0	0	1	0	18
	硯（原材・他）	0	0	0	1	0	0	0	2	3
	砥石	22	9	4	30	7	0	1	6	79
	緑泥片岩（板碑）	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	チャート	0	3	0	1	0	0	0	0	4
	碁石	0	1	0	0	0	0	0	0	1
石製品　合計		27	16	4	42	7	0	2	8	106
その他製品	骨製品・加工骨	13	1	2	30	6	0	0	2	54
	鉄製品	118	109	34	271	25	4	10	25	596
	銅製品	9	17	7	12	1	0	2	9	57
	スラグ	0	2	0	6	1	0	1	0	10
骨・鉄・銅製品　合計		140	129	43	319	33	4	13	36	717
総合計		1458	890	332	2958	253	7	309	324	6531

▲Ａ　調査地点（北東から）

▲Ｂ　表土掘削（南東から）

▲Ｃ　Ⅱ区西側確認面（南から）

▲Ｄ　土坑３土層（西から）

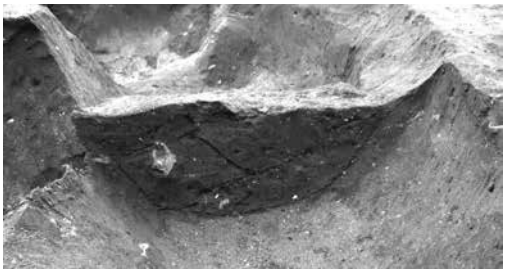
▲Ｅ　Ⅰ区Ⅰ期遺構群（南西から）

図版２

▲ A　Ⅰ区西側Ⅰ期遺構群（東から）

▲ C　溝２（西から）

▼B　溝１土層（南から）



▲ D　溝２土層（東から）

▼E　溝１・方形土坑２（南から）

▼F　方形土坑２（南から）

▲G　方形土坑２土層（北から）

▲H　方形土坑２鳶口壺出土状況（北から）

▲ A　方形竪穴 5～7・13 調査状況（南から）

▲ B　方形竪穴 6・7（北から）

▲ C　Ⅱ区方形竪穴群（西から）

▲ D　Ⅱ区方形竪穴群（東から）

▲ E　方形竪穴 1～4（南から）

図版４

▲ A　方形竪穴１土層（北から）

▲ B　方形竪穴１（南から）

▲ C　方形竪穴８・土坑 18、土坑 15 土層（東から）

▲ D　方形竪穴８・12、土坑 15・18（東から）

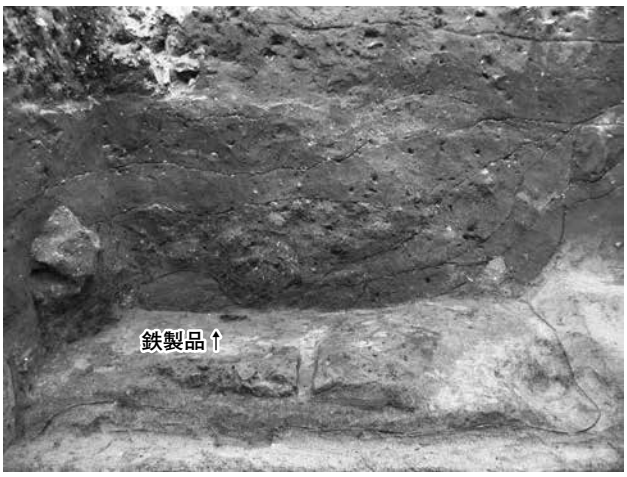
▲ E　方形竪穴８・12、土坑 15・18（北東から）

▲ A　方形竪穴 8A・B、方形竪穴 12、土坑 18（東から）

▲ B　Ⅰ区北東側 方形竪穴、土坑、ピット群（南から）

図版６

方形竪穴 11 出土鉄製品



▲ A　方形竪穴 11 鉄製品・炭層検出状況（南から）

▲ B　方形竪穴 11（北から）

▲ C　方形竪穴 11（南東から）

▲ A　方形竪穴 10・11・14、方形土坑 4（南から）

▲B　Ⅰ区Ⅱ期遺構群（東から）

図版８

▲ A　方形土坑４（南から）

▲ B　方形土坑４（北から）

▲ C　かわらけ溜まり遠景（南から）

▲ D　かわらけ溜まり（西から）

▲ E　Ⅰ区最終調査面（西から）

▲ A　Ⅰ区東側最終調査面（南から）

▲ B　Ⅰ区北東側最終調査面（南から）

図版 10

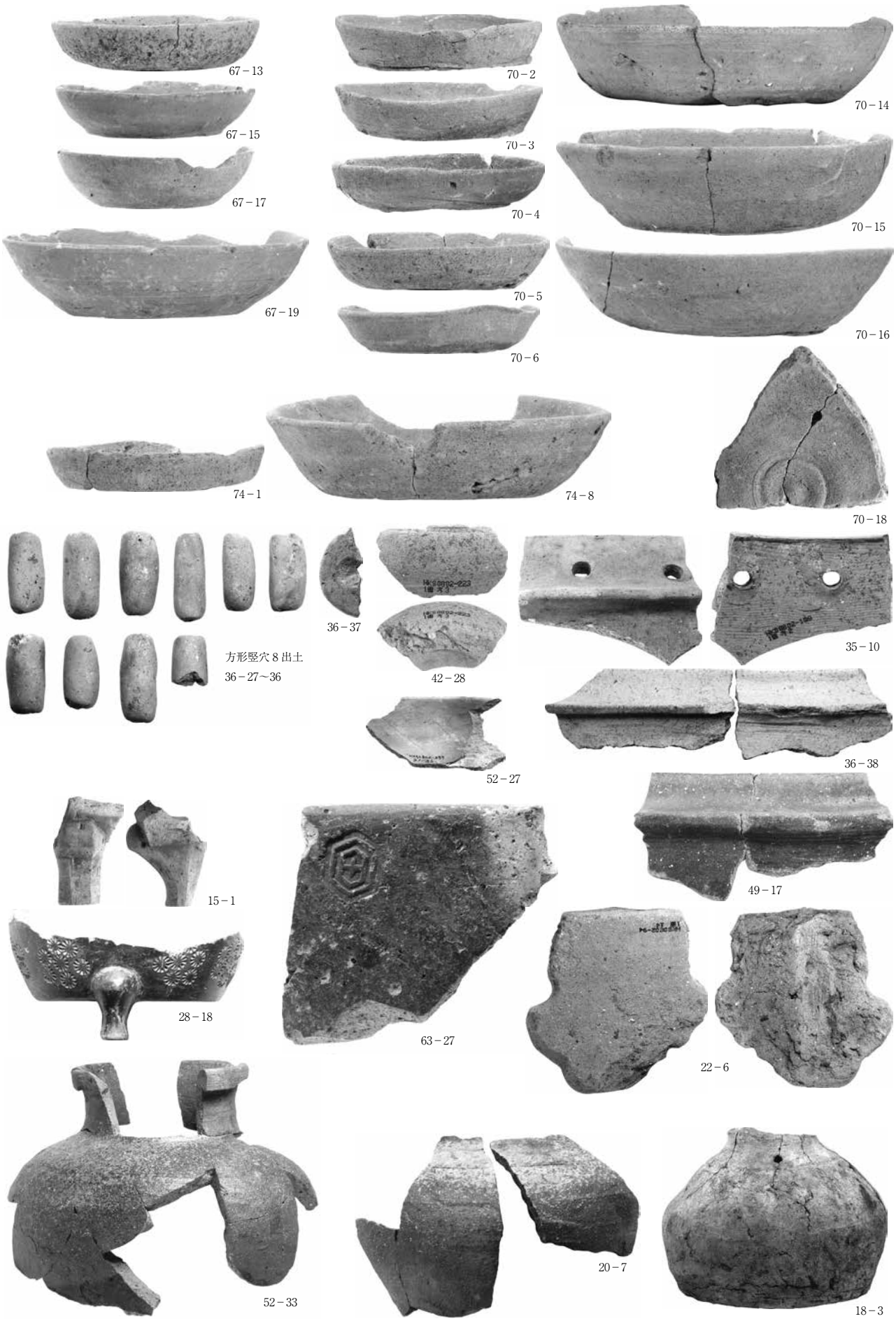
◀ A　基本土層（南から）

▲B　Ⅰ区西側、調査区壁土層（東から）

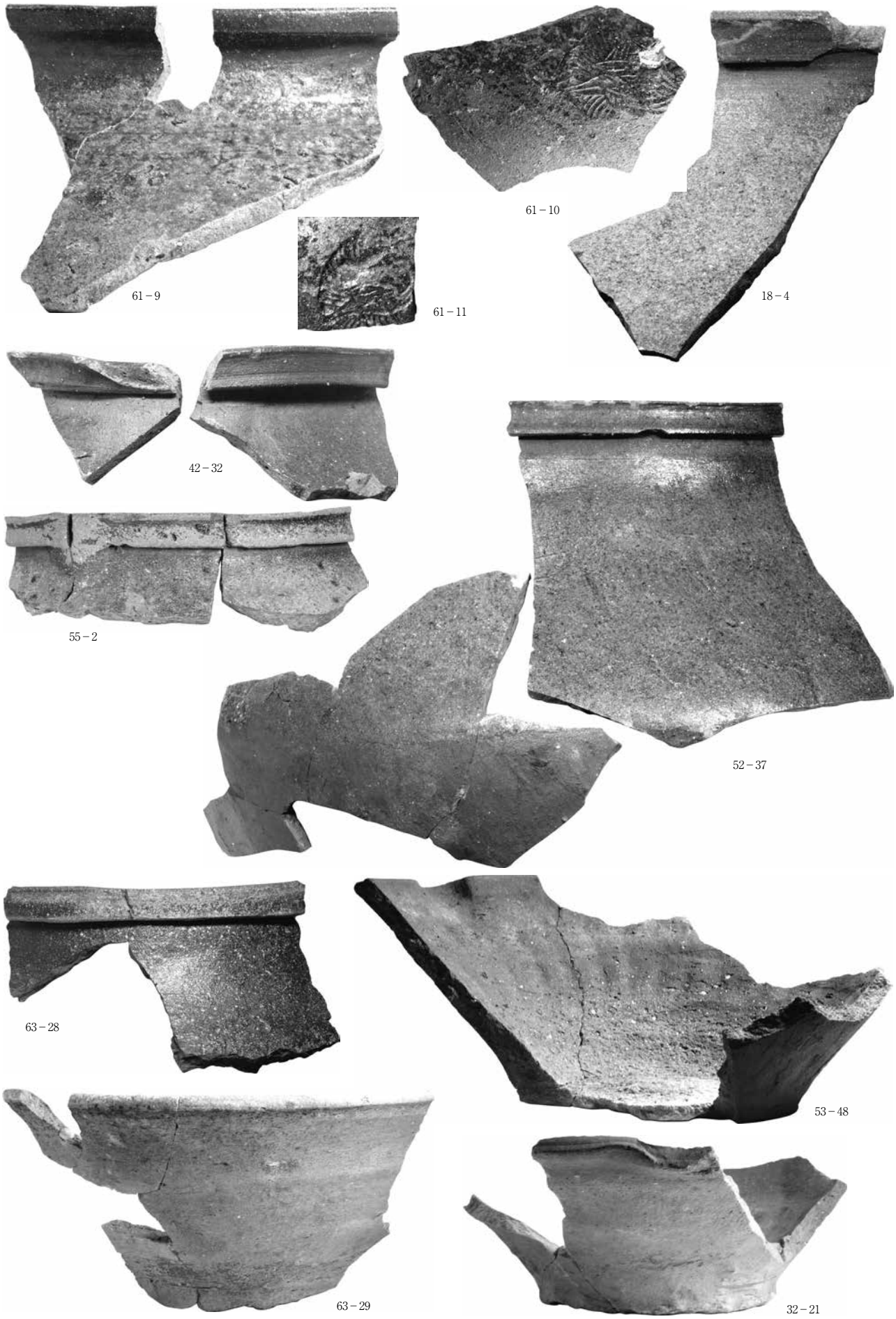
9－2
9－17
15－3
9－18
20－1
9－21
11－7
20－27
28－7
32－1
36－2
36－15
36－3
36－16
32－2
36－4
36－20
32－11
39－3
40－1
42－13
52－3
40－2
42－16
52－1
52－20
42－19
52－2
52－21
49－1
55－10
52－22
49－2
61－1
52－23
61－2
63－5
63－21
59－1
63－11
59－4
63－17
63－23

出土遺物（1）かわらけ

図版 12

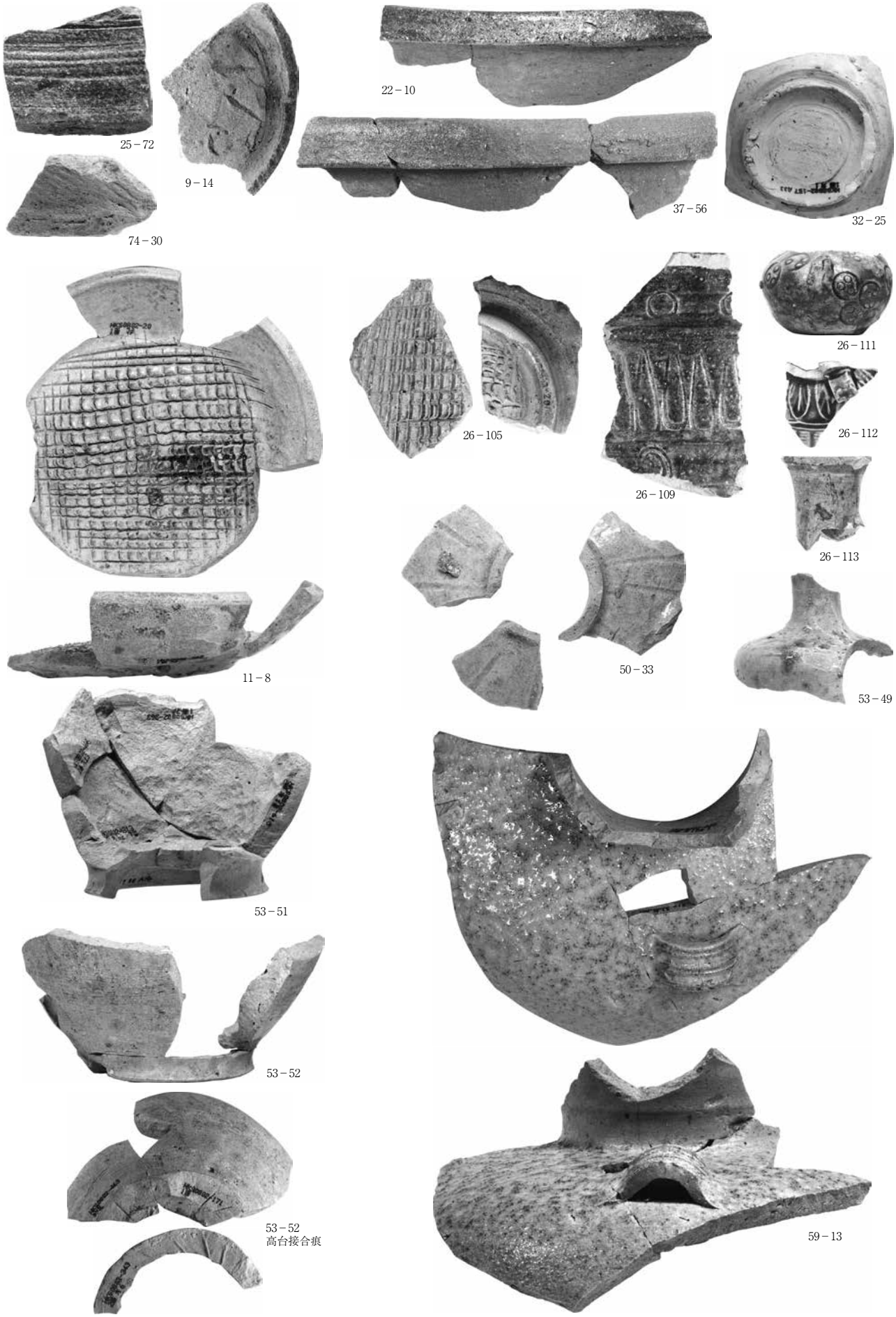


出土遺物（２）かわらけ・土製品・常滑壺



出土遺物（3）常滑甕・片口鉢

図版 14

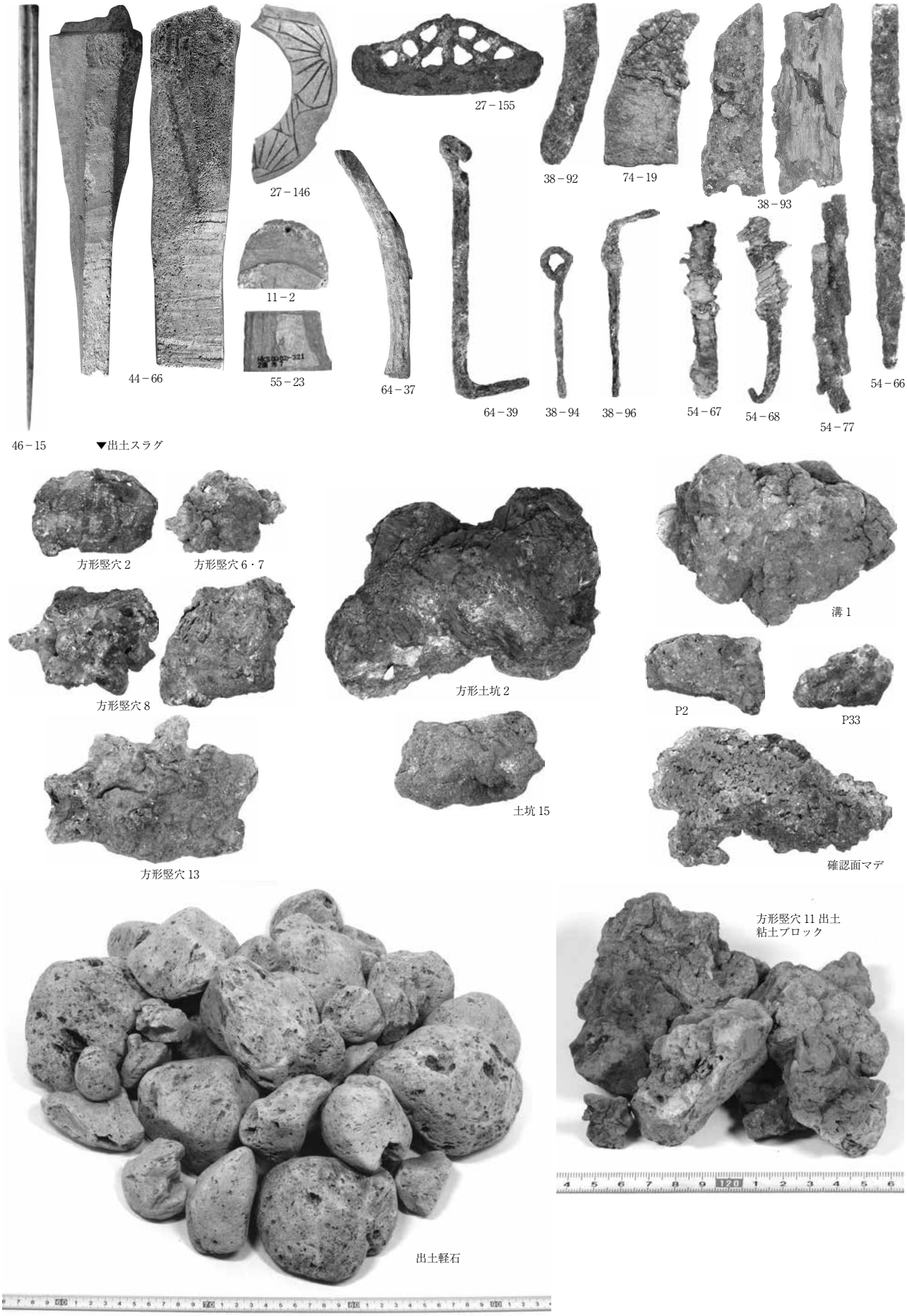


出土遺物（４）瀬戸ほか陶器類

74－24
59－14
57－8
37－68
32－32
35－12
9－8
26－118
26－117
32－35
28－32
54－56
50－40
26－123
50－37
46－12
59－18
37－74
26－125
57－9
55－21
37－76
46－13
43－53
20－9
28－38
32－37
22－11
50－42
9－28
57－10
20－23
38－85
43－59
43－60

出土遺物（5）磁器・石製品

図版 16



出土遺物（6）骨製品・鉄製品・スラグ・軽石・粘土ブロック

報告書抄録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちょうさほうこくしょ
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書
副書名	平成２６年度調査報告
巻次	３１（第１分冊）
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者	原　廣志／原　廣志／原　廣志／伊丹まどか／馬淵和雄・沖元　道／森　孝子・赤堀祐子
編集機関	鎌倉市教育委員会
所在地	〒２４８－８６８６　鎌倉市御成町１８番１０号
発行年月日	西暦２０１５年3月３１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
覚園寺旧境内遺跡（かくおんじきゅうけいだいいせき）	神奈川県鎌倉市 二階堂字会下 ３５１番２外	14204	435	３５° １９′ ２２″	１３９° ３４′ ０３″	20051205 ～ 20060302	53.00	個人専用 住宅 （杭基礎）
高徳院周辺遺跡（こうとくいんしゅうへんいせき）	神奈川県鎌倉市 長谷五丁目 ３３７番７	14204	327	３５° １９′ ００″	１３９° ３２′ ２０″	20060417 ～ 20060616	46.75	個人専用 住宅 （杭基礎）
高徳院周辺遺跡（こうとくいんしゅうへんいせき）	神奈川県鎌倉市 長谷五丁目 ３３７番１５	14204	327	３５° １９′ ０２″	１３９° ３２′ １８″	20060628 ～ 20060911	39.00	個人専用 住宅 （杭基礎）
由比ガ浜中世集団墓地遺跡（ゆいがはまちゅうせいしゅうだんぼちいせき）	神奈川県鎌倉市 由比ガ浜二丁目 １０１４番５７	14204	372	３５° １８′ ４４″	１３９° ３２′ ５６″	20060628 ～ 20060807	52.50	個人専用 住宅 （地下室）
大楽寺跡（だいらくじあと）	神奈川県鎌倉市 浄明寺四丁目 １８１番１２外	14204	262	３５° １９′ １９″	１３９° ３４′ ２５″	20070507 ～ 20070629	45.00	個人専用 住宅 （地盤の柱状改良）
長谷小路周辺遺跡（はせこうじしゅうへんいせき）	神奈川県鎌倉市 由比ガ浜三丁目 ２０６番６外	14204	236	３５° １８′ ４８″	１３９° ３２′ ２１″	20080508 ～ 20080722	99.00	自己用店舗 併用住宅 （地盤の表層改良）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
覚園寺旧境内遺跡（かくおんじきゅうけいだいいせき）	社寺	中世	掘立柱建物、土坑、柱穴	かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、瓦質製品、金属製品、木製品	13 世紀～ 14 世紀の生活面。銅製懸仏鏡板、木製如来立像が出土。
高徳院周辺遺跡（こうとくいんしゅうへんいせき） 高徳院周辺遺跡（こうとくいんしゅうへんいせき）	社寺 都市	中世	礎石建物、土坑、溝	かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、瓦、金属製品、木製品	13 世紀中頃～ 14 世紀前半に丘陵を切り崩し、谷を埋め立てて造成したことが分かった。
由比ガ浜中世集団墓地遺跡（ゆいがはまちゅうせいしゅうだんぼちいせき）	城館 その他の墓	中世	土坑、溝状土坑、落ち込み遺構	かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、鉄製品、貝	14 世紀～ 15 世紀にかけての浜地における遺構。
大楽寺跡（だいらくじあと）	社寺	中世	土坑、溝	かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、木製品、金属製品、石製品	13 世紀後～ 15 世紀前半の遺構を確認。長手積石組溝を検出。
長谷小路周辺遺跡（はせこうじしゅうへんいせき）	城館 都市	中世	竪穴建物、掘立柱建物、土坑、溝、柱穴	かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、瓦質製品、鉄製品、石製品	13 世紀～ 14 世紀にかけての遺構群。竪穴建物を重複して検出。

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　３１
平成２６年度発掘調査報告
（第１分冊）

発行日　平成２７年3月３１日

編集・発行　　鎌倉市教育委員会
印　　刷　　テクノヤマモト